

中国学園大学 国際教養学部 国際教養学科 シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
心理学	國田 祥子	1
自然科学概論	岸 誠一	3
日本文化論	岡本 輝彦	5
日本国憲法	俵野 英二	7
倫理学	小谷 彰吾	9
比較文化論	藤代 昇文	11
中国語	畑木 亦梅	13
韓国語	河 智弘	15
岡山学(オムニバス)	杉山 慎策	17
ICT概論 I	久保 博尚	19
ICT概論 II	久保 博尚	22
実践英語 I	グレゴリー チンデミ	25
実践英語 II	森年 ポール	28
導入ゼミナール I	大宮 めぐみ/森年 ポール/佐々木 公之/岡本 輝彦/グレゴリー チンデミ/中安 章/梶西 将司	31
導入ゼミナール II	大宮 めぐみ/森年 ポール/佐々木 公之/岡本 輝彦/グレゴリー チンデミ/中安 章/梶西 将司	33
マクロ経済学入門	藤原 敦志	35
ミクロ経済学入門	山中 匡	37
マーケティング論入門	倉田 致知	39
経営学入門	倉田 致知	41
会計学入門	岸保 宏	43
簿記入門	栢野 勝己	45
観光総論	大石 貴之	47
観光実務	大石 貴之	49
農業経済入門	中安 章	51
農業経済学	中安 章	53
プレゼンテーション技法	梶西 将司	55
英語資格演習 I	グレゴリー チンデミ	57
英語資格演習 II	藤代 昇文	59
日本の伝統文化	後藤 智絵	61
日本の食文化	小築 康弘	63
国際関係論	井上 あえか	65
データサイエンス入門	梶西 将司	67
社会調査の基礎	梶西 将司	69
金融論入門	三好 秀和	71
観光英語A	佐々木 真帆美	73
食品流通論	大宮 めぐみ	75
ビジネス・イングリッシュ	森年 ポール	77
ビジネス・ディスカッション技法	大宮 めぐみ/梶西 将司	79
日米関係	杉山 慎策	81
実践英語Ⅲ	佐々木 真帆美	83
実践英語Ⅳ	佐々木 真帆美	85
日本の文学	野口 尚志	87
現代環境論	岸 誠一	89
経営学特論 I	杉山 慎策	91
企業倫理論	大塚 祐一	93
経営学特論 II	杉山 慎策	95
情報処理 I	赤木 竜也	97
情報処理 II	赤木 竜也	99
情報処理 III	赤木 竜也	101
ICT応用論	久保 博尚	103
ICT未来学	久保 博尚	105
現代経済史	日野 正輝	107
経営戦略論	倉田 致知	109
マーケティング論	倉田 致知	111
データサイエンス論	梶西 将司	113
イベント・コンベンション事業論	田村 秀昭	115
レジャー・リゾート論	田村 秀昭	117
地域経済学	北川 博史	119
現代ビジネス論	佐々木 公之	121
ブランド戦略論	杉山 慎策	123
観光経営論	田村 秀昭	125
リーダーシップ論	杉山 慎策	127
ライティング	グレゴリー チンデミ	129
時事英語	藤代 昇文	131
英語ディスカッション	森年 ポール	133
観光英語B	佐々木 真帆美	135
グローバル経済論	日野 正輝	137
EU経済論	非常勤B	139
英語プレゼンテーション	藤代 昇文	141
プロフェッショナル・イングリッシュ	佐々木 真帆美	143
観光産業論	田村 秀昭	145
日・アセアン関係	富田 暁	147
国際経営論	佐々木 公之	149
アジア食品論	中安 章	151
フードシステム論	中安 章	153
地域資源論	中安 章	155
地域政策	中安 章	157
食料経済	大宮 めぐみ	159
アグリビジネス論	中安 章	161
農産物直売所と地域活性化	中安 章	163
農業政策と環境・資源保全	中安 章	165
フードマーケティング論	大宮 めぐみ	167
農業協同組合論	大宮 めぐみ	169

専門ゼミⅠ	大宮 めぐみ／森年 ポール／佐々木 公之／藤代 昇文／岡本 輝彦／グロリアー チンデミ／中安 章／梶西 将司／佐々木 真帆美／宋 娘沃	171
専門ゼミⅡ	大宮 めぐみ／森年 ポール／佐々木 公之／藤代 昇文／岡本 輝彦／グロリアー チンデミ／中安 章／梶西 将司／佐々木 真帆美／宋 娘沃	173
専門ゼミⅢ	大宮 めぐみ／森年 ポール／佐々木 公之／藤代 昇文／岡本 輝彦／杉山 慎策／グロリアー チンデミ／中安 章／梶西 将司／佐々木 真帆美／宋 娘沃	175
専門ゼミⅣ	大宮 めぐみ／森年 ポール／佐々木 公之／藤代 昇文／岡本 輝彦／杉山 慎策／グロリアー チンデミ／中安 章／梶西 将司／佐々木 真帆美／宋 娘沃	177
専門ゼミⅤ	杉山 慎策	179
専門ゼミⅥ	杉山 慎策	181
卒業研究	杉山 慎策	183
トップリーダー講義(キャリア研究)	佐々木 公之	185
キャリア・デザイン	佐々木 公之	187
ビジネスプランコンテスト	佐々木 公之	189
インターンシップ(短期)	佐々木 公之	191
インターンシップ(中長期)	佐々木 公之	193
夏季語学研修	佐々木 真帆美	195
春季語学研修	佐々木 真帆美	197
セメスター留学	佐々木 真帆美	199
国土計画論	北川 博史	201
英語文学講読	佐々木 真帆美	203
観光関連法規	田村 秀昭	205
日本語教育特論	岡本 輝彦	207
卒業研究Ⅰ	大宮 めぐみ／森年 ポール／佐々木 公之／藤代 昇文／岡本 輝彦／杉山 慎策／グロリアー チンデミ／中安 章／梶西 将司／佐々木 真帆美／宋 娘沃	209
卒業研究Ⅱ	大宮 めぐみ／森年 ポール／佐々木 公之／藤代 昇文／岡本 輝彦／杉山 慎策／グロリアー チンデミ／中安 章／梶西 将司／佐々木 真帆美／宋 娘沃	211
ライフ・デザイン	大宮 めぐみ／森年 ポール／佐々木 公之／岡本 輝彦／グロリアー チンデミ／中安 章／梶西 将司	213
教育実習Ⅰ	藤代 昇文	215
教育実習Ⅱ	藤代 昇文	217
教職実践演習(中・高)	藤代 昇文	219

科目名	心理学			授業番号	LA101	サブタイトル	〔心と行動の科学〕		
教員	園田 祥子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業では、心理学全般の基本的な知識、心理学理論による人間理解とその技法の基礎について解説する。								
到達目標	クリティカルシンキングやクリエイティブシンキングなどの心理学的思考法を身につけることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	心理学とは 「不思議」とされる現象を題材に、人の心のしくみについて長年研究を積み重ねてきた心理学の概要を紹介する。								
第2回	予知体験の不思議 「予知」「予言」と呼ばれる現象はなぜ起こるのか、推論のプロセスから解説する。								
第3回	記憶の不思議 「存在しない記憶」を確信を持って思い出してしまうのはなぜ？ 不思議な記憶のメカニズムについて解説する。								
第4回	影響されること 意見や態度は変容するものである。しかし「影響されやすい状況やその特徴を知っておくことは重要かもしれない。								
第5回	揺れ動くこと 感情が私たちの生活の中でどのような働きをするのか、悪徳商法や、心身に良いとされるものを例に考える。								
第6回	検査で「自分」がわかるのか ネットや雑誌などで目にする「心理テスト」はあてになる？ 本物の心理検査「パーソナリティ測定」とは。								
第7回	古い新宗教がもつ現代的意味 古いほどのスピリチュアルな世界に魅力を感じる人は多い。その心理を、背景にある悩みや迷いから紐解いていく。								
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り、理解を確認する。								
第9回	子どもから見た現実と想像の世界 さっまで鬼を怖がって逃げた子だが、今度は鬼の面を付けて「鬼さん」に変身！ 子どもたちが世界をどう捉えているのか考える。								
第10回	「もしかして……」と揺れ動く心の発達 「本当はいいけど分かっていてもいるかも」と思うオバケへの恐怖。想像と現実を行き来する子どもの心を考える。								
第11回	不思議現象に立ち向かう子どもたち 子どもたちは想像の世界に積極的に立ち向かうことで、現実を探索するよう。「科学する心」の始まりを解説する。								
第12回	脳と心との不思議な世界 「念轉り」や「幻覚」はなぜ起こるのか。脳神経系の生理的変化から説明できる心の活動について解説する。								
第13回	科学的に検証するとはどういうことか 目に見えない「心」の存在やその活動を科学的に捉えるには、厳密な実験計画と統計的検定が重要。								
第14回	心理学を学ぶ人のために 分かりやすくもないうし、簡単でもない。意外と地味な心理学だからこそ学べる「面白さ」。								
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回の内容を振り返り、理解を確認する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度								
	レポート								
	小テスト								
	定期試験	100	理解度を評価する。						
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学習	毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の結果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	なし			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
不思議現象 なぜ信じるのか こころの科学入門	菊地 聡・谷口高士・宮元博康 (編著)	北大路書房	978-4-7628-2032-8	1900円
不思議現象 子どもの心と教育	菊地 聡・木下孝司 (編著)	北大路書房	978-4-7628-2089-2	1900円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	無
担当教員の業務経験	
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 講義内容を多面的かつ十分に理解し、自らの知識として獲得できる	呈示された知識を十分に獲得している	呈示された知識をほぼ獲得し、多少の不十分があっても獲得する努力をしている	知識の獲得は十分とは思われないものの、努力は明らかである	授業内容を十分に理解できているとは思われず、知識獲得への努力も不十分である	講義そのものを理解できておらず、知識を獲得できていない

科目名	自然科学概論			授業番号	LA102	サブタイトル	体感型授業で自然科学の楽しさを実感しよう		
教員	岸 誠一								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	私たちの日常の関わりの中から、自然科学を概観する授業を行う。野外体験学修や科学実験といった体験・体感型の学修手法を多く用いて、自然科学を「見える化」して探究心を高める授業を行う。また、科学工作もを行い、科学のおもしろさと不思議さを実感する。								
到達目標	私たちの身のまわり、日常の中にある自然科学の基本概念や知識、科学的なものの考え方ができるようにすることを旨とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた「学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考	授業の中では、様々な測定装置、電気関係の測定機器や実験器具などを用いて、私たちの身のまわりの環境、自然科学について実測、体感しながら学びを深めていく。								
回	概要						担当		
第1回	中国学園の庭で「幸せ」を探そう? 四つ葉のクローバーから見えてくるフィールドワークの楽しさを体験し、自然の不思議さに気づくことの大切さを実感する。								
第2回	科学マシクを通して学ぶ科学のおもしろさ 空き缶を斜めに立てる科学マシクを通して、力学の法則を理解する。								
第3回	楽しいフィールドワーク 吉備の中山をグループで協力しながら歩き、自然に生息する動植物について理解を深める。								
第4回	コンピュータについて学ぶ 生成系AIによる画像の生成などの体験を通して、ネット社会の未来について理解を深める。								
第5回	地球温暖化のしくみ 二酸化炭素により、地表温度が上昇するしくみが分かる実験装置を活用して、地球温暖化のしくみを理解する。								
第6回	君のどみは一万ボルト? はやぶさのイオンエンジンは一万五千ボルト! 高電圧の実験を通して、電気の性質を理解する。また、高電圧を使うイオンエンジンの模型を用いて飛行実験を行い、イオンエンジンの原理について理解する。								
第7回	電子オルゴール作りを通して学ぶ「オームの法則」 はんだ付けしながら、電子オルゴールを製作し、半導体の構造・性質について理解する。								
第8回	高価なバイオリンと安価なバイオリンの音の違いは? (音を「見える化」して分かってくる新芸能人格付けチェック) 音を電気信号に変換するオシロスコープという測定器を使い、音を「見える化」しながら「音の3要素」の性質について理解を深める。								
第9回	スライムで遊ぼう!! 「光るスライム」づくりを通して、物質の分子構造について理解する。								
第10回	糖を科学するべっこ指づりの実験と実習 べっこ指づりを通して物質の分子構造について学ぶ。								
第11回	天然色素と酸アルカリの実験と実習 ムラサキキャベツから作る液体の色の反応から酸性・アルカリ性の水溶液の性質を理解する。また、最後に緑色の焼きそばを作る。								
第12回	光に関する基礎講座ならびに実験と実習 偏光フィルターを使った光の回折実験やレンズを使った光学実験を行いながら、光の性質について理解を深める。								
第13回	楽しい数学 微分や積分などの難しい数学にチャレンジし、数学の問題を解く楽しさを実感する。								
第14回	流しそめんの加速度を測定しよう! 実際に流しそめんをしながら、運動の法則の理解を深める。								
第15回	まとめ 授業全体の振り返りと自然科学全体のトピックスについて解説。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、実験・実習・討議等への参加度等によって評価する。						
	レポート	20	野外学習等授業によっては、レポートを提出し、その内容について評価する。提出されたレポートについてはコメントをつけて返却する。						
	小テスト	20	各回の主要なポイントの理解を評価する。						
	定期試験	40	最終的な理解度を評価する						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	この授業は、自然を対象にしているため、天候等によって適宜内容を変更することがある。また、内容に継続性や関連性があるため、授業を欠席しない、遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので、配付資料等は毎回、持参していただきたい(ノードに貼ることを推奨している)。
授業外学習	1. 予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学習等を行い、考えてくること。 2. 復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり、適宜調べ学習や実践等を行い、学びを深めていく(探究する)こと。 以上の学習を、授業1回あたり4時間以上行うこと。 3.classroomを立ち上げ2回の授業の準備物等の連絡や授業の復習用動画を情報提供するので必ず視聴すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

毎回プリント資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

講義の進行にあわせて適宜紹介する。

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	無
担当教員の業務経験	
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.身のまわり、日常の中にある自然科学の基本概念や知識について理解している。	身のまわり、日常の中にある自然科学の基本概念や知識について十分に理解している。	身のまわり、日常の中にある自然科学の基本概念や知識について概ね理解している。	身のまわり、日常の中にある自然科学の基本概念や知識について普通に理解している。	身のまわり、日常の中にある自然科学の基本概念や知識について理解がやや不十分である。	身のまわり、日常の中にある自然科学の基本概念や知識について理解できていない。
態度	1.身のまわりの自然現象に関心を持ち、科学的なものの考え方ができるようになる。	身のまわりの自然現象に強い関心を持ち、自ら自然に触れたりするなど積極的に自然に関わろうとする。	身のまわりの自然現象に関心を持ち、自ら自然に触れたりするなど自然に関わろうとする。	身のまわりの自然現象に関心を持ち、自然のことを調べるなどして科学的な考え方を身に蓄けている。	身のまわりの自然現象にあまり関心がなく、科学的なものの考え方も十分にできない。	身のまわりの自然現象に全く関心がなく、科学的なものの考え方も全く身に付いていない。

科目名	日本文化論		授業番号	LA103	サブタイトル				
教員	岡本 輝彦								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	前半は、まず日本の文字・表記の成立、敬語について考え、次に日本最古の書物である古事記をもとに日本文化と社会について、さまざまな視点から見ていく。また、神話から日本社会がどのように形づけられたかについて考察を加える。さらに、多文化共生のあり方についても理解を深める。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の文化を知ることができる。 2. 日本の文字・表記、敬語について理解することができる。 3. 日本と神と人々のつながりを知ることができる。 4. 古代から現代までの日本社会の形成を理解することができる。 5. 多文化共生社会について見識を深めることができる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。 								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	オリエンテーション、日本文化とは何か 一口に「文化」とは言っても幅広い研究分野であり、人によってつくり出されたものを「文化」とすることもあるほどである。ここでは「文化」の概念を学ぶ。								
第2回	日本文化とは何か 「文化」中で日本文化とは何を理解するとともに、この講義では何を扱っていくかを説明する。								
第3回	日本の文字・表記(1) 日本の文字・表記は日本の文化であるが、平仮名・片仮名・漢字はいかに日本に定着してきたかを知る。また、どのような特徴があるのかを理解する。								
第4回	日本の言葉 日本の言葉はほかの言語と比べ、その数が多い。それはオノマトペが豊富であること、性差・地域差などの位相の違いによる表現が多いことなどが挙げられるが、私たちの生活に語彙が多いことの利点を学ぶ。								
第5回	敬語 日本には敬語があるが、ほかの言語に比べ体系的にしっかりとおり、使い方も特徴的である。この敬語が人間関係を構築するためには重要であり、日本文化を表しているので敬語の体系を知る。								
第6回	古事記とは 日本最古の歴史書である「古事記」を読むことによって日本について学ぶ。「古事記」とはどのように編纂されたかについて知る。また、同時期に編纂された「日本書紀」とは何が異なるのかを理解する。								
第7回	古事記(1) 日本が生まれた「創世神話」について学ぶ。								
第8回	古事記(2) 「誕生み」と「神生み」について学ぶ。								
第9回	古事記(3) 「黄泉の国」について学ぶ。								
第10回	古事記(4) 「鏡」神話について学ぶ。								
第11回	古事記(5) 「天の岩戸」について学ぶ。								
第12回	古事記(6) 「出雲神話」について学ぶ。								
第13回	多文化共生(1) 在留外国人が増加しているなか、「多文化共生」が重視されているが、「多文化共生」とは何かを理解する。								
第14回	多文化共生(2) 「多文化共生」社会の実現を目指して各地方自治体でさまざまな取り組みが行われているが、どのようなことが行われているかを考察する。								
第15回	多文化共生(3) 地方の岡山市や倉敷市はどのような取り組みを行っているのか、またどのような問題が生じているのかを知るとともに、どのように解決していけばいいのかを考える。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その態備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	講義に対する積極性によって評価する。						
	小テスト	60	学習内容を理解し、自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。 小テストはコメントを加え、返却した後に全員で再確認する。						
	プレゼンテーション	20	内容に基づき、適切にプレゼンテーションが組み立てられているかで評価する。 プレゼンテーション終了後にコメントを加え、再検討する。						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1. 授業計画に提示されているテーマに関するプリントを事前に読んで理解しておくこと。 2. 授業計画に基づく事項について自分の考えを整理しておくこと。
授業外学修	1. 授業計画で提示されているテーマに関する資料を読んでおき、予習しておくこと。 2. 自分の考えをまとめておくこと。 3. プレゼンテーションの準備しておくこと。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

授業計画に基づく事項に関するプリントを適宜配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	無
担当教員の業務経験	
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 根拠に基づいて日本の文化を知ることができる。	根拠に基づいて具体的なかつ客観的事実を示しながら伝えることができる。	根拠に基づいて客観的な事実を示しながら伝えることができる。	根拠に基づいて客観的な事実とは言えないが、何らかの理由を示しながら伝えることができる。	根拠に基づいているものの、根拠も理由も示して伝えることができない。	根拠に基づかず根拠も理由も示して伝えることができない。
知識・理解	2. 論理的に理解することができる。	設定したテーマに基づいて論理的な一貫性を持って整理することができる。	設定したテーマに基づいてある程度論理的な一貫性を持って整理することができる。	設定したテーマに基づいているものの、やや論理的な一貫性に欠けるが、伝えることができる。	設定したテーマに基づいているものの、かなり論理的な一貫性に欠けるが、何とか伝えることができる。	設定したテーマに基づいておらず、論理的な一貫性もないため、伝えることができない。
思考・問題解決能力	1. 発表内容を整理して書くことができる。	自らが設定したテーマに基づいて詳細かつ客観的データを用い、整理して書くことができる。	自らが設定したテーマに基づいて客観的データを用い、整理して書くことができる。	自らが設定したテーマに基づいて何らかのデータを用い、整理して書くことができる。	自らが設定したテーマに基づいて何のデータも用いず、整理して書くことができる。	自らテーマを設定せず、整理して書くことができない。
思考・問題解決能力	2. わかりやすいプレゼンテーションができる。	他者がわかるように段落を整えながら、論理的にわかりやすいプレゼンテーションができる。	他者がわかるように文の構成を整えながら論理的にプレゼンテーションができる。	他者がわかるように論理的にプレゼンテーションができる。	他者がわかるようにやや論理的に一貫性は欠けるものの、何とかプレゼンテーションができる。	論理的に一貫性のないため、わかりやすいプレゼンテーションはできない。

科目名	日本国憲法		授業番号	LA201	サブタイトル	(身近な問題から憲法役割を考える)				
教員	佐野 英二									
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
授業概要	<p>本科目では、日本国憲法及び他国の憲法の沿革、様々な人々の人権について講義する。また、憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し、それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。</p> <p>具体的には、身近な憲法問題を取り上げて関係する憲法の基本原則及び基礎知識を教員の教育委員会及び府庁における人権啓発・相談経験を踏まえて概説する。Universal Passportにより重点的に小テストの課題を課し、その基本原則の理解及び基礎知識の定着を確認する。</p> <p>次に、基本原則等に関する憲法問題を発展学習として、学生が任意に選んだ課題解決に向けてグループで取り組む。そのグループで調査した内容をUniversal Passportで公開、講義でプレゼンして全体討議を行う。これらの活動により、問題の全体像の把握と、多面的な分析及び多様な価値観や背景の認識を踏まえた上で、自らの見解の形成や表現の仕方を身に付ける。</p>									
到達目標	<p>憲法の基本原則・原則および基礎知識を理解し、それらを活用して身近な憲法問題を主体的に考えることができるようになることを目標とする。</p> <p>なお、本科目は、到達目標達成の前提として異なる価値観、文化、背景および相互関係を知り、深い認識と理解の修得を伴うことから、職業人としての高い倫理観と豊かな人間性と社会性の修得とともに、体系的な思考方法を学び、多面的に分析し、自らの見解を形成する能力の修得を目的とする。ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内訳のうち「思考・問題解決能力」<態度>の修得に貢献する。</p>									
授業計画 備考										
回	概要					担当				
第1回	<p>ガイダンス、憲法とは何か</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学修の目標、評価方法などを説明する。 2 法律家の思考の特徴や憲法とは何かについて学修する。 									
第2回	<p>国家機関としての天皇制</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 徳川時代、大日本帝國憲法下、日本国憲法下の天皇の地位について考える。 2 国民主権主義下における国家機関としての象徴天皇制について考える。 									
第3回	<p>憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義 1――</p> <p>非武装平和主義の採用の背景とその後について学修する。</p>									
第4回	<p>憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義 2――</p> <p>近年の安全保障をめぐる状況について学修する。</p>									
第5回	<p>国民主権を実現する仕組み 1</p> <p>政治と国民、国会議員について学修する。</p>									
第6回	<p>国民主権を実現する仕組み 2</p> <p>選挙、選挙制度、政党について学修する。</p>									
第7回	<p>人権を守るための組織――統治機構 1――</p> <p>国会、内閣について学修する。</p>									
第8回	<p>人権を守るための組織――統治機構 2――</p> <p>地方自治、裁判所について学修する。</p>									
第9回	<p>良心をもつ自由、寛く権利、中間試験</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 良心の意義について学修する。 2 教師の良心を貫く権利について考える。 3 中間試験を実施する。 									
第10回	<p>表現の自由と書かれない権利</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 表現の自由と名誉毀損・プライバシーの権利について考える。 2 表現の自由の機軸的地位について学修する。 									
第11回	<p>知る権利とマスメディアの自由、グループワーク 1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 知る権利とマスメディアの自由について学修する。 2 マス・メディアと国民との利害対立の調整について考える。 3 グループワーク (課題選択) 									
第12回	<p>職業の自由と消費者の権利、グループワーク 2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 職業選択の自由、営業の自由と消費者の権利について学ぶ。 2 職業を規制することの合理性の判断の仕方について考える。 3 グループワーク (課題分析) 									
第13回	<p>子どもの権利と学校における生徒の人権</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校における生徒、教師の人権について学ぶ。 2 グループワーク (情報収集、整理) 									
第14回	<p>働く人の権利、グループワーク 4</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 勤労の権利や労働基本権について学ぶ。 2 女性や非正規労働者の問題について考える。 3 グループワーク (全体討議 1) 									
第15回	<p>グループワーク 5</p> <p>グループワーク (全体討議 2)</p>									
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
	グループワークの取り組み姿勢/態度	20	各回のグループワーク終了時に提出するワークシートに、要求されているステップに沿ったグループワークの結果が書かれていること。不十分な点については、コメントを付して連絡する。							
	小テスト	20	各回の主要なポイントの理解を評価する。回答期間後、Universal Passportに解説を表示する。							
	中間テスト	20	憲法の基本原則及び基礎知識の理解及び課題に対する論理的思考を評価する。Universal Passportに解説を提示し、全体の講義を講義で行う。							
	定期試験	40	中間テストの基礎に加え、異なる価値観・意見に配慮した主体的な意見の論理的思考を総合評価する。解説をUniversal Passportに提示する。							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	<ol style="list-style-type: none"> 1 事前に授業の範囲のテキストを読み、分からない用語を調べておく。 2 第11回以降、任意に選択した発展学習をグループで調査・報告する。各自積極的に取り組むこと。講義時間中にスマートフォン、タブレットなどで法律情報をリサーチしたり、Universal Passportにワークシートや報告書をアップするの十分充電して講義に臨むこと。 3 中間（第9回）に1回中間テストがある。
授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 1 事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み、意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。 2 事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め、Universal Passportで小テストを受験する。また、小テスト受験後、読んだり理解が不十分であった箇所について復習する。 3 グループワークで選択した課題について、インターネット等で調査し、調査した情報や講義により修得した基本原理や情報を踏まえて、各自の情報や意見を整理する。さらに、グループ報告書のまとめ、プレゼンテーションの準備に向け、共同作業のための事前準備を行う。事前学習及び事後学習を合わせて、1週間に4時間程度必要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
憲法のちから—身近な問題から憲法の役割を考える	中富公一	法律文化社	978-4-589-04140-1	2400円+税

使用テキスト：自由記載

第2版の改訂作業中です。第2版が出版された場合、そちらを採用します。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基本判例1 憲法（第4版）	右崎正博・浦田一郎編	法学書院	978-4-587-52413-5	2500円+税

参考書：自由記載

授業において随時紹介する。

その他

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無

有

担当教員の業務経験

県教育委員会（24年）、県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験を有する。

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる実務経験者

実務経験をいかした教育内容

県教育委員会（24年）、県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験から、いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原則から説明する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 憲法に関する基本原則・基礎的事項を理解している。	学修した憲法に関する基本原則・基礎的事項について、正確に理解し述べることができる。	学修した憲法に関する基本原則・基礎的事項について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した憲法に関する基本原則・基礎的事項について、大体述べることができる。	学修した憲法に関する基本原則・基礎的事項について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した憲法に関する基本原則・基礎的事項について、全く表現することができない。
知識・理解	2. 国際社会・地域社会の多様な価値観・意見を認識し、理解している。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、正確に理解し述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、大体述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	1. 憲法や法令を使って論理的に問題を考えることができる。	課題に対し、論理的整合性をもち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性をもった考察をしている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対し、結論を述べることができる。	課題に対し、結論を述べることができない、または指示事項に沿っていない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	倫理学		授業番号	LA202	サブタイトル	(人間形成の倫理と論理)				
教員	小谷 彰吾									
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
授業概要	激変する時代の中で、偶然に起こる事象に対処しながら「よよく生きてゆく」ことが求められている。そこで、先哲の思想、中でも儒教の視点の一つの柱として、現代社会における倫理を考察したりする中で自らの生き方を見つめる観点から倫理学をとらえていく。									
到達目標	東洋、西洋、それぞれの時代の中で、人間は「よよく生きる」ことを究明しようとして続けてきた歴史と思想があったことを知るとともに、我が国には、神道、仏教、儒教が融合する独特の精神文化があり、それら一つ一つの参考になら現代社会において「よよい行動」を実現しようとする態度を形成する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学力の内容のうち、<知識・理解> <態度>の修得に貢献する。									
授業計画 備考	『倫理学』の概念を知り、『善悪』の判断とその背景、その価値基準となる考え方について先哲の言葉を参考に考えていく。									
回	概要					担当				
第1回	倫理の基礎(1) ガイダンス 『倫理学』を概観するとともに、授業の展開、授業上の注意事項についてのガイダンス									
第2回	倫理の基礎(2) 倫理観と社会的背景 現代社会の現状、社会的弊理など踏まえ、倫理観の低下の原因となる共同体意識の低下などの根拠に触れる									
第3回	倫理の基礎(3) 倫理観の形成と体験の欠如 現代社会が便利になればなるほど、「よよく生きる」という概念が軽視され、自己中心的発想によって他者に対する思いやりが欠如して行く。幼少期の大自然との関わり、他者との関わりが欠如がますます客観的に自己を見つめることを理解する。									
第4回	倫理の思想(1) 倫理と道徳 『倫理』と『道徳』のルーツから、その違いや同じ「罰償」という考え方に引きつづいて理解するとともに、「知行合一」頭での理解と実践を重ねていくことに課題がある事理解する。									
第5回	倫理と思想(2) 知識基盤社会と倫理 文明が進化しても、人間の倫理観が追いついていない現実を昨今の社会的現象や事件などから考える									
第6回	倫理学の基礎(1) 倫理と思考実験 著名なトロッコ実験を例に、「安楽死」をどうとらえるかにつなげていく。									
第7回	倫理学の基礎(2) 義務論と功利主義 「タラソフの事例」を基にカントの考え方を理解したり、自問について考える。									
第8回	現代社会の倫理(1) 死刑制度 日本は死刑の有る少数の国の一つであることを資料から理解すると共に、死刑が必要かどうか議論しながら考えを深める									
第9回	現代社会の倫理(2) 老いと安楽死 これまでの「死生観」をさらに深めるとともに「老いる」とことについて考察を深める									
第10回	現代社会の倫理(3) いじめと自殺 日本のいじめの現状を理解すると共に、その特徴を知り、特に子供を取り巻く大人の一人として必要なことを考える									
第11回	現代社会の倫理(4) 徳の教育と学校 日本の千五の道徳教育の変遷といじめ打開のための道徳の教科化について知る									
第12回	現代社会の倫理(5) 伝統文化と食の倫理 輸入に頼る日本の食の危機と子どもを取り巻くファストフードについて考える									
第13回	日本倫理の思想(1) 江戸時代の徳の教育 「江戸しぐさ」を理解し、品位品格を求めた当時の教育、また、家庭、寺子屋、地域ともに同じベクトルで子どもに合わせた教育を考える									
第14回	日本倫理の思想(2) 『論語』 著名なものの中から、現代の『倫理観』を向上させるにふさわしい章句を取り上げその意味を知る									
第15回	『倫理学』のまとめ 総括レポート これまでの学習から、自分が今後をどうするか、また、一人の大人として我が国の倫理観の低下に歯止めをかける策を考える									
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その態備考							
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	ディスカッション等授業における意欲・態度、各授業のコメントペーパー							
	レポート									
	小テスト									
	定期試験									
	その他	50	15回目の論文で評価する。							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学習	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。(必要に応じて講義内で随時紹介する)			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	講義内で随時、紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	公立小学校教諭15年、私立高等学校教諭18年			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	現在、学校教育現場では、アクティブラーニングの研究が進められており、「受動的な学習」からの脱却を図っている。しかし、特に小学校においては、遅く前から実践されていた学びであり、特に「道徳」は教科化されて以降、「議論する道徳」「思考する道徳」、すなわち自らの意見を持って、仲間と意見をぶつけ合い、新しい価値を見出していく学習が展開されている。「倫理学習」で同様の学習を展開すれば、「主体的な学び」が展開できるものと考えている。グループワーク、ディスカッションなど積極的に取り入れて活気ある学習の雰囲気を作成したい。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	学問としての倫理学を概観するとともに、現代日本社会の倫理観の現状、原因等について理解する	学問としての倫理学を概観するとともに、現代日本社会の倫理観の現状、原因等について十分理解できている	学問としての倫理学を概観し、現代日本社会の倫理観の現状、原因等についての理解は優れている	学問としての倫理学を概観し、現代日本社会の倫理観の現状、原因等についての理解は十分なレベルである	学問としての倫理学を概観し、現代日本社会の倫理観の現状、原因等についての理解が今一つである	学問としての倫理学を概観すること、現代日本社会の倫理観の現状、原因等についての理解が非常に劣っている。
態度	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする。	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする点において非常に優れている。	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする点において優れている。	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする点において十分なレベルである。	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする点においてやや劣っている。	学習して気づいたよりよい生き方考え方を自らが主体的に実践しようとする点において非常に劣っている。

科目名	比較文化論			授業番号	LA203	サブタイトル	
教員	藤代 昇文						
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義
							必修・選択
授業概要	異文化理解に関するテキストを用い、「文化を比較する」ということを、具体的なテーマについてのディスカッションなどの活動を通して実践的に学ぶ。具体的には衣食住や音楽、芸能などの身近なテーマから思想、言語、宗教などの精神活動に関するテーマなど様々なテーマについて扱う。文化の異同を考えることを通じて、日本文化について改めて理解し、多文化の人々との異文化コミュニケーションを取ることのできる知識と問題解決能力を高める。						
到達目標	具体的なテーマについて、異文化を理解し、比較することを通して、自らの国に対する理解を深めるとともに、自ら一定の尺度をもって、多文化の人々を接し、コミュニケーション力を取れる力を身に付けさせる。また、情報や意見をもとめ、相手を意識して自らの思いや意見を表現できる力を養う。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、「知識・理解」・「思考・問題解決能力」の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	文化とは、異文化理解とは何か 「文化」とは何か。文化を構成するものは何か。についてグループディスカッション 文献を通して「文化」の定義を定める						
第2回	比較文化の方法 / 「空気に耳を澄ます」異文化間コミュニケーション 文化を比較するとはどういうことかについて考える 空気の読み方を例に異文化間コミュニケーションにおける留意点についてディスカッション テキスト1章のエピソードから考える						
第3回	文化と言語 社会言語学、認知言語学の視点から 言語と文化との関係について考える 社会言語学や認知言語学の視点から物の見方・考え方について解説						
第4回	多文化共生社会 国籍や民族等の異なる人々々が、互いに文化的背景等の違いを認め、互いの人権を尊重し合い、地域社会で共に協調して生きる社会を築くための課題についてディスカッション						
第5回	様々な礼節のあたり テキスト2章のエピソードから考える 「勤務評価とネガティブ・フィードバック」 文化の違いと行き違い						
第6回	「なぜ」vs「どうやって」多文化世界における読者の技術 テキスト3章のエピソードから考える 「平等」と「公平」についてディスカッション						
第7回	物徳はどれくらい必要か リーダーシップ 階層 パワー テキスト4章のエピソードから考える ローコンテキストとハイコンテキスト						
第8回	[大文字の決断か小文字の決断か]誰がどうやって決断するか テキスト5章のエピソードから考える 「平等主義的文化」と「階層主義的文化」						
第9回	「頭か心か」二種類の価値とその構築法 テキスト6章のエピソードから考える グループディスカッションと発表						
第10回	生産的に理解の相違を伝える テキスト7章のエピソードから考える グループディスカッションと発表						
第11回	「置いておくれ」vs「スケジュール」各文化の時間に対する認識 テキスト8章のエピソードから考える グループディスカッションと発表						
第12回	国際化と食文化 日本の「和食」 食文化とタブー 各国の食文化について調べ、発表 グループディスカッション						
第13回	遊び、芸能、宗教、音楽 各国の遊びについて調べ、発表 グループディスカッション						
第14回	性差 ジェンダー 各国の性別と性役割について調べ、発表 グループディスカッション						
第15回	日本のこころ / まとめ 日本文化の内、海外で紹介したいものを選び調べ、発表						
授業計画 備考2							
評価の方法							
種別	割合	評価基準・その他備考					
授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する					
レポート	30	課題のテーマについて適切にまとめるかを評価する。 課題提出後の授業で、グループワークを通して発表及び相互評価を行い、内容についてコメントし、フィードバックを行う。					
小テスト							
定期試験							
その他	40	課題のテーマについて適切にまとめるかを評価する。					

評価の方法：自由記載	
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> 授業中にはペアやグループでの発表活動を実施するので積極的に参加すること。 事前準備では辞書や資料等で調べなど自主的な学習に努めること。 知識から実践へと進むことができるよう、積極的に授業に参加し、授業外でもしっかりと練習をして欲しい。
授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。 毎回前時の授業内容についての小テストを実施するで2時間以上復習しておくこと。 課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
異文化理解力——相手と自分の真意がわかる ビジネスバージョン必須の教養	エリン・メイヤー	英治出版	978-4862762085	1800
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	県情報教育センター(3年)・県総合教育センター(4年)・県立高等学校英語科教諭(17年)			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	高校の学校現場に勤務し、英語科の指導に当たった経験から、学生のニーズを的確に把握し、わかりやすい解説や指導をすることができ。また、大学生として身につけておくべき異文化理解の基礎知識などをペアやグループ活動などを取り入れたアクティブかつ実践的な指導ができる。また、県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として、教職員の研修や指導業務に当たった経験から、ICTを活用して動画や音声を提供しわかりやすい授業を行うことができる。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学士力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分レベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 比較文化や異文化理解に対して必要な基礎的な事項を理解できる。	比較文化や異文化理解について、テキストや文献を読んだり、講義を聞いたりして、必要となる基礎的な事項を理解することができる。到達度テストで90%以上得点することができる。	比較文化や異文化理解について、テキストや文献を読んだり、講義を聞いたりして、内容を理解することができる。到達度テストで80%程度得点することができる。	比較文化や異文化理解について、テキストや文献を読んだり、講義を聞いたりして、おおよその内容を理解することができる。到達度テストで70%程度得点することができる。	比較文化や異文化理解について、テキストや文献を読んだり、講義を聞いたりしても、内容を理解することができない。到達度テストで60%程度の得点である。	基礎的な文献を読んだり、講義を聞いたりしても、内容を理解することができない。到達度テストで50%未満の得点である。
知識・理解	2. 文献などから得られた知識をまとめ、自分の意見を加えて表現することができる。	文化に関するテーマについて、相手と話したり、文章を書いたりして、自らの意志を伝えることができる。	文化に関するテーマについて、相手と話したり、短い文章を書いたりして、自らの意志を伝えることができる。	文化に関するテーマについて、相手と話したり、書いたりすることができる。	文化に関するテーマについて、相手と話をすることはできるが、十分に理解し応用することはできない。	文化に関するテーマについて、相手と話をすることができず、自分の意見を言うことも困難である。
知識・理解	3. 文化をとりまく様々なテーマについて様々な手段で調べることができる。	テキストでテーマとなっている比較文化・異文化理解について理解し、文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。	テキストでテーマとなっている比較文化・異文化理解について理解し、文献などから調べることができる。	テキストでテーマとなっている比較文化・異文化理解について理解し、与えられた文献などから調べることができる。	テキストでテーマとなっている比較文化・異文化理解について理解することはできるが、自ら調べることができない。	テキストでテーマとなっている比較文化・異文化理解について理解することができず、調べることができない。
思考・問題解決能力	1. 事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを、様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定しているが、事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができない。	自らの問題意識が不明瞭で、事実や意見に対する考えを伝えることができない。
思考・問題解決能力	2. 論理の展開を整えて伝えることができる	自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性があり、序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。	自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性があり、論理の展開が明瞭である。	論理構成は荒削りだが、自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性がある。	自らの主張点は理解できるが、論理展開が整っていないため分かりづらい。	論理展開が整っておらず、主張点が分からない。
思考・問題解決能力	3. 独創性と洞察力に富んだ表現内容である	オリジナリティに富んでおり、テーマや課題を深く、鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で、意見性のある内容である。	テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	テーマに沿って主張しているが、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。	自らの主張点がなく、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	4. テーマや課題に対してチームメイトと協働し適切な解決方法を提案できる	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、それぞれの役割を意識しながら、意見を集約して適切な解決方法をまとめ、提案できる。	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、意見を集約して適切な解決方法をまとめ、提案できる。	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、意見を集約することができる。	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を行い、協力することはできるが、意見を集約することはできない。	テーマや課題に対して、グループワークやペアで協働することができない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	中国語			授業番号	LA301	サブタイトル	(発音記号、基本文型、会話、短文)		
教員	畑木 亦梅								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業では中国語の発音・基礎文法に重点を置き、日本人にとって親しみのある漢字を中国語でどう発音するのかなどを解きながら、基礎的な会話と文型を学んでいくものとする。また、外国語を学ぶうえで自分自身にとって一番相応しい方法が何なのかについて考えてもらい、一緒に探し当てていく。								
到達目標	既習内容の発音や単語の定義を目指して基本文型を理解する。いざ中国語による会話をする時、意味などについて語れる基礎的なコミュニケーション能力を身に付けている。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	発音記号(1) 単母音、声調、子音、軽声、特殊母音								
第2回	発音記号(2) 重母音、鼻母音、声調の記号のつけ方								
第3回	発音の復習、自己紹介、人物代名詞。「是」「呢」「也」「请」								
第4回	これは何ですか？ 指示代名詞。「吗」「不」「什么」「的」								
第5回	これは何がですか？ 形容詞述語文。「怎么样」								
第6回	買い物 数詞、数量、助詞「吧」								
第7回	どこにありますか？ 場所指示代名詞。「在」「想」								
第8回	何がありますか？ 「有」「什么」、助数詞								
第9回	ホテルにチェックイン 「了」「还是」								
第10回	何時に行きますか？ 「过」、時間を表す言葉								
第11回	タクシーに乗る 「从」「到」「给」								
第12回	試験と支払い 「可以」「能」「会」「在」								
第13回	舌情を新える 「给」「是」「去」「来」								
第14回	前失態を出す 「是～的」「的的时候～」								
第15回	復習、おさらい、定期試験に向けて								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	筆記試験	100	発音記号、語彙、文法の定義を確認するため、それぞれの区分から約6・2・2の点数配分でお題						

評価の方法：自由記載	授業への取り組みの姿勢／態度／課題の完成度が評価対象になります。
受講の心得	予習、復習をしっかりとすること。テキストを必ず持つこと。 毎授業の導入時に15分程度の発音練習の時間を設けており、遅刻せず声を出して練習すること。
授業外学習	1 予習として、次の授業に出る新出単語を覚えておくこと、テキストの問題に目を通しておくこと。 2 復習として、学んだ本文内容や文法を再確認すること。 以上の内容を、週当たり3時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
一年生のコミュニケーション中国語	塚本慶一・劉頌	白水社	978-4-560-06931-8	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	プリント配布、学習内容に合わせて中国事情を紹介。 プリントを入れる為のA4サイズのポケット式ファイル(20ポケットほど)を用意すること。 初回からプリントの配布があり、その後の授業にも使う予定。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	高等学校での中国語授業			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	通訳、翻訳の経験を活かし、学生自身の母国語の日本語について考えてもらい、より言語に関心を持ってもらうよう指導する。また、中国語授業の経験を活かし、学生と共に各々においての言語の修得方法を指導する。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 語彙の使用法	幅広い語彙を会話の中で正確かつ効果的に活用できる	語彙の使用の多様性を示すが、時折不正確である	基本的な語彙は概ね理解しているが、表現の種類は限られている	語彙の範囲が狭く、単語の選択に苦勞する	最小限の語彙しか使用せず、コミュニケーション効果を妨げている
知識・理解	2. 文法	文法規則をしっかりと理解し、それらをスピーチなどで正確に適用している	一般的に正しい文法を使用し、理解を妨げない程度の軽微な誤りがある	文法の誤りが目立ち、文の構造と明瞭さにかける	基本的な文法の概念に苦勞し、比較的ミスが多い	文法規則の理解が乏しい
思考・問題解決能力	1. 異文化理解	会話で中国文化の知識と理解を示す	文化的なニュアンスを意識し、文化的要素を適切に取り入れる	文化的な側面について思考しているが、精度は限られている	中国文化の知識がほとんどなく、文化的参照が不足している	中国の文化的側面に対する理解や配慮を示さない
技能	1. 言語能力	正確な発音と基本的な言語構造の理解により、完全な文章で話すことができる	発音に多少の誤りはあるが、基本的な考え方を効果的に伝えることができる	基本的な語彙やフレーズを使って話そうとするが、発音の簡潔さが目立つ	まとまりのある文章を作るのに苦勞し、語彙の使用が限られ、発音の簡潔さが頻繁にある	断片的に話し、発音が悪く、基本的な言語概念の理解が最小限である
技能	2. コミュニケーションスキル	趣味や興味に関する基本的な会話ができ、中国語で効果的なコミュニケーションがとれる	中国語の簡単なアイデアや興味をサポート付きで伝えることができる	基本的な会話を試みるが、アイデアを明確に表現するのに苦勞することがある	会話への参加が最小限で、語彙の使用が限られており、コミュニケーションが不明確である	会話ができず、語彙力やコミュニケーション能力が不足している
態度	1. 態度とエンゲージメント	発音練習に積極的に取り組み、中国語学習に熱意を示す	発音練習に参加し、中国語学習に興味を示す	発音の練習にやや熱心で、中国語の学習に対して中立的な態度を示す	発音の練習に消極的で、中国語学習への関心が限られている	発音練習や中国語学習に興味や努力を示さない

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	韓国語		授業番号	LA303	サブタイトル	(韓国語の基礎を学ぶ)				
教員	宋 煥沃									
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
授業概要	近年韓国の映画、音楽、食べ物などの文化や社会生活が世界から注目され、韓国への関心が一層高まっている。こうした関心は韓国語の習得につながり、韓国語はどのような仕組みで作られているのかを知っていく必要がある。韓国語と日本語は文法が類似していると同時に、言葉によって大切な語彙がほとんど一致している。本講義は、前半では韓国語学習を思い始める初歩の段階としてハングルの基礎から始まり、韓国語のごく短い文の読み書き、聞き取りを学習する。後半では日常会話として自己紹介、挨拶の言葉、韓国旅行のための簡単な会話など、基本的なやり取りの実践的な力を身につける。また、韓国の若者の意識、韓国の大学生活、エンターテインメント、社会への理解を深めるために、ビデオ鑑賞を行う。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> -韓国語の基礎的な文法、発音を理解して活用できる。 -簡単な韓国語の読み書きができる。 -韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。 なお、本科目はデプロイメントに拠らずに学んだ学生が、＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。									
授業計画 備考										
回	概要					担当				
第1回	韓国語とは 韓国語はいつ作られ、どのように作られたのかをハングルの由来、歴史的な経緯を学習する。									
第2回	文字と発音・母音 韓国語文字や基本構成を学習する。									
第3回	文字と発音・子音 韓国語文字の特徴や文字の基本構成を学び、その仕組みを理解する。									
第4回	激音と濃音、パッチム 基本母音と子音から表れる激音と濃音の発音の違いについて学習する。									
第5回	韓国語の動詞・動詞 韓国語の一文を完成するための動詞と動詞の仕組みについて学習する。									
第6回	基本文型の過去形の作り方 基本文型の現在、過去、未来がどのように表現されているのかを理解する。									
第7回	感嘆文・疑問文の形式 韓国語の感嘆文・疑問文を簡単な言葉を用いて理解する。									
第8回	基本文型の指示代名詞・助数詞 指示代名詞を事例から説明し、一つの文章を作るようになる。									
第9回	用語の丁寧形・尊敬形 韓国語の丁寧形や尊敬語を具体例から学習する。									
第10回	会話練習・表現 文章の基礎的な仕組みから短い表現を理解する。									
第11回	挨拶・訪問の言葉 基本的な挨拶の言葉を学習する。									
第12回	韓国の大学と若者 韓国の大学と日本の大学の違い、若者の意識について理解する。									
第13回	韓国の食生活と食べ物 韓国の食生活や近年関心が高まっている食べ物について学習する。									
第14回	韓国の映画と文化 韓国のエンターテインメントや映画について理解する。									
第15回	韓国の文化と日常会話 近年の流行語や音楽について、日常会話を用いて学習する。									
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
	授業への取り組みの姿勢や態度	20	授業への意欲、質問、課題を積極的に取り組んでいるのかを評価する。							
	小テスト	40	授業の中間時点で、どの程度内容を理解しているのかを確認する。							
	期末テスト	40	授業全体の理解度や言葉の習得ができていないのかを評価する。							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み、予習をやること。 課題を充実に行うこと。
授業外字修	・予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読むこと。 ・復習として、課題をノートに書いて来ること。 ・韓国語の教科書のCDを聞くようにして、言葉に慣れること。 以上の内容を適当に94時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめての韓国語	李昌圭	ナツメ社	978-4-8163-5558-5	1,600円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 外国語や韓国語の必要性を十分に認識している	韓国語の必要性をほぼ理解している	韓国語の文法の仕組みや会話の基本構造をほぼ理解している	韓国語の文法の仕組みをほぼ理解している	韓国語は理解しているが、具体的な知識が十分でない	あまり外国語に対して興味を持たない
知識・理解	2. 新しい知識として外国語の必要性を十分に認識している	言葉の仕組みや子音・母音を十分に理解している	知識として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる	知識として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる	韓国語の文字体系を理解しようとしていない	外国語や他の国のことを理解していない
知識・理解	3. 韓国語の学ぶ上での韓国の文化や社会のことを認識している	韓国で起こっている諸問題から対応策を考えられる	最近の韓国文化に興味を持って勉強に取り組んでいる	学生自ら進んで韓国語を学習する能力が備えている	あまり外国の文化や言葉を理解しようとしていない	韓国のこと、韓国語にあまり関心が少ない
技能	1. 新しい言葉を身につけることで自分の知識が深まる	韓国語の基礎が出来ており、自ら進んで韓国の文化に関しても勉強している	韓国語の会話や発音の子音・母音の体系が理解できている	韓国語の発音の仕組み、会話の基礎が出来ている	韓国語を学習する目的や基礎知識が理解できていない	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない
技能	2. 外国語を学ぶことで一層他文化に対する理解が深まる	韓国語の基礎知識は十分に備え、自ら進んで韓国の文化を勉強している	韓国語の基礎知識を備えられ、その国のことまで把握できる	韓国語の会話がほぼ理解でき、韓国の社会に関しても知ろうとしている	外国語を修得し、1つでも自分の知識を増やすことの重要性が認識できていない	韓国語を学ぶことの意味と目的が明確ではない
技能	3. 外国語や海外の人や文化を通じて自国のことや自分のことを再考すること	韓国語の学習が十分にでき、今日のグローバル社会が理解できる	韓国語の学習を通じて他の国のことが理解できる	韓国語の基礎知識が勉強でき、他の語学にも興味を持つことが可能になる	韓国語の基本的発音体系や会話を身につける意味が認識できていない	韓国語の内容や発音の体系をどのように理解し、勉強しようかという認識ができていない

科目名	岡山学 (オムニバス)			授業番号	LB101	サブタイトル	
教員	住野 好久						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義
						必修・選択	必修
授業概要	小学校・中学校・高等学校と継続的に学ばれてきた岡山県に関する学習を発展させて、岡山県のいところ、自慢できることについてより深く理解し、それを発信するとともに、それを持続可能なものにするために何が必要かを検討する。個々人で岡山県の何を取り上げるかを決め、それについて個人探究を進めることを基本とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 「岡山」を多面的に理解し、「岡山」の持続可能な発展のために何が必要であるかを理解する。 「岡山」を調査する過程で、「岡山」の持続可能な発展のための課題を洗い出し、それを解決するための方策を考える力を高める。 「岡山」に対する関心や愛着を持ち、「岡山」で生活するものとして当事者意識を持って、この地域の改善のために貢献しようとする態度を高める。 本科目はデジタルマテリアルに編入した学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <態度> の修得に貢献する。 						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	「岡山」について知っていることを整理しよう -これまでの学習を踏まえて、岡山のいところを書き上げる						
第2回	「岡山」についていろいろ調べてみよう -岡山のいところから1つを選び、それについて調べる						
第3回	「岡山」のいところ」を1つについて深掘りしよう -選んだ1つのテーマについて、多面的に深掘りする						
第4回	「岡山」のいところ」を5分でプレゼンしよう -調べた結果をパワーポイントにまとめて発表する						
第5回	「岡山」のいところ」をもう一度プレゼンしよう -最初のパワーポイントをバージョンアップさせて、再度発表する						
第6回	「岡山」のいところ」を持続的なものにするために -調べた岡山のいところを持続可能なものにするための課題を明らかにする						
第7回	「岡山」のいところ」を持続的なものにするための方策 -調べた岡山のいところを持続可能なものにするための方策を明らかにする						
第8回	「岡山」のいところ」を持続的なものにするための方策を深める -調べた岡山のいところを持続可能なものにするための方策について深掘りする						
第9回	「岡山」のいところ」を持続的なものにする方策を10分でプレゼンしよう -調べた岡山のいところを持続可能なものにするための方策についてプレゼンする						
第10回	「岡山」のいところ」を持続的なものにする方策をもう一度プレゼンしよう -調べた岡山のいところを持続可能なものにするための方策についてバージョンアップさせたプレゼンをする						
第11回	「岡山」のいところ」を実現するために自分で行うことは何か -調べた岡山のいところを持続可能なものにするために自分で行うことを検討する						
第12回	「岡山」のいところ」を実現するために自分で行うことを実践する -調べた岡山のいところを持続可能なものにするために自分で行うことを実践する						
第13回	「岡山」のいところ」を実現するために自分で実践した成果を評価する -調べた岡山のいところを持続可能なものにするために自分で実践したことを振り返る						
第14回	「岡山」のいところ」を実現するために自分で実践したことを改善する -調べた岡山のいところを持続可能なものにするために自分で実践したことを改善する						
第15回	まとめと討論 -この科目で学習したことをまとめて、発表し、共有する。						
授業計画 備考2							

評価の方法		
種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	20	授業で提示される課題に主体的に取り組み、岡山県の持続可能な発展に貢献しようとする事
小テスト (確認テスト)	40	毎回の授業での学習内容について適切に記述する
最終レポート	40	この授業で学んだことを踏まえて、論理的に記述する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「山陽新聞」やローカルニュースを視聴し、岡山について関心をもつこと。
授業外学習	1 予習として、予め提示されている課題に取り組んでおくこと 2 復習として、予め提示されている課題に取り組んでおくこと 3 発展学習として、講義で紹介された参考文献などを読むこと 以上の内容を、適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	無
担当教員の業務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	「岡山」を多面的に理解し、「岡山」の持続可能な発展のために何が必要であるかを理解できているか	「岡山」を多面的に理解し、「岡山」の持続可能な発展のために何が必要であるかを深く理解し、説明できる	「岡山」を多面的に理解し、「岡山」の持続可能な発展のために何が必要であるかを理解し、説明できる	「岡山」を多面的に理解し、「岡山」の持続可能な発展のために何が必要であるかを理解している	「岡山」を断片的に理解し、「岡山」の持続可能な発展のために何が必要であるかを検討できる	「岡山」を理解できず、「岡山」の持続可能な発展のために何が必要であるかを検討できない
思考・問題解決能力	「岡山」を調査する過程で、「岡山」の持続可能な発展のための課題を複数見出し、それを解決するための方策を総合的に考えることができるか	「岡山」を調査する過程で、「岡山」の持続可能な発展のための課題を複数見出し、それを解決するための方策をいくつか考えることができる	「岡山」を調査する過程で、「岡山」の持続可能な発展のための課題を複数見出し、それを解決するための方策を1つ考えることができる	「岡山」を調査する過程で、「岡山」の持続可能な発展のための課題を1つ見出し、それを解決するための方策を1つ考えることができる	「岡山」を調査する過程で、「岡山」の持続可能な発展のための課題を1つ見出すことが、それを解決するための方策は考えられない	「岡山」を調査する過程で、「岡山」の持続可能な発展のための課題を見いだせない、それを解決するための方策も考えられない
態度	「岡山」に対する関心や愛着を持ち、「岡山」で生活するものとして当事者意識を持って、この地域の改善のために貢献しようとする態度が高まっているか	「岡山」に対する関心や愛着を持ち、「岡山」で生活するものとして当事者意識を持って、この地域の改善のために貢献できる	「岡山」に対する関心や愛着を持ち、「岡山」で生活するものとして当事者意識を持って、この地域の改善のために貢献しようとする	「岡山」に対する関心や愛着を持ち、「岡山」で生活するものとして当事者意識を持って、この地域の改善のために貢献する必要性がわかる	「岡山」に対する関心や愛着を持っているが、「岡山」で生活するものとして当事者意識を持ってこの地域の改善のために貢献しようとしていない	「岡山」に対する関心や愛着を持たず、「岡山」で生活するものとして当事者意識を持ってこの地域の改善のために貢献しようとしていない

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	ICT概論 I			授業番号	LB102	サブタイトル	
教員	久保 博尚						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習
							必修・選択
授業概要	本ゼミの講義の大半は、インターネット上のデジタルな道具を用いて行う。具体的には各自PCでインターネットに接続し、講義ページにアクセスすることで、授業内容の共有、関連情報の閲覧、コミュニケーション、情報伝達を行う。この講義と演習を通じて日本社会と世界の状況を理解することにより、ICT社会の仕組みを実感的に把握するとともに、個人と社会がテクノロジーとどのような関係にあり、社会にどのような影響をもたらしているかを学ぶ。 *このため初回講義から、全員必ずPCを持参のこと。PCはマック、ウィンドウズ、ゲームブックを問わず、タブレット端末は不可。						
到達目標	積極的なく態度で演習に取り組むことにより、デジタルな道具を活用するための技術>向上を図る。これを手段として、<思考>と<問題解決能力>を高め、学びの背景となる日本の現状と自身の立場を正しく<理解>することを目的とする。このことは世界を知るための<知識・理解>を高め、<思考・問題解決能力>の必要性を自覚し、その手段となる<技能>と<態度>を養うデジタルリテラシーの理念にかなうものである。本科目は、インターネットに接続して授業を行うことで、学びと社会の連携を通じた実践的な教育機会を提供するものであり、ガジェットリテラシーに沿ったものである。						
授業計画 備考							
回	概要						担当
第1回	道員としてのゼミ1：みんなで作るデジタル・ライブゼミナル 授業は基本的にデジタル環境で行うため、その意義と母艦となるGoogleとScrapboxのWebアプリについて全体的な説明を行う。進行員会に成して、PC操作の基本となる、文章のコピー、ペースト、カット、セレクトオール、取り消し、また画像についても同様の基本操作を覚える。						
第2回	道員としてのゼミ2：デジタル・ライブのための環境を整える Scrapboxの環境設定を行い、個人用、先生用のそれぞれのScrapbox、Scrapbox上の授業ページ、Googleドライブとの連携を行う。						
第3回	発展のデジタル1：デジタル・テクノロジーの進化と社会指標の変化を比較する 2000年が世界の社会の分岐点であることの全体的な説明と、その変化を理解するための2000年以前の世界の理解の重要性を理解する。						
第4回	発展のデジタル2：2000年は世界の分岐点 2000年が分岐点であることの実感的理解のために、まずは2000年以前の社会指標を調査する。合わせて授業Scrapboxの活用方法を説明する。						
第5回	2000年の前の時代のレポートを完成させる (前編) 2000年以前の時代の社会指標の調査内容をScrapboxにレポート素材として書き出す。このことを通じて2000年の前の時代についての理解を深める。書き出した社会指標の発表を行う。並行して、レポートの書き方の基礎を学ぶ。						
第6回	2000年の前の時代のレポートを完成させる (後編) 調査結果をまとめる。Scrapboxに書き出したレポート素材を課題レポートに仕上げための基本 (タイトル、文章、数値、グラフ、体裁) を解説する。合わせて、Googleスプレッドシートの基本を学ぶ。						
第7回	2000年の前の時代の指標を統合する 前2回の実習内容を統合し、「2000年の前の時代」の課題レポートを完成させる。合わせて、オンラインでのレポートの添削や提出方法についての説明を行う。						
第8回	2000年から後の時代を概観する コンピュータとは何かの概説のあと、ムーアの法則について学び、2000年からの時代を調査するための社会指標の選択などの準備を行う。						
第9回	2000年からの時代の社会指標を統合する Webアプリケーションとは何かの講義の後、実習課題の「2000年の前の時代」と「後の時代」を統合し、調査結果をスプレッドシートでグラフ化する。						
第10回	2000年を境に世界が変わったことを可視化する スプレッドシートを利用する際の数値の扱い、計算やグラフ化のための基本機能を学習し、統合した指標の数値をグラフで表す。						
第11回	関数を理解しグラフを描く 自動販売機の仕組みを例に、関数の働きを理解する。基礎的な関数として、SUM、COUNTの二つの関数により2000年前後の指標を整理する。整理した数値をもとに、グラフの基礎を学ぶ。						
第12回	レポートの構造を理解しグループ討論を行う 課題レポートに不可欠な起承転結などの基本構造の講義を行う。その上で、Scrapbox上の雛形を用いてレポートを完成させる。						
第13回	オンラインでアンケート調査を行う Googleフォームで自身のアンケートを作成した後、前期前半の授業評価のためのアンケートを実施する。合わせて前期後半の授業方針の説明を行う。						
第14回	アンケート結果と成績から見た学習状況の分析 授業評価アンケートの結果を共有し、傾向や問題点などの分析を通して授業改善の方法を話し合う。また、レポートの成績状況モニタの説明を行う。						
第15回	働き方1：マクドナルド指数で見るテクノロジーと経済 経済・社会生活とテクノロジーの全体的な視点から、マクドナルド指数や一人当たりGDPがテクノロジーとどのように関係するかを学ぶ。						

第16回	働き方2：インバウンドに見るテクノロジーと経済 具体論として、収入や賃金の各国比較から安心インバウンドの実態を理解するとともに、テクノロジーやプラットフォーム化と幸福の関係について考える。	
第17回	働き方3：ICTを活用して日本の生活コストを実感する(1/3) これまでに学んだICTの知識をもとに、課題レポート「主要都市の昼食代の実態調査」を始める。方針と調査方法、英語の扱いなどの解説も行う。	
第18回	働き方4：ICTを活用して日本の生活コストを実感する(2/3) 収録した調査データをもとに、データ整理の方法、平均や合計などの基本的な関数の使いから、スプレッドシートによるグラフ表現の方法を学ぶ。	
第19回	働き方5：ICTを活用して日本の生活コストを実感する(3/3) 技術編と文書表現編に分けてマックとウィンドウズの使いも急め、レポート作成のポイントを解説する。Scrapboxによる課題レポートの提出方法も解説する。	
第20回	子育て1：子育ての現状を知る 若い子育ての現場をICTでどのように改善できるかを考える初回となる。核家族化、シングルマザーの現状、幼児教育とテクノロジーの実態を学ぶ。	
第21回	子育て2：海外と日本の子育て事情の違いを知る 子育てコネクターや子育てへの公共投資、幼児教育現場のICTの活用状況、さらには15歳生徒のICT利用実態、海外との違いなどを把握する。	
第22回	教育1：GIGAスクール構想とは何か？ 4回の産業革命とSociety5.0の関係を解説する。この理解を通して、社会のDX化とGIGAスクール構想がどのように繋がっているかを考える。	
第23回	教育2：Society5.0から生まれたスーパーシティ構想 世界の都市が志向するスマートシティ化の実態を学び、その課題が何かの理解を通して、日本国内のスーパーシティ構想の現実を知る。	
第24回	プレゼン演習1：プレゼンテーション技法の基礎を学ぶ プレゼンテーション実演の初回、プレゼンテーションの本質が「贈り物」であることを解説する。合わせてプレゼンを成功に導く法則と技法を説明する。	
第25回	プレゼン演習2：プレゼン資料作成の事前準備 プレゼン実演の狙いを共有した上で、ストーリー、構成要素、表現のポイントを理解し、Googleスライドを使った表現の基礎を学ぶ。	
第26回	プレゼン演習3：プレゼンテーション資料の作成 履修済み学生が過去に作成した「身近な幸せ」を具体例に、プレゼンのスキルを学ぶ。授業後半では、サーバー上での資料共有による添削なども行う。	
第27回	プレゼン演習4：プレゼンテーションの発表(予行演習) 予行演習を行う。このときの講評をもとに発表内容を見直し、最終発表のための改良作業を行う。また、発表のルールや評価ポイントの説明を行う。	
第28回	プレゼン演習5：プレゼンテーションの発表(前半) 2回に分けて発表する。この回は前半の最終発表を行う。発表の際には聞き手はできるだけ発表者との対話を行い、発表を盛り上げる方式とする。	
第29回	アート：現代アートとICTの現状を概観する 授業前半では、残りの学生による発表を行う。後半では、チームラボや3Dプリンタを取り上げながらコンピュータアートの現状を講義する。	
第30回	特別講義：前期の授業を振り返って 授業を振り返り、社会、生活、文化にこれほどコンピューターが影響をもたらしてきたかを理解する。最後に、授業評価アンケートを実施する。	

授業計画 備考2		
----------	--	--

評価の方法		
種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	40	意欲的な受講態度、発表・討論への参加、授業内容関連の知識の習得状況によって評価する。
レポート	60	授業ページをよく読んでいること、テキスト内容に沿った論述ができていて、討論内容が反映されていること、自らの意見が論理的にわかりやすく記されていること。

評価の方法：自由記載	<p>●成績評価の方法（授業計画 備考）のルーブリックを参照） 成績評価は、授業内で行う課題実習を通して行う。試験や演習は行わない。課題共通の評価項目は、「提出期限の遵守」「理解力（正確で明快）」「表現力（適正で整った表現）」「文章力（簡明でわかりやすい整った文章）」「授業態度（出席と態度）」である。ただし、課題それぞれの特性によってさらに詳細な評価項目が適用される。</p> <p>●理解度評価 授業期間中1〜2回、Googleスプレッドシートを利用したアンケート形式の理解度測定を行う。平均20問の質問項目は複数の選択肢に平均40%の正解が組み込まれている。生徒の回答は各自のスプレッドシート上のモニターに可視化され、回答ごとにスマネなどにより、リアルタイムで正誤がわかるようになっている。正解率（選択肢に対する正解の割合）は40%程度のため、繰り返しチャレンジすることで正解に近づけることができる。この理解度測定の結果は、繰り返し回答した最後の正解で評価する。最終的に正解に達しなかった質問項目については、回答締切のあと解説を行い全員の理解を促す。また、正解した学生による解説を通じてクラス全体で協力的な学びに役立てる。</p> <p>●成績評価の共有と活用 クラス全体の成績評価の平均的な傾向や特徴は、成績モニター（Googleスプレッドシート上に匿名で可視化された数値やグラフ）でクラス全員が共有できる。学生個別の成績は、各自のPCやスマートフォンからスプレッドシート上の成績モニターで自由に確認することができる。他人の成績を閲覧することはできない。課題レポート作成の中間段階では、学生と組んで共有したScrapboxやスプレッドシートで、講師がコメントによる添削や作成の指導を行う。</p> <p>●授業の評価 30回の授業の中間と最終で、原則として2回、Googleフォームを利用した授業評価のための無記名によるアンケートを行う。評価項目は、「興味深い内容か?」「授業は有意義か?」「授業はわかりやすいか?」など10項目から構成され、自由記入の回答もある。これにより、授業の改善に役立てる。</p>
受講の心得	<p>日頃からネット上の情報に加え、図書、映画、音楽など各種の情報やコミュニケーションに接し、見て、聞いて、感じたことを文章に表現するクセを付けること。</p>
授業外学習	<p>1) 予習として、授業ページに目を通し、次の授業計画の関連事項を調べておくこと。 2) 復習として、学んだことを自分のScrapboxページにまとめること。 3) 発展学習として、授業で取り上げた事項の関連図書やサイトの情報をチェックすること。 以上の内容を、適当に4時間以上学習すること。</p>

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	市販の図書を利用したいゆえに教科書は使用しない。すべての講義内容は、すべての授業回に対応する形で、文章と図により授業Scrapboxに掲載されているので、講義ならびに予習・復習は授業ページで行うことを原則とする。授業ページは受講生に限り、PC、スマホ、タブレット等によりいつでも学内から閲覧することができる。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	システム開発会社の顧問を務めながら、現代社会とデジタルテクノロジーをテーマに、高校、大学、企業で講演を行っている。2016年頃から2019年の在社期間中は月平均1回として約50回、その後は企業の顧問として年平均3回として約12回、合計8年間で60回を超える講演を行なったものと推計する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	日常的な情報整理とコミュニケーションの道具として、各種のデジタルな道具や仕組みを利用してきた経験をもとに、学生とともにデジタル技術を活用しながら、近未来社会を生き抜くための学びの場を作り上げたい。本学での実務経験は2023年度末で3年である。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学士力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 2000年前の社会の包括的理解	アナログ時代は世界が直線化した完全な理解。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	2000年が世界の変節点であることが意識できない。
知識・理解	2. 2000年後の社会の包括的理解	デジタル時代は世界が指数変化する完全な理解。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	2000年が世界の変節点であることが意識できない。
知識・理解	3. PCの基礎的な仕組みの理解	回路の微細化が計算能力に直結した完全な理解。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	デジタルとは微細化された0と1であることが理解できない。
思考・問題解決能力	1. 的確な疑問の把握	自主的に的確な疑問を持つことができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	事象についての疑問を持つことができない。
思考・問題解決能力	2. 疑問を解く手段の獲得	疑問を解く十分な手段を持っている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	抱いた疑問を解く方法を知らない。
思考・問題解決能力	3. 理解したことの表現手法の獲得	自分で解いた疑問を独自の方法でわかりやすく表現する能力を有している。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	自分の思いを表現することがほとんどできない。
技能	1. PC操作の基本能力	ネットやAIから得た情報を文章やグラフ表現に自由に連携できる能力がある。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	PCの基本操作ができない。
技能	2. 表計算アプリの活用能力	標準的な関数の利用と、結果のグラフ表現が的確にできる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	表計算が使えない。
技能	3. プレゼンアプリの活用能力	上記1、2の結果をプレゼンアプリを使用して効果的なプレゼン資料にまとめることができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	プレゼンアプリが使えない。
態度	1. 授業に関心を持つ	講義に耳を傾け、的確な質問をすることができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	居眠りをすることが多い。
態度	2. 授業中に会話をしない	授業中に私語を交わすことが他人および講師の迷惑なことが理解できている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	しばしば私語やおしゃべりする。
態度	3. 欠席をしない	欠席・遅刻なしに授業に参加できる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	しばしば欠席や遅刻をする。

科目名	ICT概論Ⅱ		授業番号	LB103	サブタイトル				
教員	久保 博尚								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	<p>本科目では、コンピュータの原理と進化の過程を概観したうえで、コンピュータがどのように思考と生活の道具として進化し、活用されてきたかについて、具体例に触れながら広い視野で知識を深める。その学習のまとめとして、コンピュータ活用状況を自己評価するとともに、今後の活用拡大に向けた展望を描く。</p> <p>※ICT概論Ⅰと同様に、本講座を受講する際にはPCを持参のこと。</p>								
到達目標	<p>演習を通じてコンピュータの実態を知り、コンピュータを道具として活用するための意欲と見識を得ることを目指す。このことは、デジタルテクノロジーへの知識・理解を深め、＜思考・問題解決能力＞に不可欠な＜技能＞と＜態度＞を養うディプロマポリシーの理念にかなうものである。授業はインターネットを利用したワークショップとして構成されるため、社会と学びの連携を通じた実践教育の場として、カキユムポスターにも治すものである。</p>								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	現代のお金1：そもそもお金とは何か？ お金、貨幣、通貨、ビットコインを通観し、お金の不思議さを再認識した上で、初期のお金が誕生するプロセスを解説する。								
第2回	現代のお金2：お金と信用の不思議な関係 信用の印となった紙幣の石貨を題材に、お金が人間的な信用と密接に関係することを学ぶ。後半では石貨と番号通貨の類似性を解説する。								
第3回	現代のお金3：お金が生まれなかった島 お金なしに盛んに物品の交換が行われた事例として、「トロリアンド諸島のクラ交換」を取り上げる。島民が何を信用したかがこの講義のポイント。								
第4回	現代のお金4：お金と信用の未来を考える トロリアンド諸島に経済があってもお金がない理由を機札の役割を通じて考え、倫理と法がテクノロジーの未来を左右することを学ぶ。								
第5回	実習講座：二進数ってどんなもの？ 現代のテクノロジーがコンピュータの0と1から成り立つ理解の上で、二進数の仕組みを学ぶ。後半では、スプレッドシートで二進数の演習に取り組み。								
第6回	実習講座：コンピュータの付き合い方へ！ 0と1で計算、描画、音が表示できることを確認した上で、スプレッドシートにより二進数の計算と十進数への変換を課題とする演習を行う。								
第7回	現代のお金5：さまざまなデジタルなお金を概観する 暗号通貨ビットコインの誕生経緯と社会的な位置付けの概観を行う。その上で、中核技術ブロックチェーンの考え方や巧みなその仕組みを学ぶ。								
第8回	現代のお金6：各種のデジタルなお金の違い 具体例を交え、ビットコイン、クレジットカード、電子マネーの役割と仕組みの違いを学ぶ。お金の技術を知る実習としてGDPのグラフ化の課題を行う。								
第9回	現代のお金7：進化するデジタルなお金 企業や国家が取り組むデジタル通貨開発の実態と課題点を取り上げる。後半では、実習講座「GDPと平均年収の相関」に取り掛かる。								
第10回	現代のお金8：スマートコントラクトとは何か？ ブロックチェーンの応用技術スマートコントラクトの概要を解説する。後半では、実習講座の続編として関数を利用した相関グラフの作成を行う。								
第11回	スマート社会1：身近になったスマート家電 教室と講師の自宅を基盤に、スマート家電の実際を紹介した後、教室で特徴的なIoT家電のクワカに触れながらスマート家電を実感的に理解する。								
第12回	スマート社会2：共通基盤としてのインターネット (1/2) 社会の共通基盤となったインターネット誕生の経緯と情報が伝わる仕組みを概観する。合わせてWebページが開く仕組みを比較的に詳しく解説する。								
第13回	スマート社会3：共通基盤としてのインターネット (2/2) これまでの学習をさらにPOSやRFID、モバヤットのIoTへと視点を広げ、指数的に増加する情報量と、生まれる情報の性質の違いを学ぶ。								
第14回	スマート社会4：要素技術「IoT」とは何か？ スマート化とは、「人間+機械」による社会の混沌を解消する取り組みであるべきとの視点から、幸福のためのIoTのあり方を考える。								
第15回	スマート社会5：要素技術「ビッグデータ」とは何か？ ビッグデータの「ビッグ」とはどのような量が、なぜ、どのようにビッグになったのかを考える。ビッグを体感する具体的な実習によりビッグの特徴を学ぶ。								

第16回	理解度計測1: Googleフォームによる後期授業理解度の計測 200質問項目により授業理解度を計測する。回答は自動で集計・分析が行われ、学生が自由に正解状況を確認できるモニタリング環境を提供する。	
第17回	理解度計測2: Googleフォームによる後期授業理解度の計測 正解するには授業ページを読み込み、検索・理解・外部情報の調査が必要なことから、比較的高度な検索方法の解説により理解度向上を目指す。	
第18回	「理解度計測1」の結果と回答の解説 理解度計測の結果をモニタリング上の数値やグラフで学生と共有し、設問ごとの正解の解説を行う。その際に、より理解を深めるための参考書を紹介する。	
第19回	「理解度計測2」の結果と回答の解説 (1/3) 理解度計測の結果と解説の後半の説明に加入して、設問ごとに、正解した学生が正解を選んだ理由の解説を行い、クラス全体で協調して理解を深める。	
第20回	人工知能1: 人工知能の仕組みと現状を知る 人工知能の歴史、外界認識の方法、脳の仕組みとの関係についての講義を行う。視覚脳と文字系の関係など、脳科学の知見をわかりやすく取り上げる。	
第21回	人工知能2: 人工知能を使ってみる 人工知能の実用を理解するため、Google Teachable MachineとChatGPTにより、画像認識、音声認識、行動認識、文章会話を体験する。	
第22回	サブスクリプション1: サブスクリプションとは何か? Amazonプライム、衣料品のメチャカガを例に、サブスクリプションの本質が分割払いではなくインターネットによる顧客接点の拡張にあることを学ぶ。	
第23回	サブスクリプション2: サブスクを成功に導くテクノロジー サブスクにおける契約の本質理解を通して、日本式のお客さまは神さまだの意味と問題点を考える。実践的観点からヨナのKINTOを取り上げる。	
第24回	調査実習: 文化圏と経済の関係を探る (1/4) 最終課題「文化圏と経済の関係調査」に取り掛かる。合わせて、実習のイメージ、情報へのアクセス、CSVデータの扱い方などの講義を行う。	
第25回	調査実習: 文化圏と経済の関係を探る (2/4) 文化圏として国際共助の調査報告書を利用する。その際のデータ処理の方法、有効・無効データ、時間軸・地理軸のデータなどの解説を行う。	
第26回	調査実習: 文化圏と経済の関係を探る (3/4) 各自のScrapboxにより講師が課題の進捗を確認する。また、レポート執筆の中心概念が「共助・経済・テクノロジー」の三要素であることを説明する。	
第27回	調査実習: 文化圏と経済の関係を探る (4/4) ガイダンス資料「数値で考える経済と文化」により、課題レポート執筆の要所を説明する。特に文化圏ではハイ・ローコンテキストの重要性を学ぶ。	
第28回	インターネット広告1: 広告の歴史を概観する テクノロジーで様変わりした広告市場について、特にネット広告の歴史の進化とテクノロジーの影響とその実際についての講義を行う。	
第29回	インターネット広告2: 広告のテクノロジーと適性と安全性 ネット広告の要となるCookieの誕生経緯と現在の状況、ネット広告の品質と適正についての解説のあと、広告の成功例と失敗例を取り上げようを探る。	
第30回	後期授業の振り返り 後期全体の内容を振り返るとともに、課題全体の成績状況を共有する。最後に、授業評価のための自主アンケートと大学主催アンケートを実施する。	
授業計画 備考2		

評価の方法		
種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組み姿勢/態度	40	意欲的な受講態度、発表・討論への参加、授業内容関連の知識の習得状況によって評価する。
レポート	60	インターネット上の情報収集と表現手段についての知識が豊富であること。その利用方法を理解していること。それらを手段として、自らの意見が論理的にわかりやすく記されていること。

評価の方法：自由記載	<p>●成績評価の方法（授業計画 備考）のルーブリックを参照） 成績評価は、授業内で行う課題実習を通して行う。試験や論議は行わない。課題共通の評価項目は、「提出期限の遵守」「理解力（正確で明快）」「表現力（適正で整った表現）」「文章力（簡明でわかりやすい整った文章）」「授業態度（出席と態度）」である。ただし、課題それぞれの特性によってさらに詳細な評価項目が適用される。 ●理解度評価 授業期間中1〜2回、Googleスプレッドシートを利用したアンケート形式の理解度測定を行う。平均20問の質問項目は複数の選択肢に平均40%の正解が組み込まれている。生徒の回答は各自のスプレッドシート上のモニターに可視化され、回答ごとにスマイルなどにより、リアルタイムで正誤がわかるようになっている。正解率（選択肢に対する正解の割合）は40%程度のため、繰り返しチャレンジすることで正解に近づけることができる。この理解度測定の成績評価は、繰り返し回答した最後の正解数で評価する。最終的に正解に達しなかった質問項目については、回答締切のあと解説を行い全員の理解を促す。また、正解した学生による解説を通じてクラス全体で協力的な学びに役立てる。 ●成績評価の共有と活用 クラス全体の成績評価の平均的な傾向や特徴は、成績モニター（Googleスプレッドシート上に匿名で可視化された数値やグラフ）でクラス全員が共有できる。学生個々の成績は、各自のPCやスマートフォンからスプレッドシート上の成績モニターで自由に確認することができる。他人の成績を閲覧することはできない。課題レポート作成の中間段階では、学生と個々に共有したScrapboxやスプレッドシートで、講師がコメントによる添削や作成の指導を行う。 ●授業の評価 30回の授業の中間と最終で、原則として2回、Googleフォームを利用した授業評価のための無記名によるアンケートを行う。評価項目は、「興味深い内容か?」「授業は有意義か?」「授業はわかりやすいか?」など10項目から構成され、自由記入の回答もある。これにより、授業の改善に役立てる。</p>
受講の心得	ネット上の情報、図書、映画、音楽など各種の情報コミュニケーションに接し、見て、聞いて、感じたことを、デジタルな手段を用いて表現する習慣を日頃から身につけておく。
授業外学習	<p>1) 予習として、授業ページに目を通し、次の授業計画の関連事項を調べておくこと。 2) 復習として、学んだことを自分のScrapboxページにまとめること。 3) 発展学習として、授業で取り上げた事項の関連図書やサイトの情報をチェックすること。 以上の内容を、適当に4時間以上学習すること。</p>

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	市販の図書を利用したい場合は教科書は使用しない。すべての講義内容は、すべての授業回に対応する形で、文章と図により授業Scrapboxに掲載されているので、講義ならびに予習・復習は授業ページで行うことを原則とする。授業ページは受講生に限り、PC、スマホ、タブレット等によりいつでも学内から閲覧することができる。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	システム開発会社の顧問を務めながら、現代社会とデジタルテクノロジーをテーマに、高校、大学、企業で講演を行っている。2016年頃から2019年の在社期間中は月平均1回として約50回、その後は企業の顧問として年平均3回として約12回、合計8年間で60回を超える講演を行なったものと推計する。			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	日常的な情報整理とコミュニケーションの道具として、各種のデジタルな道具や仕組みを利用してきた経験をもとに、学生とともにデジタル技術を活用しながら、近未来社会を生き抜くための学びの場を作り上げたい。本学での業務経験は2023年度末で3年である。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. お金もICTも合理性と信用で成立することの理解。	お金、信用、デジタルの関係を十分理解している。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	石貨と信用の関係が理解できていない。
知識・理解	2. ネットとAIの基本的な仕組みの理解。	ネットの基本的な仕組みとAIの考え方の十分に理解している。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	ネットの仕組み、AIと脳の関係の基礎が理解できない。
知識・理解	3. コンピュータの演算の基礎についての理解。	二進数の基本的な仕組みを理解し基本的な演算ができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	二進数の演算ができない。
思考・問題解決能力	1. 的確な疑問の把握	自主的に的確な疑問を持つことができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	事象についての疑問を持つことができない。
思考・問題解決能力	2. 疑問を解く手段の獲得	疑問を解く十分な手段を持っている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	抱いた疑問を解く方法を知らない。
思考・問題解決能力	3. 理解したことの表現手法の獲得	自分で解いた疑問を独自の方法でわかりやすく表現する能力を有している。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	自分の思いを表現することがほとんどできない。
技能	1. PC操作の基本能力	ネットやAIから得た情報を文章やグラフ表現に自由に連携できる能力がある。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	PCの基本操作ができない。
技能	2. 表計算アプリの活用能力	標準的な関数の利用と、結果のグラフ表現が的確にできる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	表計算が使えない。
技能	3. プレゼンアプリの活用能力	上記1、2の結果をプレゼンアプリを使用して効果的なプレゼン資料にまとめることができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	プレゼンアプリが使えない。
態度	1. 授業に関心を持つ	講義に耳を傾け、的確な質問をすることができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	居眠りをすることが多い。
態度	2. 授業中に会話をしない	授業中に私語を交わすことが他人および講師の迷惑なことが理解できている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	しばしば私語やおしゃべりする。
態度	3. 欠席をしない	欠席・遅刻なしに授業に参加できる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	しばしば欠席や遅刻をする。

科目名	実践英語 I	授業番号	LB104	サブタイトル	
教員	アレグサ・ワグニ				
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期
				授業形態	演習
授業概要	<p>【授業概要】 In this course, students will continue to review and practice their basic, general English and to develop their English vocabulary and phrases to communicate in English. Students will also continue to develop their English speaking, listening, reading, and writing skills. To achieve this, students will participate in several simple projects in English.</p> <p>このコースでは、学生は引き続き基本的で一般的な英語を強化し、英語でコミュニケーションをとるための準備をします。学生はまた、おける英語のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングのスキルを高めます。これを達成するために、学生は英語でいくつかの簡単なプロジェクトに参加します。</p>				
到達目標	<p>【到達目標】 1. To know and be able to use basic, general English. 基本的な一般英語が使えるようになること。 2. This course will contribute to acquiring language knowledge, understanding and skills, thinking and problem-solving skills, and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy. なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>				
授業計画 備考	<p>【授業計画 備考】 The course uses printouts to review and practice basic English. Students then use that English to create original work. Finally, they present their original work at the end of each project.</p>				
回	概要			担当	
第1回	Course Introductions//Self Introductions				
第2回	Project 1 Let's get started Vocabulary				
第3回	Project 1 Let's get started				
第4回	Project 1 Let's get started				
第5回	Project 2 All about us Vocabulary				
第6回	Project 2 All about us				
第7回	Project 2 All about us				
第8回	Vocabulary Quiz #1				
第9回	Project 3 Come to a party! Vocabulary				
第10回	Project 3 Come to a party!				
第11回	Project 3 Come to a party!				
第12回	Project 4 Design a new outfit Vocabulary				
第13回	Project 4 Design a new outfit				
第14回	Project 4 Design a new outfit				
第15回	Vocabulary Quiz #2				

第16回	Project 5 A Class Quiz Vocabulary	
第17回	Project 5 A Class Quiz	
第18回	Project 5 A Class Quiz	
第19回	Project 6 A Famous person Vocabulary	
第20回	Project 6 A Famous person	
第21回	Project 6 A Famous person	
第22回	Vocabulary Quiz #3	
第23回	Project 7 The Crazy Olympics Vocabulary	
第24回	Project 7 The Crazy Olympics	
第25回	Project 7 The Crazy Olympics	
第26回	Project 8 My own restaurant Vocabulary	
第27回	Project 8 My own restaurant	
第28回	Project 8 My own restaurant	
第29回	Project 9 Where I live Vocabulary	
第30回	Vocabulary Quiz #4	
授業計画 備考2		

評価の方法		
種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	20	Active participation in English (英語を使っての授業への積極的参加)
レポート		
小テスト	40	Vocabulary tests (4x10%)
定期試験		
その他	40	Project show and tell (8x5%)

評価の方法：自由記載	The project will be a series of student-guided activities working to complete a project about working in a company.
受講の心得	This is a practical course. Students should use English as much as possible during the lesson to improve their knowledge of English and their English communication skills. Students must also finish projects on time.
授業外学習	Students should self-study each week using printings from class to review content.

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	Students must bring all their study materials (dictionary, textbook, workbook, notebook, worksheets, file, etc.) to every class.
-------------	--

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	Handouts, worksheets, workbook, YouTube videos, PowerPoint files, online resources, project materials, etc.
----------	---

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	無
担当教員の業務経験	
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. Understand the English (mainly vocabulary and grammar) needed to talk about animals, zoos and related work.	Understands all of the English needed to talk about animals, zoos and related work covered in the course.	Understands most of the English needed to talk about animals, zoos and related work covered in the course.	Understands some of the English needed to talk about animals, zoos and related work covered in the course.	Understands little of the English needed to talk about animals, zoos and related work covered in the course.	Understands none of the English needed to talk about animals, zoos and related work covered in the course.
知識・理解	2. Understand the content knowledge needed to talk about animals, zoos and related work.	Understands all of the content knowledge needed to talk about animals, zoos and related work.	Understands most of the content knowledge needed to talk about animals, zoos and related work.	Understands some of the content knowledge needed to talk about animals, zoos and related work.	Understands little of the content knowledge needed to talk about animals, zoos and related work.	Understands none of the content knowledge needed to talk about animals, zoos and related work.
知識・理解	3. Understand the English needed to give directions to and within Ikeda Zoo.	3. Understands all of the English needed to give directions to and within Ikeda Zoo.	3. Understands most of the English needed to give directions to and within Ikeda Zoo.	3. Understands some of the English needed to give directions to and within Ikeda Zoo.	3. Understands little of the English needed to give directions to and within Ikeda Zoo.	3. Understands none of the English needed to give directions to and within Ikeda Zoo.
思考・問題解決能力	1. Can identify ways in which a zoo's infrastructure and exhibits might be improved to encourage and support more foreign visitors.	Identifies deeply insightful, practical improvements which synthesise various information.	Identifies insightful, practical improvements which synthesise various information.	Identifies improvements that are practical but somewhat superficial or simplistic.	Identifies improvements, though these are not practical.	Cannot identify any improvements.
思考・問題解決能力	2. Can identify ways in which a zoo's social media and PR might be improved to encourage and support more foreign visitors.	Identifies deeply insightful, practical improvements which synthesise various information.	Identifies insightful, practical improvements which synthesise various information.	Identifies improvements that are practical but somewhat superficial or simplistic.	Identifies improvements, though these are not practical.	Cannot identify any improvements.
思考・問題解決能力	3. Can independently research information about their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo.	Can independently research information about their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo with little or no support.	Can independently research information about their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo with some support.	Can independently research information about their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo with substantial support.	Can independently research information about their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo but with severe difficulty.	Cannot independently research information about their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo.
技能	1. Can describe their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo in English.	Can describe their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo in English effectively and fluently.	Can describe their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo in English with few language errors which do not inhibit communication.	Can describe their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo in English with some language errors that sometimes inhibit communication.	Can describe their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo in English with many language errors that often inhibit communication.	Cannot describe their chosen animal and its exhibit at Ikeda Zoo in English at all.
技能	2. Can storyboard, script and record an individual 15-90 second video for upload to Instagram.	Can independently storyboard, script and record an individual 15-90 second video for upload to Instagram with little or no support.	Can storyboard, script and record an individual 15-90 second video for upload to Instagram with some support.	Can storyboard, script and record an individual 15-90 second video for upload to Instagram with substantial support.	Can storyboard, script and record an individual 15-90 second video for upload to Instagram but with severe difficulty.	Cannot storyboard, script and record an individual 15-90 second video for upload to Instagram.
技能	3. Can edit their video recording using an iPhone app or other software to create an individual 15-90 second video for upload to Instagram.	Can independently edit their video recording using an iPhone app or other software to create an individual 15-90 second video for upload to Instagram.	Can edit their video recording using an iPhone app or other software to create an individual 15-90 second video for upload to Instagram with some support.	Can edit their video recording using an iPhone app or other software to create an individual 15-90 second video for upload to Instagram with substantial support.	Can edit their video recording using an iPhone app or other software to create an individual 15-90 second video for upload to Instagram but with severe difficulty.	Cannot edit their video recording using an iPhone app or other software to create an individual 15-90 second video for upload to Instagram.
態度	1. Make effort during and beyond the lessons to attain the course goals.	Effort consistent throughout, both within and beyond the lessons to attain all course goals.	Effort during most of the course, both within and beyond the lessons to attain all course goals.	Effort made during some of the course, within and/or beyond the lessons to attain some of the course goals.	Makes only the minimum effort needed to attain some of the course goals.	Makes little or no effort to attain the course goals.

科目名	実践英語Ⅱ			授業番号	LB105	サブタイトル	
教員	森年 ポール						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習
必修・選択							必修
授業概要	<p>学生は引き続き基本的に英語英語を強化し、英語でコミュニケーション力毎日文脈をとることとて申します。学生はまた、おける英語のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングのスキルを高めます。これを達成するために、学生は 15 週間プロジェクトに英語で参加します。</p> <p>In this course, students will continue to develop their basic general English to communicate in daily life contexts, using speaking, listening, reading and writing skills. To achieve this, students will participate in a 15-week project in English.</p>						
到達目標	<p>1. 基本的な一般英語が使えるようになること。 To know and be able to use basic general English.</p> <p>2. なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度> の修得に貢献する。 This course will contribute to acquiring language knowledge, understanding and skills, thinking and problem-solving skills, and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy.</p>						
授業計画 備考	このコースでは、印刷物を使用して、基本英語英語の復習と練習を行います。生徒はその英語を使ってオリジナルのプロジェクト作品を作成します。最後に、学生はプロジェクトの最後にオリジナルのプロジェクト作品を発表します。 The course uses prints to review and practice basic English. Students then use that English to create original project work. Finally, they present their original project work at the end of the project.						
回	概要					担当	
第1回	自己紹介； 実践英語Ⅰプロジェクトと授業の復習； コース説明； なぜプロジェクトで英語を学ぶのですか？（レビュー）； PBLプロジェクト作業のルール Self-introductions; Review of Practical English I projects and vocabulary; Course explanation; Why learn English by projects? (Review); Rules for PBL project work						
第2回	Introduction to the 実践英語II project - The wheelchair-friendly guide Make project teams; Project planning graphic						
第3回	Guest speaker from the wheelchair community or teacher; Mobility and other Issues in wheelchair access; Parts of a wheelchair; Q&A						
第4回	Student experience using a wheelchair on campus; Wheelchair experience feedback questionnaire						
第5回	Wheelchair experience feedback questionnaire results and discussion; Vocabulary - Public buildings and places, Allocate areas of responsibility						
第6回	Make a business card and an ID card using your student card. Media coverage (Press release)						
第7回	Prepare a letter of introduction; Grammar - There is (not)... / There are (not)...						
第8回	Business self-introductions with business cards						
第9回	Start preparing your wheelchair access research survey						
第10回	Continue preparing your research survey						
第11回	Finish preparing your research survey; (Data collection starts.)						
第12回	Vocabulary - Floor numbers; Parts of a building; Dimensions and measurements						
第13回	Grammar - Prepositions of location (on, in, next to, between A and B, outside, to the left/right of)						
第14回	Grammar ? [have], [be] and [do]; Grammar ? If..., then...						
第15回	Vocabulary and grammar review activities						

第16回	Grammar and vocab test	
第17回	PC/DTP skills	
第18回	The Process Approach to Writing	
第19回	Plan the guidebook's contents: Contents, information, photos, translated questions, town map, index, etc. (Data collection ends.)	
第20回	Make the cover/title page and contents list.	
第21回	Use the plan to start writing the first draft.	
第22回	Continue writing the first draft.	
第23回	Add the photos, maps, etc.	
第24回	Check your guide's English and make corrections.	
第25回	Submit draft guidebook to check the English and design	
第26回	Return draft guidebook and make corrections	
第27回	Final corrections and improvements	
第28回	Presentation of the guidebook	
第29回	Submit wheelchair-friendly guidebook; Project evaluation; Course review; Student questionnaire	
第30回	Project evaluation results; Feedback on the wheel-chair friendly guidebook	
授業計画 備考2		

評価の方法		
種別	割合	評価基準・その他備考
英語での参加 Participation in English	20	Active participation in English (英語を使っている授業への積極的参加)
プロジェクトレポート Project report	20	学生は自分のプロジェクトとそこから学んだことを説明する短いレポートを英語で書きます。 Students write a short report in English to explain their project and what they learned from it.
小テスト Short test	10	語彙と文法のテスト Vocabulary and grammar test
プロジェクト結果 Project output	50	車椅子に優しいガイドブック Wheelchair-friendly guidebook.

評価の方法：自由記載	このプロジェクトは、プロジェクトタスクに対する独自の回答を作成するための、学生が対イ、教師がサポートするアクティビティのセットです。 The project is a set of student-guided, teacher-supported activities to create your own original answer to the project task.
受講の心得	これは実践講座ですと生徒は協力して各プロジェクトを完成させます。学生は、英語の知識と英語のコミュニケーション能力を向上させるために、レッスン中に行われる英語を使用する必要があります。また、学生は時間通りにプロジェクトを終了する必要があります。 This is a practical course and students must work collaboratively. Students should use English as much as possible during the lesson to improve their knowledge of English and their English communication skills. Students must also finish their projects on time.
授業外学習	幅広い対応ガイドブックのデータを収集するために、生徒は週に6時間ぐらい自習する必要があります。 Students should self-study for approximately six hours a week to collect data for the wheelchair-friendly guidebook.

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

生徒はすべての学習教材（プロジェクトの課題、辞書、ワークブック、ノート、ワークシート、ファイルなど）をすべてのクラスに持参する必要があります。
Students must bring all their study materials (project work, dictionary, workbook, notebook, worksheets, files, etc.) to every class.

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

プリント、ワークシート、YouTubeビデオ、PowerPointファイル、オンラインリソース、プロジェクト資料など。
Handouts, worksheets, YouTube videos, PowerPoint files, online resources, project materials, etc.

その他

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無

担当教員の業務経験

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験をいかした教育内容

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 動物、動物園、および関連する仕事について話すために必要な英語（主に語彙と文法）を理解します。	コースで取り上げられる動物、動物園、および関連する仕事について話すのに必要な英語をすべて理解しています。	コースで取り上げられる動物、動物園、および関連する仕事について話すのに必要な英語のほとんどを理解します。	コースで取り上げられる動物、動物園、および関連する仕事について話すのに必要な英語の一部を理解します。	コースで取り上げられる動物、動物園、および関連する仕事について話すのに必要な英語はほとんど理解できません。	コースで取り上げられる動物、動物園、および関連する仕事について話すのに必要な英語はまったく理解できません。
知識・理解	2. 動物、動物園、および関連する仕事について話すために必要な内容の知識を理解します。	動物、動物園、および関連する仕事について話すために必要な内容の知識をすべて理解しています。	動物、動物園、および関連する仕事について話すために必要な内容の知識のほとんどを理解しています。	動物、動物園、および関連する仕事について話すために必要な内容の知識の一部を理解します。	動物、動物園、および関連する仕事について話すために必要な内容の知識はほとんど理解していません。	動物、動物園、および関連する仕事について話すために必要な内容の知識がまったく理解できません。
知識・理解	3. 池田動物園への行き方や園内の案内に必要な英語を理解する。	池田動物園への行き方や園内の案内に必要な英語をすべて理解できる。	池田動物園への行き方や園内の案内に必要な英語のほとんどを理解できる。	池田動物園への行き方や園内の案内に必要な英語をある程度理解する。	池田動物園への行き方や園内の案内に必要な英語はほとんど理解できません。	池田動物園への行き方や園内の案内に必要な英語は全く理解できません。
思考・問題解決能力	1. より多くの外国人訪問者を奨励しサポートするために、動物園のインフラと展示物を改善する方法を特定できる。	さまざまな情報を総合して、深い洞察に満ちた実践的な改善点を特定します。	さまざまな情報を総合して、洞察力に富んだ実践的な改善点を特定します。	実用的ではあるものの、やや表面的または単純すぎる改善点を特定します。	実用的ではありませんが、改善点を特定します。	改善点は確認できません。
思考・問題解決能力	2. より多くの外国人訪問者を奨励しサポートするために、動物園のソーシャルメディアとPRを改善する方法を特定できる。	さまざまな情報を総合して、深い洞察に満ちた実践的な改善点を特定します。	さまざまな情報を総合して、洞察力に富んだ実践的な改善点を特定します。	実用的ではあるものの、やや表面的または単純すぎる改善点を特定します。	実用的ではありませんが、改善点を特定します。	改善点は確認できません。
思考・問題解決能力	3. 選んだ動物とその展示品に関する池田動物園の情報を自主的に調べることができる。	ほとんどまたはまったくサポートを受けずに、自分が選んだ動物とその池田動物園での展示に関する情報を独自に調査できる。	ある程度のサポートを受けて、自分が選んだ動物とその池田動物園での展示に関する情報を自主的に調査できる。	充実したサポートを受けて、選んだ動物とその展示品に関する池田動物園の情報を独自に調べることができるが、非常に困難である。	選んだ動物とその展示品に関する池田動物園の情報を独自に調べることができません。	選んだ動物やその展示品に関する池田動物園の情報を独自に調べることができません。
技能	1. 池田動物園で選んだ動物とその展示品について英語で説明できる。	選んだ動物と池田動物園の展示品について効果的かつ流暢に英語で説明できる。	選択した動物とその池田動物園での展示品について、コミュニケーションに支障をきたさない程度の言語ミスをほとんど伴わずに英語で説明できる。	選択した動物とその池田動物園での展示品について英語で説明できるが、言語上の誤りがあり、場合によってはコミュニケーションが妨げられることがある。	選んだ動物とその池田動物園での展示品について英語で説明できるが、言葉の間違いが多く、コミュニケーションが妨げられることが多い。	池田動物園で選んだ動物とその展示品について英語で全く説明できません。
技能	2. Instagram にアップロードするために、ストーリーボード、スクリプトを作成し、15 ~ 90 秒のビデオを個別に録画できます。	ほとんどまたはまったくサポートを受けずに、Instagram にアップロードするための個別の 15 ~ 90 秒のビデオを独自にストーリーボード、スクリプト、および録画できます。	いくつかのサポートがあれば、ストーリーボード、スクリプト、および Instagram にアップロードするための個別の 15 ~ 90 秒のビデオを録画できます。	充実したサポートにより、Instagram にアップロードするための 15 ~ 90 秒の個別のビデオをストーリーボード、スクリプト、録画できます。	Instagram にアップロードするために、ストーリーボード、スクリプト、および個別の 15 ~ 90 秒のビデオを録画できますが、非常に困難です。	Instagram にアップロードするための 15 ~ 90 秒のビデオを個別にストーリーボード、スクリプト、および録画することはできません。
技能	3. iPhone アプリまたはその他のソフトウェアを使用してビデオ録画を編集し、Instagram にアップロードするための個別の 15 ~ 90 秒のビデオを作成できます。	iPhone アプリまたはその他のソフトウェアを使用してビデオ録画を個別に編集し、Instagram にアップロードするための個別の 15 ~ 90 秒のビデオを作成できます。	iPhone アプリまたはその他のソフトウェアを使用してビデオ録画を編集し、Instagram にアップロードするための 15 ~ 90 秒の個別のビデオを作成できます（一部のサポートあり）。	iPhone アプリまたはその他のソフトウェアを使用してビデオ録画を編集し、充実したサポートを受けながら、Instagram にアップロードするための 15 ~ 90 秒の個別のビデオを作成できます。	iPhone アプリまたはその他のソフトウェアを使用してビデオ録画を編集し、Instagram にアップロードするための 15 ~ 90 秒の個別のビデオを作成できますが、非常に困難です。	iPhone アプリやその他のソフトウェアを使用してビデオ録画を編集し、Instagram にアップロードするための 15 ~ 90 秒の個別のビデオを作成することはできません。
態度	1. コースの目標を達成するために、レッスン中およびレッスン後も努力します。	コースのすべての目標を達成するために、レッスン内外で一貫した努力を続けます。	コースのほとんどの期間、レッスン内外で、コースのすべての目標を達成するために努力します。	コースの一部の目標を達成するために、レッスン中および/またはレッスンを越えて、コースの一部で行われた努力。	コース目標の一部を達成するために必要な最小限の努力のみを行います。	コースの目標を達成するためにほとんど、またはまったく努力しません。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	導入ゼミナール1	授業番号	LC101	サブタイトル	(学問の方法)
教員	中安 暲、宋 煥沃、佐々木 公之、岡本 輝彦、森年 ポール、ゲルシー マグミ、大宮 めぐみ、梶西 将司				
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期
				授業形態	演習
					必修・選択
					必修
授業概要	導入ゼミでは、大学生として最低限必要なアカデミックスキルを身につける。高校と大学とは、学生に課される課題が大きく異なる。例えば、多くの学生は、レポートを書いた経験が無いと思われるが、大学の大体の授業ではレポートを書くスキルが求められ、それに伴い資料の収集や、限られた時間で集めた資料を読むことが必須となる。しかも、それらを自主的に進めて行くことが求められる。そのため、本セミナーでは、主にレポート作成の課題をどう進めればよいのか、順序立てて指導していく。				
到達目標	本セミナーでは、大学生として必要な学ぶ姿勢や情報の活用など、大学での学修を充実したものとしていくための基礎作りを行う。大学生としての基礎を確実に習熟していくことが目標となる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。				
授業計画 備考	①アカデミックスキルを基本テキストにして、高校までの学びと大学での研究の違いについて学ぶ。 ②演習後半ではレポート作成に取り組み、レポートを実際に書くことで論文の書き方について学ぶ。 ③ビジネスに関する英文を読み解く。				
回	概要			担当	
第1回	本演習の目的や概要の説明				
第2回	アカデミックスキルとは ビジネスに関する英文の暗唱				
第3回	講義を聴いてノートを取るアカデミックスキルとは ビジネスに関する英文の暗唱				
第4回	情報収集の基礎-図書館とデータベースの使い方 ビジネスに関する英文の暗唱				
第5回	本を読む-クリティカルリーディングの手法 ビジネスに関する英文の暗唱				
第6回	情報整理 ビジネスに関する英文の暗唱				
第7回	研究成果の発表 ビジネスに関する英文の暗唱				
第8回	プレゼンテーションのやり方 ビジネスに関する英文の暗唱				
第9回	論文-レポートをまとめる ビジネスに関する英文の暗唱				
第10回	書式の手引き ビジネスに関する英文の暗唱コンテスト				
第11回	レポート課題設定				
第12回	レポート作成				
第13回	レポート作成				
第14回	レポート作成				
第15回	レポート発表と提出				
授業計画 備考2	①アカデミックスキルを軸とし理解を深める。 ②図書館利用エッセンス、慣らし時間を含む。 ③レポートの課題を設定する。 ④レポートは最終日に提出とプレゼンテーションをする。				
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	40	毎回の講義の取組態度を評価する。		
	レポート	40	課題意識、取組態度を評価する。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他	20	課題プレゼン発表をとおして、取組態度、理解度、表現力を評価する。		

2024年度授業概要(シラバス)

評価の方法：自由記載	・演習なので全員の積極的参加を求める。 ・英文の範囲については授業外でもしっかり時間をかけて取り組むことを求める。 レポートについては自身が一番関心の高いテーマを選び自主的に取り組むことを求める。 レポートは最終日に提出とプレゼンテーションを求める。
受講の心得	課題は提出期限までに提出し、積極的に各授業に参加すること。
授業外学修	復習、課題、プレゼン準備等のために適当に4時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	・日経新聞を毎日読むこと ・英文の経済誌（紙）を読むこと https://www.nikkei.com/ https://www.ft.com/ https://www.economist.com/ https://www.wsj.com/			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の实務経験	高校教諭(歴代昇丈)、企業経営コンサルタント(佐々木公之)			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高校教員および企業経営コンサルタントの経験を活かした問題解決型の教育を行う。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づき評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. テキストの講義を通して、アカデミック・スキルの理解とブックレビューを行える。	テキストの講義を通して、アカデミック・スキルズを十分に理解できており、ブックレビューも高く評価できる。	テキストの講義を通して、アカデミック・スキルズを理解できているが、ブックレビューが不十分である。	アカデミック・スキルズの理解が不十分であり、ブックレビューの評価が低いものとなった。	テキスト講義を通じたアカデミック・スキルズの理解が不十分であり、ブックレビューの評価が低いものとなった。	テキスト講義をしたが、ブックレビューができていない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	導入ゼミナールⅡ		授業番号	LC102	サブタイトル	(学問の方法)				
教員	中安 章、宋 勉、佐々木 公之、岡本 輝彦、森年 ボール、ケリッラ マグミ、大宮 めぐみ、梶西 将司									
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
授業概要	導入ゼミでは、導入ゼミで学んだ知識を基礎として、実践的に資料収集やレポート執筆を行うことで、その際生じる学生の質問に答えしていく形式をとる。学生同士がお互いに助け合いながら協働的に課題に取り組むことで、学生間の対話の中から一人では気づかなかった視点や、問題への気づきを促す。									
到達目標	情報収集・情報整理の方法、文献の読み方、レポートの書き方、文献引用のしかた、剽窃防止などについて実践的に学び、大学生として必要なアカデミックスキルを身につけることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。									
授業計画 備考										
回	概要					担当				
第1回	本演習の目的と概要、									
第2回	P B Lの設定、									
第3回	ディスカッション									
第4回	ディスカッション									
第5回	ディスカッション									
第6回	中間発表									
第7回	ディスカッション									
第8回	ディスカッション									
第9回	ディスカッション									
第10回	ディスカッション									
第11回	P B L最終発表									
第12回	PBL英語スピーチ練習チェック									
第13回	PBL英語スピーチ練習									
第14回	PBL英語スピーチ練習									
第15回	PBL英語スピーチ発表									
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
	授業への取り組みの姿勢/態度	40	毎回の講義の取組態度を評価する。							
	レポート	40	課題意識、取組態度を評価する。							
	小テスト									
	定期試験									
	その他	20	課題プレゼン発表をとおして、取組態度、理解度、表現力を評価する。							

評価の方法：自由記載	・演習への積極的参加を評価する。 ・レポートの内容とプレゼンテーションを評価する。
受講の心得	課題を提出期限までに提出し、積極的に授業に参加すること。調べた文献を討議することが求められるため、よく文献を読み込んでおくことが求められる。レポートは書き直し作業が重要となるため、教員や学生からのフィードバックを活用して書き直すこと。
授業外学修	予習・復習、課題の作成等のために、週当たり4時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	適宜資料を配布する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	・日経新聞を毎日読むこと ・経済誌（紙）を毎日読むこと https://www.nikkei.com/ https://www.ft.com/ https://www.economist.com/ https://www.wsj.com/			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	高校教諭(専任昇任)、企業経営コンサルタント(佐々木公之)			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験もいかした教育内容	高校教員および企業経営コンサルタントの経験を活かした問題解決型の教育を行う。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. PBL(課題設定解決型学習)で魅力的なプレゼンテーションを行っている。	グループで設定した課題に対して、調査、討論が十分に行われており、魅力的なプレゼンテーションを行っている。	グループで設定した課題に対して、調査、討論は十分に行われているが、魅力的なプレゼンテーションを行っていない。	グループで設定した課題に対して、調査、討論は十分に行われているが、プレゼンテーションの評価が低い。	グループで設定した課題に対して、調査、討論が十分に行われていないため、プレゼンテーションの評価は極めて低い。	課題に対する取り組みが十分に行われていない。プレゼンテーションができなかった。
思考・問題解決能力	2. 発表したPBLの成果を英語で表現することもできる。	英語での表現、プレゼンテーションが極めて優秀であった。	英語での表現、プレゼンテーションともに優秀であった。	英語での表現、プレゼンテーションは少し劣るが、伝えようとする意思は強い。	英語での表現、プレゼンテーションは全般的に劣っている。	英語での表現、プレゼンテーションができなかった。

科目名	マクロ経済学入門			授業番号	LC103	サブタイトル	
教員	藤原 敦志						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義
						必修・選択	必修
授業概要	マクロ経済学は経済全体の状態を表した指標であるGDPや物価、賃金、失業率、金利、為替レート、貿易収支などの動きを説明するための総合的な学問だ。経済全体の動きを理解するため、マクロ経済学は経済のモデル(観型)を作り、そのモデルを使っていろいろな実験を行う。例えば、そのモデルにさまざまなショックを与えて、上で述べた指標がどのように動くかを観察するのだ。例えば中央銀行が金融政策を変更すると、GDPや物価にどんな影響が出るのか、などに、モデルは調べたい事柄に応じていろいろなタイプのものを作ることができる。例えば、短期的な効果を見たいのか、長期的な効果を見たいのか、国内経済への影響を見たいのか、国際的な影響まで見たいのかなど。この授業では、そのようなマクロ経済学のモデルを使って、特に長期的な分析ができるようになることを目標に学んでいく。						
到達目標	マクロ経済学の基本を習得し、経済の長期的なメカニズムを理解できるようにする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
授業計画 備考	毎回、プリントを用意し、そこに書き込む形にする。教員が学生を順番に当てて、質問に答えてもらったり、前に出て問題を解いてもらったりする。また毎回、練習問題を最後に配布し、次回までに解いて提出する。						
回	概要					担当	
第1回	科学としてのマクロ経済学 マクロ経済学者は何を研究するのか、経済学者はどのように考えるのか、そしてこの授業の構成について説明する。						
第2回	マクロ経済学のデータ (1) 経済活動の価値を測定する国内総生産について説明する。また実質GDPと名目GDPの違いや支出の構成要素について説明する。						
第3回	マクロ経済学のデータ (2) 生計費を測定する消費者物価指数と失業者の割合を測定する失業率について説明する。						
第4回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか (1) 財・サービスの総生産を決めるのは何か、そこから得られる国民所得はどのように分配されるのか、また財・サービスの需要を決めるのは何かについて説明する。						
第5回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか (2) 財・サービスの需要と供給を均衡させるものは何かについて説明する。						
第6回	貨幣システム：どのようなものでどのように機能するか (1) 貨幣とは何かや、貨幣システムにおける銀行の役割について説明する。						
第7回	貨幣システム：どのようなものでどのように機能するか (2) 中央銀行がマネースタブライにどのような形で影響を与えるのかを説明する。						
第8回	インフレーション：原因と影響と社会的コスト (1) 貨幣数量説という考え方で、貨幣を発行するに特有に伴う収入、インフレーションが利子率にどのような影響を与えるのかについて説明する。						
第9回	インフレーション：原因と影響と社会的コスト (2) 貨幣需要という概念と名目利子率が貨幣需要にどのような影響を与えるか、またハイパーインフレーションについて説明する。						
第10回	開放経済 (1) 資本と財の国際的な流れについて説明する。						
第11回	開放経済 (2) 小国開放経済モデルについて説明する。						
第12回	開放経済 (3) 為替レートについて説明する。						
第13回	失業と労働市場 (1) 離職、就職と自然失業率について説明する。また離職と摩擦的失業について説明する。						
第14回	失業と労働市場 (2) 最低賃金、労働組合、効率賃金について説明する。						
第15回	失業と労働市場 (3) アメリカとヨーロッパの労働市場の経験について説明する。						
授業計画 備考2	授業で分からなかったところはメールなどで質問を受け付ける。練習問題の解答はできるだけ速やかに公表する。						
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	教員の問いに対して答える積極性や成長性を見る。				
	レポート	30	練習問題として毎回の授業の内容の復習への取り組みを評価する。				
	小テスト						
	定期試験	50	最終的な理解度を評価する。				
	その他						

評価の方法：自由記載	定期試験は、毎回の練習問題と同じかやや応用力を試す問題にする予定である。
受講の心得	間違えてもいので、積極的に質問し、自分の中で疑問点をすくすく解消しておくこと。
授業外学修	週3時間ぐらいの復習が必要である。プリントを見返して練習問題を解く。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載 テキストは使用しないで、教員が参考書の前半部分を基にして書き込み式の教材を作成し、毎回、その日にやる分を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載 『マンキュー・マクロ経済学Ⅰ・入門編（第5版）』JIN・グレイリー・マンキュー（著）足立英之・地主敬樹・中谷武・柳川隆（訳）東洋経済新報社、2024年、4400円（税込）
授業の予習・復習に力を入れたり、マクロ経済学を本格的に学んだらしたい学生には購入することを薦める。

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	無
担当教員の業務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. マクロ経済データを理解できる	データの不備を理解している	自分で作成できる	はっきりと意味することを説明できない	何となく意味するところが分かる	全く意味が分からない
知識・理解	2. 各市場の機能を説明できる	すべての市場のリンクが分かる	ある市場と別の市場のリンクが分かる	すべての市場が分かる	1〜2個の市場は分かる	1つの市場も分からない
知識・理解	3. 閉鎖経済と開放経済の違いが分かる	金融政策の効果の違いを説明できる	財政政策の効果の違いを説明できる	金融市場の違いを説明できる	財・サービス市場の違いを説明できる	全く区別できない
思考・問題解決能力	1. 経済問題に応じたモデルを提示できる	全ての経済問題に応じたモデルを提示できる	3つの経済問題に応じたモデルを提示できる	2つの経済問題に応じたモデルを提示できる	1つの経済問題に応じたモデルを提示できる	全く提示できない

科目名	ミクロ経済学入門		授業番号	LC104	サブタイトル				
教員	山中 匡								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	経済の基本的な動きを、需要と供給、価格、均衡、市場競争などをキーワードに講義する。								
到達目標	ミクロ経済学の基本を習得し、世の中の動きをメカニズムとして理解できるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>・<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	ミクロ経済学とは何か？ ミクロ経済学とマクロ経済学の違い、「機会費用」「限界的な変化」などの専門用語を理解する。								
第2回	個人の選択と効用最大化 個人の効用最大化行動のもと、所得や価格の変化が消費に与える影響を理解する。								
第3回	需要曲線 需要曲線の意味と需要曲線がシフトする要因について理解する。								
第4回	企業行動と利潤最大化 完全競争市場の定義と企業の価格決定メカニズムについて理解する。								
第5回	供給曲線 供給曲線の意味と供給曲線がシフトする要因について理解する。								
第6回	市場均衡と効率性 「消費者余剰」「生産者余剰」「死荷重」の意味を理解する。								
第7回	完全競争市場への政府介入 最低賃金が労働市場に与える影響と課税が総余剰に与える影響について理解する。								
第8回	前半部分(第1～7回)のまとめ 前半部分の演習問題を解くことで、知識や理解を深める。								
第9回	独占市場 独占企業の利潤最大化行動と独占が総余剰に与える影響について理解する。								
第10回	外部性 「正の外部性」「負の外部性」の意味と具体例について理解する。								
第11回	公共財 公共財の意味と性質、「フリーライダー」など公共財に関連する問題について理解する。								
第12回	情報の非対称 情報の非対称によって生じる「逆選択」「モラルハザード」の意味と具体例について理解する。								
第13回	ゲーム理論_1 ナッシュ均衡の意味とその求め方について理解する。								
第14回	ゲーム理論_2 混合戦略を用いたときのナッシュ均衡の求め方について理解する。								
第15回	後半部分(第9～14回)のまとめ 後半部分の演習問題を解くことで、知識や理解を深める。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	グループワークを行い、その貢献度（議論への参加姿勢、報告内容等）を総合的に評価する。						
	レポート	20	与えられた問題に対して自らの主張や意見を明確に述べていること。 レポート提出後の授業で、全体的な傾向や改善点についてコメントする。						
	小テスト								
	定期試験	50	講義内容についての最終的な理解度を評価する。						
	その他								

評価の方法：自由記載	講義内容の理解を深めるために、5-6名程度のグループワークを時折実施し、その貢献度も成績評価の主要要素として扱います。
受講の心得	新聞、テレビ、インターネット等で報じられている世の中の経済ニュースに関心を持ち、この授業の内容を使って、経済学的視点から分析してみる習慣をつけましょう。
授業外学習	毎週授業前後に2~3時間程度の自主学習（予習・復習、新聞等での経済ニュースの確認）を行ってください。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

指定なし

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

初學者向けには、下記がおススメですが、ミクロ経済学のテキストはたくさんありますので、図書館等で自分に合うテキストを探して、自主学習に活用してください。 清野一治「シリーズ 新エコノミクス ミクロ経済学入門」日本評論社 2, 200円+税 安藤至大「ミクロ経済学の第一歩」有斐閣 2, 000円+税
--

その他

--

備考

--

注意事項

--

担当教員の実務経験の有無

無

担当教員の実務経験

--

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる実務経験者

--

実務経験をいかした教育内容

--

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. ミクロ経済学の基本的な内容を理解している。	学修したミクロ経済学に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学修したミクロ経済学に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べるができる。	学修したミクロ経済学に関する知識について、大体述べるができる。	学修したミクロ経済学に関する知識について、正確ではないが、自分の言葉では表現できる。	学修したミクロ経済学に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	2. 現実の経済政策を経済学の理論モデルに基づいて理解している。	現実の経済政策を経済学の理論モデルに基づいて正確に説明できる。	現実の経済政策を経済学の理論モデルに基づいて正確ではないが、ほぼ理解し説明することができる。	現実の経済政策を自分の言葉で説明することができる。	現実の経済政策を正確ではないが、自分の言葉では表現できる。	現実の経済政策について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	1. ミクロ経済学の演習問題を解くことができる。	演習問題を8割以上正しく解くことができる。	演習問題を7割程度正しく解くことができる。	演習問題を6割程度正しく解くことができる。	演習問題を5割程度正しく解くことができる。	演習問題の正答が5割を下回る。
態度	1. 議論に積極的に参加できる。	与えられた議題の論点を理解し、自分の主張の根拠を論理的に説明できる。	与えられた議題の論点を理解し、積極的に意見を述べるができる。	与えられた議題の論点を理解し、少なくとも1つの意見を述べるができる。	与えられた議題の論点は正確に理解できていないが、意見を述べるができる。	議論に参加していない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	マーケティング入門			授業番号	LC105	サブタイトル	
教員	宋 煥沃						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義
							必修・選択
必修							
授業概要	マーケティングは時代とともに変遷し、単に商品やサービスを販売する段階を超え、マーケティングの考え方や手法が顧客満足によって利益を得る段階になっている。マーケティングの発想は市場のニーズの広がり、技術シーズの広がりから開発接点を模索し、いかにして競争優位を獲得するにかかっている。今日においてはグローバル化、デジタル化、ネットビジネスにより一層競争が激化している中、マーケティングの技法も大きく変化している。本講義では、前半で最も基礎的なマーケティングの理論を明らかにする。後半では、実際の企業のマーケティング戦略の実態を事例から考察する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> -マーケティングに関する基礎知識を修得できる。 -企業のブランドや商品が市場で消費者の手に届くまでのプロセスが理解できる。 -実際の企業のマーケティング戦略を学ぶことにより、実務的な学習能力を増進することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	マーケティングとは マーケティングの定義、マーケティング戦略の全体像、顧客						
第2回	マーケティングミックス マーケティングの製品、本質サービス、プレイス、流通チャネル						
第3回	マーケティングミックス (2) プロモーション、広報活動、インターネット取引の広報活動、プライス、需要の価格弾力性						
第4回	ターゲット市場の選定 セグメンテーションの定義、セグメンテーションの基準、ターゲットセグメントの波及効果						
第5回	プロダクト・ライフサイクル 導入期、市場拡大、ネットワークの外部性、成長期、ブランド選好の獲得						
第6回	プロダクト・ライフサイクル (2) 成熟期、ブランドロイヤリティ、市場規模、衰退期、コモディティ化、需要減退						
第7回	市場地位別のマーケティング戦略 市場競争、リーダー、チャレンジャー、トップシリア、生産コスト、採用者カテゴリー、攻撃的チャレンジャー						
第8回	インターネット時代のマーケティング戦略 ロングテール、ネットワークの外部性、プラットフォーム、ICT技術の進歩						
第9回	インターネット時代のブランド戦略 ブランドの機能、ブランドと交換、消費者行動と顧客対応						
第10回	ブランド構築のマネジメント パブリック・リレーションズ、ブランドの効果、ブランド・エクイティ、ブランド・パワー						
第11回	業界の構造分析 競争要因、外部環境、競争業者、固定費・在庫費用、差別化						
第12回	全社戦略 成長機会、市場成長率、市場シェア、PPM、事業単位、戦略経営						
第13回	事業ドメインとは 事業の定義、戦略的思考、企業の生存領域、顧客グループ、顧客ニーズ						
第14回	ネットビジネス アマゾン、マーケットプレイス、クラウドサービス、プラットフォーム						
第15回	デジタルマーケティングの進化 SWOT分析、PEST分析、消費者購買行動、オムニチャネル、ターゲット消費者						
授業計画 備考2							
評価の方法							
種別	割合	評価基準・その態備考					
授業への取り組みの姿勢や態度	20	講義への意欲や質問、キーワードの理解度、出席率を評価する。					
レポート	30	企業の商品や市場での動向を調べ、マーケティングの実態をまとめる。その内容のコメントを返却する。					
小テスト	50	キーワードの理解度、授業全体の理解度を評価する。					

評価の方法：自由記載	
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> ・関心ある商品やサービス、消費に関する新聞や雑誌などに目をおいて、問題意識をもって出席すること。 ・授業の進捗は、変更することがある。
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読むこと。 ・復習は授業と関連する資料を配布し、その内容のまとめを作成すること。 以上の内容を適当に4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
わかりやすいマーケティング戦略	沼上 幹	有斐閣	978-4-641-22219-9	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	<ul style="list-style-type: none"> ・石井淳哉・廣田登光編著「1からのマーケティング 第3版」中央経済社、2009年。 ・牧田幸祐『デジタル・マーケティングの教科書』東洋経済新報社、2017年。 ・田中洋行『ブランド戦略 ケーススタディ2.0』同文館出版、2021年。 			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 企業のマーケティングの必要性を理解している	企業だけでなく、生活の上でもマーケティングが影響していることを理解できる	企業にとって、マーケティング活動とは何かを理解している	基本的なマーケティング戦略の必要性を理解している	基礎のマーケティングは理解できているが、具体的な内容が十分に理解できていない	マーケティング入門の科目を理解していない
知識・理解	2. 私たちの生活の中で企業の役割や関わりを理解している	企業がどのようにして財・サービスを市場に流通させているのかを十分に理解できている	洞察力を持って企業の具体的な戦略のプロセスが把握できる	企業の組織構造や社員の行動によって製品の購買力が変化していることが把握できる	具体的な企業形態や組織の理解できていない	マーケティングの概念や言葉の意味が理解できていない
知識・理解	3. 戦略の違いによって企業の収益、ブランド力が高まることを把握できる	日本企業や外国企業とのマーケティング戦略の違いをわかる	海外企業の事例から日本企業との差異をほぼ理解している	マーケティング入門の基礎的知識が修得できる	マーケティング戦略の内容や各テーマが理解できていない	内容の理解や文章のまとめができていない
思考・問題解決能力	1. 今日の経済社会において消費すること、売り手の企業の役割を理解している	企業で起こっている諸問題に対する対応策が考えられる	日本企業の問題点を抽出し、まとめることができる	企業が抱えている問題点を理解している	不十分ながら企業の活動を考えようとしている	企業が商品を販売するための戦略を理解することができない
思考・問題解決能力	2. 今日の企業の差別化戦略を理解している	企業や社会の諸問題に対しコメントができる	企業で起こっている問題の本質を自分で把握できる	今日の日本企業と海外企業との競争の根拠性が理解できる	企業の事業活動があまり理解できていない	なぜ企業でそのような問題が起こっているのかが理解できていない
思考・問題解決能力	3. 企業の諸問題をどのようにすればよいかを考えている	企業で起こっていることを自分の問題として把握できる	企業の戦略の本質を自分でほぼ理解している	マーケティング入門の基礎知識や諸問題を理解している	企業が行うマーケティング戦略があまり理解できていない	企業で起こっている問題の解決策が考えられない

科目名	経営学入門		授業番号	LC106	サブタイトル	経営学の基礎を学ぶ			
教員	宋 煥沃								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	企業はわたしたちの生活とどのように関わっているのか。企業は新製品を開発したり、製造したり、消費者に販売するため、さまざまな戦略を打ち立てられている。経営学とは、人、モノ、金、情報が行きつづけられ製品やサービスに変換される企業のことを学ぶ学問である。こうした製品やサービスを生み出すために企業の組織や戦略、人材、意思決定はどのように行われ、実践されているのか。今日わたしたちの生活と密接に関わっている企業の仕組みや組織、戦略、雇用、人材の在り方を学ぶことが必要不可欠である。本講義は、前半では株式会社の仕組みや組織、管理システムに焦点をあてて学習する。後半では実際の企業の事例を取り上げ、企業とわたしたちの生活との関わりを明らかにする。								
到達目標	・経営学の基礎知識を習得することができる。 ・実際の企業の組織、管理システム、企業人材の仕組みを学習することによって、より深い専門知識が習得できる。 ・企業とわたしたちの生活との関わりを理解することによって、自主的学習能力を高めることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内訳のうち、＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	経営学とは 経営学の歴史、テイラーシステム、生産管理、企業組織								
第2回	企業経営の全体像 顧客の創造、組織のマネジメント、経営資源、企業と社会の関係								
第3回	経営学の全体像 営利追求、広義の経営学、狭義の経営学、学際性								
第4回	企業と会社 株式と株主、議決権、株主総会、取締役会、法人、日本初の株式会社								
第5回	企業と金融資本との関わり 間接金融資本、メインバンク、資金調達、証券取引所、クラウドファンディング								
第6回	企業と労働市場との関わり 採用管理、配置と異動、賃金と昇進、勤続賞、リーダーシップ								
第7回	企業の組織構造と職務設計 組織の仕組み、分業、役割分担、権限、公式組織								
第8回	企業と製品・サービス市場との関わり 製品、市場競争、波及効果、経営戦略、全社レベル								
第9回	競争戦略のマネジメント 競争要因、新規参入、差別化、代替品の脅威、顧客								
第10回	競争戦略のマネジメント (2) 基本戦略、コストリーダーシップ、差別化、集中戦略、変動費、規模の経済								
第11回	多角化戦略のマネジメント (キャンパの事例) 多角化、M&A、戦略的提携、シナジー								
第12回	国際化のマネジメント 国境、多国籍企業、国際貿易、コミュニケーション、経営資源の移動								
第13回	企業組織のマネジメント 年俸制、成果主義、インセンティブシステム、報酬、リーダーシップ								
第14回	ICT時代の企業組織と人材 人材の国際労働移動、アウトソーシング、人材流出、人材循環								
第15回	企業の社会的責任 SCR、企業倫理、社会市民、SDGs								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その態備考						
	授業への取り組みの姿勢や態度	20	授業への意欲、質問、出席を積極的に取り組んでいるかを評価する。						
	レポート	30	講義の中間時点で、主要なポイントやキーワードの理解度を評価する。						
	定期試験	50	授業全体の理解度を評価する。						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には講義形式で行うが、必要に応じてレジュメや資料を適宜配布する。 関心ある企業や最新の企業活動の動向に関する新聞、雑誌などに目を通して講義に臨むこと。
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> 予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み、疑問点をチェックすること。 授業で習った内容の小テストを行うので、必ず復習をする。 資料を配布するので、その内容のまとめを課題とする。 以上の内容を適当に94時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
加藤野忠男・吉村典久編	1からの経営学 第3版	中央経済社	978-4-502-69610-7	

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

- 片岡信之編著『アドバンス経営学 理論と現実』中央経済社、2010年。
- 伊藤宗彦編著『1からのケース経営』中央経済社、2010年。
- 上林憲雄 他編『経験から学ぶ経営学入門 第2版』有斐閣ブックス、2018年。

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学土力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 経営学入門の必要性を認識している	経営学入門の必要性をほぼ理解している	企業の組織や仕組みをほぼ理解している	基本的に経営学を学ぶ意味を理解している	経営学は理解できているが、具体的な知識が十分ではない	経営学入門の科目を理解していない
知識・理解	2. 企業と社会の関わりについて理解している	会社の仕組みや組織を十分に理解している	洞察力を持って企業の仕組みやプロセスが把握できる	会社の組織形態や構造を把握している	具体的な企業形態や組織の理解できていない	概念や言葉の意味が理解できていない
知識・理解	3. 経営学入門の内容の知識が修得できる	経営学入門と経済学の違いを理解している	企業形態の内容やいくつかの事例がまとめられる	経営学の基礎知識が修得できている	経営学の内容や各テーマが理解できていない	内容の理解や文章のまとめができていない
技能	1. 企業組織がどのように形成されているのかが把握できる	企業組織のあるべき基本行動は何かを理解できる	企業組織の内容をほぼ理解している	企業組織のあり方についてほぼ理解している	企業の組織構造に対してあまり理解できていない	企業の組織構造に関してあまり興味を持っていない
技能	2. 企業の形態によって、責任や会社法の違いが理解できる	株式会社の社会的責任を確実に理解している	会社法の内容が把握できる	会社法によって、責任所在が違ふことが理解できている	会社法に内容についてあまり理解できていない	企業形態や会社法についてほぼ理解していない
技能	3. 海外の企業の事例から日本企業の戦略が理解できる	日本企業の問題点を自分で抽出し、まとめることができる	日本企業の問題点をほぼ把握できる	海外の企業の事例を十分に理解している	海外企業の事業活動を理解していない	海外企業の経営活動が把握できていない

科目名	会計学入門			授業番号	LC107	サブタイトル	
教員	岸保 宏						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義
							必修・選択
授業概要	会計初学者向け、会計の基本的なフレームワークの理解を目的とする。テキストは基本的理解を目的とし、プログラム学習ができる書き込み式になっている。理論や要点は板書し、補足・解説をしていく形で授業を展開する。何度も繰り返し、知識を血肉化してほしい。テキストはかぶり情報を減らし、基本的な理解が出来る構成となっているので、この部分の基本的コアは習熟できるようにしたい。なお、重複する学習事項もあるが、前期開講の「簿記入門」を受講すると、本講座の理解は深まると思われる。出席をすれば、単位取得ができるという安易な考えで、のぞまないこと。						
到達目標	会計の基本的なフレームワークの理解であり、簿記検定などの資格試験向けの講義ではない。あくまで大学の講義であるので、論理的な思考能力の養成を目標に取り組んでいきたい。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた「学士力」の内容のうち、「知識・理解」＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	イントロダクション 講義の進め方と狙い、評価方法。会計とは何か、会計の意義について、学ぶ。						
第2回	基本的な仕組み(1) 会計公準、会計原則について学ぶ。						
第3回	基本的な仕組み(2) 貸借対照表、損益計算書について、基礎と内容、その2つの関係などを学ぶ。						
第4回	一般的な記録ルール(1) 勘定、貸借対照表・損益計算書の項目の記録のルール、仕訳、転記、財務諸表の作成について、学ぶ。						
第5回	一般的な記録ルール(2) 資産・負債・純資産・費用・収益の性質などを学ぶ。						
第6回	個別的な記録ルール(1) 商品、商品の勘定記録、期末処理について、学ぶ。						
第7回	個別的な記録ルール(2) 棚卸資産の評価方法と理論について、学ぶ。						
第8回	個別的な記録ルール(3) 現金、預金、有価証券、売掛金、買掛金、その他の債権、債務を学ぶ。						
第9回	個別的な記録ルール(4) 手形と不良債権について、学ぶ。						
第10回	個別的な記録ルール(5) 減価償却について。定額法、定率法の違いなどを学ぶ。						
第11回	決算の集計ルール 決算について、期末の特別な処理について、学ぶ。						
第12回	財務諸表の見方 財務諸表分析、収益性と安全性について、学ぶ。						
第13回	総合演習(1) 5つの利益、これまでの学習事項を確認しつつ、財務諸表から整理する。						
第14回	総合演習(2) 損益分岐点分析を学ぶ。						
第15回	総合演習(3) 演習を通して、会計を考える。会計学入門の講義の総括を図る。						
授業計画 備考2	適年度の同講座において、レポートを課すことやゲストスピーカーの招待コメントなどでも評価をしていたが、今年度からは到達度テストにより評価することに変更した。会計学の基本的要点を履修することに力を置く。						
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	40	出席を評価する(出席2点×15回) 授業姿勢(10点)				
	到達度テスト	60	学習のチームを分け、到達度テスト(持ち込み不可)を実施する。				
	レポート						
	定期試験						
	その他						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	大人として当然の授業姿勢を求める。
授業外字修	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	友岡毅・福島千幸「アカウンティング・エッセンシャルズ」有斐閣			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	電中は10冊以上のものを持参すること。(開教電中不可。)詳しくは授業初日に説明する。 スマートフォン等を電中として使用することは認めない。 教書を多用、ノートは持つこと。マーカーをたくさん使うので、何色かご用意すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の实務経験	会計事務所、会社経営、大学、専門学校、商工会議所、自治体講座など講師経験あり			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	できるだけ手で書いて、理解するように講義展開をする。必要なことは何度も言うようにしていく。また実務での会計・経理についてのこともお伝えしたい。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 会計学の基礎知識を得られる	財務諸表が自分で読める	教科書の知識がわかり、会計理論もわかる	教科書の知識は理解できる	簿記がわかるが、会計理論がわからない	簿記会計がわからない
技能	1. 基本的な簿記の理解ができる	仕訳の理解ができ、取引の二面性がわかる	仕訳の理解ができ、取引の二面性がわかる	仕訳の理解ができ、取引の二面性がわかる	仕訳はわかるが、取引にかかわる勘定科目がわからない	仕訳のルールがわからない
態度	1. 授業に望む態度	積極的な授業参加と復習	積極的な授業参加と復習	基本的な授業に望む態度としてふさわしい	理解に努めない、努力しない	教科書を持ってこない、寝ている

科目名	簿記入門			授業番号	LC108	サブタイトル	
教員	梶野 勝己						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義
						必修・選択	選択
授業概要	簿記は、企業組織で生じる取引を記録・整理・報告するための技術である。企業の財政状況・経営成績・企業戦略を理解するためには、簿記の体系的な修得が重要である。また、簿記の対象は企業のすべての活動に及ぶので、簿記の能力を身につけることは企業経営を理解するうえでも必要であろう。この授業では、小規模な会社を取り上げて仕訳を中心に学び、重要な項目については決算処理の方法についても簡単に学習する。						
到達目標	簿記の流れを体系的に修得し、小規模株式会社で日々発生する取引の内容を理解することにより、日商簿記検定初級レベルの仕訳処理ができるようになることが目標である。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	簿記の基礎 簿記の基本ルールを理解する。						
第2回	商品売買（1）仕入と売上 商品の仕入と売上に係る仕訳を理解する。						
第3回	商品売買（2）返品・譲り 商品の返品、仕入譲り・売上譲りに係る仕訳を理解する。						
第4回	現金・預金 現金と預金に係る仕訳を理解する。						
第5回	手形と電子記録債権（債務） 手形と電子記録債権（債務）の仕組みと仕訳を理解する。						
第6回	貸付金・借入金 お金の貸し借りに係る仕訳を理解する。						
第7回	小テストと解説						
第8回	その他の取引（1） 第6回までの授業で学習した債権債務以外の取引に係る仕訳を理解する。						
第9回	その他の取引（2） 第6回までの授業で学習した債権債務以外の取引に係る仕訳を理解する。						
第10回	固定資産 固定資産に係る仕訳を理解する。						
第11回	租税公課と消費税・資本金 租税公課と消費税・資本金に係る仕訳を理解する。						
第12回	試算表（1）試算表の基礎 試算表の種類と役割を理解する。						
第13回	試算表（2）試算表の作成 試算表の仕組みを理解し、試算表を作成する。						
第14回	試算表（3）試算表の応用 日商簿記検定初級で出題される試算表の解き方を理解する。						
第15回	伝票と仕訳日計表 伝票と仕訳日計表の役割と処理方法を理解する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な受講態度を評価する。				
	レポート						
	小テスト	30	各回の主要なポイントの理解を評価する。				
	定期試験	40	最終的な理解度を評価する。				
	その他						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1. 定期試験では電卓を使用するが、携帯電話・スマートフォン等の使用は認めない。 2. 簿記の能力を身につけるには繰り返しの演習が必要であるため、事後学習は必須である。 ※電卓は10桁以上のものを持参すること。(関数電卓不可。) ※スマートフォン等を電卓として使用することは認めない。
授業外学習	1. 予習として、教科書内容を熟読し概要を把握しておくこと。 2. 復習として、講義内容を理解し演習問題に取り組むこと。 3. 日本商工会議所主催の簿記検定を受験し資格取得を図ること。 以上の内容を予習・復習として適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
スッキリわかる日商簿記初級 第3版	滝澤ななみ TAC出版開発グループ	TAC出版	978-4-8132-8736-0	1,000円(税別)

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
備考	

注意事項	
------	--

担当教員の実務経験の有無	有
--------------	---

担当教員の実務経験	国税職員(42年)、税理士(3年)
-----------	-------------------

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
-----------------------	---

担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
--------------------	--

実務経験をいれた教育内容	実務での会計・税務知識を活かした講義を展開し、日々の暮らしの中で簿記の知識を活用した経済活動ができるよう、簿記の基礎的知識を修得させる。
--------------	--

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 企業活動と会計の関係を理解している	企業活動における会計の重要性を十分に理解している	企業活動における会計の重要性を理解している	企業活動における会計の重要性をある程度理解している	企業活動における会計の重要性を十分に理解していない	企業活動における会計の重要性を理解していない
知識・理解	2. 取引を理解している	あらゆる場面で簿記上の取引であるか否かを十分に判断できる	あらゆる場面で簿記上の取引であるか否かを判断できる	基本的な場面で簿記上の取引であるか否かを判断できる	基本的な場面で簿記上の取引であるか否かを十分に判断できない	基本的な場面で簿記上の取引であるか否かを判断できない
知識・理解	3. 勘定科目の意味を理解している	日常的に使用される勘定科目の意味を十分に理解している	日常的に使用される勘定科目の意味を理解している	基本的な勘定科目の意味を理解している	基本的な勘定科目の意味を十分に理解していない	基本的な勘定科目の意味を理解していない
技能	1. 勘定科目ごとに貸方・借方に分けることができる	日常的に使用される勘定科目を貸方・借方に分けることが十分にできる	日常的に使用される勘定科目を貸方・借方に分けることができる	基本的な勘定科目を貸方・借方に分けることができる	基本的な勘定科目を貸方・借方に分けることが十分にできない	基本的な勘定科目を貸方・借方に分けることができない
技能	2. 仕訳をすることができる	日常的な取引は十分に仕訳ができる	日常的な取引は仕訳ができる	基本的な取引は仕訳ができる	基本的な取引の仕訳が十分にできない	基本的な取引の仕訳ができない
技能	3. 各種試算表の作成ができる	日常的な仕訳を基に各種試算表が十分に作成できる	日常的な仕訳を基に各種試算表が作成できる	基本的な仕訳を基に各種試算表が作成できる	基本的な仕訳を基に各種試算表が十分に作成できない	基本的な仕訳を基に各種試算表が作成できない

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	観光総論		授業番号	LC109	サブタイトル				
教員	大石 貴之								
単位数	2単位	開講年次	が1年次から2年次へ移行する。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	現在、日本における観光の重要性が高まっている。日本政府は観光政策を重視し、また地方の少子高齢化に伴って、観光産業を活用した地域活性化の取り組みが様々な地域で実践されている。こうした状況を踏まえ、本講義では観光に関する諸現象を理解するために、観光の歴史や観光産業の現状、政府や地域の取り組みなど観光学に関する包括的な内容について講義する。								
到達目標	観光に関する包括的な知識を理解し、それを社会の動向に関連付けて考察することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	観光の基礎 (1) : 観光とは何か 観光の定義や概念について整理し、観光に関する考え方を理解する。								
第2回	観光の基礎 (2) : 観光の歴史 世界や日本における観光の起源や歴史、特に第2次世界大戦以降の観光の変化を理解する。								
第3回	観光の基礎 (3) : 観光行動と旅行者 観光の消費者である旅行者の行動や、動機について理解する。								
第4回	観光の基礎 (4) : 観光産業と統計 観光の生産者である観光産業の概要を把握し、統計を通じて観光の経済的側面を理解する。								
第5回	観光産業の現状 (1) : 旅行産業 主要な観光産業である旅行産業の概要や現在の状況について理解する。								
第6回	観光産業の現状 (2) : 宿泊産業 宿泊産業の意義や変化、特徴的な宿泊産業の事例について理解する。								
第7回	観光産業の現状 (3) : 交通産業 交通産業の中でも鉄道産業や航空産業の特徴や経営上の工夫について理解する。								
第8回	観光産業の現状 (4) : 博物館とテーマパーク 博物館やテーマパークの現状について、具体的な事例を通じて理解する。								
第9回	観光産業の現状 (5) : 観光経営と観光商品 観光経営の全般的な特徴を整理し、土産の商品化について考える。								
第10回	日本の観光政策 (1) : 観光立国と国際観光 日本政府が実施する観光政策について、特に国際観光の視点から理解する。								
第11回	日本の観光政策 (2) : 地域観光とまちづくり 日本や地方自治体自身が実施する観光政策について、まちづくりという観点から理解する。								
第12回	観光地の現状と課題 (1) : マスツーリズム時代の観光地-温泉とスキー- かつては盛んであった温泉やスキーの変化を理解し、これらの観光地における課題を考える。								
第13回	観光地の現状と課題 (2) : 持続可能な観光-エコツーリズムと歴史的町並み観光- 持続可能な観光の概念を理解し、エコツーリズムや歴史的町並み観光の意義について考える。								
第14回	観光地の現状と課題 (3) : ニューツーリズムの台頭-コンテンツツーリズムとフードツーリズム- 現代に特徴的な観光として、コンテンツツーリズムやフードツーリズムの現状や課題を考える。								
第15回	観光の展望 : 今後の観光について 講義のまとめとして、日本における観光の現状を整理し、観光の将来について考える。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度								
	レポート	40	講義で取り上げた内容について、その背景と実社会との関連について具体的に考察していること。課題については次回の講義において講評する。						
	小テスト								
	定期試験	60	各回の講義の内容に関する理解度を評価する。						
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	講義で配付する資料の他、担当教員が口頭で説明する内容をメモすること。
授業外学修	・事前学修：講義の最後に提示する、次回講義のキーワードについて調べておくこと（なお、第1回事前学修については「観光」の定義について調べておくこと）。 ・事後学修：講義で配付するプリントを読み返すとともに、講義で紹介する参考文献を読んで発展的な学修しておくこと。 以上の内容を、適当に4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

毎回の講義でプリントを配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

参考書については、講義中に適宜指示する。

その他

--

備考

--

注意事項

--

担当教員の業務経験の有無

無

担当教員の業務経験

--

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる実務経験者

--

実務経験をいかした教育内容

--

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 観光の概念について理解できている	観光に関する基本的な概念に加え、その変化や社会との関連性についても理解できている。	観光に関する基本的な概念に加え、観光の定義には様々な考え方が理解できている。	観光に関する基本的な概念を理解している。	観光に関する基本的な概念の理解が十分でない。	観光に関する基本的な概念の理解が全くできていない。
知識・理解	2. 観光産業の現状について理解できている	観光産業の現状に加え、その社会的・歴史的背景やについても理解できている。	観光産業の現状に加え、それが社会的な変化と関連していることも理解できている。	観光産業の現状を理解できている。	観光産業の現状を十分に理解できていない。	観光産業の現状を全く理解できていない。
知識・理解	3. 日本における観光政策の意義について理解できている	日本における観光政策の意義について、観光の歴史的背景を踏まえて理解できている。	日本における観光政策の意義について、観光の歴史と関連していることも含めて理解できている。	日本における観光政策の意義を理解できている。	日本における観光政策の意義を十分に理解できていない。	日本における観光政策の意義を全く理解できていない。
知識・理解	4. 日本における観光地の現状や課題について理解できている	日本における観光地の現状や課題について、観光や社会的背景を踏まえて理解できている。	日本における観光地の現状や課題について、日本の歴史と関連付けて理解できている。	日本における観光地の現状や課題について理解できている。	日本における観光地の現状や課題について十分に理解できていない。	日本における観光地の現状や課題について全く理解できていない。
思考・問題解決能力	1. 日本における観光の現状に対して社会の動向に関連付けて考察できている	講義で得た知識を踏まえ、日本における観光の現状に対して社会の動向に関連付けて考察できている。	日本における観光の現状に対して社会の動向に関連付けて考察できているが、講義で得た知識と関連付けられていない。	日本における観光の現状に対して自分なりの考察ができている。	日本における観光の現状に対して考察が十分でない。	日本における観光の現状に対して考察が全くできていない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	観光実務		授業番号	LC110	サブタイトル				
教員	大石 貴之								
単位数	2単位	開講年次	1/2	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	現在、日本において観光産業が重視されている。日本の観光産業は旅行業と共に発展してきたが、現在では国の政策や地域産業において観光が重視されたことに伴い、直接観光に関わらない産業においても観光に関する知識の理解が必要とされている。こうした状況を踏まえ、本講義では観光に関する実務的な知識として旅行業に関する法律と約款と日本を中心とする世界遺産を取り上げ、これらの基礎的な内容について講義する。								
到達目標	旅行業の法律と約款、日本を中心とする世界遺産に関する知識について理解し、実社会に役立てることができる。なお、本科目はディプロマ制に拠った学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	観光産業と実務、旅行業法(1)：旅行業法の目的と旅行業の定義 観光産業における「旅行業務取扱管理者試験」や「世界遺産検定」の意義について理解し、旅行業法の目的や旅行業の定義について理解する。								
第2回	旅行業法(2)：旅行業者になるためには 旅行業法のうち、旅行業者の登録や営業保証金に関する内容を理解する。								
第3回	旅行業法(3)：旅行業者が準備すべきこと 旅行業法のうち、旅行業務取扱管理者と外務員、取扱料金・旅行業約款・標識、広告に関する内容を理解する。								
第4回	旅行業法(4)：旅行者との取引と旅行の実施 旅行業法のうち、取引条件の説明と契約書面の交付、旅程管理に関する内容を理解する。								
第5回	旅行業法(5)：旅行業者の周辺、禁止行為と行政処分 旅行業法のうち、旅行業者代理業、旅行サービス配業、禁止行為と行政処分に関する内容を理解する。								
第6回	旅行業法(6)：旅行業協会、標準旅行業約款(1)：総則 旅行業法のうち、旅行業協会に関する内容と、標準旅行業約款のうち総則に関する内容について理解する。								
第7回	標準旅行業約款(2)：契約の締結と変更 標準旅行業約款のうち、契約の締結や契約の変更に関する内容を理解する。								
第8回	標準旅行業約款(3)：契約の解除ほか 標準旅行業約款のうち、契約の解除、団体・グループ契約、旅程管理に関する内容を理解する。								
第9回	標準旅行業約款(4)：旅行業者の責任 標準旅行業約款のうち、旅行業者の責任、旅程保証、特別補償規定に関する内容を理解する。								
第10回	世界遺産の基本 世界遺産の概要や成立の経緯、世界遺産に関する概念や課題について理解する。								
第11回	日本の世界遺産(1)：社寺に関連した文化遺産 日本の世界遺産のうち、法隆寺地域の仏教建造物群、日光の社寺などの文化遺産に関する価値や遺産成立の背景について理解する。								
第12回	日本の世界遺産(2)：歴史的建造物と信仰に関連した文化遺産 日本の世界遺産のうち、姫路城、紀伊山地の霊場と参詣道などの文化遺産に関する価値や遺産成立の背景について理解する。								
第13回	日本の世界遺産(3)：古代遺跡と地域の特色に関連した文化遺産 日本の世界遺産のうち、百舌鳥・古市古墳群、白川郷・五箇山の合掌造り集落などの文化遺産に関する価値や遺産成立の背景について理解する。								
第14回	日本の世界遺産(4)：産業と近代に関連した文化遺産 日本の世界遺産のうち、富岡製糸場と絹産業遺産群、広島平和記念公園(原爆ドーム)などの文化遺産に関する価値や遺産成立の背景について理解する。								
第15回	日本の世界遺産(5)：自然遺産、講義のまとめ 日本の世界遺産のうち、小笠原諸島、屋久島などの自然遺産に関する価値や遺産成立の背景について理解するとともに、これまでの講義についてまとめる。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その態備考							
授業への取り組みの姿勢/態度									
レポート	40	講義で取り上げた内容について考察していること。課題については次回の講義において講評する。							
小テスト									
定期試験	60	各回の講義内容に関する理解度を評価する。							
その他									

評価の方法：自由記載	
受講の心得	講義で配付する資料に関して、口頭で説明した内容についてメモを取る。
授業外学修	・事前学修：講義の最後に提示する。次回講義の内容について調べておくこと（なお、第1回の事前学修については「観光産業に必要な知識や技能」について調べておくこと）。 ・事後学修：講義で配付するプリントを読み返すとともに、講義で紹介する発展的な学修に取り組むこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	毎回の講義でプリントを配付する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	参考書については、講義中に適宜指示する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 旅行業法の条文について基本的な内容を理解している。	旅行業法の条文について、基本的な内容に加えて条文が制定された背景についても理解している。	旅行業法の条文について、基本的な内容に加えて条文が社会との関連で制定されていることも理解している。	旅行業法の条文について、基本的な内容を理解している。	旅行業法の条文について、基本的な内容の理解が十分でない。	旅行業法の条文について、基本的な内容が全く理解できていない。
知識・理解	2. 標準旅行業約款について基本的な内容を理解している。	標準旅行業約款について、基本的な内容に加えて旅行業界の背景と関連付けて理解している。	標準旅行業約款について、基本的な内容に加えてその内容が変化していることを理解している。	標準旅行業約款について、基本的な内容を理解している。	標準旅行業約款について、基本的な内容の理解が十分でない。	標準旅行業約款について、基本的な内容が全く理解できていない。
知識・理解	3. 世界遺産の概要や日本における世界遺産について基本的な内容を理解している。	世界遺産の概要や日本における世界遺産について、基本的な内容に加えて社会的背景や日本の地理・歴史を踏まえて理解している。	世界遺産の概要や日本における世界遺産について理解し、その内容は変化していくものであることも併せて理解している。	世界遺産の概要や日本における世界遺産について、基本的な内容を理解している。	世界遺産の概要や日本における世界遺産について、基本的な内容の理解が十分でない。	世界遺産の概要や日本における世界遺産について、基本的な内容が全く理解できていない。
技能	1. 国内旅行業務取扱管理者試験に合格する程度の技能を有している。	国内旅行業務取扱管理者試験の合格に値する技能を十分に身に付けている。	国内旅行業務取扱管理者試験に関する技能を身に付けているが、合格する程度には達していない。	国内旅行業務取扱管理者試験に関する程度の知識はあるが、資格試験の技能を身に付けるまでには至っていない。	国内旅行業務取扱管理者試験に関する程度の知識を有している。	国内旅行業務取扱管理者試験に関する知識を有していない。
技能	2. 世界遺産検定2級に合格する程度の技能を有している。	世界遺産検定2級の合格に値する技能を十分に身に付けている。	世界遺産検定2級に関する技能を身に付けているが、合格する程度には達していない。	世界遺産検定2級に関する程度の知識はあるが、資格試験の技能を身に付けるまでには至っていない。	世界遺産検定2級に関する程度の知識を有している。	世界遺産検定2級に関する知識を有していない。

科目名	農業経済入門		授業番号	LC111	サブタイトル				
教員	中安 亜								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	農業経済学は、農業が抱えている経済的側面について、様々な角度から探っていく学際分野である。生産者の所得の向上や経済的な安定、農業、農産物を通じた一般消費者の生活の向上、農産物、食品の流通、貿易を通じた国際問題についても研究するものである。この講義では、その入門編として、日本の食料、農業の動向について経済学に理解することを目的とする。								
到達目標	日本の農業生産、農産物・食料品の消費に関心を持つと同時に、その理解には経済学的基本知識が必要とされる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	日本農業の歩み（1）								
第2回	日本農業の歩み（2）								
第3回	経済成長と農業（1）								
第4回	経済成長と農業（2）								
第5回	日本の農業生産の動向（1）								
第6回	日本の農業生産の動向（2）								
第7回	日本の農業問題								
第8回	日本の食料消費の動向（1）								
第9回	日本の食料消費の動向（2）								
第10回	食料自給率								
第11回	日本の農産物流通								
第12回	農産物流通の新しい動き								
第13回	農業、農村の有する多面的機能								
第14回	自然災害と農業、農村の復旧								
第15回	まとめ								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。						
	レポート	30	中間時点でレポートを課し、講義内容の正しい把握ができていのかを評価する。（自分の言葉による論理的な説明を求める）						
	小テスト								
	定期試験	60	授業で取り扱った視点、論理を用いて、論理的に表現ができていのかを評価する（記述式のレポート試験を予定）						
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受講生は、授業で提供する資料・データに留まらず、農業・食料問題についても、食生活、環境問題等の身近な事象に対して自ら関連付けて考察するように努めること。
授業外学修	復習、文献、インターネット等での情報収集を行う。 以上のことを、週当たり4時間以上を充てること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	使用しない			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	講義の中で適宜紹介する			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の实務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 日本の食生活と農業の関係を理解している。	日本の食生活と農業、貿易が密接にかかわりながら展開していることを明確に理解できしており、具体例を説明できる。	日本の食生活と農業、貿易が密接にかかわりながら展開していることは理解できている。	日本の食生活と農業、貿易が関係していることを理解できている。	日本の食生活、農業、貿易について断片的には理解できている。	日本の食生活と農業の現状を理解できていない。
知識・理解	2. 日本の農産物、食料の流通の現状と問題点を理解している。	具体的な農産物、食料の流通について自ら調べ、その現状と問題点を明確に述べることができる。	具体的な農産物、食料の流通について自ら調べ、現状は理解できている。	具体的な農産物、食料の流通について自ら調べるが十分には理解できていない。	具体的な農産物、食料の流通について自ら調べようとしている。	自ら調べようとしていない。
知識・理解	3. 食品ロスの背景、現状と問題点を理解している。	食品ロスの成立背景と現状、問題点を十分に理解できしており、事例に対する評価を行い、プレゼンテーションを行うことができる。	食品ロスの成立背景と現状、問題点を理解できしており、事例に対する評価、プレゼンテーションが不十分。	食品ロスの成立背景と現状、問題点の理解が不十分で、事例に対する評価、プレゼンテーションはできていない。	食品ロスの成立背景と現状、問題点の理解が出来ておらず、事例を探していない。	自ら調べようとしていない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	農業経済学		授業番号	LC112	サブタイトル				
教員	中安 亜								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	農業経済学は、農業が抱えている経済的側面について、様々な角度から探っていく学際分野である。生産者の所得の向上や経済的な安定、農業、農産物を通じた一般消費者の生活の向上、農産物、食品の流通、貿易を通じた国際問題についても研究するものである。この講義では、農業、農産物に対する現来的問題を経済学に理解することを目的とする。前半では、農産物の需要と供給、価格についての経済学的基礎を理解する。後半では、日本の農業、食料の持つ諸問題について経済の動きとの関連から理解する。								
到達目標	日本の農業生産、農産物・食料品の消費に関心を払いつつ同時に、その理解には経済学的基礎知識が必要とされる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	世界の食料需給と食料問題								
第2回	日本の食料問題								
第3回	食料消費の動向								
第4回	食品産業の動向								
第5回	日本の農産物流通								
第6回	日本の農業問題（1）								
第7回	日本の農業問題（2）								
第8回	日本の農業生産の動向								
第9回	農業、農村の有する多面的機能								
第10回	農産物の需要と需要曲線								
第11回	農産物の需要と弾力性（1）								
第12回	農産物の需要と弾力性（2）								
第13回	農業における生産と費用								
第14回	農産物の供給曲線								
第15回	市場、競争と価格決定								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢/態度	10	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。							
レポート	30	中間時点でレポートを課し、講義内容の正しい把握ができているかを評価する。（自分の言葉による論理的な説明を求める）							
小テスト									
定期試験	60	授業で取り扱った視点、論理を用いて、論理的に表現ができていられるかを評価する（記述試験を予定）							
その他									

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受講生は、授業で提供する資料・データに留まらず、農業・食料問題についても、食生活、環境問題等の身近な事象に対して自ら関連付けて考察するように努めること。
授業外学習	復習とあわせて、文献、インターネット等での情報収集を行う。 以上のことを、適当に4時間以上を充てること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	使用しない			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	講義の中で適宜紹介する			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. 農産物、食料の消費構造変化とその要因を分析し、理解し、特定地域・作目の対応策を講ずることができる。	農産物・食料の消費構造変化とその要因を十分に理解でき、自ら調べた事例に対して、その対応策に対する評価を行い、説明することができる。	理解できているが、自ら調べた事例に対して、その対応策に対する評価ができず、プレゼンテーションに至らず。	農産物・食料の消費構造変化とその要因を理解できているが、自ら調べた事例に対して、その対応策に対する評価が十分にできず、プレゼンテーションが不十分。	消費構造変化とその要因の理解が不十分で、事例を採りきれなかった。	自ら調べようとしていない。
思考・問題解決能力	2. 日本の農業の現状と問題点を理解できている。	特定地域を事例とし、その地域の農業について自ら調べ、その現状と問題点を明確に述べることができる。	事例とした地域の農業について自ら調べ、現状は理解できている。	事例とした地域の農業について自ら調べることが十分には理解できていない。	事例とした地域の農業について自ら調べようとしている。	自ら調べようとしていない。
思考・問題解決能力	3. 需要と供給の理論を理解し、農産物の需要と供給について具体的な事例に対して説明できる。	需要の弾力性について十分に理解し、農産物の需要と供給に対する具体的な事例を明確に説明できる。	需要の弾力性については理解しているが、具体的な事例の説明は不十分。	需要の弾力性についての理解が不十分で、具体的な事例の説明ができない。	需要の弾力性についての理解が不十分で、具体的な事例を採り出せない。	自ら調べようとしていない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	英語資格演習 1	授業番号	LC114	サブタイトル	
教員	藤代 昇文				
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期
授業形態	演習	必修・選択	選択		
授業概要	TOEIC (R) L&Rの問題演習を通し、英語の4技能の力を伸ばすことを目指す。その過程で、リスニングパートでの理解力、リーディングパートでの理解力を高めるための語彙力、文法力を鍛える。教材に付属している音声を使いながら、各パートの問題形式に慣れると同時に、語彙、文法を確認し、次回の授業で小テストにより復習する。副教材の「コロンイングリッシュ」(予定)は、主として自学自習のために用いるもの。単語・連語等を各自が学習し、その進捗状況を教師が確認する。なお、「TOEIC(R)」は米国Educational Testing Service(ETS)の登録商標。				
到達目標	各個人の英語の4技能(読み、聞く、書く、話す)の力を伸ばすことを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	Listening : Part 1 写真描写問題 1 「人物が写っている写真」問題の解き方の解説と問題演習 Reading : Part 5 短文穴埋め問題 1 「品詞」が解答の鍵となる問題についての解説と問題演習				
第2回	Listening : Part 1 写真描写問題 2 「人物が写っていない写真」問題の解き方の解説と問題演習 Reading : Part 5 短文穴埋め問題 2 「動詞の形(能動態・受動態)」が解答の鍵となる問題についての解説と問題演習				
第3回	Listening : Part 2 応答問題 1 「疑問詞疑問文」問題の解き方の解説と問題演習 Reading : Part 5 短文穴埋め問題 3 「動詞の形(時制・その他)」が解答の鍵となる問題についての解説と問題演習				
第4回	Listening : Part 2 応答問題 2 「Yes/No疑問文・その他の疑問文」問題の解き方の解説と問題演習 Reading : Part 5 短文穴埋め問題 4 「前置詞・接続詞」が解答の鍵となる問題についての解説と問題演習				
第5回	Listening : Part 2 応答問題 3 「平叙文・意外な応答」問題の解き方の解説と問題演習 Reading : Part 5 短文穴埋め問題 5 「代名詞・関係代名詞」が解答の鍵となる問題についての解説と問題演習				
第6回	Listening : Part 2 応答問題 4 「機能別疑問文」問題の解き方の解説と問題演習 Reading : Part 6 長文穴埋め問題 穴埋め問題の解き方の解説と問題演習				
第7回	Listening : Part 3 会話問題 1 「次の行動」問題の解き方の解説と問題演習 Reading : Part 7 読解問題 1 「広告・チャット」問題の解き方の解説と問題演習				
第8回	Listening : Part 3 会話問題 2 「問題点・提案・申し出」問題の解き方の解説と問題演習 Reading : Part 7 読解問題 2 「Eメール・手紙」問題の解き方の解説と問題演習				
第9回	Listening : Part 3 会話問題 3 「目的・依頼・意見」問題の解き方の解説と問題演習 Reading : Part 7 読解問題 3 「告知・社内回覧」問題の解き方の解説と問題演習 到達度テスト				
第10回	Listening : Part 4 説明文問題 1 「録音メッセージ・アナウンス」問題の解き方の解説と問題演習 Reading : Part 7 読解問題 4 「記事」問題の解き方の解説と問題演習				
第11回	Listening : Part 4 説明文問題 2 「トーク・会議・ニュース」問題の解き方の解説と問題演習 Reading : Part 7 読解問題 5 「ダブルメッセージ」問題の解き方の解説と問題演習				
第12回	Listening : Part 4 説明文問題 3 「グラフィック(図表)問題」の解き方の解説と問題演習 Reading : Part 7 読解問題 6 「トピックバリエーション」問題の解き方の解説と問題演習				
第13回	Listening : Part 4 説明文問題 4 「Review (Parts 1 & 3)」問題演習 Reading : Part 7 読解問題 7 「Review (Parts 5 & 6)」問題演習				
第14回	Listening : Part 4 説明文問題 5 「Review (Parts 2 & 4)」問題演習 Reading : Part 7 読解問題 8 「Review (Part 7)」問題演習				
第15回	TOEIC問題形式の復習 各Unitを見直し解き方の復習を行う 到達度テスト				
授業計画 備考2					

評価の方法		
種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
レポート	20	課題のテーマについて調査し、整理・分析し、具体的なかつ適切にまとめるかを評価する。課題提出後の授業で、グループワークを通して発表及び相互評価を行い、内容についてコメントし、フィードバックを行う。
小テスト	40	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期、期末に授業内容の理解度を評価する。
定期試験		
その他	10	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を心がけ、辞書や資料等で調べなど自主的な学習に努めること。 授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。
授業外学修	1 テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。 2 毎回前時の授業内容について的小テストを実施するの2時間以上復習しておくこと。 3 課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
TOEIC(R) L&R テスト戦略的トレーニング：レベル500	西谷敦子 / 伊藤恵一 / 大橋希苗 / 夜久容子 / 佐藤世津子 / 佐野真歩 / 浅田えり佳 / 増田将伸 / James G.Wong	朝日出版社	978-4-255-15636-1	1980
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	有
担当教員の業務経験	県情報教育センター(3年)・県総合教育センター(4年)・県立高等学校英語科教諭(17年)
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	高校の学校現場に勤務し、英語科の指導に当たった経験から、学生のニーズを的確に把握し、わかりやすい解説や指導をすることができる。また、大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れたアクティブかつ実践的な指導ができる。また、県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として、教職員の研修や指導業務に当たった経験から、ICTを活用して動画や音声を表示しわかりやすい授業を行うことができる。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー土力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。	英語の基礎的な文法に則って、一定分量のまとまった英文を読んだり、聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで90%以上得点することができる。	英語の基礎的な文法に則って、やや長い英文を読んだり、聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで80%程度得点することができる。	短い英文を読んだり、聞いたりしておおよそ内容を理解することができる。到達度テストで70%程度得点することができる。	英語の基礎的な文法は理解しているものの、短い英文を読んだり、聞いたりしても内容を理解することが困難である。到達度テストで60%程度の得点である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で、短い英文を読んだり、聞いたりしても内容を理解することができない。到達度テストで50%未満の得点である。
知識・理解	2. TOEICでよく使われる英単語や英語表現を実際に用いることができる。	既習の英単語や英語表現を活用してTOEICの問題に取り組み、問題中の含まれる英単語や英語表現を自由に用いて、相手と話したり、文章を書いたりして、自らの意志を伝えることができる。	TOEICの問題で用いられている英単語や英語表現を応用して、相手と話したり、短い文章を書いたりして、自らの意志を伝えることができる。	TOEICの問題で用いられている英単語や英語表現を用いて、相手と対話を口頭で再現したり、短い文章を書いたりすることができる。	TOEICの問題で用いられている英単語や英語表現を用いて、相手と音読対話練習することはできるが、十分に理解し応用することはできない。	TOEICの問題で用いられている英単語や英語表現を音読することが難しく、対話練習することも困難である。
知識・理解	3. TOEICの出題傾向を理解し、自らの改善点に基づき修正することができる。	自らTOEICの出題傾向に基づき、自分に合った学習法を選択して継続的に学ぶとともに、自らの弱点を発見し、改善すべき点に基づき修正することができる。	自らTOEICの出題傾向に基づき、自分に合った学習法を選択して、与えられた課題のみならず計画的かつ継続的に学ぶことができる。	講義で与えられた課題をこなす、TOEICの出題傾向に慣れるとともに、自らの弱点に気づくことができる。	継続的に学習することはできるが、TOEICの出題傾向をつかむことができない。誤答を繰り返す、改善しようとする意欲が見られない。	TOEICの問題に解答しようとする意欲がなく、継続的に学習することができない。
技能	1. 英語を読むことができる	英語の基礎的な単語や文法に則って、一定分量のまとまった英文を読んだりして内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法に則って、やや長い英文を読んだりして内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法を用いて、短い英文を読んだり、おおよそ内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法は理解しているものの、短い英文を読んでも内容を理解することが困難である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で、短い英文を読んでも内容を理解することができない。
技能	2. 英語を書くことができる	既習の英単語や英語表現を活用して、文章を書いて、自らの意志を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を応用して、短い文章を書いたりして、自らの意志を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を用いて、短い文章を書くことができる。	既習の基礎的な英単語や英語表現は理解できるが、短い英文でも書くことができない。	既習の基礎的な英単語や英語表現でも理解できず、英語として書くことができない。
技能	3. 英語を聞くことができる	英語の基礎的な単語や文法に則って、一定分量のまとまった英文を聞いて内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法に則って、やや長い英文を聞いて内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法を用いて、短い英文を聞いて、おおよそ内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法は理解しているものの、短い英文を聞いても内容を理解することが困難である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で、短い英文を聞いても内容を理解することができない。
技能	4. 英語を話すことができる	既習の英単語や英語表現を活用して、相手と話して、自らの意志を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現も応用して、相手と話したり、短い文章を発言したりして、自らの意志を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を用いて、相手と短い対話をしたり、既存の対話を相手と再現することができる。	既習の基礎的な英単語や英語表現は理解できるが、相手と短い対話をしたり、既存の対話を相手と再現することはできない。	既習の基礎的な英単語や英語表現でも理解できず、既存の対話を相手と再現することもできない。

科目名	日本の伝統文化			授業番号	LC116	サブタイトル	
教員	後藤 智絵						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義
必修・選択	必修・選択		選択				
授業概要	日本の伝統文化の中でも主に文化財に焦点を当て、個々の文化財の詳細について講義する。 そして、実際に文化財に触れ、見学をし、伝統文化を支えている技法に挑戦することを通して、伝統文化を体験する。 さらに、日本の伝統文化にまつわる学術的視点をふまえて、それぞれの体験をもとに考察した内容を発表する。同時に、様々な発表内容を共有する。						
到達目標	1 日本の伝統文化の様相を知り、その多様さについて理解ができるようになる。 2 個々の文化財に対して主体的に情報を収集整理し、経験をふまえて考察ができるようになる。 3 日本の伝統文化の一環について、説明ができるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉、〈思考・問題解決能力〉、〈技能〉、〈態度〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	第1回 国家と伝統文化 文化財保護法の変遷と文化財の体系を理解する。						
第2回	第2回 有形文化財 文化財の種類と指定基準を理解する。「日本美術」の誕生について理解する。						
第3回	第3回 有形文化財（美術工芸） 有形文化財の中でも、美術工芸品についての知識を身につける。						
第4回	第4回 無形文化財 高山の無形文化財を具体例に、伝統文化の継承方法の一端を理解する。						
第5回	第5回 やきものの歴史 縄文時代から江戸時代までのやきものの造形を確認し、現代において、いかに表象されているかを理解する。 瓦を具体例に、焼成技術の向上がもたらした社会の変容と家紋について考察する。						
第6回	第6回 家紋について 家紋を具体例に、日本の伝統文化の継承方法の一端を理解する。						
第7回	第7回 やきもの制作（1） やきものを制作するにあたって、制作のための道具を作る。 よめ結びを習得し、伝統技法の機能性を体験する。						
第8回	第8回 やきもの制作（2） 瓦当（がたう）を制作する。 粘土に直接触れることで、素材の肌合いを体感する。						
第9回	第9回 やきもの制作（3） 瓦当（がたう）を制作する。 自身で制作した道具で粘土を加工し、繊やかな表現に挑戦する。						
第10回	第10回 有形文化財（建造物） 高山市内の国宝建造物を具体例に、先行研究にアプローチする視点を養う。						
第11回	第11回 モダニズム建築 日本のモダニズム建築を牽引した建築家の「伝統」に対する視点について考察する。						
第12回	第12回 伝統的建造物群 倉敷市を具体例に、民藝運動と照合しつつ、伝統文化の創造性について考察する。						
第13回	第13回 文化財の保存技術 文化財の修復現場を具体例に保存技術の多様性を理解し、同時に技術の継承をめぐる現状を理解する。						
第14回	第14回 課題発表（1） 国指定文化財の中から関心のある文化財を選択し、先行研究の成果をふまえた上で現地調査を行い、その報告を行う。						
第15回	第15回 課題発表（2） それぞれが報告する文化財の情報を共有する。						
授業計画 備考2							

評価の方法		
種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な受講態度、講義後のコメントシートへの記入内容によって評価する。
レポート	30	レポートは2つ課す。 1つは、家紋について調査し、字様内容の要点を理解し、整理して記述できているかを評価する。 2つは、道具作りから作陶までの字様内容を整理し、要点をまとめて記述できているかを評価する。 レポートはコメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他	40	現地調査の報告及び、課題内容について口頭発表をする。 発表内容に対応する簡単なディスカッションや提出物により、最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	講義内容の理解と同時に、授業外学習も重要視している。 学外においても、伝統文化を探究するために実際に行動を起こす積極性が必要である。
授業外学習	1 予習として、日本の伝統文化についてアンテナを張り、街歩きをする。 2 復習として、レポートや課題に取り組む。 3 課題発表の準備として、相応の施設等を訪問して情報収集し、発表資料を用意し、発表要点をまとめる。 以上の内容を、平均して週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
社会学で読み解く文化遺産	木村聖聖・森久聡 編	新曜社	978-4-7885-1687-8	2800円+税
日本の伝統&絶景100	朝日新聞出版編集	朝日新聞出版	978-4-02-333914-9	1400円+税
岡山の文化財	臼井洋輔	吉備人出版	4-86069-063-X	2800円+税
工芸とナショナルイズムの近代	木田拓也	吉川弘文館	978-4-642-03835	4800円+税
日本伝統工芸 鑑賞の手引き	公益社団法人 日本工芸会 編	芸神堂	978-4-7538-0187-9	2200円+税

参考書：自由記載	講義時に使用する際は、その都度指示をする。 授業外学習として読み進めておくことを推奨する。
その他	
備考	令和6年度改訂
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	有
担当教員の業務経験	公立高等学校美術・工芸科講師（8年）、私立大学社会人陶芸講座講師（3年）での業務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかに教育内容	学生が工芸制作に必要な技術を体験するため、公立高等学校での陶芸指導（8年）の経験や、大学が開講する社会人陶芸講座での経験（3年）を活かし、手仕事の現在の意義についても考察が広がるよう授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 文化財の体系についての知識を身に付けている。	学修した文化財の体系に関する知識について、正確に適切な言葉で表現することができる。	学修した文化財の体系に関する知識について、具体的な言葉で表現することができる。	学修した文化財の体系に関する知識について、大まかに表現することができる。	学修した文化財の体系に関する知識について、正確に述べることができないが、自分なりに表現しようとしている。	学修した文化財の体系に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	2. 日本の伝統文化の多様さについて理解ができるようになる。	日本の伝統文化は多様であり、伝統文化に携わることは未来を創造する営みでもあることをイメージすることができる。	日本の伝統文化について、多様な領域で様々な人間と自然が結び合ってきたことをイメージすることができる。	日本文化と表象されるものを二つ以上はイメージすることができる。	日本文化と表象されるものを一つはイメージすることができる。	日本の伝統文化の多様さについて、全く言及がない。
思考・問題解決能力	1. 先行研究を踏まえて問いを立てることができる。	先行研究を踏まえて問いを立て、考察した内容を記述することができる。	先行研究の概要を理解した上で、自分の関心に沿った問いを立てることができる。	先行研究の内容に関連して考察した内容を記述することができる。	先行研究の書誌情報を記すことができる。	先行研究についての言及がない。
思考・問題解決能力	2. 問いを立てて調査し、調査内容をレポートや発表資料として作成することができる。	レポートや発表資料作成のための調査を行い、わかりやすくまとめた資料を作成することができる。	レポートや発表資料作成のための調査を行い、必要最低限の情報量の資料を作成することができる。	レポートや発表資料作成のための調査を行い、調査内容の情報を提示することができる。	レポートや発表資料作成のための調査を行っていない。	レポートや発表資料を作成していない。または提出していない。
技能	1. まとめ結びができる。	まとめ結びの構造を理解し、自分で結びことができ、他者に結び方を伝えることができる。	指導者や友人のアドバイスを参考に、自分でまとめ結びができる。	指導者や友人に手伝ってもらったことで、緩いまとめ結びができる。	指導者や友人にほぼ結んでもらった。	まとめ結びができない。
技能	2. 道具を使いやすいように工夫して細工することができる。	指示されたフォルムの道具を制作し、使用しながらこまめに道具を細工し、使いやすいように工夫することができる。	指示されたフォルムの道具を制作し、オリジナルの道具も工夫して制作することができる。	指示されたフォルムに近い道具を制作することができる。	指示されたフォルムとは違うが、道具を加工した。	道具を制作していない。
技能	3. 粘土の特徴を捉え、丁寧に細工することができる。	粘土の特徴を捉え、粘土のコンディションを整えながら、細部まで丁寧に細工を施すことができる。	粘土を加工し、丁寧に細工を施すことができる。	粘土を加工し、一通りの細工ができた。	未完成ではあるが、粘土を加工して造形した。	陶芸制作に取り組んでいない。
態度	1. コメントシートに取り組む。	コメントシートに講義の内容を踏まえたうえでの疑問や課題が記入されている。	コメントシートに講義内容を理解したコメントが記入されている。	コメントシートに講義内容に則したコメントが記入されている。	コメントシートに講義への理解が不十分なコメントが記入されている。	コメントシートを記入していない。または提出していない。
態度	2. 取り組んだ課題の発表	取り組んだ課題をわかりやすく発表し、テーマに沿ったディスカッションをすることができる。	取り組んだ課題をわかりやすく発表し、質疑に回答することができる。	取り組んだ課題を発表し、質疑に回答することができる。	取り組んだ課題を発表したが、質疑に回答することができない。	課題発表をしていない。

科目名	日本の食文化			授業番号	LC117	サブタイトル	
教員	小塚 康弘						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義
							必修・選択
選択							
授業概要	近年、「和食」はユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、国際的な注目を集めている。グローバル社会を生き抜くためには、自国の文化への理解は不可欠である。本講義では、日本の食文化の歴史、特徴、そして現代における課題について、多角的な視点から学ぶ。単に料理の紹介にとどまらず、食文化と社会、環境、経済、技術などの関わりを考察することで、日本の文化への深い理解と国際的な視野を養う。						
到達目標	-外国人に対して、日本食についての自分なりのイメージを伝えることができる。 -なお、本科目はデプロイ前ルーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉および〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	作法に忠つ「和のこころ」を知る(1) 「いただきます」「おかわり」挨拶について考える。						
第2回	作法に忠つ「和のこころ」を知る(2) 「箸」について考える。						
第3回	日本食を形づくる「匠の技」を学ぶ(1) 「米」「巻物料理」について考える。						
第4回	日本食を形づくる「匠の技」を学ぶ(2) いゆゆる「おかず」について考える。						
第5回	日本食を形づくる「匠の技」を学ぶ(3) 「ラーメン」について考える。						
第6回	日本食を形づくる「匠の技」を学ぶ(4) 「日本酒」について考える。						
第7回	和食が秘める「効能」を説明する(1) 「漬物」「梅干し」について考える。						
第8回	和食が秘める「効能」を説明する(2) 「懐石料理」「おとせ」について考える。						
第9回	日本料理を生んだ「ルーツ」を探る(1) 「会席料理」「膳の内弁当」について考える。						
第10回	日本料理を生んだ「ルーツ」を探る(2) 「お好み焼き」「もんじゃ焼き」「たこ焼き」について考える。						
第11回	日本料理を生んだ「ルーツ」を探る(3) 「天ぷら」「しゃぶしゃぶ」「カレーライス」など、海外にルーツのある料理について考える。						
第12回	日本料理を生んだ「ルーツ」を探る(4) 「菓子」について考える。						
第13回	食習慣をくんで「日本人の信仰」に迫る(1) 「お節」について考える。						
第14回	食習慣をくんで「日本人の信仰」に迫る(2) 「出汁」「餅」東西の違いについて考える。						
第15回	食習慣をくんで「日本人の信仰」に迫る(3) 「食べ合わせ」について考える。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
種別	割合	評価基準・その他備考					
授業への取り組みの姿勢/態度							
レポート	20	授業で得た知識・イメージをもとにした、自分なりの日本食のイメージを評価する。提出された課題は各課題ごとの評価基準により採点し、その結果を返却する。					
小テスト	30	授業内容の復習テストにより、知識の定着度・理解度を評価する。提出された課題は採点し、その結果を返却する。					
定期試験	50	全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。					
その他							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べる癖をつけること。
授業外学修	1. 授業内容に関する小テストがあるため、予習・復習をすること 2. 日本食に対するイメージを記載するレポートがあるため、普段の食事に際しても想像を巡らすこと。 3. 全授業終了後に定期試験があるため、その準備をすること 以上の内容を、適当に4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
外国人にも話したくなるビジネスエリートが知っておきたい教養としての日本食	永山久夫	KADOKAWA	9784046043603	1,540円(税込)
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 外国人に対して、日本食についての自分なりのイメージを伝えることができる。	日本食を明確にイメージできる	日本食をイメージできる	日本食を部分的にイメージできる	日本食のイメージが曖昧である	日本食がイメージできない
思考・問題解決能力	1. 外国人に対して、日本食についての自分なりのイメージを伝えることができる。	外国人に日本食を明確に説明できる	外国人に日本食を説明できる	外国人に日本食を部分的に説明できる	外国人に日本食を説明できるが、曖昧である	外国人に日本食を説明できない

科目名	国際関係論		授業番号	LC118	サブタイトル				
教員	井上 あスカ								
単位数	2単位	開講年次	が1年より異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	国際関係論は、なぜ戦争が起こるのかを究明し、どうしたら平和を実現し維持することができるかを追究する学問である。この授業では、日本を取り巻く世界情勢を中心として、緊迫する状況やその地理的・歴史的背景を地図や資料を使って考え、グローバル化する国際社会のゆくえと、日本が直面する諸課題を明らかにする。								
到達目標	過去の戦争と平和に関する国際関係の現実と理論を結びつけ、複雑に変動を続ける現代社会を理解する力を養うことを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	国際関係の考え方 「国際関係論」が扱う内容を理解する。								
第2回	日本を取り巻く国際関係 東アジアの国際関係の現状を知り、その歴史的背景を理解する。								
第3回	日本の安全保障 日本外交の基本と、それが生まれた経緯と現在の課題を理解する。								
第4回	アメリカのリーダーシップ 20世紀以降の世界を動かしてきたアメリカの外交政策とその特徴を理解する。								
第5回	新興国と先進国 20世紀後半に、急成長を遂げた旧植民地各国と、日本を含む先進国の関係を理解する。								
第6回	アジアの域内統合 ASEANを中心に、アジアで進む域内統合の動きとその意義について理解する。								
第7回	EUの実験 経済のみならず、通貨や政治的統合を成し遂げ、さらに模索を続けるEUの目指すものと課題を理解する。								
第8回	発展途上国 依然として経済的に従属的な立場にある各国の現状と課題について理解する。								
第9回	グローバル化とは何か いかにグローバル化が意味する内容を具体的に検討し、私たちの社会にも及んでその影響と課題を理解する。								
第10回	国際主体としての国際機関 国連をはじめとする国際機関の意義とその限界について理解する。								
第11回	国際主体としてのNGO 近年重要性を増すNGOについて具体的に理解し、その役割の大きさと、今後の展望を考える。								
第12回	二一世紀の課題 気候変動や資源の競争、テロや難民といった全世界的な問題について、当事者意識をもって理解する。								
第13回	日本の課題 日本の国際的な位置づけを理解し、今後のわたしたちが考えるべき論点を整理する。								
第14回	受講生による発表1 各自が国際関係論に関わりのある書籍もしくは論文を選び、内容について紹介し、批評する発表を行う。 一人の発表の持ち時間は受講生の人数によって採分する。								
第15回	受講生による発表2 各自が国際関係論に関わりのある書籍もしくは論文を選び、内容について紹介し、批評する発表を行う。 一人の発表の持ち時間は受講生の人数によって採分する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その態備考						
	授業への取り組みの姿勢 / 態度	30	受講態度、質疑応答への参加によって評価する。						
	コメントシート	30	毎回の授業内容について、十分かつ内容のあるコメントシートを提出する。						
	その他	40	学期末に、各自、国際関係に関する任意の文献(書籍・論文)を選んで読み、授業で口頭発表する。						

評価の方法：自由記載	コメントシートは毎回の講義内容を理解し、自ら考えたことを記載する。 第14回と第15回の授業で、各自任意の書籍を選んでよく読み、内容の紹介・批評を行う。このプレゼンテーションは単位取得の必須要件になる。
受講の心得	授業で使用するテキスト、配布資料を理解し、事柄を説明する態度を養う。 テキストの予・復習、参考文献の参照、コメントシートの提出等を通じて授業へ主体的に参加すること。
授業外学習	予習として、教科書の授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 授業中に説明した内容を参考文献を活用して復習し、理解を深める。 日常的に関連する内容についてニュース、新聞、インターネット情報に注目すること。 以上の内容を、適当に94時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
地図で読む「国際関係」入門	眞 淳平	筑摩書房	978-4480689436	900円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	その他、授業の中で適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	1996年4月から1998年3月まで、外務省の専門調査員として在バクスタン日本国大使館に勤務し、国内政治情勢の調査とODAによるNGO支援資金を担当した。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	外交の現場でバクスタン政府関係者、各国の外交官、およびNGO関係者と交流し、意見交換の中で、国際政治、国際関係に関わる多様な知見を獲得した。これを生かして教科書に示されている様々な事象について、具体的にかつ実際の説明を行う。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 国際社会の構造を理解する	授業の内容を理解し、書くことができる	基礎的な内容を理解し、書くことができる	基礎的な内容を概ね理解して、書くことができる	基礎的な内容について不正確な表現もあるが、自分なりの意見を書ける	基礎的な内容についてほとんど書くことができない
知識・理解	2. 主権国家の成り立ちを歴史的に理解する	主権国家の成り立ちを歴史的に理解し、書くことができる	基礎的な内容を理解し、書くことができる	基礎的な内容を概ね理解して、書くことができる	基礎的な内容について不正確な表現もあるが、自分なりの意見を書ける	基礎的な内容についてほとんど書くことができない
知識・理解	3. 現在の国際紛争を知る	国際紛争に関心を持ち自ら問題意識を発展させ表現できる	国際紛争の基礎的な内容を理解し問題意識を表現できる	国際紛争の基礎的な内容を概ね理解する	国際紛争の基礎的な内容について理解する	基礎的な内容についてほとんど理解できない
思考・問題解決能力	1. 世界の紛争に関心を持つ	主体的に国際紛争について探究し、自らの問題意識を発展させ文章で表すことができる	基礎的な内容を理解し、書くことができる	基礎的な内容を概ね理解して、書くことができる	基礎的な内容について不正確な表現もあるが、自分なりの意見を書ける	基礎的な内容についてほとんど書くことができない
思考・問題解決能力	2. 紛争の原因を考察し、問題を理解する	具体的な紛争について探究し原因や現状とともに解決の方向性を建設的に表現できる	具体的な紛争について探究し基礎的な点を理解できる	具体的な紛争について探究し概要を理解している	具体的な紛争について不正確な点を含みながら概要を理解している	具体的な紛争について適切な認識を持っていない
思考・問題解決能力	3. 意見の異なる相手への想像力を持つ	世界での紛争や対立を十分に理解し、人々の痛みを想像すること、表現することができる	世界の紛争や対立について基礎的な内容を理解し、想像力を持って表現することができる	世界の紛争や対立について概要を理解し、想像力を働かせようと努力する	世界の紛争や対立について不正確な理解や表現もあるが、自分なりの意見を書ける	世界の紛争や対立について基礎的な内容についてほとんど書くことができない
技能	1. 本に書かれている内容を適切に読み取る	本や論文の内容を十分かつ批判的に理解し書くことができる	基礎的な内容を理解し、書くことができる	基礎的な内容を概ね理解し、要旨を書くことができる	基礎的な内容について不正確な部分もあるが自分なりに要旨を書くことができる	基礎的な内容についてほとんど要旨を書くことができない
技能	2. 人の話を聞いて理解し自分の意見を言える	発表を聞いて意見や質問を発言できる	基礎的な内容を理解し、書くことができる	基礎的な内容を概ね理解して、書くことができる	基礎的な内容について不正確な部分もあるが、自分なりの意見を書ける	基礎的な内容についてほとんど書くことができない
技能	3. 自分の意見を適切にまとめ文章で表現できる	発表を聞いて適切な意見や質問を述べた文章で書いたりできる	発表を聞いて、意見もしくは質問を文章でかける	発表を聞いて概ね主旨を理解して、意見を書くことができる	発表を聞いて不正確な部分もあるが、自分なりの意見を書ける	発表の内容について意見を書くことができない
態度	1. 授業後のコメントシートに適切なコメントを書く	授業内容を理解し発展的に自分の意見を書ける	授業内容を理解している	授業内容を概ね理解している	授業内容について不正確な部分もありながら理解している	授業内容に関心がなく理解しようとしていない

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	総合英語		授業番号	LC119	サブタイトル	(英語で岡山を楽しみながら学ぶ)			
教員	藤代 昇文								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	本市の立地する岡山県の観光地、文化、習慣などについて、外国人に岡山を紹介する英語の対話文を扱い、英語の読解力を高めると同時に岡山についての理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ、最終的には、自ら素材を選んで紹介文を書き、簡単な英語で発表できる力の養成を目指す。英語の四技能（読む、聞く、書く、話す）を総合的に高めるを目指す。								
到達目標	・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。 ・対話でよく使われる英語表現を実際にも用いることができる。 ・岡山の観光・文化等について知識を得ることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	1-1-1 New Year's Day 英語の5文型の確認及び疑問文、進行形について理解する。 大晦日から新年を迎える際の会話表現やことわざを理解する。 吉備津守社への初詣について知る。								
第2回	1-1-2 Welcome to Okayama 過去時形の確認及び否定形について理解する。 空港で留学生を出迎える際の会話表現を理解する。 岡山空港や海外との時差について知る。								
第3回	1-1-3 Okayama City 現在完了形の使い方について理解する。 「～してはどうか」と提案する際の会話表現を理解する。 貸出自転車「ももちや」について知る。								
第4回	1-1-4 At Korakuen 付加疑問文の作り方について理解する。 one, the other, some, others, the othersの用法と目的語に動名詞か動詞を添えて理解する。 岡山市内の貸出自転車「ももちや」について知る。								
第5回	1-2-1 Hofukuji and Sesshu 動名詞と受動形の確認及び使い方について理解する。 付帯状況with + 目的語 + -ingの用法を理解する。 幸福寺の雷の物語について知る。								
第6回	1-2-2 Kibiji District 他人を案内する際の指示の仕方について理解する。 think of A as Bの意味と用法を理解する。 吉備路と国分寺について知る。								
第7回	1-2-3 At Shin-Kurashiki Station 助動詞mustと関係副詞の非制限用法について理解する。 否定の疑問文とその受け答え方を理解する。 吉備路と国分寺について知る。								
第8回	1-2-4 Ohara Museum of Art 過去の受動形と受動文の作り方について理解する。 第5文型の変態形を理解する。 倉敷美観地区と大原美術館について知る。								
第9回	1-3-1 Hiruzen Heights及び別荘施設 関係代名詞の使い方について理解する。 as far as ~ canの表現と用法を理解する。 岡山高原について知る。								
第10回	1-3-2 A Trip to Inujima asの使い方について理解する。 「～しましょう」と誘う際の表現を理解する。 瀬戸内海の犬島と精進寺の歴史について知る。								
第11回	1-3-3 A One-day Trip to Kibitsu Shrine may have 過去分詞の使い方について理解する。 Can you do me a favor? などの表現を理解する。 瀬戸内海の犬島と精進寺の歴史について知る。								
第12回	1-3-4 A Visit to the Yumeji Art Museum 関係副詞where/when/withの使い方について理解する。 「～時代」についての表現を理解する。 竹久夢二と夢二郷土美術館について知る。								
第13回	1-3-5 Yunogo Hot Springs 動名詞や仮主語と真正主語について理解する。 Howを用いた簡単な表現を理解する。 湯郷温泉について知る。								
第14回	2-1-1 At Suzuki's House 1 過去分詞の前方置きについて理解する。 日本文化を紹介する際の表現を理解する。 日本と海外の文化の違いについて知る。								
第15回	2-1-2 At Suzuki's House 2 及び別荘施設 how to ~を用いた表現について理解する。 日本文化を紹介する際の表現を理解する。 日本と海外の文化の違いについて知る。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。						
	レポート	20	課題のテーマについて調査し、整理・分析し、具体的なかつ適切にまとめるかを評価する。 課題提出後の授業で、グループワークを通して発表及び相互評価を行い、内容についてコメントし、フィードバックを行う。						
	小テスト	40	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期、期末に授業内容の理解度を評価する。						
	定期試験								
	その他	10	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を心がけ、辞書や資料等で調べなど自主的な学習に努めること。 授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。
授業外学修	1 テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。 2 毎回前時の授業内容について的小テストを実施するで2時間以上復習しておくこと。 3 課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂新版 岡山から「ハロー」	岡山ロ-バル英語研究会	山陽新聞社	978-4881977590	1100
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	県情報教育センター(3年)-県総合教育センター(4年)-県立高等学校英語科教諭(17年)			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	高校の学校現場に勤務し、英語科の指導に当たった経験から、学生のニーズを的確に把握し、わかりやすい解説や指導をすることができる。また、大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また、県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として、教職員の研修や指導業務に当たった経験から、ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。	英語の基礎的な文法に則って、一定量の英文を読んだり、聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで90%以上得点することができる。	英語の基礎的な文法に則って、短い英文を読んだり、聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで80%程度得点することができる。	短い英文を読んだり、聞いたりしておおむその内容を理解することができる。到達度テストで70%程度得点することができる。	英語の基礎的な文法は理解しているものの、短い英文を読んだり、聞いたりしても内容を理解することが困難である。到達度テストで60%程度の得点である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で、短い英文を読んだり、聞いたりしても内容を理解することができない。到達度テストで50%未満の得点である。
知識・理解	2. 対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。	既習の英単語や英語表現を自由に用いて、相手と話したり、文章を書いたりして、自らの意志を伝えることができる。	テキストで用いられている英語表現を応用して、相手と話したり、短い文章を書いたりして、自らの意志を伝えることができる。	テキストで用いられている英語表現を用いて、相手と対話を口頭で再現したり、書いたりすることができる。	テキストで用いられている英語表現を用いて、相手と音読対話練習することはできるが、十分に理解し応用することはできない。	テキストで用いられている英語表現を音読することが難しく、対話練習することも困難である。
知識・理解	3. 岡山の観光・文化等について知識を得ることができる。	テキストでテーマとなっている岡山の文化や観光名所について理解し、自ら調べ、英文で紹介したり、発表することができる。	テキストでテーマとなっている岡山の文化や観光名所について理解し、まとめることができる。	テキストでテーマとなっている岡山の文化や観光名所について、講義を通して関心をもって議論することができる。	テキストの英文の内容の理解にとどまり、テーマとなっている岡山の文化や観光名所について自ら知ろうとしない。	テキストの英文内容のみならず、テーマとなっている岡山の文化や観光名所について、全く関心を持たない。

科目名	データサイエンス入門	授業番号	LC201	サブタイトル	
教員	梶西 将司				
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期
授業形態	講義	必修・選択	必修		
授業概要	データサイエンスは、私たちの身の回りの様々な場面で活用されている。近年は特に、データサイエンスの知識や考え方をを持った人が必要とされている。データサイエンスによって得られた数値に隠された本当の意味を知ることがとても重要なことである。本授業では、データサイエンスで利用されているいくつかの分析手法に触れ、基礎知識や簡単な分析手法を身につけることを目指す。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスの重要性を知り、身の回りで活用されていることを実感できる。 データサイエンスの知識を利用し、身の回りに溢れている数値の持つ真の意味について考えることができ、自らの力で判断ができるようになる。 データサイエンスの分野で利用されている簡単なデータ分析を行うことができる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学上カの内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	データサイエンスについて データサイエンスの具体例や考え方について説明する				
第2回	PPDACサイクルについて データサイエンスの一連の流れとデータの可視化とその用途について理解する				
第3回	度数分布表とヒストグラム 平均やデータの散らばり具合の統計量である標準偏差の考え方について理解する				
第4回	標準偏差の活用事例 統計学でも有名な正規分布を例に分布の考え方について説明する				
第5回	推測統計（仮説検定・区間推定）について 推測統計の概要及び、身近な例について考える				
第6回	母集団・母平均・母標準偏差・標本平均 推測統計の基本的な考え方である母集団と標本について理解する				
第7回	標本平均を使った母集団の区間推定 正規分布の考え方をを使い、母集団の平均を幅をもって推測できるようになる				
第8回	標本分散とカイ二乗分布、母分散の推定 カイ二乗分布の性質を理解でき、母分散について幅をもって推測できるようになる				
第9回	標本分散と比例する統計量の作り方 統計量の作り方を理解し、算出できる				
第10回	母平均が未知の正規母集団を区間推定 母平均が分からない場合の推定方法を理解できる				
第11回	t分布による区間推定 t分布の用途を理解でき、その分布を用いて区間推定ができる				
第12回	相関係数について 2変数の関係を数値的に表す相関係数について理解し、算出できる				
第13回	総合演習 これまでの学習内容の確認を行う				
第14回	分析事例(1) データサイエンスでよく使われる解析方法とその解釈を理解できる（クラスター分析、決定木、回帰分析）				
第15回	分析事例(2) 専門的なデータサイエンスの解析方法とその解釈を理解できる（空間データ分析、画像認識）				
授業計画 備考2					
評価の方法					
種別	割合	評価基準・その他備考			
授業への取り組みの姿勢/態度	40	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。			
レポート	40	2~3回程度のレポート課題を課す。classroomを利用し、評価をフィードバックする。			
小テスト	20	2回程度の小テストを行う。実施は事前にアナウンスする。実施後、必要に応じて、小テストを返却しフィードバックする。			
定期試験					
その他					

評価の方法：自由記載	
受講の心得	データサイエンスについて知り、身の回りに溢れている数値に隠された意味を自らの力で考え、判断できる力を身に付けてほしい。また、データサイエンスの手法について学び、データ解析で得られた結果を解釈する楽しさを知ってほしい。授業に関してはテキストや配布資料を利用し授業の復習・予習を行い、講義内容をしっかりと理解できるように努めてほしい。
授業外学習	1 予習として、配布資料やテキストを読み、次回の授業内容に関わる部分を整理しておく。 2 復習として、学習した内容を整理し、課題レポートをする。 3 発展学習として、授業で紹介された内容について自ら調べる。 以上の内容を、適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
統計学入門	小島寛之	ダイヤモンド社	978-4-478-82009-4	1800
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	無			
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学士力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. データサイエンスの重要性について理解できる	日常生活で活用されているデータサイエンスの技術を理解できている	データサイエンスの技術について理解し、一部利用できる	身の回りにあるデータやグラフなど、データサイエンスが活用されていることを予測できる	データサイエンスについて理解できているが、日常生活に活用されていることが分らない	データサイエンスについて理解できておらず、どのような場面で活用されているか分からない
知識・理解	2. データの可視化の重要性について理解できる	データの可視化の重要性について理解できている。また、グラフ作成の手順が把握できている。実際に作成することができる。	データの可視化の重要性について理解できている。また、実際に作成することができる。	データから可視化の用途別にグラフを作成できる	データ可視化の重要性を理解できていないが、グラフを作成することができる	データ可視化の重要性を理解できておらず、グラフを作成することができない
知識・理解	3. 推測統計について理解できる	推測統計について理解し、課題に応じて推定と検定の統計量を正しく算出できる	推測統計についてある程度理解し、推定と検定の統計量を算出できる	推測統計の概要が理解でき、推定と検定の統計量を算出できる	推測統計の概要を理解できていないが、推定と検定の統計量を計算により算出できる	推測統計について理解できておらず、統計量を算出できない
思考・問題解決能力	1. データから統計量を算出し評価できる	データに応じて必要な統計量を選択することができ、算出された統計量を正しく評価できる	データに応じて必要な統計量を選択することができ、統計量を算出できる	データから統計量を算出できる	統計量の種類や用途を理解できていないが、算出はできる	統計量の種類や用途が分からず、算出できない
思考・問題解決能力	2. グラフや表を用いて全体像を把握できる	データに応じて適切なグラフや表を選択し、作成・評価ができる	データに応じて適切なグラフや表を選択し、作成できる	データからグラフや表を作成することができる	グラフの種類や用途を理解できていないが、作成できる	グラフの種類や用途が分からず、作成できない
思考・問題解決能力	3. 区間推定の活用し、課題を解決できる	課題に応じて、区間推定の手法を選択し、統計量を算出できる。また、結果を正しく判断し評価できる。	課題に応じて、区間推定の手法を選択し、統計量を算出できる。また、結果から結論を考察できる	区間推定の手法を理解し、統計量を算出できる	区間推定の手法について理解しているが、統計量を算出できない	区間推定の手法について理解できておらず、統計量を算出することができない
技能	1. 基本統計量の算出ができる	基本統計量の用途と特徴を十分に理解し、実際に計算により算出することができる。	基本統計量の用途と特徴を理解し、計算により算出することができる。	基本統計量について理解し、実際に算出することができる。	基本統計量について理解できているが、算出はできない。	基本統計量について理解できておらず、算出できない。
技能	2. 正規分布表を活用できる	正規分布表の仕組みを十分に理解し、実際に問題の中で使用し、正しく確率を求めることができる。	正規分布表の仕組みを理解し、実際に使用でき、正しく確率を求めることができる。	正規分布表について理解できており、問題に応じて正しく確率を求めることができる。	正規分布表について理解できていないが、表を用いて確率を求めることができる。	正規分布表について理解できておらず、確率を求めることもできない。
技能	3. 信頼区間を求めることができる	信頼区間の種類や手法を十分に理解できており、問題に応じて自らの力で信頼区間を算出できる。	信頼区間の種類や手法を理解できており、問題に応じて信頼区間を算出できる。	信頼区間について理解できており、実際に信頼区間を算出できる。	信頼区間について十分な理解できていないが、信頼区間を算出することができる。	信頼区間について理解できておらず、算出することもできない。

科目名	社会調査の基礎			授業番号	LC203	サブタイトル	
教員	梶西 将司						
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義
							必修・選択
選択							
授業概要	<p>本授業では、社会調査を本格的に学ぶ学生を対象に、社会調査の意義・背景・方法に関わる基本的知識を解説する。授業では、さまざまな社会調査の手法やデータ収集・分析のプロセス、社会調査の事例などを紹介する。また、統計解析アプリケーションRを用いて、実際にデータ解析を行い、その解釈を行う。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> -社会調査について理解できている。 -対象や状況に応じた調査票が作成できる。 -得られたデータからデータ解析が行える。 -統計解析アプリケーションRを用いて解析が行える。また、その結果を解釈することができる。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。</p>						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	社会調査とは 社会調査の概要について理解でき、社会における具体例を説明できる						
第2回	社会調査の種類 社会調査の種類やその方法を説明する						
第3回	調査のプロセスとデザイン 社会調査のプロセスやデザインを考える上で必要な事項を理解できる						
第4回	調査の方法と調査票の作成方法 実際の調査票を確認しながら作成方法を説明する 調査票を作成する際に必要な考え方を理解できる						
第5回	サンプリングの方法 サンプリングの種類や方法、無作為抽出(ランダムサンプリング)について理解できる						
第6回	調査の実施 実際に社会調査を実施する際に必要な留意事項を知り、準備・実施・集計・分析・管理の流れを理解できる						
第7回	データの基礎的統計 調査で集計したデータを要約する統計的手法を理解でき、実際に計算できる						
第8回	統計的推測 調査で得られたデータを標本とし、母集団を推測する方法を理解できる						
第9回	変数間の関連 2変数間の関連を数値的に表現できる相関係数について理解でき、因果関係との違いを説明できる						
第10回	調査倫理とデータの管理 社会調査を実施する上で必要な倫理とデータの管理方法を理解できる						
第11回	総合演習 これまでの内容の確認を行う						
第12回	アプリケーションを活用した調査票の作成 実際に調査票(アンケート)を作成できる						
第13回	集計結果の見方・分析方法 調査票により集計したデータを管理、分析することができる						
第14回	Rを使用したデータ処理と統計分析 プログラムにより少し複雑な分析ができる						
第15回	社会調査の具体例 実際に実施されている社会調査を調べ、その内容や方法からどのような集計・分析が可能か説明する						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。				
	レポート	30	2~3回程度のレポート課題を課す。classroomを利用し、評価をフィードバックする。				
	小テスト	20	2回程度の小テストを行う。実施は事前にアナウンスする。実施後、必要に応じて小テストを返却しフィードバックする。				
	定期試験						
	その他						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	社会調査の重要性を知ってもらいたい。また、得られたデータからデータ解析を行い、結果を解釈することで新たな発見があることを知ってもらい、またその楽しさを実感してもらいたい。
授業外学習	1 予習として、配布資料やテキストを読み、次回の授業内容に関わる部分を整理しておく。 2 復習として、学習した内容を整理し、課題レポートをする。 3 発展学習として、授業で紹介された内容について自ら調べる。 以上の内容を、適当に94時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
入門・社会調査法	編：轟亮・杉野勇	法律文化社	978-589-03817-3	2500円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
フィールド分析法	編：守屋和幸 著：村上隆平	共立出版	978-4-320-00604-1	3850円
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 社会調査の重要性について理解できる	社会調査の重要性と意義を理解し、実社会で利用される場面を具体的に説明できる。	社会調査の重要性を理解し、実社会で利用される場面を具体的に説明できる。	社会調査の重要性を理解し、実社会で利用される場面を想像できる。	社会調査の重要性を理解している。	社会調査の重要性が理解できておらず、具体的な場面も分かっていない。
知識・理解	2. 社会調査の種類や方法を理解できる	社会調査の種類や方法、それらの特徴を理解し、メリットとデメリットを説明できる。	社会調査の種類や方法を理解し、メリットとデメリットを説明できる。	社会調査の種類や方法を理解できている。	社会調査の基本的な種類を一部理解している。	社会調査の種類や方法を理解できていない。
知識・理解	3. 統計的手法の使用例や結果の解釈ができる	データに応じた必要な分析が理解でき、基本的なデータ分析の結果に対して、解釈することができる。	いくつかのデータ分析手法を理解しており、基本的なデータ分析の結果に対して、解釈することができる。	いくつかのデータ分析手法を理解しており、基本的なデータ分析の結果を読み取ることができる。	いくつかのデータ分析手法を理解している。	データ分析の手法を理解できておらず、結果の解釈もできない。
思考・問題解決能力	1. 社会調査の枠組みを考慮することができる	調査の目的に応じて社会調査の枠組みを考慮ことができ、実査に向けて必要な要点を理解できている。	社会調査の枠組みを考慮ことができ、実査に向けて必要な要点を理解できている。	社会調査の枠組みを考慮することができる。	調査の枠組みを理解できていないが、必要な工程を一部理解できている。	調査の枠組みを理解できていない。
思考・問題解決能力	2. 社会調査の問題について理解し、解決・防止策を考慮することができる	社会調査の実査において、生じる問題点を調査者・対象者それぞれの観点から理解し、その防止策を講じることができる。	社会調査の実査において、生じる問題点を理解し、その防止策を講じることができる。	社会調査の実査において、生じる問題点を理解できている。	社会調査の実査において問題が生じることは理解できている。	社会調査の実査において、どのような問題が生じるのか理解できていない。
思考・問題解決能力	3. データ分析の手法を理解し、実際に適用できる	データから明らかにしたい事柄を定めることができ、そのために必要な分析手法を選択し、実際に計算できる。	データから大まかな分析目的を定め、そのために必要な分析手法を選択し、実際に計算できる。	いくつかの主要な分析手法を選択し、実際に計算できる。	自らデータ分析手法を選択できないが、算出はできる。	分析手法を選択することも実際に算出することもできない。
技能	1. 調査票を作成することができる	調査目的に応じた簡単な調査票を作成ことができ、効果的な質問項目の設定ができている。また、作成の留意点も考慮できている。	調査目的に応じた簡単な調査票を作成ことができ、作成の留意点も考慮できている。	調査目的に応じた簡単な調査票を作成することができる。	簡単な調査票を作成することができる。	簡単な調査票を作成できない。
技能	2. データの整理ができる	収集されたデータに対して、有効票と無効票の判断ができ、分析可能なデータに整理できる。またコード化をすることができる。	収集されたデータに対して、有効票と無効票の判断ができ、分析可能なデータに整理できる。	収集されたデータに対して、分析可能なデータに整理できる。	収集されたデータに対して、一部データの整理ができる。	データを整理できない。
技能	3. Excelを用いて適切な分析ができる	Excelを用いて、データに応じた分析を適切に判断し、適用することができ、その結果を解釈することができる。	Excelを用いて、データに応じた分析を適用することができ、その結果を解釈することができる。	Excelを用いて、データに応じた分析を適用することができる。	Excelを用いて基礎的なデータ分析を行うことができる。	Excelを用いてデータ分析を行うことができない。

科目名	金融論入門			授業番号	LC204	サブタイトル	
教員	三好 秀和						
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義
							必修・選択
授業概要	テキストを利用して授業を進める。テキストの構成はテーマごとに【ストーリー】で主人公にかかわる会社での出来事が上司、部下、同僚や友人、恩師とのかわりの中で会話形式で書かれている。このテーマである課題にあたりながら解決するかを考える。そして主人公の【解決策】が次に書かれているので、自己の回答と比較すること。もし、解決策が自分がかつた用語などで目立つら解決策を読み進める。【論点解説】を先に読んで用語の定義や使い方を確認すること。それでも解決策が分からないとき、【解決策】を読み進めること。もし授業でテーマ【解決策】について議論する。解決策は1つではないかもしれない。解決策にとらわれないでオープンな議論を期待する。今回の学習を通じて、企業にどんな課題があり経営者はどんな課題に悩んでいるのか、そして、金融がどのように関わっているのかを知ることができる。						
到達目標	金融は金融機関だけで成り立つものではない。金融の仕組みが長く存続しているのは利用者である企業や個人にとって必要性があるからである。そこで、企業に焦点をあてその事業活動の中でどのように金融が関わっているか、そのシーンを材料に金融業界(銀行・証券・保険)の講義をする。特に、銀行・証券会社に就職を希望する学生にとって顧客である企業の立場に立てることができるので、将来の銀行、証券会社のあるべき姿を創造する力を身に付けることができる。なお、本科目はデブプロマシナリーに掲げた学生力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献することになる。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	ガイダンス 企業と金融のかかわりの全体像を理解する。 付録1 講義録 p(1)-(18) B/S, P/L, Debt Equity Swap, ROE, ROA.						
第2回	どうしてわが社の株価は低迷しているのか 1 第1章 p18-36 株価の急激な変化は何か、PERと期待収益率、PERの活用方法						
第3回	どうしてわが社の株価は低迷しているのか 2 第1章 p18-36 P E Rと期待収益率/PERをどう活用するか						
第4回	「プライム落ち」は逃れたが、東証の市場再編問題 1 第2章 p37-52 東証再編とプライム市場						
第5回	「プライム落ち」は逃れたが、東証の市場再編問題 2 第2章 p37-52 流通株式数/単位(売買単位)/時価総額						
第6回	「プライム落ち」は逃れたが、東証の市場再編問題 3 第2章 p37-52 スチュワードシップとコーポレートガバナンスコードとは何か。						
第7回	物産主株主にどう対処するかーアクティビスト・ファンド対策 1 第3章 p53-68 CIOの役割						
第8回	物産主株主にどう対処するかーアクティビスト・ファンド対策 2 第3章 p53-68 総会招集請求権と株主の権利						
第9回	物産主株主にどう対処するかーアクティビスト・ファンド対策 3 第3章 p53-68 検査役 東芝の混乱を考える						
第10回	資本コストの導入は可能か 1 第3章 p53-68 資本コスト、ハードレフト、WACC						
第11回	ポストM&Aを意図しなければ失敗するぞ 1 第5章p83-100 M&Aとは						
第12回	ポストM&Aを意図しなければ失敗するぞ 2 第5章p83-100 会社の価値はどのように計算するの、M & Aの帰回を理解すればより深まる						
第13回	ポストM&Aを意図しなければ失敗するぞ 3 第5章p83-100 長期的なM & Aとは？、M & Aの成立までのプロセスとは？						
第14回	市場からの資金調達 現在の金融証券市場の状況 第7章 p112-123 リスクと買しはなし、信用保証付き貸付						
第15回	レポートの書き方、文章で意思を伝えるための方法、ルールを学ぶ。						
授業計画 備考2							

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	50	意欲的な受講態度、フィードバックへの参加、予習復習状況によって評価する。出席しているだけでは評価しない。良い発言には加点を。
レポート	50	レポートの書き方の基準に合っているか。論理が明快であるかどうか。発想力や新規性に優れているか。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	企業に就職し成長させていくには金融機関とのかわりはない。
授業外学修	テキストの【ストーリー】を事前に読んで、自分なりの解決策を考えてみて下さい。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ストーリーで学ぶCFO入門講座	三好秀和	同友館	978-4-496-05640-6	1,980円(税込)
使用テキスト：自由記載	授業で利用するので必須となります。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
3年で退職しないための就活読本	三好秀和・佐々木一雄	同友館	978-4496052576	1760
『銀行・証券・保険業界のビジネスモデルで学ぶ 金融キャリアの教科書』	三好秀和	経済法令研究会	978-4-7668-3346-1	1430

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	有
担当教員の業務経験	生命保険会社(15年)、資産運用会社の勤務経験(5年)、金融システムの業務経験(6年)がある。日本FP学会理事(17年)。FPはファイナンシャルプランナーのことです。
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	生命保険会社、資産運用会社、トレーダーの経験があるや京都大学の資金運用アドバイザーでは証券金融市場に当たっています。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学土力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 金融機関の機能を企業の立場で理解できている。	資金調達だけでなく従業員の福利厚生、リスク管理の観点で金融の役割を理解している。	資金調達として銀行と証券会社の役目を理解している。	銀行による貸し出しと証券会社による増資・上場支援など資金調達を理解している。	銀行による貸し出しは理解できるが証券会社による増資・上場支援など資金調達は理解していない。	どうして企業にとって金融機関が大切か理解できない。
知識・理解	2. 会社と株主の関係を理解できる。	東芝が上場廃止になった理由を説明できる。	アクティビストがどのように行動原理で企業に反対しているか理解できる。	アクティビストとは何か説明できる。	アクティビストは知っているが説明できない。	アクティビストとは何か説明できない。
知識・理解	3. 新しい金融機関の役割としてM&A支援があることを理解している。	大手証券会社のみならず地方銀行もM&Aビジネスに乗り出している理由を説明できる。	M&Aビジネスの必要性を企業の立場に立って説明できる。	M&Aビジネスのスキームを説明できる。	M&Aとは何か説明できる。	M&Aを説明できない。
思考・問題解決能力	1. 株債が企業にとってもたらす意味を説明できる。	3つの視点(企業買収と株式交換の視点、買収防衛策の視点、財産価値の視点)で具体的に説明できる。	3つの視点(企業買収と株式交換の視点、買収防衛策の視点、財産価値の視点)で説明できる。	3つの視点(企業買収と株式交換の視点、買収防衛策の視点、財産価値の視点)で十分な説明できない。	3つの視点(企業買収と株式交換の視点、買収防衛策の視点、財産価値の視点)に気が付かない。	株債の意義を説明できない。
思考・問題解決能力	2. 銀行の現状と将来性について説明できる。	金利の影響と銀行の業績を説明できる。さらに低金利下での今日、手数料ビジネスを拡張していることを具体的に説明できる。	金利の影響と銀行の業績を説明できる。さらに低金利下での今日、手数料ビジネスを拡張していることを説明できる。	間接金融だけではなく手数料ビジネスを説明できる。	間接金融だけではなく手数料ビジネスを説明できない。	間接金融の説明できない。
思考・問題解決能力	3. 株債と企業業績の関係を説明できる。	株債と企業業績の関係を具体的にパーフェクションの観点から説明できる。	株債と企業業績の関係をパーフェクションの観点から説明できる。	PER, PBR, EPS, BPSの計算ができ説明ができる。	PER, PBR, EPS, BPSの計算ができない。	PER, PBR, EPS, BPSの説明ができない。

科目名	観光英語 A		授業番号	LC205	サブタイトル				
教員	佐々木 真帆英								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では、海外を旅行する際、誰かを海外に連れて旅をする際に必要な知識と観光英語を学ぶ。言語を習得するには、繰り返し聴き、話すことが必要となるが、授業中に観光で想定される場面で会話練習の機会を増やすためにも、テキストを用いた予習は必須である。英語で国内外の観光地を紹介する練習として、定期的なプレゼンテーションを実施する。中間・期末試験には、プレゼンテーションで取り上げられた国内外の観光地に関する問題も含まれる。								
到達目標	本講義では、観光に関連したテーマを扱ったテキストを用いて、実用的な語彙の増強を図りつつ、日常的な会話表現を含んだ実践的な英語表現を学ぶ。英語によるコミュニケーション能力の向上を目指すと同時に、観光に関連したテーマの語彙・表現、背景となる海外の旅行地理などを学び、定期的な小テストで学力定着を確認することで「観光英語検定」対策も併せて行う。海外での旅行・観光の際に想定される様々な場面において、英語での円滑なコミュニケーションができるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	ツーリズム・イングリッシュとは？ 観光英語と旅行地理の必要性								
第2回	Unit 1 Travel 旅行の計画を立てる際の英語表現と語彙を学ぶ。								
第3回	Unit 2 Jobs and People 観光業に関する職種とその業務内容を英語で学ぶ。								
第4回	Unit 3 Getting on the Plane 飛行機に搭乗する際の英語表現と語彙を学ぶ。								
第5回	Unit 4 At the Immigration and Customs 出入国管理と税関で行われる手続きとその際に使われる英語表現と語彙を学ぶ。								
第6回	Unit 5 At the Airport 空港内の施設に関連した英語表現と語彙を学ぶ。								
第7回	Unit 6 Hotel(Accommodations) ホテルでのチェックインやチェックアウト時に使われる英語表現と語彙を学ぶ。								
第8回	観光英検にチャレンジ(1) Unit 1～Unit 6に関する観光英検の問題に挑戦する。								
第9回	Unit 7 Restaurant(Breakfast and Fast Food) レストランで注文をする際の英語表現と語彙を学ぶ。								
第10回	Unit 8 Sightseeing 観光ツアーに申込み際に使われる英語表現と語彙を学ぶ。								
第11回	Unit 9 Shopping ショッピングの際に使われる会話表現と語彙を学ぶ。								
第12回	Unit 10 Transportation 交通機関を利用する際に使われる会話表現と語彙を学ぶ。								
第13回	Unit 11 Problems and Complaints 海外旅行で起こりうる問題と苦情を訴える表現と語彙を学ぶ。								
第14回	Additional Unit Traveling in Japan 日本国内の旅行について英語で説明をする。								
第15回	観光英検にチャレンジ(2) Unit 7～Additional Unitに関する観光英検の問題に挑戦する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢 / 態度	20	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。							
レポート									
小テスト	20	毎授業開始時に前回の授業内容に関して小テストを行う。小テストで観光英語の理解度を評価する。							
定期試験	40	中間・期末に授業内容と国内外の観光地に関する知識の理解度を評価する。							
その他	20	国内外の観光地に関するプレゼンにより評価。課題のテーマについて調べ適切にまとめ、わかりやすい発表を行うこと。発表のフィードバックは授業時に全体に対して行う。							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	再読となる国内外の地理、歴史などに関する知識が必要となるので、日頃から知識獲得に努めること。
授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 予習として、テキストを読み、授業内容にかかわる部分の疑問点を明らかにする。 復習として、英語および観光の知識として不十分な部分を調べて補強する。調べてもわからない箇所は次の授業時に教員に質問をする。 発展学習として、テキストに出てきた国や地域について調べる。 以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
CD付 ステップアップ観光英語 Basic	観光英検センター	三修社	978-4-384-33437-1	2,000円+税
使用テキスト：自由記載	テキストの使用に加えて適宜プリントも配布する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業で随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無				
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 観光に関する英語の語彙や英語表現を理解している	観光に関する英語の語彙や表現のニュアンスをしっかりと理解し、それを他の場面でも応用して使用することができる。	観光に関する英語の語彙や表現を理解し、例によって自分で使用することができる。	観光に関する英語の語彙や表現の意味を覚えている。	観光に関する英語の語彙や表現の意味を一部覚えているが、理解できていない語彙や表現がある。	観光に関する英語の語彙や表現の意味を理解していない。
知識・理解	2. 観光に関する英文を読解することができる。	観光に関する英文を読んで理解し、それを基に自らの意見を持ち、ディスカッションすることができる。	観光に関する英文を読んで理解し、それを基に自らの意見を持つことができる。	観光に関する英文を読んで理解することができる。	観光に関する英文を読んで一部を理解することができる。	観光に関する英文を読解することができない。
知識・理解	3. 国内外の観光地に関する知識を身につけている	国内外の観光地に関する知識を積極的に得ようとし、自らの言葉で説明することができる。	国内外の観光地について自発的に調べ、理解している。	国内外の観光地について、授業で扱った項目については知識がある。	国内外の観光地について、授業で扱った項目については一部知識がある。	国内外の観光地に関する知識がない。
技能	1. 海外旅行で使用する英語表現を使って他者と口頭でコミュニケーションが取れる	既習の語彙や英語表現を活用して、海外旅行に関する内容を英語で自由に表現し、相手の言っていることを理解することができる。	既習の語彙や英語表現を応用して、海外旅行に関する内容を英語で表現し、相手の言っていることを理解することができる。	既習の語彙や英語表現を用いて、海外旅行に関する簡単な内容を英語で伝え、理解することができる。	既習の基礎的な語彙や英語表現、相手の言っていることは英語で理解できるが、自分の伝えたい内容を英語で表現することができない。	既習の基礎的な語彙や英語表現でも理解できず、海外旅行について既存の英文を用いても相手とコミュニケーションをとることができない。
技能	2. 海外旅行に関する内容について英文作文することができる	既習の語彙や英語表現を活用して、海外旅行に関する内容を自由に英文作文することができる。	既習の語彙や英語表現を応用して、海外旅行に関する内容を英文作文することができる。	既習の語彙や英語表現を用いて、海外旅行に関する簡単な内容を短い文で英文作文することができる。	既習の基礎的な語彙や英語表現は理解できるが、短い文であっても英文作文することができない。	既習の基礎的な語彙や英語表現でも理解できず、海外旅行について既存の英文を参考にしても英文作文することができない。
技能	3. 国内外の観光地を英語で紹介することができる	既習の語彙や英語表現を活用して、観光地について英語で自由に説明することができる。	既習の語彙や英語表現を応用して文章を作り、観光地について英語で説明することができる。	既習の語彙や英語表現を用いて、観光地について簡単な内容を短い英文で伝えることができる。	既習の基礎的な語彙や英語表現は理解できるが、短い英文でも観光地について説明することができない。	既習の基礎的な語彙や英語表現でも理解できず、既存の英文を用いて観光地について説明することができない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	食品流通論	授業番号	LC206	サブタイトル	
教員	大宮 めぐみ				
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期
				授業形態	講義
					必修・選択
					選択
授業概要	本講義では食品が生産され私たち消費者に届くまでの食品流通システムについて学修する。はじめに現在の食生活の現状について理解し、食品の生産、加工、流通に関わる産業の概要、主要食品の流通システムの特徴について学ぶ。次に、わが国の食料需給の現状、流通過程で発生する課題について理解する。さらに、食品産業におけるマーケティング戦略について学ぶ。				
到達目標	(1) 食品流通に関連する基礎的な専門用語を理解する。 (2) わが国の食品流通の構造および食品産業の役割を理解し、説明する力を身につける。 (3) フードシステムや食料消費に関連する諸課題について理解し、その課題解決方法について自ら考察、説明する能力を身につける。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の取得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	食品流通論の対象領域と課題-何を学ぶのか- 食品流通とは何かについて概説し、全体の流れを紹介する。				
第2回	食生活の変化と食の外部化 食品流通をめぐる環境変化や食生活の変化について理解する。				
第3回	食品流通の基礎 (1) 流通の社会的役割について理解する。				
第4回	食品流通の基礎 (2) 流通の仕組みと機能について理解する。				
第5回	主要食品の流通システム (1) 米の流通システム、流通規制の変遷について理解する。				
第6回	主要食品の流通システム (2) 青果物の流通システムと卸売市場について理解する。				
第7回	主要食品の流通システム (3) 水産物、食肉の流通システムについて理解する。				
第8回	前半のまとめ これまでの学習内容の確認を行う。				
第9回	食料の安全保障と食料自給率 食料自給率低下の背景と食料安全保障について理解する。				
第10回	食料消費の課題 (1) 食品産業の概要と食料品アクセス問題について理解する。				
第11回	食料消費の課題 (2) 食品ロスの実態について理解する。				
第12回	食料消費と安全 (1) 食品表示の機能や情報管理について理解する。				
第13回	食料消費と安全 (2) 食品安全行政、食品の安全性確保のための仕組みについて理解する。				
第14回	マーケティングの基礎知識/フードマーケティング マーケティングの手法と食品企業のマーケティングの実態について理解する。				
第15回	全体のまとめ 全体の学習内容の確認を行う。				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度によって評価する。		
	レポート				
	小テスト	30	中間的な理解度を評価する。		
	定期試験	50	到達目標に達しているかを最終的に評価する。		
	その他				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本講義では食料消費や食品流通、食料に関連する今日的課題等を理解し、自らのこととして考え、その考えを説明できる力を身につけることを到達目標とする。そのためには、「食」に関わるニュースや新聞記事、さまざまな情報に日頃から関心を持ち、自ら調べるといった姿勢で講義に臨むこと。
授業外学修	(1) 復習として、講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。 (2) 発展学修として、食品流通など食に関する新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	資料を配布する			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
農産物・食品の市場と流通	日本農業市場学会	筑波書房	978-4-8119-0549-5	2,500円+税
新版 食料・農産物流通論	橋島廣二ほか	筑波書房	9784811904078	2,500円+税
フードシステムの経済学	時子山ひろみほか	医歯薬出版株式会社	978-4-263-70740-1	2,500円+税

参考書：自由記載	適宜、指示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	無
担当教員の業務経験	
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 食品流通に関連する基礎的な専門用語を理解している	食品流通に関連する専門用語を正確に理解し、述べることができる。	食品流通に関連する専門用語をほぼ理解し、述べるができる。	食品流通に関連する専門用語を一定程度理解し、大体述べるができる。	食品流通に関する専門用語について理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	基礎的な専門用語を理解できていない。
知識・理解	2. わが国の食品流通の構造および食品産業の役割を理解し、説明する能力を身につけている	食品流通の構造および食品産業の役割について正しく理解しており詳細に説明することができる。	食品流通の構造および食品産業の役割についてほぼ理解しており、説明することができる。	食品流通の構造および食品産業の役割について一定程度理解しており、説明することができる。	食品流通の構造および食品産業の役割について理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	食品流通の構造および食品産業の役割について理解しておらず、説明する力がない。
知識・理解	3. フードシステムや食料消費に関連する諸課題について理解し、課題解決方法について自ら考察、説明する能力を身につけている	諸課題について広範囲にわたり正しく理解し、課題解決方法について理論的に説明することができる。	諸課題についてほぼ理解し、課題解決方法について説得力のある考察することができる。	諸課題について一定程度理解し、課題解決方法について説明することができる。	諸課題について理解がやや不十分であり、課題解決方法について説明する力が乏しい。	諸課題について理解できおらず、自らの考えを提示することができない。

科目名	ビジネス・イングリッシュ			授業番号	LC207	サブタイトル	
教員	森年 ポール						
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習
授業概要	<p>現代の国際化・情報化した社会において、ビジネス・経済分野では英語は非常に大きな役割を果たしている。したがって、このコースは学生のビジネス英語を向上させることを目的としています。また、学生に英語力のレベルを感じてもらうことも目的としています。このコースは、実践的な活動を通じてビジネス英語の知識とスキルを統合します。また、学生を日本国外のビジネスコンテキストに結び付けるための文化的認識活動も含まれます。また、TOEIC形式の練習活動は、生徒の進捗状況を確認するのに役立ちます。英語のコミュニケーション能力を伸ばすためには、やむを得ず練習する必要があります。</p> <p>In today's internationalized and information-oriented society, English plays a very important role in the business and economic fields. Therefore, this course intends to improve students' business English. It also aims to give students a sense of their English proficiency level. The course integrates business English language knowledge and skills through practical activities. It also includes cultural awareness activities to connect students to business contexts outside Japan. In addition, TOEIC-style practice activities help to check students' progress. To improve your English communication abilities, it is unavoidable that you must practice.</p>						
到達目標	<p>ビジネス英語の知識、英語で意見やアイデアを表現する能力、ビジネス関連の概念や問題についての理解を深めるため。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士カリキュラムのうち、＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。</p> <p>To improve your knowledge of business English, your ability to express your opinions and ideas in English and your understanding of business-related concepts and issues. This subject contributes to the acquisition of knowledge/understanding, skills, and attitudes among the contents of the Bachelor's degree listed in the Diploma Policy.</p>						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	コースと内容の紹介 Introduction to the course and content						
第2回	ビジネスの文脈での自己紹介すること Nice to meet you!: Introducing yourself in a business context						
第3回	初めまして!: ビジネスの場面で人を別の人に紹介すること Nice to meet you!: Introducing one person to another in a business context						
第4回	あなたのサービス会社を紹介すること Introducing your service company						
第5回	あなたの製造会社を紹介すること Introducing your manufacturing company						
第6回	小テスト1、ビジネス電話をかけること Short test 1, Taking a business phone call						
第7回	ビジネス電話をかけること Making a business phone call						
第8回	ビジネスメールを読むこと Reading business emails						
第9回	ビジネスメールの書くこと Writing business emails						
第10回	小テスト2、ビジネスプレゼンテーションの作り方 Short test 2, How to give a business presentation						
第11回	あなたのビジネスプレゼンテーションを準備すること Preparing your business presentation						
第12回	あなたのビジネスプレゼンテーションを行うこと Giving your business presentation						
第13回	ホスピタリティ: 顧客に会社の敷地内を案内すること Hospitality: Showing a client around your company premises						
第14回	ホスピタリティ: 依頼人にあなたの街を案内すること Hospitality: Showing a client around your city						
第15回	小テスト3、コースまとめ、学生アンケート Short test 3, Course review, Student questionnaire,						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	積極的な参加 Active participation	20	英語での積極的な参加。英語を使えば、スコアは高くなります。 Active participation in English. The more English you use, the higher your score.				
	ビジネスレポート Business reports	30	ビジネスライティング練習活動(3 x 10%) Business writing practice activities (3 x 10%)				
	小テスト Short tests	30	3つの語彙と文法の小テストでビジネス英語の理解度を評価する。なお、小テストの実施はあらかじめアナウンスする。(3 x 10%) Evaluate your understanding of Business English with three written tests of vocabulary and grammar. The tests will be announced in advance. (3 x 10%)				
	スピーキングテスト Speaking test	20	個人的なスピーキングテスト Individual speaking test				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	<p>本科目はビジネスに関するトピックが中心となるので、前もって英文を読んでおくことが必須である。授業で扱った語彙や英語表現をしっかり復習し、すべて小テストや課題に臨むこと。なお、小テストや定期試験は口頭によるテストを含む。テストを欠席したか、評価された作業を提出しなかったためにコースに失敗した学生は、コースの最後に再テストを受ける資格がありません。</p> <p>Since this subject focuses on business-related topics, it is essential to read English in advance. Thoroughly review the vocabulary and English expressions used in class, take all tests and submit all writing assignments. The quizzes and regular tests include oral tests. Students who fail the course because they were absent for a test without good reason or did not submit assessed work, will NOT be eligible for a retest at the end of the course.</p>
授業外学習	<p>1 復習すること Review</p> <p>2 レッソンの内容を、週当たり2時間以上学習すること。 To study the lesson's contents for 2 hours or more per week.</p>

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考図書：自由記載

その他

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無 無

担当教員以外で指導に関わる業務経験の有無 無

担当教員以外で指導に関わる業務経験の有無 無

担当教員以外で指導に関わる業務経験の有無 無

業務経験をいかした教育内容

ご自身の学習経験を活かして、効果的な英語学習法を開発してください。
Use your own study experiences to develop effective English learning methods.

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学士力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分レベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 選択されたビジネス文脈で英語で会話したり書いたりするために必要な語彙、文法、定型句、つまり語彙文法能力を理解します。	選択されたビジネス文脈における英語の知識の理解を一貫して示します。	多くの場合、選択されたビジネス文脈に関する英語の知識の理解を示します。	場合によっては、選択されたビジネス文脈に関する英語の知識の理解を示すこともあります。	選択されたビジネス文脈における英語の知識の理解を示す場合のみ。	選択されたビジネス文脈に関する英語の知識をまったく理解していないことを示しています。
知識・理解	2. さまざまなビジネス文脈で適切な言語を選択する際の文脈の役割、つまり社会言語的能力を理解します。	さまざまなビジネスの文脈において社会言語学的に適切な言語を選択する際の文脈の役割を完全に理解しています。	さまざまなビジネスの文脈において社会言語学的に適切な言語を選択する際の文脈の役割のほとんどを理解しています。	さまざまなビジネスコンテキストで適切な言語を選択する際のコンテキストの役割のいくつかを理解します。	さまざまなビジネス コンテキストで適切な言語を選択する際のコンテキストの役割の一部だけを理解しています。	さまざまなビジネスの文脈で適切な言語を選択する際の文脈の役割の理解を示していない。
知識・理解	3. 適切な言語を選択する際の談話機能とチャネルの役割、つまり話し能力を理解する。	さまざまなビジネスの文脈で適切な言語を選択する際の談話機能とチャネルの役割を完全に理解しています。	さまざまなビジネスの文脈で適切な言語を選択する際の、談話機能とチャネルの役割のほとんどを理解しています。	さまざまなビジネスの文脈で適切な言語を選択する際の、談話機能とチャネルの役割のいくつかを理解します。	さまざまなビジネスの文脈で適切な言語を選択する際の談話機能とチャネルの役割のほんの一部だけを理解しています。	さまざまなビジネスの文脈で適切な言語を選択する際の談話機能とチャネルの役割を理解していません。
技能	1. ビジネスシーンにおける自己紹介、メールの送信、電話のかけ方などにおいて、英語の話し言葉や書き言葉で効果的に意味を伝えることができます。	選択されたビジネスコンテキストの範囲全体にわたって効果的に意味を伝える能力を一貫して実証します。	多くの場合、選択されたビジネス コンテキストの範囲にわたって効果的に意味を伝える能力を示します。	場合によっては、選択したビジネス コンテキスト全体で意味を効果的に伝える能力を実証します。	限られた範囲の選択されたビジネス コンテキストにおいても、効果的に意味を伝える能力を発揮できるはごくまれです。	選択したビジネス コンテキスト全体で意味を効果的に伝える能力を実証していません。
技能	2. ビジネスの場面で、自己紹介、電子メールの送信、電話をかけるなどの英語の話し言葉と書き言葉を理解して使用することができます。	特定のビジネスの文脈において、英語の話し言葉と書き言葉を間違いなく理解して使用できる。	特定のビジネスの文脈において、コミュニケーションを引き起こすことのない、ほとんど間違いなく、英語の話し言葉と書き言葉を理解して使用することができます。	特定のビジネスの文脈内で英語の話し言葉と書き言葉を理解して使用できますが、多少の間違いがあり、場合によってはコミュニケーションの行き違いを引き起こす可能性があります。	コミュニケーションの齟齬を引き起こす多くの間違いを伴う、特定のビジネス文脈内での英語の話し言葉と書き言葉を理解して使用することができます。	特定のビジネス文脈内で英語の話し言葉や書き言葉を理解できない、または使用できないため、有意義なコミュニケーションが取れません。
技能	3. 言語および内容の知識を、ある文脈から別の文脈へ、またはある談話機能から別の文脈へ効果的に伝達できる。	言語および内容の知識を、ある文脈から別の文脈へ、またはある談話機能から別の文脈へ効果的に一貫して伝達します。	多くの場合、言語および内容の知識をある文脈から別の文脈に、またはある談話機能から別の文脈に効果的に伝達します。	場合によっては、言語および内容の知識をある文脈から別の文脈に、またはある談話機能から別の文脈に効果的に伝達します。	言語および内容の知識をある文脈から別の文脈に、またはある談話機能から別の文脈に効果的に伝達することはほとんどありません。	言語および内容の知識を、ある文脈から別の文脈へ、またはある談話機能から別の文脈へ効果的に伝達することができないようです。
態度	1. コースの目標を達成するために、レッスン中およびレッスン後も努力します。	コースのすべての目標を達成するために、レッスン内外で一貫した努力を続けます。	コースのほとんどの期間、レッスン内外で、コースのすべての目標を達成するために努力します。	コースの一部の目標を達成するために、レッスン内および/またはレッスンを超えて、コースの一部で行われた努力。	コース目標の一部を達成するために必要な最小限の努力のみを行います。	コースの目標を達成するためにほとんど、またはまったく努力しません。

科目名	ビジネス・ディスカッション技法		授業番号	LC208	サブタイトル				
教員	梶西 将司、大宮 めぐみ								
単位数	2単位	開講年次	がキリウムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では、前半はディスカッション技法の基礎について学習する。後半では修得したディスカッション技法を活用し、実際にディスカッションの実施とディスカッション技法を応用しながら意見集約などの手法を学ぶ。								
到達目標	(1) ディスカッション技法に関する基本的な知識を修得すること。 (2) 効果的なディスカッション技法における技術を理解、修得すること。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の取得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	ディスカッションについて ディスカッションの必要性を説明し、全体の流れを紹介する						梶西		
第2回	ディスカッション技法の基礎(1)スキルと進め方 他者から見た自己の理解 相手を受け入れよう これらのスキルを実際のディスカッションの場面で活用できる						梶西		
第3回	ディスカッション技法の基礎(2)アイスブレイクとスモールトーク アイスブレイクとスモールトークをディスカッションの場面で活用できる						梶西		
第4回	ディスカッション技法の基礎(3)司会とグラウンドルール 司会とグラウンドルールをディスカッションの場面で活用できる						梶西		
第5回	ディスカッション技法の基礎(4)テーマ分析 テーマに対して、分析を行いディスカッションの場面で実行できる						梶西		
第6回	ディスカッション技法の基礎(5)意見交換と質問 意見交換と質問の方法を理解でき、ディスカッションの場面で活用できる						梶西		
第7回	ディスカッション技法の基礎(6)議論の構造化と掘り返し 議論の構造化について理解し、実際の話し合いの中で構造化のフレームワークを作成できる						梶西		
第8回	演習(1)-1ディスカッション実践 ディスカッションの流れや話し合いに必要なスキルを駆使し、社会の諸問題について議論できる						大宮		
第9回	演習(1)-2ディスカッション実践と発表 社会の諸問題について議論した内容をまとめることができ、その内容を発表できる						大宮		
第10回	演習(2)-1ディスカッション実践 (KJ法) KJ法について理解でき、実践できる						大宮		
第11回	演習(2)-2ディスカッション実践と発表 (KJ法) KJ法を通して意見交換し、幅広い視点から議論できる						大宮		
第12回	演習(3)-1ディスカッション実践 (フォーカスグループインタビュー) フォーカスグループインタビューについて理解でき、実践できる						大宮		
第13回	演習(3)-2ディスカッション実践と発表 (フォーカスグループインタビュー) フォーカスグループインタビューを通して意見交換し、幅広い視点から議論できる						大宮		
第14回	演習(4) ディスカッション (ワールドカフェ) ワールドカフェについて理解でき、実践できる						大宮		
第15回	まとめ これまで学習した内容を振り返り、ディスカッションの意義や方法を確認する						梶西・大宮		
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢/態度	60	講義に取り組み姿勢、積極的にディスカッションに参加しているかを判断する。 また、講義中に学習した事柄を理解できているかについても評価の対象とする。							
レポート	40	講義中に適宜指示するレポートの内容で評価する。 評価は必要に応じて、講義中にコメントする。							
小テスト									
定期試験									
その他									

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本講義はディスカッション技法の基礎を理解し、技術を修得することを到達目標とする。そのため、ひとりひとりが満員の中で積極的に発言し、他者への理解を持つという姿勢で講義に臨むこと。また、ディスカッションのテーマとしてトピックスなどを提示する機会があるが、それらに対してニュースや新聞記事、さまざまな情報に日頃から関心を持ち、自ら調べという姿勢で講義に臨むこと。
授業外学修	配布資料等を活用し講義・演習の振り返りを行うこと。 以上の内容を、適当に4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
大学生からのグループディスカッション入門	中野英希	ナカニシヤ出版	9784779512421	1,900+税
参考書：自由記載	必要に応じて別途配布する			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学士力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. ディスカッションの重要性を理解できている	ディスカッションの重要性について十分に把握し、どのような場面で必要とされているか理解できている。	ディスカッションの重要性について把握し、どのような場面で必要とされているか理解できている。	ディスカッションの重要性について十分に理解できている。	ディスカッションの重要性について一部理解できている。	ディスカッションの重要性について全く理解できていない。
知識・理解	2. ディスカッションに必要なスキルを理解できている	ディスカッションに必要なスキルを十分に理解している。また、どのような場面で使用され、その効果についても理解できている。	ディスカッションに必要なスキルを理解している。また、どのような場面で活用されているかも理解できている。	ディスカッションに必要なスキルを理解している。	ディスカッションに必要なスキルを一部理解している。	ディスカッションに必要なスキルを全く理解できていない。
知識・理解	3. ディスカッションにおいて生じる問題点や留意点を理解できている	ディスカッションにおいて生じる問題点や留意点を理解でき、具体的な場面やその対策を説明できる。	ディスカッションにおいて生じる問題点や留意点を理解でき、その対策を説明できる。	ディスカッションにおいて生じる問題点や留意点を理解できている。	ディスカッションにおいて生じる問題点や留意点があることは知っているが、理解できていない。	ディスカッションにおいて生じる問題点や留意点を知らない。
思考・問題解決能力	1. テーマについて多角的に考えることができる	テーマについて様々な観点から考え、自らの意見をまとめることができる。また、必要に応じて、情報を収集することができる。	テーマについて様々な観点から考え、自らの意見をまとめることができる。	テーマについて様々な観点から考えることができる。	テーマについて考えることはできるが、自らの意見としてまとめることができない。	テーマについて考えることができず、意見をまとめることができない。
思考・問題解決能力	2. 話し合いの中で意見をまとめ結論を導くことができる	話し合いの中で、いくつかの視点ごとに意見をまとめ、グループ全体としての結論を導き出せる。	話し合いの中で、意見をまとめることができ、グループ全体としての結論を導き出せる。	話し合いの中で、グループ全体としての結論を導き出せる。	話し合いの中で、いくつかの意見を出し合うことができるが一定の結論を導き出せない。	十分な意見交換ができず、結論を導き出せない。
思考・問題解決能力	3. ディスカッションを円滑に進める方法を考え、実践できる	ディスカッションにおける個人の役割について十分理解しており、円滑に進むように全体を見ながら行動できる。	ディスカッションにおける個人の役割について理解しており、円滑に進むように全体を見ながら行動できる。	ディスカッションにおける個人の役割について理解しており、行動に移すことができる。	ディスカッションにおける個人の役割について理解しているが、行動には移すことができない。	ディスカッションにおける個人の役割について理解していない。
態度	1. 積極的にディスカッションに取り組むことができる	ディスカッションに対して積極的に取り組む姿勢が見られ、テーマに応じた活発な意見交換ができる。	ディスカッションに対して積極的に取り組む姿勢が見られ、テーマに応じた意見交換ができる。	ディスカッションに対して意欲的に取り組む姿勢が見られ、テーマに応じた意見交換ができる。	ディスカッションに対して意欲的に取り組む姿勢が見られないが、テーマに応じた意見交換はできる。	ディスカッションに対して意欲的に取り組む姿勢が見られず、テーマに応じた意見交換もできていない。

科目名	日米関係	授業番号	LC209	サブタイトル	
教員	アレグザンダー・ワグネル				
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期
授業形態	講義	必修・選択	選択		
授業概要	この「日本とアメリカの関係」コースは、日本とアメリカ間の二国間関係に影響を与えてきた歴史、文化、経済的、政治的要因を探求します。学生は、歴史的出来事、メディアの表現(音楽、エンターテインメント)、現代の社会問題、および両国間の相互作用を形成する文化的違いを分析します。				
到達目標	学生は、日本とアメリカの二国間関係の歴史の推移、メディアによる両国の表象、現代的な通商問題や安全保障協力など、様々な側面を総合的に学習します。文化の違いが両国の関係にどのように影響しているかについても理解を深めます。さらに、異文化への理解と感受性を高めることで、学生は国際的な文脈においても建設的に関与できる能力を身につけることができます。本講義はディプロマ・ポリシーに掲げた学習内容の、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	コースの概要紹介、アメリカ文化の紹介				
第2回	日米関係の歴史的背景 両国関係の形成に影響を与えた主要な出来事と条約				
第3回	Part 1 日本とアメリカの文化的価値観の比較 外交関係に及ぼす文化的相違の影響 文化交流プログラムの事例研究と影響 (例: JET Programme; Interac; 留学プログラムの背景)				
第4回	Part 2 日本とアメリカの文化的価値観の比較 外交関係に及ぼす文化的相違の影響 文化交流プログラムの事例研究と影響 (例: JET Programme; Interac; 留学プログラムの背景)				
第5回	Part 1: メディアによる表象 日本とアメリカの相互に対するメディア表象の検討 (メディア、CM、ユーモアの比較)				
第6回	Part 2: 時代に渡るアート、音楽、エンターテインメントの比較				
第7回	教育制度の違い、大学制度				
第8回	中間試験 レッスン 1-7				
第9回	家族の形、宗教の違い、子育ての習慣				
第10回	職場に関する態度の違い、年工増利、労働文化				
第11回	図書館で研究の日、データ収集				
第12回	スポーツの背景				
第13回	学生のプレゼンテーション				
第14回	2回目試験 レッスン 9,10,11				
第15回	まとめと討論				
授業計画 備考2					

評価の方法		
種別	割合	評価基準・その態備考
授業への取り組みの姿勢 / 態度 グループワークの参加	20	出席状況 出席率: 授業への出席率が高いか。 遅刻や早退の頻度: 遅刻や早退が少ないか。 集中力 授業中の態度: 授業中に集中して取り組んでいるか。 ノートの取り方: 授業内容をしっかりとノートに記録しているか 協力姿勢 チームメンバーとの協力: チームメンバーと協力して課題に取り組んでいるか。役割分担の理解と実行: 自分の役割を理解し、責任を持って遂行しているか。 貢献度 アイデアの提供: グループの目標達成に向けて有益なアイデアを提供しているか。 タスクの遂行: 割り当てられたタスクを期限内に遂行しているか。
中間試験 レッスン 1-7	30	理解度の確認: 文章の構成と表現: 自分の考えを論理的に整理し、明確に表現する能力; 授業で学んだ基礎的な知識や概念を正しく理解しているか。
2回目試験 レッスン 9,10,11	30	理解度の確認: 文章の構成と表現: 自分の考えを論理的に整理し、明確に表現する能力; 授業で学んだ基礎的な知識や概念を正しく理解しているか。
プレゼンテーション	20	テーマの適合性 プレゼンの内容がテーマや目的に沿っているか。 論理的な話の流れ 話の流れが論理的で、聴衆にとって理解しやすいか。 資料の適切な求用 資料の量が多すぎず少なすぎず、適切であるか。 時間配分 プレゼンが予定された時間内に収まっているか。 プレゼンで取り上げた課題や問題が適切であるか。 有益な情報の提供 聴衆にとって有益な情報や知識が提供されているか。 音量・声のトーン 声の大きさやトーンが適切で、聴衆に聞き取りやすいか。 話すスピード 話すスピードが適切で、理解しやすいか。 視線の配り方 聴衆に視線を適切に配り、アイコンタクトを取っているか。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	具体的には、歴史的な出来事やメディアが及ぼす影響、経済関係の動向、政治外交の戦略など、幅広いトピックを取り上げます。これらを総合的に理解することで、学生には日米関係の複雑な構造や相互作用が深く認識できるようになります
授業外学修	【授業外学修】 1 予習として、プリント記事を読書すること、講義内容に関する疑問点を明らかにしておく。 2 復習として、講義で学んだ事項を各自で再確認する。 3 テラロジーを使いながらグループワークに参加すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	私は10年以上日本で異文化理解を教えた、アメリカの社会科教師免許を持つ研究者です。日米関係史が私の専門分野です。日米関係の本質を理解することは重要です。この関係は複雑で、時には緊張もありますが、両国の歴史的絆と相互依存関係は深いものが残ります。日本両国は、相手国への深い理解と尊重を持ち、外交的な対応力を備えることが不可欠です。このような姿勢を持ち続けることで、建設的な協力関係を築き上げていくことができます			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 講義の内容とテーマを理解できる。	講義の内容とテーマを完全に理解している。	講義の内容とテーマを十分理解している。	講義の内容とテーマを必要とされる程度理解している。	講義の内容とテーマを多少は理解している。	講義の内容とテーマを理解していない。
態度	講義の目標を達成するため、授業内外を問わず努力することができる。授業内容、活動に対して前向きな姿勢を持っている。授業中、教職員および他の学生に対して適切かつ礼儀正しく行動できる。	授業内外を問わず、講義の目標を達成するために一貫して努力を続けることができる。教職員および他の学生に対して適切かつ礼儀正しく行動できる。	授業内外を問わず、講義の目標を達成するため努力することができる。教職員および他の学生に対して適切に行動できる。	授業中に、講義の目標を達成するため努力することができる。教職員および他の学生に対して適切に行動できる。	講義の目標を達成するために必要な最低限の努力のみをしている。教職員および他の学生に対して適切な行動をとることができない。	講義の目標を達成するために必要な努力をすることができない。教職員および他の学生に対して適切な行動をとることができない。

科目名	実践英語Ⅱ		授業番号	LC210	サブタイトル				
教員	佐々木 真帆美								
単位数	2単位	開講年次	が1年次より異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	ビジネスで遭遇する場面を題材にしたテキストを用いて、4技能をバランスよく身につけることを目標とする。相手の発言を理解し、自分の考えを英語で発信するために必要な語彙力・表現力を増強し、基本的な文法事項の定着を図るとともに、様々なアクティビティを通して実践的な英語運用能力の向上を目指す。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネスでよく使われる実用的な英文系材を読むことができる。 2. ビジネスに関する簡単な会話を聞き取ることができる。 3. 各ユニットで学んだ語彙・表現を用いて、様々なビジネス場面で自分の考えを相手に英語で伝えることができる。 4. 各ユニットで学んだ内容を参考にして、様々なビジネス場面で相手に伝えたいことを英語で表現できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	Unit 1 "It's nice to meet you." Introduction 初対面の際の受け答え方法を学ぶ。								
第2回	Unit 2 "What does 'FYI' mean?" Clarifying Meanings わからない言葉の意味を尋ねたり、聞き直したりする方法を学ぶ。								
第3回	Unit 3 "May I speak to Mr. Yoshioka?" Phone Conversation [1] 電話の応対と取り次ぎ方法を学ぶ。								
第4回	Unit 4 "May I take a message?" Phone Conversation [2] 担当者不在の際の電話の応対方法を学ぶ。								
第5回	Unit 5 "I have a headache." Calling in Sick 体調不良・病欠の際の英語表現を学ぶ。								
第6回	Unit 6 "I have appointment at 9:30." Appointments 予定の調整・変更方法を学ぶ。								
第7回	Unit 7 "Would you like something to drink." Making Offers 来客対応の際の英語表現を学ぶ。								
第8回	Unit 8 "Let's go out for a drink." Invitation 食事などの誘い方、誘われたときの返答に関する英語表現を学ぶ。								
第9回	Unit 9 "How was your weekend?" Small Talk 英語特有のスモールトークについて学ぶ。								
第10回	Unit 10 "The sales department is on the 3rd floor." Location 場所を尋ねたり、案内する際の英語表現を学ぶ。								
第11回	Unit 11 "Turn right on Main Street." Direction 道順を尋ねたり、説明したりする際の英語表現を学ぶ。								
第12回	Unit 12 "First, press the Start button." Instructions オフィス機器などの使い方を説明する表現を学ぶ。								
第13回	Unit 13 "I'd like to check in." Checking in at a Hotel ホテルでのチェックインの際の英語表現を学ぶ。								
第14回	Unit 14 "I'm looking for a souvenir." Shopping ショッピングの際の英語表現を学ぶ。								
第15回	Unit 15 "What would you like to have?" Eating out レストランでの注文や支払いの際の英語表現を学ぶ。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢/態度	20	積極的な受講態度を評価する。							
レポート	30	リーディングの理解度とライティングスキルを評価する。なお、課題はコメントを記入して返却する。							
小テスト	50	ビジネスに関連する語彙・表現の理解度を評価する。							
定期試験									
その他									

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	<p>1. 予習として、テキストの本文を読み、未知の語句があれば辞書で調べて全訳をしておくこと。また、練習問題も解いておくこと。</p> <p>2. 復習として、授業で学んだ文法事項と英語表現を理解し、知識として定着させること。また、音声データをダウンロードして音声を確認し、音読すること。</p> <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
First Steps to Office English	Tae Kudo	Gengage Learning	978-4-86312-180-5	2,300円

使用テキスト：自由記載	
-------------	--

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
----------	--

その他	
-----	--

備考	
----	--

注意事項	・英和辞書を持参すること
------	--------------

担当教員の業務経験の有無	有
--------------	---

担当教員の業務経験	一般企業にて貿易業務に従事した経験（2年）を有する。
-----------	----------------------------

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
-----------------------	--

担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
--------------------	--

実務経験をいかした教育内容	貿易業務に従事した経験（2年）から、海外の企業とのメールや電話での対応、英語の敬語表現など、実践力が身につくよう授業を展開していく。
---------------	--

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. ビジネスに関する英語の語彙や英語表現を理解している。	ビジネスに関する英語の語彙や表現のニュアンスをしっかりと理解し、応用して自由に使用することができる。	ビジネスに関する英語の語彙や表現を理解し、使用することができる。	ビジネスに関する英語の語彙や英語表現の意味を理解している。	ビジネスに関する英語の語彙や英語表現の意味を一部覚えているが、理解できていない語彙や表現がある。	ビジネスに関する語彙や英語表現の意味を理解していない。
知識・理解	2. 様々なビジネス文書のフォーマットを理解している。	様々なビジネス文書のフォーマットを理解し、目的や内容に合わせて自ら英語のビジネス文書を作成することができる。	様々なビジネス文書のフォーマットを理解し、テンプレートを参考にしながら内容を変えて作成することができる。	様々なビジネス文書のフォーマットの基本を理解している。	様々なビジネス文書のフォーマットの基本を大まかに理解しているが、細かい点で理解できていない箇所がある。	様々なビジネス文書のフォーマットを理解していない。
知識・理解	3. 日本とアメリカのビジネス文化の相違を理解している。	日本とアメリカのビジネス文化に関して自発的に知らべ、各国の文化的・歴史的背景や価値観等と関連付けながら理解している。	日本とアメリカのビジネス文化に関して自発的に知らべ、授業で扱った以上の内容を理解している。	授業で扱った日本とアメリカのビジネス文化の相違をよく理解している。	日本とアメリカのビジネス文化に関して違いがあることを認識しているが、具体的な事象については理解できていない。	日本とアメリカのビジネス文化に相違があることを理解していない。
技能	1. 様々なビジネスの場面で相手に伝えたいことを英語で表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用し、様々なビジネスの場面でTPOに合わせた表現を用いて相手に伝えたいことを英語で自由に表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を活用し、様々なビジネスの場面で相手に伝えたいことを英語で表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて、多少のミスがあっても相手に伝えたい内容を英語で伝えることができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を使用して英語で相手に伝えたい内容を伝えようとしているが、ミスが多く内容を伝えることができない。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解できておらず、様々なビジネスの場面で相手に伝えたいことを英語で表現することができない。
技能	2. ビジネスでよく使われる実用的な英文を読むことができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、ビジネスに関する英文を読んで理解し、自分の言葉で説明し、自らの意見を持つことができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、ビジネスに関する英文を読んで理解し、それを自分の言葉で説明することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、ビジネスに関する英文を読んで理解することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項は理解できるが、ビジネスに関する英文を理解することが難しい。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解できておらず、ビジネスに関する英文を理解できない。
技能	3. ビジネスに関する会話を聞き取ることができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項をしっかりと理解しており、ビジネスに関する会話を聞き取り、詳細な内容まで理解することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解しており、ビジネスに関する会話を聞き取り、大体的内容を理解することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解しており、ビジネスに関する会話を聞き取ることができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を参考にしながらビジネスに関する会話を聞き取ることが推測することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解しておらず、ビジネスに関する会話の内容を理解することができない。

科目名	実践英語Ⅳ		授業番号	LC211	サブタイトル				
教員	佐々木 真帆美								
単位数	2単位	開講年次	が1年次より異なります。	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	本講義は「実践英語III」の応用編である。「実践英語III」に引き続き、ビジネスの世界を疑似体験しながら4技能をバランスよく身につけることを目標とする。相手の発言を理解し、自分の考えを英語で発信するために必要な語彙力・表現力を増強し、基本的な文法事項の定着を図るとともに、様々なアクティビティを通して実践的な英語運用能力の向上を目指す。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネスによく使われる実用的な英文素材を読むことができる。 2. ビジネスに関する会話を聞き取ることができる。 3. 各ユニットで学んだ語彙・表現を用いて、様々なビジネス場面で自分の考えを相手に英語で伝えることができる。 4. 各ユニットで学んだ内容を参考にして、様々なビジネスの場面で相手に伝えたいことを英語で表現できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	オリエンテーション / Unit 1 Introductions 初対面の挨拶や仕事内容の説明に役立つ表現を学ぶ								
第2回	Unit 2 Telephone Calls 電話の応答や伝言の受け方を学ぶ								
第3回	Unit 3 Making an Inquiry 製品や金額に関する問い合わせ方法や対応について学ぶ								
第4回	Unit 4 Making an Appointment 約束のとりつけや後編に関する表現を学ぶ								
第5回	Unit 5 Receiving a Visitor 受付での来客対応や空港などでの出迎えに役立つ表現を学ぶ								
第6回	Unit 6 Invitations 接待に役立つ表現やスモールトークを学ぶ								
第7回	Unit 7 Presentations 1 プレゼンテーションを始める際の挨拶や概要説明の表現を学ぶ								
第8回	Unit 8 Presentations 2 プレゼンテーションで新製品を紹介する際に役立つ表現を学ぶ								
第9回	Unit 9 Presentations 3 プレゼンテーションを締めくくる際の質疑応答について学ぶ								
第10回	Unit 10 Online Meetings ビデオ会議で役立つ表現と意見を伝える方法について学ぶ								
第11回	Unit 11 Negotiations 価格交渉や支払い条件の確認などに必要な表現を学ぶ								
第12回	Unit 12 Placing an Order 商品の発注や発注内容の変更などに必要な表現を学ぶ								
第13回	Unit 13 Making a Complaint 1 発注商品のトラブルに関するクレームについて学ぶ								
第14回	Unit 14 Making a Complaint 2 請求書や支払いのトラブルに関するクレームについて学ぶ								
第15回	Unit 15 Completing a Project / 第1～15回のまとめ 業務完了時の確認や協力者への謝意の伝え方を学ぶ								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢 / 態度	20	意欲的な受講態度、課題や予習の取り組み姿勢などを評価する。							
レポート	30	リーディングの理解度とライティングスキルを評価する。なお、課題はコメントを記入して返却する。							
小テスト	50	既習事項について語彙や表現、文法項目などの理解度を評価する。							
定期試験									
その他									

評価の方法：自由記載	予習を前提として進めていくので、練習問題を解いたうえで授業に臨むこと。 英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。
受講の心得	
授業外学習	1. 予習として、テキストの本文を読み、未知の語句があれば辞書で調べておくこと。また、練習問題も解いておくこと。 2. 復習として、授業で学んだ文法事項と英語表現を理解し、知識として定着させること。また、音声データをダウンロードして音声を確認し、音読すること。 以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Successful Office English	Tae Kudo	Gengage Learning	978-4-86312-343-4	2, 300円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	一般企業にて貿易業務に従事した経験（2年）を有する。			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかに教育内容	貿易業務に従事した経験（2年）から、海外の企業とのメールや電話での対応、英語の敬語表現など、実践力が身につくよう授業を展開していく。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. ビジネスに関する英語の語彙や英語表現を理解している。	ビジネスに関する英語の語彙や表現のニュアンスをしっかりと理解し、応用して自由に使用することができる。	ビジネスに関する英語の語彙や表現を理解し、使用することができる。	ビジネスに関する英語の語彙や英語表現の意味を理解している。	ビジネスに関する英語の語彙や英語表現の意味を一部覚えているが、理解できていない語彙や表現がある。	ビジネスに関する語彙や英語表現の意味を理解していない。
知識・理解	2. 様々なビジネス文書のフォーマットを理解している。	様々なビジネス文書のフォーマットを理解し、目的や内容に合わせて自ら英語のビジネス文書を作成することができる。	様々なビジネス文書のフォーマットを理解し、テンプレートを参考にしながら内容を変えて作成することができる。	様々なビジネス文書のフォーマットの基本を理解している。	様々なビジネス文書のフォーマットの基本を大まかに理解しているが、細かい点で理解できていない箇所がある。	様々なビジネス文書のフォーマットを理解していない。
知識・理解	3. 日本とアメリカのビジネス文化の相違を理解している。	日本とアメリカのビジネス文化に関して自発的に知らべ、各国の文化的・歴史的背景や価値観等と関連付けながら理解している。	日本とアメリカのビジネス文化に関して自発的に知らべ、授業で扱った以上の内容を理解している。	授業で扱った日本とアメリカのビジネス文化の相違をよく理解している。	日本とアメリカのビジネス文化に関して違いがあることを認識しているが、具体的な事象については理解できていない。	日本とアメリカのビジネス文化に相違があることを理解していない。
技能	1. 様々なビジネスの場面で相手に伝えたいことを英語で表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用し、様々なビジネスの場面でTPOに合わせた表現を用いて相手に伝えたいことを英語で自由に表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を活用し、様々なビジネスの場面で相手に伝えたいことを英語で表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて、多少のミスがあっても相手に伝えたい内容を英語で伝えることができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を使用して相手に伝えたい内容を伝えようとしているが、ミスが多く内容を伝えることができない。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解できておらず、様々なビジネスの場面で相手に伝えたいことを英語で表現することができない。
技能	2. ビジネスでよく使われる実用的な英文を読むことができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、ビジネスに関する英文を読んで理解し、自分の言葉で説明し、自らの意見を持つことができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、ビジネスに関する英文を読んで理解し、それを自分の言葉で説明することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、ビジネスに関する英文を読んで理解することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項は理解できるが、ビジネスに関する英文を理解することが難しい。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解できておらず、ビジネスに関する英文を理解できない。
技能	3. ビジネスに関する会話を聞き取ることができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項をしっかりと理解しており、ビジネスに関する会話を聞き取り、詳細な内容まで理解することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解しており、ビジネスに関する会話を聞き取り、大体的内容を理解することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解しており、ビジネスに関する会話を聞き取ることができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を参考にしながらビジネスに関する会話を聞き取ることができ、推測することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解しておらず、ビジネスに関する会話の内容を理解することができない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	日本の文学			授業番号	LC212	サブタイトル	文学作品の読みの方法と実践		
教員	野口 尚志								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業の前半(第1回～第5回)では、文学作品の読み方を確認していく。後半(第6回～第15回)では、近代の文学作品を取り上げ、前半で学んだことを用いて実際にそれらを読解していく。授業は講義・講義・討論を適宜交えながら進める。								
到達目標	作品の文体や構造を分析し、時代背景も考慮しつつ読解することで、日本文学に対して深く理解することを目指す。また、自身の考えや主張を持ち、作品を批評できるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、(知識・理解)(思考・問題解決能力)(態度)の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	ガイダンス-文学作品の読み方の例 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」								
第2回	読解の方法①二項対立を見つける 志賀直哉「小僧の神様」								
第3回	読解の方法②テキストの空白を読む 夢野久作「瓶詰地獄」								
第4回	読解の方法③語り手と語り方を見分ける 太宰治「裏切と腐蝕」								
第5回	読解の方法④時代背景と作品の関連から論じる 中島敦「文字禍」								
第6回	読みの実践①谷崎潤一郎「刺青」-作品世界のルールと二項対立の反転に注目する								
第7回	読みの実践②葉山嘉樹「産先婦」-主人公の変化に注目する								
第8回	読みの実践③太宰治「畜犬談」-他者に託して表現された「私」を読み取る								
第9回	読みの実践④平林たい子「首中国兵」-作品の興行を読み取る								
第10回	読みの実践⑤大江健三郎「人間の羊」-寓意と歴史を読み取る								
第11回	読みの実践⑥村上春樹「かえるくん、東京を救う」-細部から全体を意味づける								
第12回	読みの実践⑦綿山秋子「袋小路の男」-人間の関係性を意味づける								
第13回	学生による読みの実践-小論文のまとめ方指導と準備								
第14回	学生による読みの実践-小論文の執筆と提出								
第15回	小論文の講評と全体のふりかえり								
授業計画 備考2	授業内の議論の深まりによっては、読む作品を減らしたり入れ替えるたりすることがある。								
評価の方法									
	種別	割合	評価基準-その態備考						
	①事前学習として読解準備シートへの記入	25	意欲的な予言の状況を評価する。コメントをつけて返却する。						
	②授業ごとのコメントシート	25	受講後に提出。読解準備シートの段階と比較し、見解の変化・深まりを評価する。コメントをつけて返却する。						
	③レポート(小論文)	50	講義で扱った作品から一つを選び、学んだ読解の方法を活かして作品を分析する。最終授業時に返却し、できるだけ多くの提出レポートに触れながら全体を講評する。						

評価の方法：自由記載	授業当日に①を記入することはできない（事前学習を評価するため）。 授業を受けずに②を提出することはできない（①と比較して講義を経た読解の深まりを評価するため）。 よって授業を欠席すると①②の評価が不可能となり、成績にその分の点数が加算できなくなるので注意すること。
受講の心得	わからないところは積極的に尋ねてほしい。質問は随時受け付ける。電子辞書が国語辞典を用意することが望ましい。
授業外学習	1.授業で扱う作品を通読する。作品が提示する問題を捉えなが読むこと。通読せずに授業に出席しても授業の内容は理解できない。2.読解準備シートに記入する。この作業には、わからない言葉をすべて辞書で調べることや、授業時に作品のあらすじや内容について説明できるように自分の見解を準備すること等が含まれる。3.授業後に講義を受けたうえで新たな見解を加えてコメントシートに記入し、提出する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	テキストは授業で配布する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業内で適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学土力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 文学作品の読みの方をを理解する	文学作品の読みの方をを複数理解している	文学作品の読みの方をを一つ以上理解している	文学作品の読みの方をにどのようなものがあるかを理解している	文学作品の読みの方への理解が十分でない	文学作品の読みの方をを理解していない
知識・理解	2. 作品の時代背景を理解する	時代背景と作品を結び付けて作品内容を説明できる	時代背景と作品の関連を指摘できる	作品の成立した時代を特徴と共に指摘できる	作品の成立した時代を指摘できる	作品の成立した時代を理解していない
思考・問題解決能力	1. 文学作品の文体や構造を指摘できる	文学作品の文体や構造を自力で指摘できる	文体や構造を教員の指摘を受けながら示すことができる	文体や構造にどのようなものがあるかを理解している	文体や構造への理解が不十分である	文体や構造を理解していない
思考・問題解決能力	2. 作品内容を批評的に論じることができる	授業で学んだ読みの方をを複数利用して作品を分析し、序論・本論・結論の形式でレポート（小論文）にまとめている	授業で学んだ読みの方をを利用して作品を分析し、序論・本論・結論の形式でレポート（小論文）にまとめている	作品への見解を序論・本論・結論の形式でレポート（小論文）にまとめている	作品への見解が書かれているが、序論・本論・結論ではない形式でレポート（小論文）にまとめている	作品への見解が十分に表現できておらず、序論・本論・結論ではない形式でレポート（小論文）にまとめている
態度	1. 作品についての下調べをする	事前学習のための読解準備シートの項目をすべて詳細に記入し、作品についての見解を提示している	読解準備シートのすべての項目を記入している	読解準備シートの大部分の項目を記入している	読解準備シートの半分以上の項目を記入していない	読解準備シートを記入していない。または提出していない
態度	2. 作品についての見解を深める	準備シートの見解に加えて、講義を通じて自力で得た考察がコメントシートに記入されている	準備シートの見解に加えて、講義で教員が示した考察がコメントシートに記入されている	コメントシートに講義を理解したコメントが記入されている	コメントシートに講義への理解が不十分なコメントが記入されている	コメントシートを記入していない。または提出していない

科目名	現代環境論			授業番号	LC213	サブタイトル	現代の身近な環境を「実感」する		
教員	岸 誠一								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	私たちの日常の関わりの中から、現代の身近な環境を概観する授業を行う。野外学修やグループワークといった参加体験型の学修手法を多く用いて、現代環境を「実感」して探究心を高める授業を行う。								
到達目標	「多様で変化の激しい社会を生き抜く力」の養成に力点を置き、環境問題という現代的、社会的な課題に対して地球的な視野で考え、自らの問題として捉え、身近なことから取り組むことができるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉と〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	授業概要の説明、環境に関する基礎講座I 地球温暖化等、今世界が直面している様々な環境問題について学修することについて理解する。								
第2回	環境に関する基礎講座II 喫緊の課題である「カーボンニュートラル」の各国の取り組みについて理解する。								
第3回	地球温暖化について 地球温暖化のしくみについて実際に実験を通して理解する。								
第4回	吉備の中山フィールドワーク(ドングリとイシシに学ぶ?) 吉備の中山でのフィールドワークを通して、身近な環境問題を実感する。								
第5回	中国学園近辺の用水の水は大丈夫か? 中国学園近辺の水質検査と用水の清掃活動を通して、身近な水の環境問題について理解を深める。								
第6回	SDGs [「エヌ・ディー・ジー」って何だ? SDGsの17の目標を理解し、自分たちでできる具体的な取組みについて考える。								
第7回	中国学園近辺に降る雨は大丈夫か? 酸性雨のできる仕組みについて理解し、大気汚染と酸性雨との関係について学修する。								
第8回	発電と節電について 火力発電、原子力発電等様々な発電の仕組みを理解し、CO2削減のための節電について学修する。								
第9回	「シーベルト」「ベクレル」って何だ? 放射能についての正しい知識を中国学園の放射線量測定から学ぶ								
第10回	循環型社会へ向けて 環境問題と国際的な取り組みについて理解を深める。								
第11回	環境問題解決のための新技術I 脱化石エネルギー、リサイクルなど環境問題解決の取り組みを理解する。								
第12回	環境問題解決のための新技術II 水素エネルギーや燃料電池、太陽光発電など環境問題解決のための新技術について理解する。								
第13回	太陽光発電で中国学園大にイルミネーションを！(再生可能エネルギーの実践を通して) 太陽光発電について実際の発電装置を稼働してイルミネーションを点灯させることを試み、太陽光発電についての理解を深める。								
第14回	環境問題について特別講義 環境についての専門家を招聘して、環境問題の理解を深める。								
第15回	まとめ 環境問題について討論会を実施し、自分の考えを発表し環境問題の理解を深める。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、グループワーク等への参加度、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	20	野外学修等の後はレポートを提出してもらい、何に気づき、何を学んだのかなど、書かれた具体的な学びの成果を評価する。記載された内容は、その後の授業の中でコメントするなどのフィードバックを適宜行う。						
	小テスト	20	小テストを実施し、個々の内容について理解度を評価する。						
	定期試験	40	最終的な理解度を評価する。						
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	この授業は、野外学修も行うため、天候等によって適宜内容を変更することがある。また、内容に継続性や関連性があるため、授業を欠席しない、遅刻しないよういただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので、配付資料等は毎回、持参していただきたい(ノートに貼ることを推奨している)。野外学修等の後はレポートを提出してもらい、レポートはコメントをつけて返却する。
授業外学修	1. 予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い、考えてくること。 2. 復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてよりわかり、適宜調べ学修や実践等を行い、学びを深めていく(探究すること)。 以上の学修を、授業1回あたり4時間以上行うこと。なお、学修のための情報提供をclassroomで行うので、よく見ること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配布する			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 環境問題という現代的、社会的な課題の理解	地球温暖化、大気汚染、酸性雨等環境問題について十分に理解し、この環境問題をどのように解決していくかの対策についてもよく理解している。	地球温暖化、大気汚染、酸性雨等環境問題について概ね理解し、この環境問題をどのように解決していくかの対策についても概ね理解している。	地球温暖化、大気汚染、酸性雨等環境問題について普通に理解し、この環境問題をどのように解決していくかの対策についても理解している。	地球温暖化、大気汚染、酸性雨等環境問題について理解が不十分であり、この環境問題をどのように解決していくかの理解も不十分である。	地球温暖化、大気汚染、酸性雨等環境問題について全く理解できておらず、この環境問題をどのように解決していくかについても説明できない。
思考・問題解決能力	1. 環境問題を地球的な視野で考え、自らの問題として捉え、身近なところから環境問題を改善することができる。	環境問題を十分自らの問題ととらえており、どのようにして自分が環境問題に取り組んでいくか、自分の考えを詳しく説明することができる。	環境問題を十分自らの問題ととらえており、どのようにして環境問題に取り組んでいくか、他の事例をあげながら(自分がする意識はやや薄い)詳しく説明することができる。	環境問題を普通に自らの問題ととらえており、どのようにして自分が環境問題に取り組んでいくかについては、自分から進んで実践する態度は見受けられない。	環境問題を自らの問題ととらえていることはやや不十分であり、どのようにして自分が環境問題に取り組んでいくかについても、自分から進んで実践する態度は見受けられない。	環境問題を自らの問題ととらえていることは全くなく、どのようにして自分が環境問題に取り組んでいくかについても、全く自分から進んで実践する態度は見受けられない。
態度	1. 提出物	レポート、ノートなどの提出物について、授業提示の内容を適切にまとめ、自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。あわせて、提出期限内に提出ができる。	レポート、ノートなどの提出物について、授業提示の内容を自分なりにまとめ、工夫して作成することができる。あわせて提出期限内に提出ができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が適切にまとめられており、期限内に提出することができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が不十分であるが自分なりに工夫して提出することができる。	レポート、ノートなどの提出物について授業提示した内容が不十分である。または、提出されない。

科目名	日本語教育概論		授業番号	LC214	サブタイトル	
教員	岡本 輝彦					
単位数	2単位	開講年次	がカリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態
						必修・選択
授業概要	日本語教育とは何か、また、教師に求められるものは何かについて学習するとともに、日本語教育の基礎的な知識や現状、問題点に関して包括的な講義を行う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語教育とは何かを把握することができる。 2. 日本語教育の役割を理解することができる。 3. 日本語教育を取り巻く国内外の現状、問題点を見つけて出すことができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。					
授業計画 備考						
回	概要				担当	
第1回	日本語教育とは何か。 在住外国人が増加し、日本語教育が重視されるようになった背景について事例を挙げながらわかりやすく説明する。日本語教育の多様性にも触れる。					
第2回	国語と日本語 学校教育における国語は主に日本人に対する科目を示すとき使われる言葉であるのに対して日本語は一般に外国人に対して使われる言葉であることを詳しく説明する。					
第3回	国内における日本語教育の現状と問題点 日本国内において在住外国人の増加とともに日本語教育が行われるようになったが、その歴史的背景を理解するとともに文化庁の資料を使用し、現状と問題点を考察する。					
第4回	海外における日本語教育の現状と問題点 国際交流基金の資料を使用しながら海外における日本語教育の現状を示すとともに、国と地域の日本語教育に対する施策にも触れる。					
第5回	日本語教師の仕事 日本語教育は漢字圏・非漢字圏、学習者、ニーズなどの多様性を有しているが、日本語教師としての心構えを考える。					
第6回	日本語教師の役割(1) 外国人に日本語を教える場合に日本語教師として何に注意しなければならないかについて考える。					
第7回	日本語教師の役割(2) 外国人に日本語を教える場合に日本語教師として何に注意しなければならないかについて考える。					
第8回	日本語学習者の活動(1) 外国人日本語学習者は日本語をどのように習得していくのかを「獲得」と「学習」という観点から見ていく。					
第9回	日本語学習者の活動(2) 日本語教師は日本語をどのようにして、またどのような内容を教えるのかを考える。					
第10回	日本語教育に期待されるもの(1) 外国人学習者が日本国内で日本語を学習する際に何を期待するかを考える。					
第11回	日本語教育に期待されるもの(2) 外国人学習者が自国で日本語を学習する際に日本国内で期待されるものとは異なるが、その相違点を考える。					
第12回	日本語教師に必要なとされる能力(1) 日本語教師に求められる能力として文化庁国語課が示している日本語教員に必要な能力を説明する。					
第13回	日本語教師に必要なとされる能力(2) 日本語教師に求められる能力として文化庁国語課が示している日本語教員に必要な能力を説明する。					
第14回	登録日本語教員とは何か。 文化庁国語課を推進している国家資格「登録日本語教員」とは何かを説明する。					
第15回	認定日本語教育機関とは何か。 文化庁国語課が認定する「認定日本語教育機関」とは何かを説明する。					
授業計画 備考2						
評価の方法						
	種別	割合	評価基準・その態備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	講義の積極的な参加度によって評価する。			
	小テスト	60	日本語教育に関する概念を理解し、自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。 小テストはコメントを加え、返却した後に全員で再確認する。			
	ディスカッション	20	ディスカッションにおける発言回数、論理的な発言、質疑に対する回答が適切であったかどうかで評価する。			

評価の方法：自由記載	
受講の心得	この講義ではディスカッション等を行うので積極的に参加すること。
授業外学修	1.授業計画で示されたテーマを予習しておくこと。 2.講義で学んだ学習内容を再確認するとともに整理しておくこと。 3.ディスカッションに備えて自分の考えをまとめておくこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

毎回プリントを配布する予定

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	1. 高見深孟, ハト種山裕子他 (2004) 『新-はじめての日本語教育1』, アスク 2. 坂本勝徳, 手嶋千佳 (2017) 『日本語教育への道しるべ 第2巻』, 凡人社
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の实務経験	日本語教員 (8年), 日本語教育研究所研究員 (2年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	日本語教育機関 (8年) での経験から, 外国人に対して日本語を指導する技能を身につけられるように授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	日本語教育とは何かを理解するとともに, その難しさを知ることができる。また, 日本語教員の役割を理解し, 自分の意見を表すことができる。	日本語教育とは何かを理解することができ, その難しさを知ることができる。また, 日本語教員の役割を理解することができ, 自分の意見を表すことができる。	日本語教育とは何かを理解することができ, その難しさを知ることができる。また, 日本語教員の役割を理解することができ, 自分の意見を表すことができない。	日本語教育とは何かを理解することができ, その難しさを知ることができない。また, 日本語教員の役割を理解することができ, 自分の意見を表すことができない。	日本語教育とは何かを理解することができ, その難しさを知ることができない。また, 日本語教員の役割を理解することができ, 自分の意見を表すこともできない。	日本語教育とは何かを理解することができず, その難しさを知ることができない。また, 日本語教員の役割を理解することができず, 自分の意見を表すことができない。
思考・問題解決能力	日本語教育の動向を理解することができ, 国内外の情勢を把握することができる。また, 日本語教育の問題点を見つけ出し, 解決法を模索することができる。	日本語教育の動向を理解することができ, 国内外の情勢を把握することができる。また, 日本語教育の問題点を見つけ出し, 解決法を模索することができる。	日本語教育の動向を理解することができ, 国内外の情勢を把握することができる。また, 日本語教育の問題点を見つけ出せるが, 解決法を模索することができない。	日本語教育の動向を理解することができ, 国内外の情勢を把握することができる。また, 日本語教育の問題点を見つけ出せず, 解決法を模索することができない。	日本語教育の動向を理解することができ, 国内外の情勢を把握することができない。また, 日本語教育の問題点を見つけ出せず, 解決法を模索することができない。	日本語教育の動向を理解することができない。国内外の情勢を把握することができない。また, 日本語教育の問題点を見つけ出せず, 解決法を模索することができない。

科目名	日本語教授法			授業番号	LC215	サブタイトル	
教員	岡本 輝彦						
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	必修・選択
授業概要	日本語を教えるとはどういうことなのか、教員に求められるものは何かについて説明し、指導法の基礎を身につけることを目標とする。						
到達目標	1. 国語教育と日本語教育に対して正しく理解することができる。 2. 外国人に対する日本語の教え方の基礎を理解することができる。 3. 外国人に対する日本語教育における教室活動の方法を理解することができる。 4. 日本語参照枠を正しく理解することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	日本語を教えるとは日本語教育において誰に、何を、どのように教えるのかを理解する。						
第2回	国語教育と日本語教育 学校教育における国語教育と外国人学習者に対する日本語教育は異なる教育であることを学ぶ。						
第3回	世界の言語から見た日本語 ほかの言語と対比しながら日本語の特徴を探るとともに日本語を教える際にどのように役立てていくかを考える。						
第4回	音声・音韻 日本語の音の発声、意味の弁別するための音のパターンである音韻の構造を理解し、どのように役立てるかを学ぶ。						
第5回	語彙（1） 日本語の語彙体系を理解するとともに、理解語彙・使用語彙・基礎語彙・基本語彙などの違いを理解する。						
第6回	語彙（2） 日本語の語彙の種類、漢字、表記について理解するとともに、語の意味概念にも触れる。その上で外国人日本語学習者が学ぶべき語彙を学ぶ。						
第7回	文法・文型（1） 日本語教育で使われる文型や機能語について説明する。また、国語教育で使われている文法ではなく日本語教育文法にも学ぶ。						
第8回	文法・文型（2） 日本語のアクセント、イントネーションなどを扱い日本語教育にどのように役立てるかを学ぶ。						
第9回	いろいろな教授法(1) 伝統的な教授法を示すとともに、その利点と欠点を知る。						
第10回	いろいろな教授法(2) 1980年代に開発された教授法を示すとともに、その利点と欠点を知る。また、現在日本語教育機関ではどのような教授法が使われているかを学ぶ。						
第11回	日本語教育の方法 日本語教育現場では何を中心に日本語を教えているかを学ぶ。実際に教室作業ではどのようなことが行われているを知る。						
第12回	コースデザイン(1) コースデザインとは何かを理解する。コースデザインは日本語コース全体の計画を立てることであるが、その考え方を学ぶ。						
第13回	コースデザイン(2) コースデザインの考え方については前回学んだが、今回はコースデザインの事例を紹介しながらその実際を考える。						
第14回	カリキュラムデザイン 日本語コースではコースに沿うように到達目標が設定された上でシラバスが決定され、教授法や教材が選択されることになるが、どのようにカリキュラムを作成するかを学ぶ。						
第15回	日本語教育参照枠 これから認定日本語教育機関では日本語教育参照枠という指針に基づいて日本語教育が行われるように文部科学省・文化庁国語課が規定しているが、日本語教育参照枠はCEFRをもとに作成されているため、CEFRの考え方を学ぶ。						
授業計画 備考2							

評価の方法		
種別	割合	評価基準・その態備考
授業への取り組み/態度	20	講義に対する積極性によって評価する。
小テスト	60	教授法に関する理解度によって評価する。 小テストはコメントを加え、返却した後に、全員で内容を再確認する。
口頭発表	20	口頭発表がテーマに沿った内容であったかどうか、質疑応答に対応できたかどうかで評価する。 口頭発表終了後に、コメントを加え、再確認する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1.授業計画に基づき事項に関して事前にテキストを読み込み、調べたりしておくこと。 2.グループワークを行うこともあるが、その際には互いに協力し積極的に発言すること。
授業外学修	1.授業計画で示されているテーマに関する書籍を読んでおくこと。 2.次の講義までに自分の考えをまとめておくこと。 3.口頭発表の準備をしておくこと。 4.毎回、課題を与えるので調べて答えられるようにしておくこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	1.鎌田修,川口義一,鈴木健(1996)『日本語教授法ワークショップ』,凡人社 2.日本語教育学会(1995)『タスク 日本語教授法』,凡人社 3.国際交流基金(2007)『教師の役割/コースデザイン』,マツジ書房
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の实務経験	日本語教員 (8年),日本語教育研究所研究員 (2年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	日本語教育機関(8年)での経験から外国人に対して日本語を指導する技能を身につけられるように授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー/宇土力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	国語教育と日本語教育を正しく理解することができるように、外国人に対する日本語の教え方の基礎を身につけることができる。	国語教育と日本語教育を正しく理解することができるように、外国人に対する日本語の教え方の基礎を身につけることができる。	国語教育と日本語教育を正しく理解することができるように、外国人に対する日本語の教え方の基礎を多少身につけることができる。	国語教育と日本語教育を正しく理解することができるように、外国人に対する日本語の教え方の基礎を少し身につけることができる。	国語教育と日本語教育をあまり理解することができます。外国人に対する日本語の教え方の基礎を身につけることができない。	国語教育と日本語教育をあまり理解することができます。外国人に対する日本語の教え方の基礎も身につけることができない。
思考・問題解決能力	日本語参照枠を理解することができるように、外国人に日本語を教える際どのように利用するか、その問題点はどこにあるかを把握し、改善法を考えることができる。	日本語参照枠を理解することができるように、外国人に日本語を教える際どのように利用するか、その問題点はどこにあるかを把握し、改善法を考えることができる。	日本語参照枠を理解することができるように、外国人に日本語を教える際どのように利用するか、その問題点はどこにあるかを把握し、あまり改善法を考えることができない。	日本語参照枠を理解することができるように、外国人に日本語を教える際どのように利用するか、その問題点はどこにあるかを把握し、改善法を考えることができない。	日本語参照枠を理解することができるように、外国人に日本語を教える際どのように利用するか、その問題点はどこにあるかを把握し、改善法を考えることができない。	日本語参照枠をあまり理解することができず、また外国人に日本語を教える際どのように利用するか、その問題点はどこにあるかを把握することができず、改善法も考えることができない。

科目名	経営学特論 I			授業番号	LC216	サブタイトル	
教員	宋 煥沃						
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義
							必修・選択
授業概要	今日の世界経済はネット繋がれて緊密に一体化し、どこかで発生した問題は瞬時に世界中に波及している。世界各地で起こる紛争や自然災害は弱みのあるところを徹底的に突いており、各国の経済やその連合体である世界経済は、その風成単位というべき個別の企業経営とも緊密に一体化している。つまり、全体経済に関する知識のマクロ経済と個別経済に関する経営学は相互に関連しているのである。本講義では、我々の生活を営むための会社の仕事はどのように成っているのか、身近な会社の組織はどのように形成され、我々の仕事に結びついていくのかを考察する。具体的には経営実践の場である会社の仕組み、組織関係、生産管理、社員の雇用システム、社員の勤続付、人材育成制度などに関して学習する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 経営学の基礎理論が理解できるようになる。 実際の企業の事例研究を通して企業の実態がみえる。 経営学の基礎理論を踏及した会社の仕組みが理解できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学上力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	会社の経営はどんなことか わたしたちと関わる会社、経営のエッセンス、会社の経営に必要なもの、経営資源、管理のサイクル						
第2回	会社はどのようにして社会に役立つのか 社会に対する会社の役割、会社の行動と経済性原理、市場と意思決定、企業とNPOの違い、企業の社会的責任						
第3回	会社は誰が動かしているのか コーポレート・ガバナンス、会社形態の種類、株式会社の規模分布、所有と経営の分離、物言主株主、社外取締役の導入、執行役員制の導入						
第4回	会社はどのような方針で動いているのか 経営理念、会社の組織的機能、組織の求心力、経営理念の意義、会社の基本方針						
第5回	経営戦略と企業ドメイン 企業のドメイン、企業コンポジション、事業の選択、競争戦略、コスト・リーダーシップ、差別化、集中、リーダー、チャレンジャー						
第6回	会社はどんな仕組みで動いているのか 会社組織のカタチ、職能別組織、事業部制組織、マトリックス組織、カンパニー制、分社化、企業グループ						
第7回	会社はどのようにしてモノを造るのか 生産管理、会社の社会的責任、コスト・ダウン、テイラーシステム、課業管理、効率向上運動						
第8回	生産管理とアメリカの自動車システム フォードシステム、ベルト・コベアシステム、少品種大量生産方式、大量生産、規模の経済性、多品種少量生産、生産性と人間性の両立						
第9回	社員は仕事をどのように分担しているのか 組織の仕組み、組織の役割分担、分業、人件費の削減、権限関係を定める、公式を作る、仕事の効率、分業を促める						
第10回	社員はなぜ働くのか モチベーション、リーダーシップ、労働の意味、職業人生の流れ、勤続付と期待、達成動機、リーダーの行動						
第11回	社員はなぜ組織にとどまるとするのか 雇用システム、終身雇用、多様化する雇用形態、非正規雇用、フリーター数の高止まり、解雇、長期雇用						
第12回	会社の報酬制度とは 仕事の報酬、賃金の相対レベル、賃金形態、賃金体系と成果主義、年功序列の時代、能力重視の時代						
第13回	会社の人材育成制度 労働力という商品、人材育成、教育訓練、キャリア・デザイン、自律型人材、学歴した成長、OJT、OFF-JT						
第14回	会社は海外での経営とは何か 国際経営、グローバル企業、海外直接投資、海外生産、海外日系企業、日本の経営、ハイブリッド工場、グローバル統合						
第15回	会社の会計制度 財務活動、会計活動、貸借対照表、損益計算書の構造、損益分岐点、キャッシュフロー、手元現金						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	授業への態度、出席率、質問の状況、課題の提出を評価する				
	レポート	30	毎回の講義のまとめをレポートとして提出し、そのレポートを評価する				
	小テスト	50	キーワードの理解度、授業全体の理解度を2回の小テストを実施して評価する				

評価の方法：自由記載	講義の内容をまとめるレポートや小テストを実施するで、講義内容が理解できるように復習を行うこと。
受講の心得	・日常、企業の動向や戦略、経営に関心をもって授業に取り組むこと。 ・関心ある企業関連の新聞や雑誌などに目をつけて、問題意識をもって出席すること。
授業外学習	・予習として、教科書の講義内容に相当する部分を事前に読み、疑問点をチェックして来ること。 ・復習として、レジュメの内容を再度確認すること。 ・授業で学んだ内容の小テストがあるので、復習を充実させること。 以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
経験から学ぶ経営学入門	上林重雄他編著	有斐閣ブックス	978-4-641-18348-3	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
アドバンスト経営学	片岡徳之他編著	中央経済社	978-4-502-67620-8	
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学士力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 経営学特論の必要性を認識している 2. 経営学の基礎知識を深め、社会との関わりを理解することができる 3. 企業の組織構造のあり方によって、競争力の獲得できる構造を理解することができる	経営学特論の必要性をほぼ理解している 企業の組織構造を理解することができる 企業はどのように事業活動し、われわれに商品やサービスを提供できるかが理解できる	経営学特論の必要性をある程度理解している 企業の組織構造によって、企業業績が変わることが理解できる	基本的に経営学特論を学ぶ意味が理解できる 経営学の基礎概念が理解できる	経営学は理解できているが、具体的な知識は十分ではない 経営学の基礎概念が十分に理解できていない 企業組織のあり方にあまり興味を持っていない	経営学特論の科目を理解していない 経営学の基礎知識の習得にあまり興味を持っていない
思考・問題解決能力	1. 企業とわたしたちの社会との関わりを理解している 2. 企業の組織はどのように作られ、実行されているかが理解できる 3. 日本企業の国際競争力とはどのようなものかが把握できる	会社の仕組みや組織について十分に理解している 企業の社会との関わりが十分に理解できている 日本企業の問題点を把握し、自分でまとめることができる	企業の組織や企業の役割が理解できる 日本企業の国際競争の源泉が何であるのかが把握できる 自分で企業活動や戦略の問題点を把握し、議論することができる	企業の組織形態や構造を理解している 企業の競争はどのようなものかが理解できる 企業のあり方、社会的責任を理解することができる	具体的な企業形態や組織が理解できていない 経営学に関する基礎知識に興味を持っていない	企業に関する概念や言葉の意味が理解できていない 企業の組織構造、人材にあまり興味を持っていない 日本企業、海外企業にあまり興味をもっていない
技能	1. もう少し高度な経営学の内容の知識が修得できる 2. 経営学の基礎知識や理論が修得できる 3. 日本企業の海外における事業活動が理解できる	経営学の基礎理論と知識を深めることができる 企業で起こっている諸問題の対応策が考えられる 企業の不祥事を把握し、自分でその問題点をまとめることができる	洞察力を持って企業の仕組みや企業の役割が把握できる 企業の組織構造の重要性が理解できる 日本企業の海外展開における長所、短所が理解できる	経営学の基礎知識は修得できる 日本企業の組織構造を理解することができる 日本企業の競争優位はどのようなものかが理解できる	経営学の基礎知識はあまり修得できていない 経営学の基礎的な概念や定義が理解できていない 企業の不祥事がなぜ起こっているのかが理解できていない	経営学の基礎知識にあまり関心を持っていない 経営学の内容の理解や文章のまとめができていない 企業と社会との関わり方に関心をもっていない

科目名	企業倫理論			授業番号	LC301	サブタイトル	
教員	大塚 祐一						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義
						必修・選択	選択
授業概要	この科目は「専門教育科目」の「国際教養基幹科目」に属している。 本講義では、次の2つの問いに対する理解を深めることで社会的存在としての企業の役割や責任を学ぶ。2つの問いとは「企業は社会の中でどのような存在であるべきか」と「現代社会において企業に求められる社会的責任とは何か」である。言い換えれば「私たちが生きている現代社会において、良い企業とはどのような企業であるのかを共に学び考えること、これが本講義の大きなテーマである。「良い企業とはどのような企業か」と問われると、多くの人は利益をたくさん稼ぐ企業と答えるかもしれない。もちろん誤りではないが、21世紀においては企業の稼ぐ力に加えて、社会的課題や環境問題に誠実に対応する力が備わらなければ本来良い企業とは言われなくなっている。多くの利益を稼ぐ一方で、環境破壊や人権無視、法令違反を繰り返しているとなれば、そのような企業を良い企業と呼べないだろう。本講義では、具体的な事例や実社会の動向を踏まえながら、上記2つの問いに答えていく。						
到達目標	(1)現代社会の複雑な事象（特に社会問題・ビジネス上の倫理的課題）について理解し、それらが企業の持続的成長に深く関わっていることを説明できるようになる。 (2)現代社会の複雑な事象（特に社会問題・ビジネス上の倫理的課題）に対し、それを自分事として認識する態度が身につく。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	「本講義の目的と概要」ガイダンスとして、シラバス内容の確認を中心に本講義の全体像を大まかに概む。						
第2回	「経済のグローバル化とGood Business」 企業に社会的責任が求められるようになった背景として、経済のグローバル化を取り上げ、本講義の前提となる知識を修得する。						
第3回	「企業不正と企業の社会的責任」 21世紀初頭に相次いで表面化した企業不祥事を取り上げ、企業が社会的責任を果たすことの重要性を再確認する。						
第4回	「コンプライアンス経営」 企業不祥事を防止するための仕組みや体制のあり方を学ぶ。						
第5回	「コーポレートガバナンス(1)会社は誰のものか」 会社は誰のものかという問いを巡る日本の歴史を学ぶ。						
第6回	「コーポレートガバナンス(2)企業統治を巡る近年の動向」 企業価値の向上に向けたガバナンス強化の動向（特に2015年以降）を学ぶ。						
第7回	「良い企業を市場から支える仕組み」 どんなに熱心に社会的責任を果たしていても、そうした企業が市場で評価されなければ企業の倫理実践は前には進まない。近年注目されているESG投資の視点から、良い企業が報われる社会にならなければならないことを学ぶ。						
第8回	「CSRとしての企業の社会貢献活動」 社会の公器として、企業がいかに社会貢献活動を展開しているかを学ぶ。						
第9回	「CSV経営(共通価値の創造)」 社会的価値と経済的価値を両立するCSVの理論と実践を学ぶ。						
第10回	「SDGsと企業経営」 規模の大小に関わらず、近年SDGsへの貢献が企業に期待されている。企業はいかにSDGsに向き合っていくべきかを学ぶ。						
第11回	「SDGs時代における企業の脱炭素経営」 脱炭素や気候変動など、一度は耳にしたことのある言葉について理解を深めると同時に、いま企業に求められている環境対応について学ぶ。						
第12回	「ビジネスと人権」 人権課題への対応が急務となる中、事例を交えながら企業の人権責任について学ぶ。						
第13回	「人事・労務とCSR」 ダイバーシティや女性活躍推進など、人事・労務に関わる企業の社会的責任について学ぶ。						
第14回	「企業存在理由(purpose)を改めて考える」 これまでの授業内容を振り返りながら、改めて企業の目的・存在理由を再確認する。						
第15回	「全体の振り返りと総括」 授業の重要箇所の振り返りとともに、期末試験に向けた対策講座を実施する。						
授業計画 備考2	毎回の授業で資料を配付する。						
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	講義への参加度、発言などを評価する。				
	レポート						
	小テスト						
	定期試験	70	「企業倫理」の基本的概念を理解しているかどうか確認する。				
	その他						

評価の方法：自由記載	授業への取り組み姿勢/態度については、授業内での発言なども考慮に入れるため、能動的な姿勢で参加してほしい。
受講の心得	企業倫理や企業の社会的責任を理解するには、実社会の動向を広く捉えることが重要となるため、新聞やニュースに触れる機会を主体的に増やしておくこと。
授業外学習	事前学習として、配布資料を事前に読み授業で用いる用語や概念について予習しておくこと（60分程度） 事後学習として、授業で学習した内容（用語、理論、実社会の動向など）について復習し理解を深めること（60分程度）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
-----	--

備考	
----	--

注意事項	
------	--

担当教員の実務経験の有無	無
--------------	---

担当教員の実務経験	
-----------	--

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
-----------------------	---

担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
--------------------	--

実務経験をいかした教育内容	
---------------	--

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. CSR（企業の社会的責任）やESG（環境・社会・ガバナンス）など、企業倫理論に関する基本的な言葉について理解している。	授業で学修した企業倫理に関する基本的な言葉や概念について、正確に理解し述べることができる。	授業で学修した企業倫理に関する基本的な言葉や概念について、ほぼ正確に理解し述べることができる。	授業で学修した企業倫理に関する基本的な言葉や概念について、おおむね理解し述べることができる。	授業で学修した企業倫理に関する基本的な言葉や概念について、適切に述べることができないが、自分の言葉ではおおむね表現できる。	授業で学修した企業倫理に関する基本的な言葉や概念について、全く理解することができない。
思考・問題解決能力	1. 現代社会における倫理的問題や社会問題が、企業の持続的成長に深く関わっていることを理解している。	環境問題や社会課題への対応を企業に求める動きが活発化していることを正確に理解し、これら課題に企業はいかに応えていくべきかを述べることができる。	環境問題や社会課題への対応を企業に求める動きが活発化していることをほぼ正確に理解し、これら課題に企業はいかに応えていくべきかを述べることができる。	環境問題や社会課題への対応を企業に求める動きが活発化していることをおおむね正確に理解し、これら課題に企業はいかに応えていくべきかを述べることができる。	環境問題や社会課題への対応を企業に求める動きが活発化していることを適切に理解・説明することはできないが、自分の言葉ではおおむね表現できる。	環境問題や社会課題への対応を企業に求める動きが活発化していること、そうした動きに対して企業はいかに応えていくべきかについて全く理解できない。
態度	1. 現代社会における社会課題を自分事として捉え、積極的に授業に参加できる。	授業内で意見を求められた際に積極的に自らの考えを発信したり、また主体的に質問をしている姿勢が常に見受けられる。	授業内で意見を求められた際に積極的に自らの考えを発信したり、また主体的に質問をしている姿勢が多々見受けられる。	授業内で意見を求められた際に積極的に自らの考えを発信したり、また主体的に質問をしている姿勢が時々見受けられる。	授業内で意見を求められた際に積極的に自らの考えを発信したり、また主体的に質問をしている姿勢が僅かながら見受けられる。	授業内で意見を求められた際に積極的に自らの考えを発信したり、また主体的に質問をしている姿勢が見受けられない。

科目名	経営学特論Ⅱ			授業番号	LC302	サブタイトル	
教員	宋 煥沃						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義
							必修・選択
授業概要	<p>今日企業を取り巻く環境は日々変化し、企業間の競争はますます熾烈になってきている。こうした熾烈な世界競争の中で日本企業の事業活動はどのように形成され、発展してきたかを考察する。これまでの国際競争で優位に立っているアメリカ企業の経営方法や管理システムを検討した上で、現在の日本企業の競争メカニズムを抽出する。この企業においてそれぞれの保有している経営資源を配分し、事業戦略や経営戦略を実践していくのが最大限の課題である。本講義では、世界競争を軸をなす企業競争に軸をおいて、実際の企業の国際競争力の現段階の特質や構造を明らかにする。本講義では、前半でアメリカ経営学の経営管理の諸理論を学習する。後半では、これまで国際競争に勝ち残ってきた日本企業の競争戦略や経営戦略に焦点をあててICT産業、通信産業、半導体産業における競争戦略、経営戦略に焦点を当て、アメリカ企業、東アジア企業との比較からその相違、発展メカニズムを明らかにする。</p>						
到達目標	<p>・経営学の基礎理論が理解できるようになる。 ・実際の企業の事例研究を通して競争システムが理解できる。 ・海外企業を含む企業の国際競争力の実態が理解できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学上力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	経営学の生成と発展 アメリカの産業化、未熟練工の発生、大量生産、見えざる手						
第2回	科学的管理法と工場管理 テイラーシステム、生産管理、時間研究、課業管理、作業研究						
第3回	フォードシステムとフォードイズム 資金動機、標準化、移動組立法、大量生産、規模の経済						
第4回	メイヨーと人間関係論 ホーソン実験、面接調査、リレー組立試験室、経済人仮説、社会人仮説、公式組織						
第5回	近代組織論とバーナード革命 経営工学、権限受容説、内部統制、外部適応、意思決定、協同体系、共通目標						
第6回	会社の組織 会社組織の形態、職能別組織、事業部制組織、マトリックス組織、カンパニー制、分社化、企業グループ						
第7回	アメリカのICT企業の競争力 国際分業関係、アウトソーシング、戦略的提携、オフショアリング						
第8回	アメリカICT企業の競争力(2) 国際競争、寡占構造、企業間競争、M&A、価値連鎖						
第9回	アメリカICT企業の事例(アマゾン) クラウドサービス、プライム会員、ネットワークの外部性、物流システム、ビックデータ						
第10回	日本の電子産業の国際競争力 デジタル化、コモディティ化、水平分業、垂直統合モデル						
第11回	韓国モバイル企業の部品調達(三星電子) 内部調達、内製化、R&D投資、スピード、シナジー						
第12回	中国企業の成長の事例(レノボ社) 戦略的買収、M&A、研究開発力、先進技術、技術導入						
第13回	デジタル化とGAFAの競争構造 プラットフォーム、デジタル多国籍企業、寡占構造、無形資産						
第14回	GAFA競争構造の事例(グーグル) 検索エンジン、無形資産、ネットワークの外部性、システムの創造						
第15回	世界展開する日本のアパレル産業 現地化、マーケティング戦略、新興国市場、BOP市場						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	授業への態度、出席率、質問の状況、課題の提出を評価する。				
	レポート	30	講義の内容のまとめをレポートとして提出し、そのレポートを評価する。 提出レポートはコメントを加え、返却する。				
	小テスト	50	キーワードの理解度、授業全体の理解度を評価する。				

評価の方法：自由記載	講義の内容をまとめたレポートや小テストを実施するので、講義内容が理解できるように復習を行うこと。
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> ・日常、企業の動向や戦略、経営に関心をもって授業に取り組むこと。 ・関心ある企業関連の新聞や雑誌などに目をつけて、問題意識をもって出席すること。
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、教科書の講義内容に相当する部分を事前に読み、疑問点をチェックして来ること。 ・復習として、レジュメの内容を再度確認すること。 ・授業で学んだ内容の小テストがあるので、復習を充実に行うこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
経験から学ぶ経営学入門	上林重雄他編著	有斐閣ブックス	978-4-641-18348-3	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
多国編企業・グローバル企業と日本経済	夏目啓二編著	新日本出版社	978-4-406-06394-4	
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 経営学の形成と発展の歴史が理解できる 2. 現在、最も成長しているアメリカのICT企業の競争構造が理解できる 3. 経営学の事例研究を通して企業の成長プロセスが把握できる	アメリカ経営学の形成過程から今日の企業経営の基本が理解できる 企業の組織構造を学ぶことによって、企業の成長メカニズムが理解できる 経営学特論の内容の知識が修得できる	経営学と経済学の違いを理解できる 企業の仕組みや企業形態の内容がほぼ理解できる	基本的に経営学を学ぶ意味を理解している 企業の激しい競争構造を把握することができる 経営学の基礎を超えた基本知識が修得できる	経営学特論の科目が理解できていない 具体的な企業の競争構造が理解できていない	経営学特論の科目を理解していない 基本的な概念や意味が理解できていない 内容の理解や文章のまとめができていない
知識・理解	1. 企業の歴史をアメリカ経営学の形成から学び、理解することができる 2. 海外企業の事例を通して、国際競争力がどのようなかを理解できる 3. 日本企業と海外企業との競争優位の源泉を探ることができる	アメリカ企業の歴史を通じて、今日の企業の発展は把握できるようになる 海外企業の事例から現在の国際情勢、国際競争が理解できる 経営学の実践を学ぶことから自分の考え方を深めることができる	企業の組織構造を知ることから思考力が培える 国際競争の露出構造を理解することができる 海外企業の事例を学ぶことからデジタル時代の競争構造が把握できる	経営学の概念や基礎理論が理解できる 企業の事業活動の中身を理解することができる 日本企業の問題点を発見することができる	経営学の内容や各テーマが理解できていない 日本企業の海外展開、国際競争にあまり関心を持っていない 企業の役割や問題点に関して理解できていない	経営学の基礎理論や概念に興味を持っていない 日本企業の国際競争力にあまり興味を持っていない 企業と社会との関わり方を理解していない
技能	1. 経営学の歴史から企業経営の実態を把握することができる 2. 海外企業の事例を通して、日本企業の差別化戦略を把握することができる 3. 日本企業の競争の源泉である技術力、品質がどのようなかを理解できる	アメリカ経営学の歴史を学ぶことから今の企業の現状を把握することができる 海外企業の事例を学ぶことから、企業経営の問題点を抽出することができる 日本企業の問題点を把握し、自分でその問題点をまとめる力が培える	企業組織の内容を理解している 日本企業の問題点がほぼ把握できる 海外企業の事例を学ぶことで、国際競争力の意味、現状が理解できる	日本企業と海外企業との競争構造を理解することができる 海外企業の事例を通して戦略の違いを十分に理解している 現在の日本企業の置かれている現状が把握できる	日本企業や海外企業に興味を持っていない 経営学の歴史、理論に興味を持っていない 企業の事業活動、基礎知識が理解できていない	日本企業の事業活動に関心を持っていない 経営学の歴史を学ぶ意味を理解していない 企業とわれわれ社会との関わりが理解できていない

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	情報処理 I	授業番号	LD101	サブタイトル	
教員	赤木 電也				
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期
				授業形態	演習
					必修・選択
					必修
授業概要	情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ、コンピュータを利用した情報処理の一端としてワードプロセッサ、表計算ソフトなどを用いて情報処理の基本について学習する。				
到達目標	情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために、日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの基礎的技術を学び、情報に応じて適切な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお、本科目はデプロイポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	情報処理とコンピュータの関わり コンピュータにおける情報の扱い方について学習する。				
第2回	コンピュータの基礎知識 コンピュータにおける文字データの扱い方について学習する。				
第3回	ワードプロセッサの基本 基本的な文書の作成方法について学習する。				
第4回	ワードプロセッサの活用(1) 基本的な編集機能について学習する。				
第5回	ワードプロセッサの活用(2) 作表機能について学習する。				
第6回	ワードプロセッサの活用(3) 図形描画機能について学習する。				
第7回	表計算ソフトの基本(1) 基本的な表の作成方法について学習する。				
第8回	表計算ソフトの基本(2) セルの属性(書式設定)について学習する。				
第9回	表計算ソフトの基本(3) 基本的なグラフ(棒グラフ、円グラフ)の作成方法について学習する。				
第10回	表計算ソフトの基本(4) 応用的なグラフ(複合グラフ)の作成方法について学習する。				
第11回	表計算ソフトの応用(1) 基本的な関数について学習する。				
第12回	表計算ソフトの応用(2) 基本的な関数(判定)について学習する。				
第13回	表計算ソフトの応用(3) 基本的な関数(検索)について学習する。				
第14回	表計算ソフトの応用(4) 基本的なデータベース機能について学習する。				
第15回	総合演習・まとめ 演習問題を通してより深くワードプロセッサ、表計算について理解・学習する。				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、課題への取り組み姿勢および復習の状況によって評価する。		
	レポート				
	小テスト	10	授業中出題する演習問題について評価する。		
	定期試験	70	習熟達成度を評価する。		
	その他				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	コンピュータを用いた実習を適宜行うため、遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は、必ず放課後等を利用して学修しておくこと。
授業外学修	授業時間の都合上、テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため、授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として4時間以上その都度取り組み、理解度を深めておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間でマスターWord&Excel2021 (Windows11対応)	実教出版企画開発部	実教出版	978-4-407-35939-8	1100
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	岡山県立鳥城高等学校、岡山県立玉野光南高等学校公民・商業・情報科講師（10年）、県立高等学校IT講習会講師（1年）での実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ、情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	データの特性について理解している	文字データ・数値データの特性の違いを理解するとともに、適切にデータ変換することができる。	文字データ・数値データの特性の違いを理解することができる。	文字データ・数値データを区別することができる。	数値データの取扱いに難がある。	文字データ・数値データを区別することができない。
知識・理解	ビジネス文書について理解している	社内文書・社外文書のフォーマットの違いを理解し、時候の挨拶を適切に扱うことができる。	社内文書・社外文書のフォーマットの違いを理解している。	ビジネス文書のフォーマットについてはほぼ理解している。	ビジネス文書のフォーマットを理解していない。	ビジネス文書を全く表現することができない。
知識・理解	表計算ソフトの関数および演算について理解している	絶対参照・相対参照の違いを理解し、正しく関数を使用した演算したりすることができる。	適宜関数を使用、演算し、わかりやすく表示することができる。	適宜関数を使用したり演算したりすることができる。	データ範囲を間違えたり、関数を正しく使用したりすることができない。	関数を使用することができず、また正しく演算することができない。
知識・理解	グラフの特性について理解している	データの特性に合わせて適切なグラフを選択し、またわかりやすいグラフを作成することができる。	わかりやすいグラフを作成することができる。	数値データからグラフを作成し、グラフ要素を使いこなすことができる。	数値データからグラフを作成することができるが、グラフ要素を適宜使用することができない。	グラフの元となるデータ範囲を理解することができない。
技能	正しくデータ入力することができる	文字種を適切に使い分け、早く正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分け、早く正確に入力することができる。	ある程度文字種を使い分け、正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けことができず、また入力正確性に欠ける。	文字種を適切に使い分けが出来ず、また入力がおぼつかない。

科目名	情報処理Ⅱ	授業番号	LD102	サブタイトル	
教員	赤木 電也				
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期
				授業形態	演習
					必修・選択
					必修
授業概要	情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報および前期科目「情報処理Ⅰ」を踏まえ、コンピュータを利用した情報処理の一端としてワードプロセッサ、表計算ソフトなどを用いて情報処理の発展的内容について学習する。				
到達目標	情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために、日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの応用的技術を知り、情報に応じてより高度な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	ビジネス文書の基礎知識 基本的なビジネス文書の構成とその作成方法について学習する。				
第2回	表の編集とリスト より高度な表とリストの作成方法について学習する。				
第3回	グラフィック要素の挿入・取り扱いと文書の管理 グラフィック要素の種類とその作成・編集方法および文書の機能について学習する。				
第4回	他のデータの利用 他のアプリケーションデータの取り込み方法について学習する。				
第5回	文書の書式・レイアウトおよびデータのインポート ページレイアウトおよび図形の配置、外部テキストデータの取り込み方法について学習する。				
第6回	表の作成と編集 基本的な表の作成と編集および複数シートの連携について学習する。				
第7回	関数(1) カウント、条件処理関数について学習する。				
第8回	関数(2) 文字列操作関数について学習する。				
第9回	グラフ グラフの作成や変更、書式設定などグラフ機能について学習する。				
第10回	データベース機能の利用 データベースの基礎知識とテーブル機能について学習する。				
第11回	ブック内の移動と表示のカスタマイズ ブック内の効率的な移動や表示のカスタマイズについて学習する。				
第12回	共同作業のための設定方法 印刷や共同作業のための設定方法について学習する。				
第13回	インポートとデータの視覚化 別ファイルからのインポートとわかりやすい表の作成方法について学習する。				
第14回	クロス集計 ピボットテーブルについて学習する。				
第15回	別表の参照とエラー回避 検索関数とエラー表示の回避方法について学習する。				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、課題への取り組み姿勢および復習の状況によって評価する。		
	レポート				
	小テスト				
	定期試験	50	習熟達成度を評価する。		
	その他	30	出題する演習問題について評価する。		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	コンピュータを用いた実習を適宜行うため、遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は、必ず放課後等を利用して学ばせておくこと。
授業外学習	授業時間の都合上、テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため、授業中出題されなかった他の演習問題を事後学習として4時間以上その都度取り組み、理解度を深めておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間アカデミックWord&Excel2019	杉本みづ子／大澤米子	実教出版	978-4-407-34834-7	1540

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無

有

担当教員の業務経験

岡山県立鳥城高等学校、岡山県立玉野光南高等学校公民・商業・情報科講師（10年）、県立高等学校IT講習会講師（1年）での業務経験を有する。

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる実務経験者

実務経験をいかけた教育内容

高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ、情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	様々な文書の作成方法を理解している	目的に合わせて自在に文書を作成することができる。	図表を用いたデジタル文書を作成することができる。	レイアウトの整った文書を作成することができる。	レイアウトが崩れていたり、統一性が欠けたりした文書を作成する。	必要な機能を理解しておらず目的の文書を作成できない。
知識・理解	データの特性に基づき表の作成方法を理解している	データの特性を認識した上で適宜関数や集計機能を利用し、わかりやすい表を作成することができる。	関数や集計機能を利用し、わかりやすい表を作成することができる。	関数や集計機能を利用して表を作成し、正しく表示することができる。	関数や集計機能を利用して表を作成することができるが、正しく表示させることができない。また正しく演算することができない。	関数や集計機能の利用がおぼつかない。また正しく演算することができない。
知識・理解	外部データの取り込み・編集方法を理解している	外部データの特性を理解するとともに、外部データを作成、取り込み、編集することができる。	外部データに合わせて正しく取り込み編集することができる。	外部データを取り込んで編集することができる。	外部データを取り込むことはできるが、データ型を正しく扱うことができない。	外部データを取り込むことができない。
知識・理解	日本語ワープロソフトと表計算ソフトとの連携方法を理解している	日本語ワープロソフトと表計算ソフト間だけでなく、他のソフトウェアとのデータのやりとりをすることができる。	日本語ワープロソフトと表計算ソフト間で最新データのやりとりをすることができる。	日本語ワープロソフトと表計算ソフト間でデータのやりとりをすることができる。	日本語ワープロソフトと表計算ソフト間でデータのやりとりをすることができるが、レイアウトを正しく表示することができない。	日本語ワープロソフトと表計算ソフト間でデータのやりとりをすることができない。
技能	正しくデータ入力することができる	文字種を適切に使い分け、早く正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分け、早く正確に入力することができる。	ある程度文字種を使い分け、正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分け、早く正確に入力することができず、また入力正確性に欠ける。	文字種を適切に使い分け、早く正確に入力することができず、また入力がおぼつかない。

科目名	情報処理Ⅱ			授業番号	LD201	サブタイトル	
教員	赤木 電也						
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習
						必修・選択	選択
授業概要	情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報および1年次開講科目「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」を踏まえ、コンピュータを利用した情報処理の一環として表計算ソフトを用いて情報処理の発展的内容について学習する。						
到達目標	情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために、表計算ソフトの応用的技術を知り、情報に応じてより高度な表・グラフの作成およびデータの分析ができるようになることを目的とする。 なお、本科目はデプロイ前シラに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	表計算の基礎 基本的な表計算ソフトの機能について学習する。						
第2回	外部データの取込 他のアプリケーションソフトからのデータ取り込みおよびデータチェック(検索・置換)方法について学習する。						
第3回	データ処理の基礎(1) 数式およびフィル機能、条件付き書式機能について学習する。						
第4回	データ処理の基礎(2) グラフの種類および効果的なグラフの作成方法について学習する。						
第5回	データ処理の基礎(3) 基本的な関数の利用方法について復習するとともに関数を用いた数値の加工方法について学習する。						
第6回	データ処理の基礎(4) 日付・時刻の扱い(シリアル値)について学習する。						
第7回	データ処理の基礎(5) 文字列操作関数および関数の場合利用について学習する。						
第8回	データ処理の基礎(6) データベース関数および統計関数について学習する。						
第9回	データ処理の応用(1) データ集計およびデータベース処理について学習する。						
第10回	データ処理の応用(2) ピボットテーブルとピボットグラフ機能について学習する。						
第11回	データ処理の応用(3) 作業の自動化(マクロ機能)について学習する。						
第12回	データ処理の応用(4) グラフ機能を利用したデータ分析(ABC分析、単回帰分析)方法について学習する。						
第13回	実践データ処理(1) 関数の複合的利用方法について学習する。						
第14回	実践データ処理(2) 作業グループとさまざまなグラフを用いたデータ分析方法について学習する。						
第15回	実践データ処理(3) 基礎統計処理(クロス集計、相関分析)を用いたデータ分析方法について学習する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な受講態度、課題への取り組み姿勢および復習の状況によって評価する。				
	レポート						
	小テスト						
	定期試験	50	習熟達成度を評価する。				
	その他	20	授業中出題する演習問題について評価する。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	コンピュータを用いた実習を適宜行うため、遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は、必ず放課後等を利用し学便しておくこと。
授業外学習	授業時間の都合上、テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため、授業中出題されなかった他の演習問題を事後学習として4時間以上その都度取り組み、理解度を深めておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間アカデミック情報活用 Excel2016/2013	飯田慈子・米沢雄介・岡本久仁子	実教出版	978-4-407-34029-7	1650

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の实務経験	岡山県立鳥城高等学校、岡山県立玉野光南高等学校公民・商業・情報科講師（10年）、県立高等学校IT講習会講師（1年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ、情報リテラシーのスキルアップを目標とした知識・技術を指導する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	関数を適切に使用することができる	データの特性に合わせて最適な関数を複数組み合わせ利用することができる。	複数の関数を組み合わせ利用することができる。	データの特性に合わせて適切に関数を利用することができる。	データの特性に合わせて適切に関数を利用することができない。	基本的な数種類の関数しか使用することができない。
知識・理解	データベースについて理解している	適切なデータベースを作成、集計し、分析することができる。	適切なデータベースを作成し、集計することができる。	データベースについての基本知識を理解し、作成することができる。	一部不適切なデータベースを作成している。	データベースの基本知識が不足し、作成することができない。
知識・理解	データを適切に分析することができる	作成した表やグラフを元に多角的にデータ分析を行うことができる。	作成した表やグラフを元にデータ分析を正しく行うことができる。	作成した表やグラフを元にデータ分析を行うことができる。	作成した表やグラフを元にデータ分析を行うことができない。	データ分析に必要な表やグラフの作成等の前処理をすることができない。
技能	正しくデータ入力することができる	文字種を適切に使い分け、早くて正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分け、早くて正確に入力することができる。	ある程度文字種を使い分け、正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けられず、また入力正確性に欠ける。	文字種を適切に使い分けられず、また入力がおぼつかない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	ICT応用論		授業番号	LD202	サブタイトル				
教員	久保 博尚								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	本授業では、近未来社会をできるだけ実感的に知ることを目指す。最新のデジタルテクノロジーであるメタバースを学ぶ。学習効果を高めるため、アニメ作品の原点である『鉄腕アトム』(1951)からメタバース世界をテーマにした映画『レイ・プレイヤー1』(2018)まで、メタバースに関わりのあるメディア表現を積極的に取り上げる。また、テクノロジーが現実社会と与える影響が実感できるように、デジタル機材を用いたレイジグスタンスの体験実習にも取り組む。これらを通じて、近未来社会とできる自分の姿がよりリアルに予測できるようにする。								
到達目標	授業を通じて最新のデジタルテクノロジーを実感的に学び、近未来の自分の姿リアルに思い描けるようにすることが本授業の目標である。この目標を達成するには、授業を通じて得た「知識・理解」をもとに、＜思考・問題解決能力＞を高めるための＜技能＞も身につける必要がある。こうした能力は知識のみならず、話を聞く・質問する・調べ・まとめる・表現するといった基本的な学習＜態度＞によって支えられる。これは、ディプロマ・ポリシーに掲げた士力力の構成要素そのものである。								
授業計画 備考	授業を受けるにあたり、各自がPC、タブレット端末、スマートフォン(いずれかを保有し(可能な限りPC)、Googleアカウントを持つことが必須の要件である。ネットワーク上の情報共有はScrapboxベースで行う。各自の端末を使用して授業に参加する必要があるため、PCの持参を強く推奨する。スマートフォンやタブレットでは大きなハンディを両手こにこなす。PCはChromebook以上であれば機種種を問わないが、可能であればWindowsよりもMacの利用を推奨する。								
回	概要					担当			
第1回	仮想現実とは何か？ 授業計画の説明とともに、社会に普及し始めた仮想現実の代表的な例に接し、その実態を理解する。その補助資料として、代表的なソーシャルVRであるclusterの解説動画を視聴する。								
第2回	仮想現実のテクノロジー史(インロ) 仮想現実の成立にはテクノロジーの発達と文化の成熟が大きく関係している。この回の授業では、テクノロジーの観点から仮想現実研究の歴史を概観する。そのひとつとして、1960年前後に行われたアメリカが研究機関における仮想現実の研究に関する動画を視聴する。								
第3回	仮想現実の文化史(前編) 仮想現実に関する文化のうち、主に戦後から2000年ごろの出来事を取り上げる。合わせて仮想現実におけるアバターとの関係を考える。その題材として、アニメ作品『電脳コイル』の紹介動画を視聴する。								
第4回	仮想現実の文化史(中編) 仮想現実に関する文化のうち、主に2000年ごろから現在までの出来事を取り上げる。合わせて身体能力の拡張と仮想現実の関係を取り上げる。仮想現実に関する表現手法の具体例として、映画『マトリックス』の特撮がどのように行われたかを取り上げる。								
第5回	仮想現実の文化史(後編) 主に1980年代以降の50年間の50年間の仮想現実の関係を考え、映画やアニメの表現が仮想現実と密接に結びついている様子を確認する。具体例として、映画『ブレードランナー』やアニメ作品『奇生獣』を取り上げる。またこの回は、これまで学んだ仮想現実の特徴整理を行い、内外のアニメや映画が仮想現実、拡張現実、異体、VRに分類されることを確認する。								
第6回	なぜ仮想現実になるのか？ これまでの授業で得た知識をもとに、そもそも「仮想現実」と言えるのか、仮想現実の本質を考える。このことを通じて「仮想現実とは、見かけは現実ではないが、実質的には現実である」ということを理解する。この理解を補足する資料として、黒川、錯覚、ピカソの絵画作品を取り上げる。また、視覚と脳の関係をもとに「見る」は目ではなく脳であることを解説する。								
第7回	メタバースを先導する日本の状況 これまで学んだメタバースと文化の関係を踏まえ、文化の進み具合やアバターの表現や振る舞いなどのような影響をもたらしているかその実態を学ぶ。参考資料として、アニメ作品『ドラえもん』を取り上げる。この作品にメタバースの中心概念である仮想現実と拡張現実が巧みに表現されていることを理解する。								
第8回	特別テーマ: AppleのVision Proの本質を探る 仮想現実についての最新事例としてAppleのVision Proをとりあげ、その特徴や実際の動きを使った解説により、その考え方や実感を体感する。とくに、Apple Vision Proが初めて打ち出した「空間コミュニケーション」という概念に開く。VR(仮想現実)とAR(拡張現実)が連続的に混在する世界がどのようなものかを理解する。								
第9回	clusterで「仮想現実」を体験する(準備編) 次回授業で仮想空間内での授業「仮想現実」を体験する。その準備として、代表的なVRゴーグルであるMetaのQuest2を使い、仮想空間に対応した3D映像を使って仮想空間を予約して体験する。また、仮想現実への参加に必要なアカウントの取得や、各自のスマートフォンの設定などの準備作業を行う。								
第10回	Quest2を使って仮想空間を体験する(実習編) 各自のスマートフォンでQuest2を使って、別途準備した「ICT応用論」の仮想現実に入る。仮想空間内の教室では移動、発言、挙手、スライドやビデオの閲覧などを実際にやり、教室外では無制限に歩く際の身体感覚の変化などを体験する。授業の進捗によっては、教室の改造や備品の追加などの仮設体験も行う。								
第11回	空間を超える仮想現実 仮想現実とは視覚だけでなくもたらされるものではない。この回では、イメージや視覚による仮想現実とは性質の異なる、物理的、身体的性格が強い遠隔制御の基礎を学ぶ。その上で、後のレイジグスタンス実習の基礎知識として、遠隔制御の仮想化であるレイジグスタンスの意味と性質を考える。								
第12回	五感と仮想現実 視覚や聴覚など、人間の五感がどのように仮想現実と関係するかを学ぶ。その上で、ビジュアルフィードバック(視覚的力触覚)を体験する。合わせて、目の不自由な人がどのように空間を捉えているかを学ぶ。そのための補足資料として伊藤重紗『手の倫理』を利用する。								
第13回	レイジグスタンス実践講座(1) レイジグスタンスが物理的な距離的制約を超えるための仮想現実であることと理解した上で、VR支援装置に人間が同伴する「同体型レイジグスタンス」実習のための準備を行う。より実感的なレイジグスタンス環境を実現するには、コミュニケーション能力の向上が重要であることを学ぶ。								
第14回	レイジグスタンス実践講座(2) 実習に使用するレイジグスタンス装置の説明を行った上で、装置とアプリケーションのセットアップを行う。その後、実際に校内の売店で商品を購入し、図書館では図書を借りる実習を行う。実習の際には、実施者と参加者が遠隔コミュニケーションを行う様子を動画に収録し、後に実習の内容を分析するための資料を得る。								
第15回	レイジグスタンス実践講座の補足とICT応用論の振り返り 前回授業で撮影した動画を振り返り、分析と評価を行う。後半では、ICT応用論全体の要点整理とディスカッションを通じて、学習した内容の再確認と知識の定着を図る。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組み姿勢/態度		40	意欲的な受講態度、発表・討論への参加、レイジグスタンス実習など授業内容関連の知識の習得状況によって評価する。						
レポート、実習の成果		60	授業ページを読み授業のポイントに沿った論述であること、討論内容が反映されていること、自らの意見が論理的にわかりやすく表現されていること。積極的に実習に参加し、関係者とのコミュニケーションに努めること。これらが評価の基準になる。						

評価の方法：自由記載	<ul style="list-style-type: none"> ●成績評価の方法 Googleフォームを利用した選択式と記述式の理解度測定を行う。理解度測定とその評価・共有は授業時間内に行い、時間外の試験や演習は行わない。記述式では、授業を通じて発展した考えについて、思考力・判断力・表現力などを評価する。 ●理解度計画 本授業は選択科目のため、聴講生が多い場合は回答状況のモニタリング方式、少ない場合は回答についての講評方式により、回答の共有とフィードバック、理解度の向上を図る。モニタリングの具体的な方法はICT概論1、2に準じる。 ●成績評価の共有と活用 選択式・記述式ともに、回答の傾向や正解率、考え方の特徴、興味深い意見などをクラスで共有し、授業の改善に役立てる。
受講の心得	ネット上の情報とともに、図書・映画・音楽など各種の情報コミュニケーションに見て・聞いて・感じたことを文章に表現するクセを付けること。
授業外学習	1) 予習として、授業ページに目を通した上で、授業で取り上げる重要キーワードを調べておくこと。 2) 復習として授業ページを再読し、学んだことを自分のScrapboxページにまとめること。 以上の内容を、週に4時間以上行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載 市販の図書を利用しない。すべての講義内容は、すべての授業回に対応する形で、文章と図により授業Scrapboxに掲載されているので、講義ならびに予習・復習は授業ページで行うことを原則とする。授業ページは受講生に限り、PC、スマホ、タブレット等によりいつでも学内から閲覧することができる。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
メタバース進化論——仮想現実の荒野に浮かぶ「解放」と「創造」の新世界	バーチャル少女ねむ	技術評論社	978-4-297-12756-5	1980円

参考書：自由記載	受講する上で上述の参考図書の購読を推奨する。読んでおくことで授業内容が理解しやすくなる。ただし、購読は必須ではなく、教科書として使用するものではない。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	有
担当教員の業務経験	システム開発会社の顧問を務めながら、現代社会とデジタルテクノロジーをテーマに、高校、大学、企業で講演を行っている。2016年頃から2019年の在社期間中は月平均1回として約50回、その後は企業の顧問として年平均3回として約12回、合計8年間で60回を超える講演を行なったものと推計する。
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験もいかに教育内容	日常的な情報整理とコミュニケーションの道具として、各種のデジタルな道具や仕組みを利用してきた経験をもとに、学生とともにデジタル技術を活用しながら、近未来社会を生き抜くための学びの場を作り上げたい。本学での業務経験は2023年度末まで3年である。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学主力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 仮想現実の実感的な理解	仮想現実が「現実ではないが実質的に現実」であることの実感的な理解ができている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	仮想現実が漠然としか理解できない。
知識・理解	2. 表現と仮想現実の関係についての理解	日本のアニメの多くが仮想現実と密接に関係することの具体的な理解ができている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	アニメなどの作品と菅原寺の関係が理解できていない。
知識・理解	3. 仮想現実について説明できる表現能力	仮想現実を文章表現する基本的な用語の意味が十分に理解できている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	仮想現実がどのようなものか表現できない。
思考・問題解決能力	1. 的確な疑問の把握	自主的に的確な疑問を持つことができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	事象についての疑問を持つことができない。
思考・問題解決能力	2. 疑問を解く手段の獲得	疑問を解く十分な手段を持っている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	抱いた疑問を解く方法を知らない。
思考・問題解決能力	3. 理解したことの表現手法の獲得	自分で解いた疑問を独自の方法でわかりやすく表現する能力を有している。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	自分の思いを表現することがほとんどできない。
技能	1. PC操作の基本能力	ネットやAIから得た情報を文章やグラフ表現に自由に連携できる能力がある。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	PCの基本操作ができない。
技能	2. ソーシャルVRの活用能力	ソーシャルVRが利用できる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	ソーシャルVRが未体験。
技能	3. 図形や画像などの創作能力	図形や画像などにより必要とする表現ができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	デジタルな方法で図形や絵が表現できない。
態度	1. 授業に関心を持つ	講義に耳を傾け、的確な質問をすることができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	居眠りをすることが多い。
態度	2. 授業中に会話をしない	授業中に私語を交わすことが他人および講師の迷惑なことが理解できている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	しばしば私語やおしゃべりする。
態度	3. 欠席をしない	欠席・遅刻なしに授業に参加できる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	しばしば欠席や遅刻をする。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	ICT未来学		授業番号	LD203	サブタイトル				
教員	久保 博尚								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	<p>15回の講義の前半ではICT総論I, II, ICT応用論で得た知識をベースに、未来を考える手掛かりとしてオクスフォード大学のOur World in Dataが過去・現在の社会指標を7つ選び未来を予測するための基礎知識を得る。その上で2045年の未来を予測しその予測される姿をクラス全員で整理する。後半では前半の授業で学んだ視点の応用発展として、代表的な映画6作品を題材に、そこに描かれた未来の特徴と実現可能性を批判的な視点で明らかにする。</p> <p>なお、本講義の内容は文章と図すべてScrapbox上の授業ページに記載されている。受講生はすべての内容をPCやスマートフォンで閲覧することができる。</p> <p>また、本講義の特徴として、第9回から第14回の各回はSF映画を題材とした講義となる。作品を視聴した上で受講する必要があるため、事前に試観方法などの説明を行う。映画を題材とした6回の講義では受講後にGoogleフォームを通じて各自感想文を提出する。</p>								
到達目標	<p>自然科学と人文科学の双方の立体的な学習を通して、ICTが社会と深い関わりを持ち、大きな影響をもたらすことを実感的に理解することを目標とする。これによりデジタル時代を生き抜く<知識>と<態度>を身に付ける。また、これら広範な<理解>の向上を通じて、社会人になったときコンピュータを道具として生かすための<思考・問題解決能力>を養う。これは全体として、ディプロマポリシーに掲げた学上力の向上につながるものである。</p>								
授業計画 備考	<p>授業を受ける前に全講義を通じて、各自がPC、タブレット端末、スマートフォンのいずれかを保有し(可能な限りPC)、Googleアカウントを持つことが必須の要件である。授業ならびにネットワーク上の情報共有はScrapboxベースで行う。各自の議事を操作して授業に参加する必要があるため、PCの持参を強く推奨する。スマートフォンやタブレットでは大きな画面を確保することが必要。PCは機種を問わない。また、第9回授業以降はSF映画を題材とした講義を行う。このため、各講義までに課題となる映画の鑑賞を済ませておく必要がある。作品の視聴方法や視聴できるサイト等は別途案内する。</p>								
回	概要						担当		
第1回	人は未来をどのように捉えてきたか？ まずはじめに未来を考える基本的な態度として、自然科学と人文科学の二つの視点が必要であることを説明する。その具体例としてタイムマシンを取り上げ、科学と小説の中で時間旅行がどのように扱われてきたかを学ぶ。これにより本講義全体の性格がどのようなものかを理解する。								
第2回	未来を構成する要素 (1/6) : テクノロジーの基本的性質 まず最初に、本講義の視点の中心であるテクノロジーの基本的な性質を学ぶ。ここではその構成要素として、「ムーアの法則」「ハイブ・サイクル」「科学研究と特許の動向」「情報量の変質」を取り上げる。								
第3回	未来を構成する要素 (2/6) : 人工知能とメタバース 未来を大きく左右するテクノロジーの具体例として、人工知能とメタバースを取り上げる。人工知能については、生成系AIが示した突発的な知識の獲得の理由や、言語能力の向上による身体と統合発展の可能性について考察する。また、社会現象としてのメタバースを取り上げ、近未来において人工知能とメタバースが統合されて未来を考察を進める。								
第4回	未来を構成する要素 (3/6) : 人口と食糧 人工知能とメタバースが影響する未来社会も、人間は食料なしには生きられない。この基本原則を理解するために、未来の人口と食料問題を考える。ここではその背景知識として、経済学者の「人口論」、化学肥料発明の経緯、先進国で低下し始めた化学肥料の使用量なども合わせて取り上げる。								
第5回	未来を左右する要素 (4/6) : 資源エネルギー 未来は地球温暖化によってその在り方を変える。その重要な要因となる資源エネルギーについて、ここでは工業化、公害、エネルギー消費量の推移などの動向を整理し、未来のエネルギー問題の鍵を握るバイオエナジーとバイオ生産に伴う放射性廃棄物問題などを取り上げる。								
第6回	未来を左右する要素 (5/6) : 経済と生活/暴力と戦争 1970年代に行われた未来予測(成長の限界)を足がかりに、経済が未来の生活にどのように影響するかを考察する。ここでは経済指標であるGDPとそのほかの抱える問題を通じて、GDPでは捉えられない幸福価値や生活満足度の実態を通じて今後の経済社会の姿を考える。また、平和な社会は暴力と戦争と隣り合わせであることから、スティーブン・ヒンカーの「暴力の人類史」を取り上げ、暴力・戦争・社会の原動力を概観する。								
第7回	未来を左右する要素 (6/6) : 地球温暖化 未来社会を左右する決定的な要因である地球温暖化について、温暖化のメカニズム、経済と温暖化の関係、CO2排出量削減目標の意義を考える。合わせて、温暖化についての倫理的議論を復習し、杉山大志の地球温暖化のアウトプットを振り返る。								
第8回	未来を左右する要素のまとめと未来のシナリオ 15回の講義全体の振り返りとして、これまでの学びから予測される未来の姿を整理する。その手段として、「未来を左右する6つの要素」から抽出した56のビジュアルを用いたアンケートを実施し、集計した数値をもとに学生個人ならびにクラス全体の未来観を全員で共有する。この集計資料をもとに、グループワークとして未来社会についてのクラス討論を行う。また、議論の参考資料として、BBCが作成した「ハイス・ロジック」のプレゼン動画「2045年、200年、4分間」を視聴する。 なお、以降のSF映画を題材とした各回の講義では、受講後にGoogleのフォームを通じて各自感想文を提出する。各自が執筆した感想文はScrapboxの授業ページに掲載される。								
第9回	映画「タイムマシン」に見る時間旅行の矛盾 ここからは後半のSF映画を通じて未来社会を知る工程に入る。第一回はサイモン・ヴェルズ監督の「タイムマシン」を取り上げる。この作品を通じて、自然科学の視点からタイムマシンの実現可能性を考え、人文科学の視点からは当時の時代背景や原作者のH.G.ウェルズが作品に込めた意味を探る。								
第10回	映画「エリジウム」に見る分断の未来社会 映画による未来社会の考察の第2回は、ニール・ブロンカ監督の「エリジウム」を取り上げる。この作品には、宇宙に浮かぶスペースコロニー「エリジウム」で暮らす富裕層と地球で暮らす貧困層の分断が描かれている。この未来の姿を題材に宇宙そのものの基礎知識を概観した上で、自然科学の視点からはスペースコロニーの実現可能性や主人公の身体拡張などについて、また人文科学の視点からは分断と貧困の問題と考察を進める。ここでは、アメリカで進行する都市のスラム化の実態も取り上げる。								
第11回	映画「マイノリティレポート」に見る予知の「ドラドラス」 映画による未来社会の考察の第3回は、スティーヴン・スピルバーグ監督の「マイノリティレポート」を取り上げる。この映画には、現在から30年後の2054年を舞台に、犯罪予知の実態が描かれている。進化したさまざまな情報機器や乗物が登場する。これらの要素を題材に、自然科学の視点から犯罪予知の技術的可能性や矛盾、あるいは進化した機器の妥当性を考える。また、人文科学の視点からは、犯罪予知そのものの矛盾や運用上の問題について考察する。								
第12回	映画「A.I.」に見る人とロボットの愛情 前回の同じスティーヴン・スピルバーグ監督による「A.I.」を取り上げる。地球温暖化が進み一部の土地が海に沈み、妊娠・出産に厳し許可制度が敷かれたことで、人間に比べて多くの資源を必要しないロボットが活躍する近未来が描かれている。この映画の主人公は完全に人間の子どもと同じロボットとして描かれている。この近未来のAIロボットが示す愛の在り方を通じて、テクノロジーの発達と人間の関係を考える。								
第13回	映画「オプティセイ」に見る科学による問題解決 第5回(オプティセイ)の講義の「オプティセイ」を取り上げる。この映画では、事故で火星に一人取り残されたことになった宇宙飛行士が科学知識を総動員して生き延び、地球に生還する姿が描かれている。このことについて詳しく分析し、科学の基礎知識がどのように生存のために利用されているかを検証する。この映画は過去にアメリカが行った火星探査計画の史実に基づいていることから、火星の環境や軌道輸送の物理についても取り上げる。また、人文科学の視点から、ユーモア表現や映画の背景となつた政治問題についても言及する。								
第14回	映画「コングレス」未来学会道に見るメタバース社会 映画による未来社会の考察の最終回として、「リアルワールド」監督の「コングレス」未来学会道を取り上げる。この映画では、映画制作がすべて併用のデジタルスタジオに置き換わった未来社会を背景とし、特殊なVRを駆使することで人間が個別に「メタ」世界に同化する世界が描かれている。現在のリアルVRの延長上と考えられることから、ここでは仮想世界でどのように人間が愛情や情しみを抱くか、実体が分離した世界で愛情がどこに向かうかを中心に考察を進める。あわせて、映画制作におけるデジタル技術の利用法の基礎と、麻薬などの薬物使用の危険性についての解説を行う。								
第15回	ICT未来学を振り返って見えてくる私たちの近未来 ICT未来学の最終回として、三つがトに分けて講義全体の振り返りまとめを行う。舞台的には「未来を考えるための基礎知識」映画で学ぶ未来社会編「ICT未来学から見えてきた近未来」の三つのパートを辿り、最後に授業全体の評価のため、Googleフォームを利用したアンケートを実施する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その態備考							
授業への取り組みの姿勢/態度	40	意欲的な受講態度、発表・討論への参加、授業内容関連の知識の習得状況、講義で取り上げた映画の感想文の提出状況によって評価する。							
アンケート回答と映画の感想文	60	インターネット上の情報収集と表現手段についての知識が豊富であること。その利用方法を理解していること。講義で取り上げる映画の視聴状況。それら手段として、自らの意見が論理的にわかりやすく記されていること。これらが評価の対象となる。							

2024年度授業概要(シラバス)

評価の方法：自由記載	<p>●英語評価並びに理解度計測の方法の詳細</p> <p>※毎回授業でGoogleフォームを利用したアンケート形式の理解度調査を行う。設問は講義内容を集約した56項目から構成される。内容は大きく「知識の正確さの確認」「未来に対する考え方の表現」の二つに分かれる。これらを数値的に集計することで、学生各自とクラス平均の理解度や未来観を可視化する。「知識の正確さ」については授業内で答え合わせを行い、正しい知識が定着するようフィードバックを行う。「未来に対する考え方」については各自の意見の講評と共有を行い、学生個人の個性を重視する考えのもとでの深化を図る。</p> <p>9回～第14回の講義では、毎回Googleフォーム経由で「映画の感想の提出」を促す。提出された各自の回答は授業ページに反映され、これを題材にクラス全員での意見交換や討論を行う。この意見の交流を通じて、自分の考えが他人の意見や全体的な視点とどのような関係にあるかを意識させる。これは、授業を通じて個々の学生が思考を深めるためのフィードバックとして機能する。</p> <p>●成績評価の共有と活用</p> <p>以上のまとめ、クラス討論、映画の感想等はすべてScrapbox上の授業ページに掲載され、討論、授業進行、成績評価の資料として活用される。</p>
受講の心得	ネット上の情報、図書、映画、音楽など各種の情報コミュニケーションに接し、見て、聞いて、感じたことを、デジタルな手段を用いて表現する習慣を日頃から身につけておく。
授業外学修	<p>1) 予習して、映画回は次回授業の映画を事前に視聴しておく。また、日ごらかテック/ロジーにまつわる情報や映画、映画作品などに積極的な関心を持つようにする。</p> <p>2) 復習して、授業で学んだことを自分のScrapboxページにまとめる。映画回では指定のGoogleフォームに感想文を投稿すること。</p> <p>3) 発展学習として、授業で取り上げた事項に関連図書やサイトの情報をチェックする。</p> <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。</p>

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載 市販の図書を利用しない。すべての講義内容は、すべての授業回に対応する形で、文章と図により授業Scrapboxに掲載されているので、講義ならびに予習・復習は授業ページで行うことを原則とする。授業ページは受講生に限り、PC、スマホ、タブレット等によりいつでも学内から閲覧することができる。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無 有

担当教員の業務経験 システム開発会社の顧問を務めながら、現代社会とデジタルテクノロジーをテーマに、高校、大学、企業で講演を行っている。2016年頃から2019年の在社期間中は月平均1回として約50回、その後は企業の顧問として年平均3回として約12回、合計8年間で60回を超える講演を行なったものと推計する。

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無 無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験もいた教育内容 日常的な情報整理とコミュニケーションの道具として、各種のデジタルな道具や仕組みを利用してきた経験をもとに、学生とともにデジタル技術を活用しながら、近未来社会を生き抜くための学びの場を作り上げたい。本学での業務経験は2023年度まで3年である。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学主力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 社会の変化に関係する主要な自然科学についての基本的な知識	自然科学の基礎知識がある程度理解できている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	仮想現実が漠然としか理解できない。
知識・理解	2. 社会の変化に関係する主要な人文科学についての基本的な知識	人文科学の基礎知識がある程度持っている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	アニメなどの作品と草原寺の関係が理解できていない。
知識・理解	3. 自然科学、人文科学双方の情報収集の能力	自然科学、人文科学双方について、ネットやAIを利用した情報収集により意見が構築できる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	仮想現実がどのようなものか表現できない。
思考・問題解決能力	1. 的確な疑問の把握	自主的に的確な疑問を持つことができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	事象についての疑問を持つことができない。
思考・問題解決能力	2. 疑問を解く手段の獲得	疑問を解く十分な手段を持っている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	抱いた疑問を解く方法を知らない。
思考・問題解決能力	3. 理解したことの表現手法の獲得	自分で解いた疑問を独自の方法でわかりやすく表現する能力を有している。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	自分の思いを表現することがほとんどできない。
技能	1. PC操作の基本能力	ネットやAIから得た情報を文章やグラフ表現に自由に連携できる能力がある。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	PCの基本操作ができない。
技能	2. やや専門的な検索の能力	指定したデータサイトやAIで比較的複雑なデジタル情報の検索ができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	AIを利用した検索ができない。
技能	3. 小説や映画などの文章・映像表現の読解力	小説や映画などのアナログ表現について、自分の考えを文章表現することができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	文章表現が非常に不得手。
態度	1. 授業に関心を持つ	講義に耳を傾け、的確な質問をすることができる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	居眠りをする人が多い。
態度	2. 授業中に会話をしない	授業中に私語を交わすことが他人および講師の迷惑なことが理解できている。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	しばしば私語やおしゃべりする。
態度	3. 欠席をしない	欠席・遅刻なしに授業に参加できる。	目標レベルが「評価A」の75%程度。	目標レベルが概略表現できる。	目標レベルが「評価A」の40%程度。	しばしば欠席や遅刻をする。

科目名	現代経済史			授業番号	LE201	サブタイトル	
教員	藤原 敦志						
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義
授業概要	この授業は、日本の近代から現代にかけての歴史を、特に経済の問題に焦点を当てながら、それに関連した社会や政治の問題にも触れつつ解説していく。前半では、江戸幕府の崩壊から第二次世界大戦後の復興までの期間における日本経済の歩みを解説していく。日本は、明治維新後に日清・日露戦争に勝利し、国力を高めていきながら、資本主義経済や民主主義社会の土台を築いていく。その後、関東大震災や昭和恐慌など社会が不安定化する中で、軍部が台頭して統制経済に入っていく。終戦によってそれが終わり、その後のアメリカによる占領と混乱の中で、復興していく。後半では、高度経済成長から現在までの期間における日本の経済の歩みを解説していく。日本は高度経済成長を達成し、そこからもたらされた環境破壊などの副作用に直面していく。その後、固定相場制から変動相場制へ移行し、オイルショックをきっかけとしたインフレーションを経て安定成長に入っていく。1980年代に入ると資産価格の高騰と急落を招き、その後の「失われた30年」と呼ばれる試行錯誤の時期に、金融システムの見直しや企業の経営改革に取り組んでいく。この授業では、このような日本経済の過去150年の歩みを、そのときの経済・社会・政治問題に焦点を当てながら、解説していく。						
到達目標	現在の日本の経済システムが少しづつ築かれてきたことを150年という長いスパンで確認する。また資本主義経済の歩みが、労働問題や環境問題、インフレやバブルなど形を変えながら様々な形で繰り返し起こっていることを確認する。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士学位の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
授業計画 備考	毎回、プリントを用い、そこに書き込む形にする。教員が学生を順番に当てて、質問に答えてもらったり、前に出て問題を解いてもらったりする。						
回	概要					担当	
第1回	開港と明治維新 江戸時代までに近代化の基礎が打たれてきたが、それが開国によって加速したかを見ていく。						
第2回	殖産興業と富国強兵 効率的な生産体制をどのように築いていったか、また海外からの資源を獲得するために戦争に走っていった日本の状況について見ていく。						
第3回	日本の産業革命と財閥の形成 資本家と労働者の誕生や戦後の日本を本質的に形作る財閥の誕生について見ていく。						
第4回	大正デモクラシーと労働運動 第一次世界大戦前後の比較的自由な雰囲気を持っていた大正時代を見ていく。						
第5回	昭和恐慌と中国侵略 世界経済が不安定な空気の中、日本もそこに飲み込まれていった様子を見ていく。						
第6回	戦時経済体制と植民地支配 国家のみならず機関が戦争遂行のための道具となり、海外にもそのような流れが伝播していった様子を見ていく。						
第7回	戦後改革と経済復興 財閥解体や農地改革などで戦前の日本が解体され、激しいインフレーションが起こっていった様子などを見ていく。						
第8回	高度経済成長と環境破壊 高度経済成長はなぜ達成できたのか、また公害などそれによって持たされた副作用について見ていく。						
第9回	二クソクショックとオイルショック 戦後のフレックス体制が崩壊し、固定相場制から変動相場制に移行し、オイルショックによる「狂乱物価」と呼ばれた状況について見ていく。						
第10回	日米貿易摩擦とプラザ合意 貿易黒字が暴増した日本が、激しい円高に見舞われ、それにどのように対処していったかを見ていく。						
第11回	金融自由化とバブル経済 海外からの圧力で金融が自由化され、それと同時に行われた低金利政策によって地価や株値が暴騰していった様子を見ていく。						
第12回	金融再生と産業再生 バブル崩壊後の日本が立ち直るために、銀行の不良債権処理が必要であり、それは同時に産業の再生でもあったことを見ていく。						
第13回	デフレ経済とアベノミクス 1990年代後半から2020年代前半まで続く超金融緩和と政策が、日本をデフレ経済から脱却させるためであったことを見ていく。						
第14回	経営革新と雇用問題 M&Aの活発化やコーポレートガバナンスの重要性の認識によって、日本企業の経営が変わりつつあり、それに伴って雇用のあり方も変わっていった様子を見ていく。						
第15回	2025年の日本経済 日本経済はこのときどうなっているのか、この先どうなっていくのかを考えていく。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	授業での積極的な発言を評価する。				
	レポート	20	中間レポートを総合的に評価する。				
	小テスト	20	授業の前半と後半に1回ずつ授業内容に対する確認を行う。				
	定期試験	50	授業のすべての範囲の内容の理解度を、語句説明、正誤問題、論述問題などで総合的に評価する。				
	その他						

評価の方法：自由記載	小テストは期末試験の出題の参考になる問題を出す。
受講の心得	高校のときには、日本の近現代史を経済の視点から学ぶ機会があまりなかったと思うが、特に社会科学系の学生は、大学の最初にもそのような知識を補充しておく、その後の日本社会の分析をより複眼的に行えるようになると思う。
授業外学修	週3時間程度の予習・復習が必要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	『日本経済史』武田晴人（著）、有斐閣、2019年。 『ゼミナール日本経済入門（第25版）』三橋規宏・内田茂男・池田吉紀（著）、日本経済新聞出版社、2012年。 その他の参考書は授業中に適宜、紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験	なし			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学士力」)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 各時代の全ての出来事を知り、つながりを説明できる	各時代の鍵となる出来事を知り、つながりを説明できる	各時代の鍵となる出来事をつなぐ説明ができる	各時代の鍵となる出来事を知っている	いくつかの時代の出来事を知っている	出来事を全く知らない
思考・問題解決能力	1. 経済システムが枝分かれしていく歴史的ポイントを発見できる	全てのポイントを発見できる	すべてのポイントをぼんやりと認識できる	重要なポイントを発見できる	重要なポイントをぼんやりと認識できる	全く発見できない

科目名	経営戦略論		授業番号	LE202	サブタイトル				
教員	宋 煥沃								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	経営戦略とは、競争優位を獲得するために企業が人、モノ、カネ、情報という経営資源を配分し、意思決定を行うことである。企業戦略にはいかにして低コストを実現するのか、どのようにして違いを出して差別化するのか、どのような事業に集中するのかが必要不可欠である。企業を取り巻く競争はますます激化しており、今日、日本企業においても経営戦略をどのように構築し、いかにして実行するのが重要な戦略課題となっている。本講義では、グローバル競争に焦点をあて学習する。講義の前半では、経営戦略の基礎理論を学び、後半では企業の経営戦略の実体を把握するために、現在もっとも注目されている日本企業や欧米企業の事例を取り上げ、考察する。								
到達目標	・経営戦略に関する基礎理論が理解できるようになる。 ・日本企業・欧米企業の経営戦略の実態を把握することによって、グローバルな視点の考え方が培える。 ・企業の競争について学ぶことで、企業間の競争や競争優位が理解できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学上力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	経営戦略とは何か 経営戦略の定義、戦略の要素について理論的なフレームワーク、チャンドラーとアンソワの経営戦略。								
第2回	経営環境と業界の構造 企業の外部環境における競争要因、新規参入、競合企業の脅威、代替品。								
第3回	競争優位と参入障壁 競争要因から生じる参入障壁、競合企業、移動障壁、製品の価格と種類。								
第4回	経営環境とPEST分析・SWOT分析 企業の外部環境、経営環境の目的の視点、企業内部の経営資源。								
第5回	競争戦略の基本戦略 コストリーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略、価値連鎖。								
第6回	製品ライフサイクル別戦略 製品ライフサイクル別の戦略定石、経営上の特徴、戦略上の市場浸透、製品ラインの拡大。								
第7回	市場地位別戦略 競争優位はそれぞれの市場地位別に異なっている。市場地位の逆転や新たな市場の選定。								
第8回	企業の成長戦略と多角化 成長戦略、新事業、関連多角化、非関連多角化、シナジー、M&A、戦略的提携。								
第9回	企業取り巻く環境（トヨタ自動車の事例） かんぱん方式、カイゼン、ハイブリッド車、EV自動車、3CとSWOT分析。								
第10回	企業の組織構造 機能別組織、マトリックス組織、SBUによる組織、事業部制組織、組織のコンフィギュレーション理論。								
第11回	企業の社会的責任 企業の成長と停滞、利益追求と雇用確保のジレンマ、戦略的CSRの取り組み、共有価値の創造。								
第12回	日本企業のグローバル成長戦略（ソニーの事例） ゲーム事業、映画事業、イメージセンサー、複合経営、グローバルブランド構築。								
第13回	モバイル企業の部品調達戦略（アップルの事例） 日本の部品企業、納期、アウトソーシング、サプライチェーン構築。								
第14回	ネットビジネスの経営戦略（アマゾンの事例） フラットフォーム戦略、マーケットプレイス、アマゾン・プライム、クラウドサービス、EC専業企業。								
第15回	戦略実現のための人材マネジメント 組織リーダーとモチベーション、リーダーシップと組織適合、自律型人材とキャリア開発、ワークライフ・バランス。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その態様							
授業への取り組みの姿勢/態度	20	授業への意欲、質問の状況、課題の提出を評価する。							
レポート	30	企業の実態を知るため、資料や課題を提示する。提出されたレポートはその内容のコメントを返却する。							
小テスト	50	キーワードの理解度、授業全体への理解度を評価する。							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> -日常、企業の動向や戦略・経営に関心をもって授業に臨むこと。 -企業関連の新聞や雑誌などに目をおとして、問題意識をもって積極的に取り組むこと。
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> -予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み、疑問点を疑問点をチェックすること。 -授業で学んだ内容の小テストがあるので、復習を充実に行うこと。 -個別企業の事例を資料や参考文献から読むこと。 -以上の内容を適当に94時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
1からの戦略論 第2版	嶋口克輝・内田和成・黒岩健一郎編	中央経済社	978-4-502-16741-6	

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	<ul style="list-style-type: none"> -大滝精一編「経営戦略」有斐閣アルマ、1997年。 -マイケル・ポーター・竹内弘高編「日本の競争戦略」ダイヤモンド社、2000年。 -伊丹敬之編「戦略とイノベーション」第3巻「有斐閣」、2006年。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学士力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 経営戦略論の必要性を認識している	経営戦略論の必要性をほぼ理解している	企業の組織や仕組みをほぼ理解している	基本的に経営戦略を学ぶ意味を理解している	経営学は理解できているが、具体的な知識が十分ではない	経営戦略論という科目を理解していない
知識・理解	2. 企業と社会の関わりについて理解している	会社の仕組みや組織を十分に理解している	洞察力を持って企業の仕組みやプロセスが把握できる	会社の組織構造や経営戦略を把握している	具体的な企業形態や組織の理解できていない	概念や言葉の意味が理解できていない
知識・理解	3. 経営戦略論の知識が修得できる	企業の実態における経営戦略を理解している	企業形態の内容やいくつかの事例がまとめられる	経営学や戦略の基礎知識が修得できている	経営戦略の各テーマが理解できていない	内容の理解や文章のまとめができていない
思考・問題解決能力	1. 今の経済社会において企業の役割を理解している	企業で起こっている諸問題に対する対応策を考えられる	企業で起こっている問題の本質が把握している	経営戦略の概念や定義を理解している	企業の社会的役割や問題が理解できていない	経営戦略論の基礎概念が理解できていない
思考・問題解決能力	2. 今の企業で起こっていることを理解している	企業や社会の問題に対してコメントができる	企業と関連する経営戦略が理解できる	企業での事業活動がどのようなものかが理解できている	企業の経営戦略とわれわれの社会生活との関わりが理解できていない	企業の事業活動が理解できていない
思考・問題解決能力	3. 企業の戦略をどのようにすれば成功できるかを理解している	企業で起こっていることを自分の問題として把握できる	企業の事例から組織や戦略の仕組みをほぼ理解している	企業の経営戦略のプロセスを理解している	企業の社会的役割や問題が理解できていない	企業で策定する経営戦略の仕組みの理解ができていない

科目名	マーケティング論		授業番号	LE203	サブタイトル				
教員	宋 煥沃								
単位数	2単位	開講年次	が1年より異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	市場では消費者の好みやライフスタイルが多様化し、個別化している。マーケティングは単に作った製品を販売するだけではなく、売れる製品をいかに作るかが求められている。そのためには、消費者のニーズを明確に捉え、それに見合った新製品を開発することが重要な戦略となっている。マーケティングはこうした製品をどのようにターゲット市場に届かせるか、責任、広告、流通チャネルまでトータルに捉えていくのが必要不可欠である。本講義では、企業が提供する商品やサービスをどのように消費者に結びつけ購買行動を促進するのか、企業と消費者行動との関係性、いかにしてブランドの構築を行っているのかを考察する。講義では、具体的な企業の事例を取り上げ、今日のマーケティングの考え方や技法を明らかにする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングに関する基礎知識が修得できる。 ・企業のブランドや商品やサービスが市場で販売されるまでのプロセスが理解できる。 ・実際の企業のマーケティング戦略を学ぶことによって、実務的な学習能力を培うことができる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学上力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	マーケティングとは マーケティングが発端したのは、19世紀から20世紀初頭のアメリカの大量生産技術や大規模生産技術がさまざまな産業で導入された。 マーケティング発端の歴史的な変遷を学習する。								
第2回	マーケティングミックス マーケティング戦略は市場環境や競争環境をといった外部環境を正確に把握することが必要不可欠である。マーケティングの標的市場と市場細分化について理解する。								
第3回	競争環境・競争要因 企業の外部環境の分析は、市場の競争要因を把握することである。競争構造によって、マーケティング戦略は異なるが、自社の経営資源分析は何かを学習する。								
第4回	競争対抗戦略と市場環境 競争対抗戦略の類型は市場環境に適合するリーダー企業のマーケティング戦略がどのように構築されているのか。								
第5回	市場環境と消費者行動の捉え方 市場における消費者の購買意思決定過程を理解する。								
第6回	顧客志向のマーケティング 市場で販売されている商品やサービスは顧客志向に合致しているのか、売る手としての企業側の利益だけに求められているのか。 買い手と売り手との競争要因を学習する。								
第7回	製品ライフサイクル 市場で販売されている商品やサービスは大半製品寿命によって変化する。 市場での商品のライフサイクルはどのように変化していくのか。								
第8回	流通環境と中間業者の役割 商品が市場で販売されるまで、どのような流通経路をたどっていくのか。 中間業者の流通機能、流通系列化、取引の効率化について学習する。								
第9回	消費者行動とマーケティング 今日のインターネット時代における消費者行動はどのように変化しているのか。								
第10回	市場環境と購買意思決定の変容 消費者行動の意思決定過程や代替案評価過程はどのようなものかを理解する。								
第11回	ブランド構築の基礎 なぜブランドを構築するのか、何をブランド化するのか、顧客接点型商品ブランドとは何か。								
第12回	マーケティングレベルのブランド戦略 フォーカス顧客戦略とブランド価値のプロポジション、差別化ポイント								
第13回	価格設定のマーケティング 価格規定要因としての費用、価格規定要因としての需要、競合品・代替品の中での価格設定はどのように構築されるのか。								
第14回	プロモーション政策 プロモーション活動の役割、プロモーションの手段、プロモーションミックス								
第15回	デジタル時代のマーケティング戦略 情報過剰と消費者、社会とユーザーからみたブランドの変化、企業側からみたブランドの変化								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢と態度	20	予習・復習の状況、講義への意欲や質問、課題提出について評価する。						
	レポート	30	企業の商品や市場での動向を調べ、マーケティングの実例をまとめる。提出されたレポートは、内容のコメントを加えて返却する。						
	小テスト	50	キーワードの理解度、講義全体の理解度を評価する。						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・日常、興味ある商品やサービス、消費に関する新聞や雑誌などに目をおいて、問題意識をもって出席することを望む。 ・適宜、資料の配布があり、そのまめを書き、提出することがある。
授業外学習	・予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって熟読し、疑問点をチェックして来ること。 ・授業で学んだ内容の小テストがあるので、配布プリント、教科書の復習すること。 ・関心ある商品や企業のマーケティング活動の事例を資料や参考文献で読むこと。 ・以上の内容を週あたり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
入門・マーケティング戦略	池尾恭一	有斐閣	978-4-641-16485-4	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	・石井淳哉・廣田晋光編『1からのマーケティング 第3版』中央経済社、2009年。 ・フタタギコトラー 著 徳島直人監訳 大川修二訳『マーケティング・コンセプト』東洋経済新報社、2008年。 ・日本マーケティング協会編 徳島直人・三浦俊彦 考査監訳 坂下玄直編『ベータ・マーケティング』同文館出版、2010年。 ・田中洋『ブランド戦略 ケースブック2.0』同文館出版、2021年。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 企業のマーケティングの必要性を理解している	企業だけでなく、生活の上でもマーケティングが影響していることを理解できる	企業にとって、マーケティング活動とは何かを理解している	基本的なマーケティング戦略の必要性を理解している	基礎的なマーケティングは理解できているが、具体的な内容が十分に理解できていない	マーケティング論の科目を理解していない
知識・理解	2. 私たちの生活の中で企業の役割や関わりを理解している	企業がどのようにして財・サービスを市場に流通させているのかを十分に理解できている	洞察力を持って企業の具体的な戦略のプロセスが把握できる	企業の組織構造や社員の行動によって製品の購買力が変化していることが把握できる	具体的な企業形態や組織の理解できていない	マーケティングの概念や言葉の意味が理解できていない
知識・理解	3. 戦略の違いによって企業の収益、ブランド力が高まることを把握できる	日本企業や外国企業とのマーケティング戦略の違いをわかる	海外企業の事例から日本企業との差異をほぼ理解している	マーケティング入門の基礎的知識が修得できている	マーケティング戦略の内容や各テーマが理解できていない	内容の理解や文章のまとめができていない
思考・問題解決能力	1. 今日の経済社会において消費すること、売り手の企業の役割を理解している	企業で起こっている諸問題に対する対応策が考えられる	日本企業の問題点を抽出し、まとめることができる	企業が抱えている問題点を理解している	不十分なから企業の活動を考えようとしている	企業が商品販売するための戦略を理解することができない
思考・問題解決能力	2. 今日の企業の差別化戦略を理解している	企業や社会の諸問題に対してコメントができる	企業で起こっている問題の本質を自分で把握できる	今日の日本企業と海外企業との競争の熾烈さが理解できる	企業の事業活動があまり理解できていない	なぜ企業でそのような問題が起こっているのかが理解できていない
思考・問題解決能力	3. 企業の諸問題をどのようにすればよいかを考えている	企業で起こっていることを自分の問題として把握できる	企業の戦略の本質を自分でほぼ理解している	マーケティング入門の基礎知識や諸問題を理解している	企業が行うマーケティング戦略があまり理解できていない	企業で起こっている問題の解決策が考えられない

科目名	データサイエンス論		授業番号	LE204	サブタイトル				
教員	梶西 将司								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	データサイエンスは、私たちの身の回りの様々な場面で活用されている。近年は特に、データサイエンスの知識や考え方をを持った人が必要とされている。データサイエンスによって得られた数値に隠された本当の意味を知ることがとても重要なことである。本授業では、データサイエンスで用いられる分析手法を理解することに加え、統計解析ソフトRを用いて実際にデータ解析を行い、解釈ができる力を身につけることを目指す。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスの重要性を理解でき、数値に隠された本当の意味を考える力を身につけることができる。 統計解析ソフトRを用いて、データ解析を行うことができる。 データ解析で得られた結果を自ら解釈でき、理解できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学上力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	社会で利用されているデータ データサイエンスの分野において社会で利用されているデータについて理解できる								
第2回	グラフを用いたデータの視覚化 データの可視化手法やその用途を理解し、作成できる								
第3回	データの集計方法とヒストグラム データの集計方法を理解し、実際にデータの分布を確認できる								
第4回	データの数量化(1変量) 代表値・分散・標準偏差などの基本統計量を算出できる								
第5回	データの数量化と視覚化(1変量) 四分位数・四分位範囲・箱ひし图・標準化などの数らばの具合を表す統計量を算出できる								
第6回	2変量データの視覚化と数量化(1) 散布図を作成でき、共分散・相関係数などを実際に算出することができる								
第7回	2変量データの視覚化と数量化(2) クロス集計表を作成でき、オッズ比を計算方法を理解できる								
第8回	総合演習(1) これまでの学習内容を確認する								
第9回	記述統計と推測統計、サンプル調査の特徴 記述統計と推測統計の違い、サンプル調査の仕組みを理解できる								
第10回	推測統計の考え方 区間推定の考え方や仮説検定の仮説の立て方と結論の述べ方について理解できる								
第11回	区間推定と統計的仮説検定(1) (母平均の差の検定と区間推定(母分散既知)/母分散の検定と区間推定)								
第12回	区間推定と統計的仮説検定(2) (母平均の差の検定と区間推定(母分散未知)/母比率の検定と区間推定)								
第13回	区間推定と統計的仮説検定(3) (2標本の平均の差の検定/適合度検定)								
第14回	統計的仮説検定(4) クロス集計表と独立性の検定								
第15回	総合演習(2) これまでの学習内容を確認する								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	40	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	20	2~3回程度のレポート課題を課す。classroomを利用し、評価をフィードバックする。						
	小テスト	40	2回程度の小テストを行う。実施は事前にアナウンスする。実施後、必要に応じて小テストを返却しフィードバックする。						
	定期試験								
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	データから有益な結果を得出す重要性を理解してほしい。また、プログラミング言語を用いてデータ解析をする楽しさを知ってほしい。授業に関してはテキストや配布資料を利用し授業の復習・予習を行い、講義内容をしっかりと理解できるように努めてほしい。
授業外学習	1 予習として、配布資料やテキストを読み、次回の授業内容に関わる部分を整理しておく。 2 復習として、学習した内容を整理し、課題レポートをする。 3 発展学習として、授業で紹介された内容について自ら調べる。 以上の内容を、適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	無
担当教員の業務経験	
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. データサイエンスの重要性について理解できる	日常生活で活用されているデータサイエンスの技術を理解し、一部活用できる	データサイエンスの技術について理解し、一部利用できる	身の回りにおけるデータやグラフなど、データサイエンスが活用されていることを予測できる	データサイエンスについて理解できているが、日常生活に活用されていることが分らない	データサイエンスについて理解できておらず、どのような場面で活用されているか分らない
知識・理解	2. データの可視化の重要性について理解できる	データの可視化の重要性について理解し、Excelを利用し、グラフ作成の手順や地図による表現ができる	データの可視化の重要性について理解し、Excelを利用し、グラフが作成できる	データから可視化の用途別にグラフを作成できる	データ可視化の重要性を理解できていないが、グラフを作成することができる	データ可視化の重要性を理解できておらず、グラフを作成することができない
知識・理解	3. 推測統計について理解できる	推測統計について理解し、課題に応じて推定と検定の統計量を正しく算出できる	推測統計についてある程度理解し、推定と検定の統計量を算出できる	推測統計の概要が理解でき、推定と検定の統計量を算出できる	推測統計の概要を理解できていないが、推定と検定の統計量を計算により算出できる	推測統計について理解できておらず、統計量を算出できない
思考・問題解決能力	1. データから統計量を算出し評価できる	データに応じて必要な統計量を選択することができ、算出された統計量を正しく評価できる	データに応じて必要な統計量を選択することができ、統計量を算出できる	データから統計量を算出できる	統計量の種類や用途を理解できていないが、算出はできる	統計量の種類や用途が分からず、算出できない
思考・問題解決能力	2. グラフから全体像を把握できる	データに応じて適切なグラフを選択し、作成・評価ができる	データに応じて適切なグラフを選択し、作成できる	データからグラフを作成することができる	グラフの種類や用途を理解できていないが、作成できる	グラフの種類や用途が分からず、作成できない
思考・問題解決能力	3. 推測統計を活用し、課題を解決できる	課題に応じて、推定や検定の手法を選択し、統計量を算出できる。また、結果を正しく判断し評価できる。	課題に応じて、推定や検定の手法を選択し、統計量を算出できる。また、結果から結論を考察できる	推定や検定の手法を理解し、統計量を算出できる	推定や検定の手法について理解しているが、統計量を算出できない	推定や検定の手法について理解できておらず、統計量を算出することができない
技能	1. 基本統計量の算出とグラフ作成ができる	Excelを用いて、統計量の算出とグラフ作成ができ、その結果を適切に判断できる。また、その結果を説明できる	Excelを用いて、統計量の算出とグラフ作成ができる	Excelを用いて、統計量の算出とグラフ作成ができる	自らの力でExcelを用いて、統計量の算出とグラフ作成することができない	Excelを用いて、統計量の算出とグラフ作成の方法を知らない
技能	2. 区間推定を適用できる	課題に応じて適切な区間推定の手法を選択でき、実際に区間を推定できる。また、その結果を正しく説明できる。	課題に応じて適切な区間推定の手法を選択でき、実際に区間を推定できる。	区間推定の手法を用いて、実際に区間を推定できる	区間推定について理解できていないが、区間を求めることはできる	区間推定について理解できれおらず、区間を推定できない
技能	3. 仮説検定を適用できる	課題に応じて適切な仮説検定の手法を選択でき、実際に検定統計量を算出し、有意かどうか判断できる。また、結果に基づいた解釈ができる。	課題に応じて適切な仮説検定の手法を選択でき、実際に検定統計量を算出し、有意かどうか判断できる。	仮説検定の手法を用いて、実際に検定統計量を算出し、有意かどうか判断できる。	仮説検定について理解できていないが、検定統計量を求め、結果を導くことができる	仮説検定について理解できておらず、検定統計量を正しく算出できない

科目名	イベント・コンベンション事業論		授業番号	LE205	サブタイトル						
教員	田村 秀昭										
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修	選択	
授業概要	<p>国や自治体が推進するMICEとは何か、イベント・コンベンションなどの事業活動が地域社会、環境、経済にどのような影響を与えているのか、イベント・コンベンション事業の効果と課題を理解するとともに、自らイベントなどを主催する際に企画立案・実施運営の知識を学ぶことを目指す。</p> <p>政府の方針でもあるIR（統合型リゾート）のあるべき姿などについても考察する。</p> <p>また、イベント・コンベンション事業を支える仕組みや制度などについて、あらゆる場面に於ける応用を考察する。</p> <p>人生における「イベント」の大切さや転機となる瞬間を想像し、創造してほしい。</p> <p>今年限り「ポリリズム」が開催されます。来年は関西万博も開催です。</p> <p>ぜひ、イベントに興味を持ち、この授業に臨んでください。</p>										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国や自治体が推進するイベント・コンベンション（MICE）に関する政策への理解を深める。 ・イベント・コンベンション事業を支える組織や人の存在を知り、将来活躍する職務における応用を考察する。 ・イベント・コンベンションに関する企画立案・実施運営の基礎及び実務的な知識を身につける。 ・イベント・コンベンションの効果や課題を説明できるようにする。 ・サービス産業におけるイベント・コンベンションの重要性を理解し、説明できるようにする。 <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに附した学上力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。</p>										
授業計画 備考											
回	概要						担当				
第1回	<p>オリエンテーション及びECの歴史</p> <p>イベントとは？コンベンションとは？MICEとの違いは何か。</p> <p>そもそもMICEとは何か？導入の授業として基本を学んでいただきます。</p> <p>また、日本の歴史上、最古のイベント・コンベンションはいつ頃のものだったのか。</p> <p>日本史、世界史上におけるイベントなどの開催について考察します。</p> <p>そして、「プロデューサー」にならねばならぬ必要なのか。</p>										
第2回	<p>総論-ECとは：ECの定義と開催目的</p> <p>コミュニケーションの歴史とメディアの変遷。</p> <p>人が直接「会う」こと、「集まる」ことの必要性、重要性。</p> <p>ECの定義を学び、その持ち合わせた特性などについて学びます。</p>										
第3回	<p>総論-ECとはII：ECの仕組みと開催効果</p> <p>イベント・コンベンションを成立させるための原理。</p> <p>5W2Hをもとに構成していくのか。</p> <p>ECの開催効果は何か？何のために開催するのか？</p> <p>事例を見ながら意見交換をします。</p>										
第4回	<p>総論-ECとはIII：ECのマーケット分析/市場規模</p> <p>イベント・コンベンション市場とはどのようなものか。</p> <p>市場規模はどの程度か。また、ECに隣接する社会・産業領域について考察します。</p>										
第5回	<p>同山のイベントの実態（ワークショップ）</p> <p>観光協会や観光案内書などで同山のイベント・コンベンションの開催案内チラシ等を見ていただき、それをもとに皆さんで同山のイベントの実態を研究してみよう。</p>										
第6回	<p>イベント・コンベンション産業I：ECオーガナイザー、ホテルの役割</p> <p>※同山市内のホテル等での学外授業（予定）</p> <p>同山駅前接のホテルで、ホテルの役割を確認するために視察を実施します。</p> <p>ホテルの都合により開催できない場合は、ホテルの資料を基にECを開催する場合にどのような機能が確認します。</p>										
第7回	<p>イベント・コンベンション産業II：ECを支える多様な産業</p> <p>イベント・コンベンションに係る産業は観光産業そのものだけか。</p> <p>ECそのものが「サービス（観光）産業」を支えられて開催できるものであることを確認します。</p> <p>どのような産業がこのECの世界では必要とされているのかを考察しましょう。</p>										
第8回	<p>コンベンション施設と付帯設備I：日本と世界のコンベンション施設</p> <p>イベント・コンベンションを開催する設備や付帯設備について学びます。</p> <p>例えば、広い面積の場所を比較する「東京ドーム」の半分、と言われることがありますが、さて、皆さんはその広さや大きさをきちんと理解できていますか？</p> <p>世界の施設も含めて学びます。</p>										
第9回	<p>コンベンション施設と付帯設備II：コンベンション施設の基本型と運営形態</p> <p>※同山観光コンベンションビューロー等での学外授業（予定）</p> <p>同山駅前西口に隣接する同山コンベンションセンター（通称：ままかりオーラム）の視察をします。</p> <p>コンベンション開催を中心とした同山市で最も活用される施設を見学し、担当者の話を聴きます。</p> <p>断りにお断りできない場合は、いただいた資料に基づいて事前に必要な設備や設備などについても考察します。</p>										
第10回	<p>世界と日本のEC動向：発展するMICE市場とコンベンション（ECビジネスの可能性）</p> <p>コロナで人が集まらなさを認められ、会議やイベント、修学旅行や中止にせざるを得ない状況を持つ人はいらぬでしょう。</p> <p>WEB上で会議はできるし、ライブも観覧できますが、やはり本物が違うという気持ちは誰しも同じでしょう。</p> <p>そのECは今後のビジネス的な可能性はどうか。皆さんで意見交換をしましょう。</p>										
第11回	<p>EC推進機関とECに関わる法律：JNTO、JETRO、その他のEC推進機関</p> <p>イベント・コンベンションの実施に当たっては様々な法規制あり、守るべき法律やルールなどがあります。</p> <p>それらを知りながら、ECを実際開催する計画策定に向けての準備としましょう。</p> <p>また、ECを開催あるいは誘致するに際して推進する組織・機関があります。</p> <p>これらの働きも学びます。</p>										
第12回	<p>スポーツイベント（スポーツツーリズム）</p> <p>スポーツイベントで思い起こすのはオリンピックやサッカーのワールドカップなど世界的なものが多くあります。</p> <p>身近なものでは学校の運動会や地区の大会、あるいはインターハイなども経験された方もいるでしょう。</p> <p>岡山ではフットボールリーグ、サーカスなど独自のスポーツツーリズムもあります。</p> <p>これらスポーツを通して街づくりをするなどの活動も近年見られます。</p> <p>これらについて調べてみましょう。そして意見交換をして岡山ではどう展開してゆくのかを考察します。</p>										
第13回	<p>演習編：イベントの企画立案</p> <p>これまで学んできたことを活かして、自らがプロデューサーとなってイベントを開催する計画を立てましょう。</p> <p>パソコンを持参し、パワーポイントで企画書を作成し、プレゼンができる準備をします。</p>										
第14回	<p>演習編：ミニイベントのプレゼンテーション</p> <p>前の授業で作成したパワーポイントを使ってプレゼンテーションをしましょう。</p> <p>制限時間は5分。受講生全員が質問をし、それに対して回答できるように準備を体験してください。</p> <p>そして、実際に開催できるかどうか。とめをしましょう。</p>										
第15回	<p>総括：講義のまとめ</p> <p>視察やプレゼン、意見交換などを通してイベント・コンベンションを学んできましたが、要点を再度確認しながら、将来イベント・コンベンションの現場で働くつもりで復習してください。</p>										
授業計画 備考2	<p>同山市内のホテル、コンベンション施設などの現場を視察する校外学習を2回予定しています。</p> <p>単なる見学に終わらないように、しっかりと質問をし、現場の課題を模索してください。</p>										
評価の方法											
種別		割合		評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢/態度	50	<p>積極的な授業への参加態度</p> <p>授業への出席は1回につき1ポイントとしますが、残り35ポイントは積極的な姿勢で評価します。</p> <p>授業に臨む姿勢や発言、授業後に提出を求める出席カードへの質問や感想をしっかりと評価の基礎とさせていただきます。</p>									
レポート	10	<p>校外学習後のレポート（5点×2回）</p> <p>同山市内のホテル、コンベンション施設の視察後に1,000字程度のレポートを提出して頂きます。</p>									
イベント企画&プレゼンテーション	20	<p>イベント企画をパワーポイントで作成し、プレゼンテーションをさせていただきます。</p> <p>パワーポイントは5枚以上、発表は5分以内とします。</p>									
定期試験	20	<p>期末テスト</p> <p>授業で配布する資料やレジュメなど、自筆のノート類は持込可とします。</p> <p>100点満点ですが、20点に到達してこの授業の評価に加えます。</p>									

評価の方法：自由記載	授業参画意欲を積極的に見せてください。この講義の評価の中心です。 修了テストは授業時に配布する資料や授業中の講義内容からの出題とします。 100点満点を五分の一に圧縮し、全体の20%の評定とします。 また、企画立案するイベントについては受講生の意見交換をしながらテーマを決めます。 そのプレゼンテーションでしっかりと発表していただきたい。企画内容とプレゼンテーションで評価します。
受講の心得	基本的には講義形式の座学ですが、平素から市中で開催されるイベントをしっかりと観察してほしい。 その現場で働く人々の姿を追い、どのような仕事があり、どう役割をこなしているかを見ていただくようお願いいたします。 また、現場の危機管理についてはよく注目してください。 イベント・コンベンションの用語をしっかりと理解してください。
授業外学習	・毎回の授業内容は必ず復習をしてください。 ・受講において事前に課題を出す場合があります。 ・配布する資料は大切に保管し、整理をしてください。 ・試験時には持込可としますので、単元ごとに整理しておいてください。 ・以上の内容を適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

テキストは指定しません。講義ごとにレジュメや資料を配布します。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
コンベンションビジネス	萩原誠司	ダイヤモンド社	978-4-478-08345-1	1,500円(税別)

参考書：自由記載

その他	ホテルやコンベンション施設などの平面図や仕様書などを入手し、会場がどのようなになっているかなどを見ていただきたい。 観光案内所やコンベンションセンターなどでイベントのチラシやパンフレットを入手し、そのチラシに書いてある内容などを確認してほしい。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の实務経験	JTBで38年、ツーリズム産業の最前線で実務をこなしてきた経験を有する。 また、国土交通省、経済産業省、農林水産省などの官公庁の審査委員等の経験も生かす。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	JTBの中でも新規事業、とくにMICEについては積極的に実務経験を積み、成功裏に導いてきた経験を学生たちに伝えてゆく。 スマップ、ミスターチルドレンなどの野外コンサートの5万人規模の観客の輸送や警備、危機管理を含む事業を経験。 ボンテパレル（現ベッキオパネーリ）を岡山に誘致し、20年間継続定番のイベントとして定着させた実績。 淡路ロングライドを手始めに、四万十ロード（高知）、サザンセトロングライド（山口）などを次々に提案し実施してきた。 日本眼科学会、日本薬学会、日本精神神経学会など大型コンベンションを年間50人以上実施運営してきた経験を持つ。 これらイベントコンベンションの実務経験をもとに、学生の皆さんに現場のあり様をお伝えしてゆきます。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学土力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. MICE政策の理解を深める	MICE政策の必要性を説明できる	MICEの課題を説明できる	MICEを説明できる	MICEを知っている	MICEを理解できない
知識・理解	2. MICEを支える人や組織を理解する	MICE現場で活躍する人の役割を説明できる	MICE現場で活躍する人を説明できる	MICE現場に足を運び、活躍する人を確認する	MICE現場に行くが活躍する人がわからない	MICE現場に行かない
知識・理解	3. 観光産業におけるMICEの重要性を理解する	観光産業におけるMICEがもたらす効果を説明できる	観光産業におけるMICEの重要性を説明できる	MICEの重要性を理解できる	MICEが観光産業に必要だということを理解する	MICEが観光産業の一種であることもわからない
思考・問題解決能力	1. ECの企画をし、プレゼンをする	規定通りにPPTに纏め、制限時間でプレゼンをする	PPTにまとめ、制限時間内にプレゼンする	PPPTにまとめ、プレゼンできる	PPTに纏めることはできる	PPTもプレゼンもできない
態度	1. 授業中の受講態度	姿勢を直し、メモを取り、反応をする	姿勢を直し、メモをきちんと取る	姿勢を直し、常に聴く	姿勢、傾聴が十分でない	居眠り、私語、遅刻・早退等

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	レジャー・リゾート論		授業番号	LE206	サブタイトル				
教員	田村 秀昭								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	<p>余暇時間とは、ワーク・ライフ・バランスは人々が余暇を過ごす余裕があるからこそ成立するビジネスであり、リゾートと呼ばれる場所で過ごすことを楽しむことをお手伝いすることがその本質でもあります。日本人の余暇活動は温泉で泳いだり、山や海で自然を満喫したり、あるいはテーマパーク等で遊ぶことが主流となっています。本講義では日本のレジャー・リゾートの近・現代の発展を理解し、世界のそれとの対比やレジャー・リゾートをビジネスとして成立させてゆくためのマーケティングや企画・運営等について学んでいただきます。また、実際に身になって学ぶことで、その魅力を理解し、世界をそれとの対比やレジャー・リゾートをビジネスとして成立させてゆくためのマーケティングや企画・運営等について学んでいただきます。なお、サステナブルツーリズム、つまり持続可能な観光を支えてゆくためにヘルスツーリズムやグリーンツーリズム、オーバーツーリズムについても考察していただきます。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. レジャー・リゾートビジネスの概要を理解する 2. レジャー・リゾートビジネスの日本における歴史を理解し、将来像を描く 3. レジャー・リゾートビジネスの発展を知り、その特性を理解する 4. 日本の観光政策のなかでリゾートがどのような位置を占めているのかを理解する 5. 地域経済と結びつけるためのリゾートのあり方について理解する 6. レジャー・リゾートビジネスに関する企画力を習得する <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	レジャー・リゾートビジネスのガイダンス レジャーとは何か、リゾートとは何か。人間が求める余暇活動の中で、リゾートと呼ばれる場所、時間がいかに有効なものか。シラバスの確認と講義を受けるにあたっての注意事項、提出課題や授業内での資格取得などについて解説する。								
第2回	レジャー・リゾートビジネスの概要 この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業の振り返り。 リゾートで生み出されるビジネス等について考察。 また、宿泊業を中心としたリゾートビジネスについての討論。								
第3回	日本のレジャー・リゾートの変遷I この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業の振り返り。 日本人の余暇の歴史、方も歴史の観点から振り返る。 日本におけるリゾートの誕生。 リゾート開発と鉄道の関係。								
第4回	日本のレジャー・リゾートの変遷II この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業の振り返り。 第二次世界大戦後の日本経済の復興とツーリズムの発展。 高度成長を基礎とした日本のリゾートの観念について考察。								
第5回	世界のリゾートビジネス この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業の振り返り。 世界のリゾートの初めについて。 ヨーロッパ貴族のリゾートでの滞在と、そのリゾートの変遷。 産業革命がもたらしたツーリズムの観点。 世界最古の旅行会社の誕生。								
第6回	レジャー・リゾートの商品開発 この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業の振り返り。 旅行会社のハワイ行のパンフレットを持参していただき、 一冊に中を見ながら、旅行商品のつくりかたを研究します								
第7回	ハワイ政府観光局主催「ハワイ検定初級」への取組 この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業の振り返り。 全員「ハワイ」を持参していただき、 「ハワイ」検定に挑戦していただきます。アメリカ合衆国「ハワイ政府観光局認定」の公式な資格です。 この授業中に初級合格を目指し、希望者は中級へもチャレンジしていただき。								
第8回	「アルプスの少女ハイジ」を読み解くヘルスツーリズムとグリーンツーリズム この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業の振り返り。 ヨリナツシロビ作の小説「アルプスの少女ハイジ」を必ず読んでから、この授業に臨んでください。 小説のなかでこの「アルプス」が現れているところ。 また、小説の時代背景を考えながら、ハイジの生きた場所、時間、人との出会いなどを考えてみましょう。 終了後には感想文を提出していただきます。								
第9回	日本の観光政策 この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業の振り返り。 日本の観光政策を総論、成功事例失敗事例などを考えてみましょう。 また、身近な「リゾート」が観光政策によってどうなっているのかを検証しましょう。								
第10回	レジャー・リゾートと地域の発展 この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業の振り返り。 地方創生と観光のよめ。 地方創生が「クール・ジャパン」政策として登場して10年になります。 元々は地方の人口減少化による地方都市の活性化を防ぐという人口問題が発端であるながら、 なぜ観光に力を入れることが地方創生に繋がるのか。 議論しましょう。								
第11回	映画「フガール」で考察する地方創生と観光 この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業の振り返り。 映画「フガール」を必ず観覧してからこの授業に臨んでください。 地方創生と観光についての議論にも発展してゆきます。 終了後、感想文を提出していただきます。								
第12回	農村漁村のリゾート化：農漁とコンテンツ 農村水産物の地方創生事業の一つ、農山漁村振興交付金という国庫の事業は全国の第一次産業従事者の付加的な収入増加のために、農漁や農家レストランなどを占民業を改装するなどして創り込んでいくという施策。この事業の狙いと今後皆さんの身近なところで活用できないかを考察します。 この授業の中で、最終授業の際のプレゼンのネタを研究してください。								
第13回	瀬戸内海地域の観光プロダクト この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業の振り返り。 最終回の授業のプレゼンの参考とするために、私がインドネシア教育大学で講演した内容を皆さんにご覧いただきます。 瀬戸内海をいかにリゾートとしてつくりかたを一緒に考えましょう。								
第14回	岡山を舞台にしたリゾートビジネスの企画・プレゼンテーション この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業の振り返り。 岡山・瀬戸内を舞台としたリゾートの企画をプレゼンしていただきます。 個人の持ち時間は5分。授業参加者全員で皆さんの計画を議論します。 パワーポイントで発表内容を作成し、USBで自持するか、パソコン本体を持参してきて参加してください。 イメージを膨らませ、そのリゾートでの滞在をストーリー付けして説明して下さい。								
第15回	総括：まとめ この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業の振り返り。 レジャー・リゾート論の総まとめをします。 特にレジャー、リゾートの日本人と海外の方々の考え方の違いや実際の状況など。 日本政府の観光政策についていかにあるべきか。 消費活動を促す工夫や観光のあるべき姿、オーバーツーリズムとサステナブルツーリズムについても研究します。								
授業計画 備考2	15回の授業の中ででは学外授業の設定は予定していませんが、希望者は別途ツーリズム産業の現場でのインターンシップや研修の機会を設定できるように配慮したい。また、実際に農山漁村振興交付金を利用した案件の成果などについても紹介してゆく。								

評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組み姿勢/態度		50	積極的な授業への参加 出席は1回で1点 残り35点は積極的な発言や授業態度、毎回提出の出席カードへのコメントや感想などを評価します。
レポート		10	「アルプスの少女ハイジ」で「フガール」；レポート（5点×2回） 原稿用紙（配布します）に手書きで1,000字程度の文章とします。
小テスト		10	WEB試験：「ハワイ検定初級」（合格） 実施日には各自「ハワイ」を持参し、受験できるようにしてください。 当日欠席となった場合は自宅学習として受験していただき、 アメリカ合衆国「ハワイ政府観光局認定」の公式な資格です。
定期試験		20	期末テストとして実施します。100点満点ですが、20点に圧縮して評価します。 出題は授業に準じた範囲の資料、レジュメなどからとし、個々の自筆のノート類は持参可能とします。
その他		10	岡山・瀬戸内海のリゾート考察；企画授業とプレゼンテーション パワーポイント5枚程度で発表時間45分程度とします。 授業採集に近い時間での発表となりますが、授業後半にはその要点を知らせておきます。

評価の方法：自由記載	授業への参画意欲、質疑、発言などを積極的にしてほしい。 参考図書などを明示するので、必ず熟読し、レポートを提出すること。 岡山・瀬戸内のリゾートについて研究し、岡山・瀬戸内らしいリゾートについての発表もしていただきます。 試験は授業において配布した資料や、解説したリポートなどの中から出題します。 授業中にワイヤレス（WEB）を受験していただきます。合格者を評価します。
受講の心得	平素からホテルやレストランなど、ツーリズム産業に関わる産業をよく観察してほしい。 また、そこに働く人々やその役割を考察してほしい。 リゾートのあり方は環境問題とともに考えることが必要です。 SDGsの考え方もこの授業の中で学びましょう。 講義においてワークショップや議論の機会などをつくれます。積極的な発言をお願いします。 また、下欄に記載の「アルプスの少女ハイジ」や「フガール」の事前学習は必須です。 当該授業の予定日前に読書し、鑑賞を終えておくことをお願いします。
授業外学修	・テキストは指定しませんが、平素からレジャー・リゾートについての参考書、資料等を読み込んでください。 ・毎回の授業内容は必ず復習をしてください。 ・受講において事前に課題を出す場合があります。 ・小説「アルプスの少女ハイジ」を読み、映画「フガール」を鑑賞してください。 以上の内容を適当に4時間以上学習すること。

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	教科書は指定しません。毎回、レジュメや資料を準備する予定です。
-------------	---------------------------------

書名	著者	出版社	ISBN	備考
世界のリゾート&ツーリズム徹底研究	大前研一	(株)master peace		
アルプスの少女ハイジ	ヨハネ・シュビ	角川文庫		640円（税別）

参考書：自由記載	旅行会社のパンフレットや観光協会等が発行する資料やパンフレット、映像などを活用する予定です。
その他	
備考	
注意事項	

担当教員の業務経験の有無	有
担当教員の業務経験	JTBで38年のツーリズム業界での実績。国土交通省（観光庁）、経済産業省、農林水産省の審査委員などの経験があります。 観光開発プロデューサーとして中国四国エリアの地方創生に絡めた観光での地域創生のお手伝いをしてきました。 また、渡航経験は100回を超え、岡山空港からヨーロッパ、エジプト、アメリカや中国、韓国へのチャーターフライトを企画し、お客様を案内してきた経験から、世界のリゾートや観光の在り方を見てきました。
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	JTBでの38年の経験で、ツーリズム産業の全体像や特にホテルなどリゾート施設などの現状などを伝えていきたいと思っております。 また、ここ10年は各官庁の委員などを務め、観光政策の在り方や観光立国日本の将来についての研究もしてきました。 令和元年度の中国運輸局長観光功労者表彰を受けるなどの功績や、インドネシア教育大学での基調講演の内容などを授業の中でお示しします。 せとらちDMO設立の経緯を創った経緯から、DMOPDMCの重要性なども大学の講義などでお話しています。

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. レジャー・リゾートビジネスの概要を理解できる	世界のレジャー・リゾートビジネスについて説明できる	日本のレジャー・リゾートビジネスについて説明できる	レジャー・リゾートビジネスの概要を説明で説明できる	レジャー・リゾートのビジネスがどのようなものか説明できる	レジャー・リゾートビジネスが何か説明できない
知識・理解	2. レジャー・リゾートビジネスの日本の歴史を理解し、将来像を描く	日本のレジャー・リゾートビジネスの歴史を明確に説明し、将来像を示しながら、その課題を説明できる	日本のレジャー・リゾートビジネスの歴史について説明し、将来像を明確に語る事ができる	日本のレジャー・リゾートビジネスの歴史・将来の方向性を説明できる	日本のレジャー・リゾートの歴史について説明できる	日本のレジャー・リゾートの歴史について説明できない
知識・理解	3. レジャー・リゾートビジネスの実態を知り、その特性を理解する	レジャー・リゾートビジネスの実態を理解し、特性を説明し、課題を説明できる	レジャー・リゾートビジネスの実態を理解し、特性を説明できる	レジャー・リゾートビジネスの実態と特性の概略を説明できる	レジャー・リゾートビジネスの実態を理解する	レジャー・リゾートビジネスの実態が理解できない
思考・問題解決能力	1. 日本の観光政策の中で「リゾート」がどのような位置を占めているのかを理解する	日本のレジャー・リゾートに係る日本の政策を理解し、課題を説明できる	日本のレジャー・リゾートに係る日本の政策を説明できる	日本のレジャー・リゾートに係る日本の政策を理解する	日本のレジャー・リゾートに係る日本の政策を知っている	政策の存在すら理解できない
技能	1. レジャー・リゾートビジネスの企画力	岡山県のリゾートビジネスの企画を作成し、具体的な提案書としてまとめられる	岡山県のリゾートビジネス企画を作成し、具体的に説明できる	岡山県のリゾートビジネスの企画を作成できる	岡山県のリゾートについて説明できる	岡山県のリゾートを理解できない
技能	2. レジャー・リゾートビジネスのプレゼンテーション	指定時間内において、身体全体で表現ができる	指定時間内に明確な発表ができる	指定時間内に発表できる	指定時間を余したり、時間オーバーはするが発表はする	発表ができない、しない
態度	1. 授業中の受講態度	姿勢を正し、メモを取り、反応をする	姿勢を正し、メモをきちんと取る	姿勢を正し、常に聴く	姿勢、傾聴が十分でない	居眠り、私語、遅刻・早退等

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	地域経済学		授業番号	LE207	サブタイトル				
教員	北川 博史								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	地域経済は、人々の(経済)活動の相互依存関係の上に成立し、自然的・経済的・文化的複合体としての地域(歴史的・社会的存在としての地域)を支える経済単位である。すなわち、人間の共同的生活空間を地域として捉え、そうした地域を支える経済が地域経済となる。本講義では、地域の中でも都市と産業地域に焦点をあて、そうした地域における地域経済をどのように捉えるのかといった理論や考え方を説明するとともに、地域経済の現状と動態、さらには、具体的な課題について講義を通して一緒に考えてみたい。								
到達目標	第一に、地域経済を読み解く理論や考え方について理解し、説明できるようになることを目的とする。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。 第二に、地域経済の現状と動態について学び、地域の抱える課題を理解できるようになる。そして、そうした課題の解決方法を、第一の目標で得られた理論や考え方を用いて、探ることができるようになることを目的とする。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	「都市、産業地域そして地域経済とは」 復習：都市とはどのような地域なのでしょうか。もう一度整理してみましょう。 予習：都市化とはどのような現象なのでしょうか。調べてみましょう。								
第2回	「都市化経済」 復習：都市化の進んだ時期や場所を確認してみましょう。 予習：都市内の土地利用はどのようになっているか。あるいは違うのだろうか。自分の住む街を事例に考えてみましょう。								
第3回	「都市内部構造論」 復習：自分の住む街はこの理論に当てはまるのでしょうか。考えてみましょう。 予習：都市によっては異変する都市もあります。それはなぜなのでしょうか。考えてみましょう。								
第4回	「ランダムウォークと都市再生」 復習：再生に成功した都市はほかにもあるのだろうか。調べてみましょう。 予習：最近とても元気な都市が日本も増えて世界にはいくつかあります。どいった都市でしょうか。調べてみましょう。								
第5回	「クワイティブランチ論」 復習：クワイティブランチではなぜ地域経済が活性化しているのでしょうか。もう一度確認しましょう。 予習：大都市は数が少なく、小都市は沢山あります。なぜなのでしょう。調べてみましょう。								
第6回	「モノの持つ距離と中心地論」 復習：中心地論は地域経済の活性化を考える際に採用できるのでしょうか。考えてみましょう。 予習：全ての都市の地域経済が活性化しているわけではないようです。なぜなのでしょう。調べてみましょう。								
第7回	「地域構造論と都市システム論」 復習：地域構造や都市システムが地域経済の盛衰に与える影響を整理しておきましょう。 予習：日本の中では、どの地域が元気が良い(地域経済が活性化している)のでしょうか。調べてみましょう。								
第8回	「日本の地域構造と地域経済」 復習：日本の地域構造の特徴をもう一度整理しておきましょう。 予習：産業地域とはどのような地域でしょうか。調べてみましょう。								
第9回	「産業立地論」 復習：なぜ産業地域が出現したのでしょうか。もう一度整理しておきましょう。 予習：地域経済を支える産業はどこでも同じなのでしょうか。あるいは違うのでしょうか。調べてみましょう。								
第10回	「空間的分業論と地域再編成」 復習：分工場経済について、もう一度確認しておきましょう。 予習：地域経済を支える産業の一つに地場産業があります。地場産業とはどのような産業のことをいっているのでしょうか。調べてみましょう。								
第11回	「地場産業地域の動態」 復習：地場産業地域はどこにあるのでしょうか。整理してみましょう。 予習：地域経済が活性化する「新しい産業集積」はどのようなことを指すのでしょうか。調べてみましょう。								
第12回	「産業集積と新たな動向」 復習：新しい産業集積の典型的な事例地域はどこだったのでしょうか。もう一度確認しておきましょう。 予習：地域経済の衰微している地域、活性化している地域はどこか調べてみましょう。								
第13回	「地域経済循環論」 復習：地域経済循環とはどのような考え方だったのでしょうか。もう一度確認しておきましょう。 予習：日本の地域経済政策にはどのようなものがあるのでしょうか。調べてみましょう。								
第14回	「地域経済政策の軌跡」 復習：日本の地域経済政策の歴史的展開についてもう一度整理しておきましょう。 予習：日本の地域経済政策によって地域経済が活性化された地域はどこでしょうか。調べてみましょう。								
第15回	「地域経済政策の展開と課題—まとめにかえて—」 復習：日本の地域経済政策の課題はどこにあるのでしょうか。そしてその解決策はどのようなことが考えられるのでしょうか。授業で得られた理論や事例を用いてまとめてみましょう。								
授業計画 備考2									

評価の方法		
種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	20	毎回意見や質問などをお書きいただけます。この内容も評価に含めます。
レポート	30	授業内容の理解度を測るために、複数回、レポートをおこなうこととなります。クイズ形式のものや記述式の小レポートもあります。提出期限や様式については別途指示いたします。課題のポイントを押さえれば高評価します。
小テスト		
定期試験	50	最終的な理解度を評価します。各回の主要な論点を押さえれば高評価となります。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	地域や地域経済、地域産業の動向に関心を持っていただきたいです。そして、可能ならば、事例とした地域あるいはそれに類似した地域を実際に歩いてみましょう。現場をみることで、実践力が身につくと思います。
授業外学修	授業計画内の復習・予習に書かれていることを適当に4時間以上実行してみましょう。毎回、完璧とはいわないまでも、時間の許す限り実行に移しましょう。また、復習・予習を通じて疑問が生じた場合には、疑問点を書き留めておき、次の授業時のコメントペーパーを用いて積極的におたずね下さい。可能な限り回答する予定です。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	指定しません。講義中に資料を配付します。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	指定しません。講義中に示す参考文献、参考図書などを積極的に活用し、学修を発展させて下さい。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 地域経済に関する理論を理解している。	学修した地域経済に関する理論について、正確に理解し説明することができる。	学修した地域経済に関する理論について、正確ではないがほぼ理解し説明することができる。	学修した地域経済に関する理論について、大まかに説明することができる。	学修した地域経済に関する理論について、正確に説明することが出来ないが、自分の言葉で表現できる。	学修した地域経済に関する理論について、全く説明することができない。
知識・理解	2. 地域の社会経済的現象を理解している。	学修した社会経済的現象について、正確に理解し説明することができる。	学修した社会経済的現象について、正確ではないがほぼ理解し説明することができる。	学修した社会経済的現象について、大まかに説明することができる。	学修した社会経済的現象について、正確に説明することが出来ないが、自分の言葉で表現できる。	学修した社会経済的現象について、全く説明することができない。
知識・理解	3. 日本の地域経済政策を理解している。	学修した日本の地域経済政策について、正確に理解し説明することができる。	学修した日本の地域経済政策について、正確ではないがほぼ理解し説明することができる。	学修した日本の地域経済政策について、大まかに説明することができる。	学修した日本の地域経済政策について、正確に説明することが出来ないが、自分の言葉で表現できる。	学修した日本の地域経済政策について、全く説明することができない。
思考・問題解決能力	1. 地域の抱える課題とその解決策を考察することができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を捉えたものの、指示事項に沿っていない。
技能	1. 地域経済に関する様々な定性的および定量的データを的確な方法で分析し、分析結果を理解することができる。	的確な分析手法によってデータ解析を行い、分析結果を正確に説明することができる。	的確な分析手法によってデータ解析を行い、分析結果を正確ではないがほぼ説明することができる。	ほぼ的確な分析手法によってデータ解析を行い、分析結果について大まかに説明することができる。	ほぼ的確な分析手法によってデータ解析を行うことができる。	的確な分析手法によってデータ解析ができない。
態度	1. 講義に積極的に参加できる。	質問など積極的にを行い、疑問を解決し、講義内容を理解した上で、適切なコメントシートを提出している。	講義に前向きに臨む姿勢が見受けられ、講義内容を理解した上で、コメントシートを提出している。	講義に出席し、講義内容を理解した上でコメントシートを提出している。	講義に出席し、コメントシートを提出しているが、理解が十分ではない。	講義に出席しているが、コメントシートの提出をしていない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	現代ビジネス論		授業番号	LE301	サブタイトル				
教員	佐々木 公之								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	「ビジネス実務士」資格取得のための必修科目である本講義では、組織におけるビジネス実務の概念について基本的な知識、およびビジネス活動の進め方について学んでいく。また、実社会において必要とされる「社会人基礎力」の習得を図り、その力を発揮し応用するレベルまでスキルアップを目指す。ビジネスの基本知識と現代マーケティング理論を習得しながらキャリア形成を考えていく。								
到達目標	「ビジネス概念」「ビジネスの推進力・能力開発」「ビジネス実務の基本的技術等」を身に付け、ケーススタディー等を通じてビジネスの総合的な知識を高め、論理的思考にて判断できる力を養う。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、「思考・問題解決能力」の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	現代ビジネスの現状と傾向								
第2回	現代マーケティング戦略を学ぶ(1)								
第3回	現代マーケティング戦略を学ぶ(2)								
第4回	ブランディング戦略 (1)								
第5回	ブランディング戦略 (2)								
第6回	ブランディング戦略 (3)								
第7回	サービス・マーケティング (1)								
第8回	サービス・マーケティング (2)								
第9回	サービス・マーケティング (3)								
第10回	マーケティング・コミュニケーション (1)								
第11回	マーケティング・コミュニケーション (2)								
第12回	マーケティング・コミュニケーション (3)								
第13回	チャンネルと販売 (1)								
第14回	チャンネルと販売 (2)								
第15回	チャンネルと販売 (3)								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な授業態度、授業への貢献度を評価する。						
	レポート								
	小テスト								
	定期試験	70	プロジェクトマネジメントを通じて各チームの主要ポイントを評価する。						
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「前に出る力」「考え抜く力」「チームワーク」の意味を知る。ビジネスの基礎、マーケティング理論となる原理、原則を知ると共に企画力、プレゼンテーション力を身に付ける。SNSやブランディング戦略など現代社会での事例を学びながら、実社会において必要とされる「社会人基礎力」の習得を図り、その力を発揮し応用するレベルまでスキルアップを目指す。
授業外学修	1. 予習として、授業内容に関わる箇所を読み、疑問点を明らかにする。 2. 復習として、課題のレポートを書く。 以上の内容を、週4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ビジネス実務と経営学の基礎を学ぶ教科書ノート	佐々木公之、大田住吉他	銀河書籍	9784866450278	1100

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	有
担当教員の業務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. ビジネスの理論ができる	ビジネスの理論が理解でき、その考え方に対して共感、疑問を持ちディスカッションできる。	ビジネスの理論を理解し、共感し疑問を持つことができる。	ビジネスの理論と講義の意図が理解することができる。	ビジネスの理論や講義の意図が概ね理解することができる。	ビジネスの理論が理解できない。
思考・問題解決能力	2. 現代社会の動向を理解している	信頼できるリソースから、現代社会の動向を調査し学習課題に取り組みることができる。	リソースの信頼性に注意して、現代社会の動向を概ね正しい内容かどうかを理解して学習課題に取り組みることができる。	リソースを用いて、学習課題に取り組みることができる。	リソースの信頼性についての注意が不十分で、学習内容にいくつかの誤りが含まれている。	リソースを用いて、学習課題に取り組みることができない。
思考・問題解決能力	3. チームビルディングでが身に付いている	チームに臨機応変に対応する即興性、集団で協働して目標を達成することができる。チームメイトとの関係を育むことができる。	議論をより活発で創造的なものにするため、チームメイトの多様性を配慮・尊重しながら行動することができる。	チームメイトとの課題解決に取り組みることができる。	チームメイトとの課題解決のあり方を認識することができる。	チームメイトとの協働作業による問題解決ができない。
思考・問題解決能力	4. コミュニケーションによる問題解決能力が身に付いている	相手とのコミュニケーションを解釈し、相手の感情に応答しながら多様な表現方法にて問題解決ができる。	伝える聞かために、言葉だけでなく、身体表現方法（声やジェスチャーなど）を認識しながらコミュニケーションをとることができる。	相手の話を受容する聴き方を意識しながら、分は何を伝えたいかなど、自分の考えや思いを認識したうえで話すことができる。	相手を否定する聞き方と肯定する聞き方の違いなど、様々な段階や種類があることを認識することができる。	相手の話を聞くこと、話すことができない。

科目名	ブランド戦略論			授業番号	LE302	サブタイトル	
教員	宋 煥沃						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義
							必修・選択
授業概要	わたしたちの生活において、ブランドへの関心が年々高まったのは1980年代から1990年代の初めにかけてである。今日ブランドへの関心や競争はますます高くなり、海外のジャーナルや日本国内にもブランドに関するブランド戦略論やブランド・マネジメントの論評が多くなっている。ブランドはどのように創られ、それを発展させ持続していくのが最大限の関心点である。ブランドは今日、プライベートブランド、地域ブランド、グローバル・ブランドと異なった領域においてブランドの重要性がより一層認識されるようになっている。本講義では、前半でブランドの基礎理論やブランドの機能について解説し、後半ではブランド戦略を駆使し、確実したブランド構築を成し遂げている企業の事例を用いて学習する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ブランド戦略に関する基礎理論や歴史が理解できる。 企業はどのようにブランド構築に取り組んで、それを維持させているのかが理解できる。 事例研究を通じて消費者の観点から価値創出やブランド力行使が理解できるようにする。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学上カのうち、<知識・理解><思考・問題解決能力>に修得に貢献する。						
授業計画 備考	毎回レジュメを配布する。						
回	概要					担当	
第1回	ブランドの定義とは何か ブランドの語源、商標、ブランドの機能、ブランドの効果と影響力、ブランド・エクイティ						
第2回	ブランドと交換 交換パラダイム、交換価値、信頼財、探索財、等価交換、差異からの価値創出、競争的差異						
第3回	イノベーションとブランド 包装革命とブランド、顧客の創造、新しいバターの創出、持続的交換関係、ブランド使用						
第4回	ブランド史の構造 ブランドの歴史的構造、近代ブランド、アイデンティティの成立、消費財ブランド、ブランド・マネジメント						
第5回	統合ブランド戦略の基礎 ブランド戦略、ブランド構築、潜在的可能性、ノンブランド市場、戦略マトリクス						
第6回	経営レベルのブランド戦略 ブランド・テリトリー、6C分析、経営資源の意思決定、ブランド・アーキテクチャー、ブランド配置						
第7回	マーケティングレベルのブランド戦略 フォカス顧客、価値の創造、セグメンテーションの困難、ポジショニング、類似化ポイント、差異化ポイント						
第8回	企業ブランド戦略とブランド拡張 企業ブランド、マネジメントの視点、ブランド拡張、動機付け、カテゴリー、パーソナリティ						
第9回	ブランドM&Aとライセンス ブランドの買収、グローバル企業の買収、ブランド買収の効果						
第10回	グローバルブランド戦略 市場と自社の課題、自覚共通化、ブランド保存、マネジメントの課題解決						
第11回	ブランド経験とブランド信頼 ブランド経験価値、ピーク・エンド法則、信頼概念、意図に対する信頼、ブランド意図						
第12回	食品・飲料ブランドの事例 新ビジネスモデル、ブランド活性化、成熟ブランドの再活性化、市場の転機、競合と自社分析						
第13回	耐久消費財のブランド戦略 (タイソンとティファールの事例) ブランド革新、サイクロン技術、デザインのカ、人口減少と高齢化、エコロジー志向						
第14回	ツーリズム・ブランド (ハウステンボスの事例) エンターテインメントブランドの再構築、オンライン思考、市場対応、失敗に学ぶ、顧客ニーズ						
第15回	BtoBと企業ブランド 成熟産業、事業革新、事業ドメイン、戦略単位の源泉、競合関係、市場の需要						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その態備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	予習や復習の状況、講義への意欲や質問、課題提出などを評価する				
	レポート	30	提出されたレポートは、きちんと書かれたかを検討し、内容のコメントを加えて返却する。				
	小テスト	40	キーワードの理解度、授業全体の理解度を評価する。				

評価の方法：自由記載	<ul style="list-style-type: none"> -何回かの授業中での資料を読み、評価する。 -小テストは授業全体の理解度を評価する。
受講の心得	-日常、興味ある商品やサービス、消費行動に関する内容の新聞、雑誌などに目をおして、問題意識をもって出席すること。
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> -予習として、レジュメの講義内容にかかわる部分を前もって熟読し、疑問点をチェックして来ること。 -小テストのため、配布プリント、資料を復習すること。 -関心ある商品や企業のブランドに関する参考文献を調べること。 -以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ブランド戦略論	田中洋	有斐閣	978-4-641-16510-6	
ベーシック・マーケティング	原田直人編著	同文館出版	978-4-495-64372-0	

参考書：自由記載

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	無
担当教員の業務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	企業のブランド構築の必要性を理解している わたしたちの生活の中で企業の役割や関わりを理解している 企業の戦略の違いによって企業の収益、ブランド力が高まることを把握できる	われわれの生活の中で、企業のブランド力が影響していることを理解できる	企業にとって、ブランド力とは何かを理解している われわれ消費者の行動や購買について理解している	生産者としての企業の社会的役割や責任に関する議論ができる 企業のブランドとは何かを把握できる	企業が利益を得るために、不祥事が起こっていることが十分の理解できない	企業の不祥事の際、企業ブランドに大きく影響及ぼしていることが把握できない
思考・問題解決能力	今日の経済社会で、消費すること、売り手である企業の役割や戦略が理解できる 今日の企業はブランド構築のために、差別化戦略を遂行していることが把握できる 企業の内部での経営資源をどのようにしてブランド構築に活用しているかが理解できる	企業で起こっている諸問題に対する対応策が議論できる	日本企業の問題点を抽出し、まとめることができる	企業の基本的なブランド構築の必要性を理解している 企業の組織構造や社員の行動によって製品開発や戦略が変化していることが把握できる	基礎的なマーケティングは理解しているが、具体的な内容は十分にわかっていない 具体的な企業の組織構造によって、製品販売の方法が異なっていることが理解できていない	ブランド戦略論の科目を理解していない 企業のブランド構築に関する概念や企業理念が理解できていない

科目名	観光経営論			授業番号	LE303	サブタイトル	
教員	田村 秀昭						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義
授業概要	観光産業ならではの経営上の課題やその対応策などを模索する。 観光経営の基礎知識を習得し、ホテル、旅行、運輸(航空、貸切バスなど)、エンターテインメントなどの固有の課題を考察し、その解決方法や管理方法など対策を講じてゆく。 また、危機管理の観点から災害などの復旧、再建などについて学ぶことでツーリズムをビジネスとしてとらえてゆく。						
到達目標	ツーリズム産業には一般的な企業経営とは違った課題が数多くあり、特に季節・曜日変動、立地条件や流行に左右されやすく、設備投資額を考えると決して高収益とはならない経営リスクがあることを学んでほしい。 また、ツーリズム産業の中にも各業種によるその経営課題は異なるが、この違いなどを理解しながら対応策を考察してゆく力をつけてほしい。 課題を明確にし、協働しながら結論付けたり、発表する力も同時に養ってほしい。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士学位の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。						
授業計画 備考	基本的には座学だが、課題を共有し、ディスカッションの後に集約した意見を発表する場も設定してゆきたい。 また、講義に出席し、積極的に質問をし、議論に参加して欲しい。 観光経営という分野にとらわれず、学生としての学びの幅を広げてゆきたいと思ひます。 時に脱線しますが、観光産業で動いてきた40年の経験をお話にお伝えしたいと思います。						
回		概要					担当
第1回	観光経営ガイダンス 観光の定義、経営の定義。 日本におけるホテル経営の初め、旅行業の初めの姿などの歴史を説明します。 また、観光・ツーリズムの世界を知るところから始めます。						
第2回	観光経営の歴史 日本における経営を論じるとき、基本ベースは宿泊業(ホテル、旅館など)と旅行業は欠かすことができません。 2つの業種の始まりを踏まえて、その辿ってきた過程を学びます。						
第3回	観光経営の課題:リスクの理解 旅行を英語でTravelといいますが、その語源はtroubleともいわれています。 トラブル、つまり事故、騒動など困難なこと理解できます。 苦難なことをなぜ人は続けてきたのか。 そして、現在は安心・安全を基本とした旅行・観光の時代になりましたが、その経営過程においては依然としてtroubleだらけです。 そのリスクを理解し、回避するのはどうしたらよいかを考察します。						
第4回	季節・曜日変動などの経営課題:稼働率、生産性の考察 世界の観光の考え方は日本と全然別の差を指摘することはできません。 しかし、日本人は旅行に出かける時でも1泊か2泊、せいぜい思い切っても1週間どまり。 週末や連休を利用した旅行が多いでしょう。つまり、その時にしか行けないという判断で、お客様が大変多い時と間で集客できない時と大きな差があります。 これは稼働率や生産性を考慮すると大変な問題です。 それではどうしたらよいか、一緒に考えましょう。						
第5回	巨大な設備投資と人的サービスへの傾斜傾向 宿泊業(ホテル・旅館など)や運輸業など、設備投資が先行し必要なら、人件費という経費をいかにコントロールするか。 投資業であり人が資本である観光業の課題などを学びます。						
第6回	ホテル・旅館経営の課題 前回は稼働率、生産性などについて学びます。 観光業の課題は稼働率を如何に高めるかなども含めて復習します。						
第7回	旅行業経営の課題 (OTA・LRTA、クレームとトラブル対策など) 旅行業の課題は生産性の向上とDX対策、収入率の低下・競争であり、その結果から多額の赤字の体質。 今後はいかに生き残るかを含めて、旅行業現場の経営課題などを学んでいきます。						
第8回	航空業界の課題 今年1月2日に羽田空港で発生した航空機の衝突事故をはじめとした、事故への対応という課題を含めて考察します。 航空機という先行投資の装置産業であり、人がその資本である航空業界の課題は何で、どう対応してゆけばよいか。 一緒に考えてみましょう。						
第9回	鉄道経営と沿線開発の課題 かつて鉄道経営の基本は不動産業(デベロッパー)としての経済活動が中心でした。 都市部から離れた地域にはレジャー施設を展開し、その一方で通勤圏内と想定する地区には住宅を建築する不動産投資。 沿線開発の名のもとに行われた都市開発、環境への対応などを一緒に考えましょう。						
第10回	リゾート経営の課題:日本の観光政策の失敗事例 「リゾート法」(観光振興法)と、日本の観光政策は厳しい評価を受けるものが多い。 現在では「日本版DMO」の推進をしているが、世界のDMOと比べて何が違うのか。 事例研究をする。						
第11回	テーマパーク、遊園地などアミューズメント、コンベンション施設の経営の課題 皆さんも大好きなディズニーリゾートやUSJなどはどのような経営計画を立て、お客様へのサービス提供をしているのでしょうか。リピーターがいかに獲得できるか。 一方でリゾート法で全国各地に建設されたのはホテル等宿泊施設のみならず、レジャー施設も同様に全国に開発されました。その結果は如何だったのでしょうか。 意見交換しながら考察します。						
第12回	観光経営の事例研究(レポート対象) 本講義の過程において研究すべきテーマを皆さんと決めてゆきます。 それぞれがテーマや対象業種などを研究し、事例を考察してゆきます。 発表時にはレポート提出をお願いします。						
第13回	ツーリズムビジネスの将来についての考察:ディスカッションと整理 観光産業の将来はどのようなか。あるいはどうすれば発展してゆくの意見を交換して、まとめてゆきましょう。						
第14回	第13回のまとめ発表 前週意見交換、決めていた課題などをPPTで発表していただきます。 その発表に対しての意見交換をします。						
第15回	観光経営論総括 これまでの観光経営についての講義のまとめをします。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
種別	割合	評価基準・その他備考					
授業への取り組みの姿勢/態度	50	意欲的な授業態度、授業への貢献度を評価する。 出席は1回につき1ポイントとするが、残りの35点は授業に臨む姿勢・態度や発言を評価する。 また、毎回出席カードへのコメントを求めるが、質問や感想などで授業で如何に学習したかを評価の対象とする。					
レポート	10	授業の中で課題を出します。それに対してのレポートを求めます。 観光産業あるいは観光地の経営について自主学習をしていただきます。					
小テスト	10	復習の意味を含めて小テストを数回実施します。 基本的には用語の解説などを通して学習した内容を確認します。					
定期試験	20	期末試験。授業中に配布した資料や自筆のノートの持ち込みは可とする。 100点満点を20点に圧縮して全体評価に追加します。					
その他	10	第13・14回のディスカッションとプレゼンテーションの評価をします。 積極的に議論に参加し、自身の意見を姿勢よく発表してください。					

評価の方法：自由記載	座学を中心とした授業の中で自由に予習をし、復習ができていないかを確認しながら進めてゆきます。 また、各単元の中で自発的な発表やレポート提出などを歓迎します。公文の場合はレポートの提出を求めます。
受講の心得	予習と復習を心掛け、授業時に取り上げた用語や内容について書籍などで調べ、情報収集を行うなどの自主的な学習に努めましょう。 授業中にはペア・グループでの発表活動を実施しますので、積極的に参加してください。 オンライン授業を活用した地域振興策を考える習慣をつけてください。 積極的に質問をし、用語などわからないままに進むことの無いようしてください。
授業外学習	・講義内容については予習をしましょう。 ・次回講義のポイントについて毎回の伝えます。 ・毎回の授業内容は必ず復習してください。 ・受講において事前に課題を出す場合があります。 ・以上の内容を適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
観光概論	穴戸学ほか	(株)JTB総合研究所		2,477円(税抜き)
参考書：自由記載	市中にある観光パンフレット、旅行商品パンフレット、ホテル・旅館のパンフレットなども参考にあります。 講義によっては授業で使用する場合があります。各施設、事業所等で手に入れることを求めることがあります。 また、毎回の授業では新聞掲載の記事や専門誌から抜粋した資料を配布します。 経営学や地域振興のお話も資料を交えてお伝えします。			
その他				
備考	試験は期末と講義中に小テストを実施します。 期末テストは配布した資料や自筆のノートは持込を可とします。 小テストは講義の復習を兼ねたものです。			
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	(株)JTBでの28年間の実績、中国運輸局、中国経済産業局、中国四国農政局などの観光関連、街づくり、地方創生などの委員経験など。 イベント・コンベンション、観光調査、広告宣伝などの事業経験もあります。 台湾の高校の顧問も務めていますので、国際交流などについてもお話しできます。			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	なし			
実務経験をいかした教育内容	JTBでの多岐に渡る業務経験と実績を元に、「現場」で起こっている、起こる可能性などの事象を具体的に話します。 行政の委員などの経験をもとに観光行政の在り方や成功・失敗事例の原因なども事例を交えて解説してゆく予定です。 また、現在は条件市議会議員の立場でもあり、行政の考え方や政策へいかに活かすかなどのお話もさせていただきます。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づき評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 観光産業の経営のリスクを理解する。	観光経営のリスクを説明し、一般経営との差を説明できる	観光経営の基礎知識を習得し説明できる	観光経営の基礎知識習得	観光経営の課題がわかる	観光経営の意味が分からない
知識・理解	2. 観光産業の種類によって課題が違ふことを理解する	観光産業の4種類以上の課題を説明できる	観光産業の3種類の課題を説明できる	観光産業の課題を説明できる	観光産業に課題があることは知っている	観光産業の課題を見つけられない
知識・理解	3. 観光産業の危機管理を理解する。	観光産業の危機管理策を説明し、対応を説明できる	観光産業の危機管理を理解し、対応策を説明できる	観光産業の危機管理を理解できる	観光産業に危機管理対応が必要なことを理解する	観光産業の危機管理を理解できない
思考・問題解決能力	1. 課題を明確にし、発表する	課題をPPTに纏めて時間内にプレゼンできる	課題をPPTに纏め、発表できる	課題を纏め、発表できる	課題を纏めることができる	課題を纏められない
態度	1. 授業中の受講態度	姿勢を正し、メモを取り、反応をする	姿勢を正し、メモをきちんと取る	姿勢を正し、常に聴く	姿勢、傾聴が十分でない	居眠り、私語、遅刻・早退等

科目名	リーダーシップ論			授業番号	LE401	サブタイトル	
教員	佐々木 公之						
単位数	2単位	開講年次	がキキョムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義
授業概要	VUCA (Volatility (変動性), Uncertainty (不確実性), Complexity (複雑性), Ambiguity (曖昧性) の頭文字から作られた言葉) とされる変化の大きな時代には、リーダーの指導力が問われる。本講義では下記を重点的に取り上げる。 (1) 主要なリーダーシップ論について学ぶ。 (2) 現代の優れたリーダー達のように指導力を発揮し、変革を興し、地域に貢献したかについて学ぶ。 (3) これらを踏まえて現代社会が必要とするリーダーシップ論について議論し、理解を深める。						
到達目標	本講義においては経営学における主要なリーダーシップ論について学ぶ。また、ビジネス界が生み出したリーダー達の生き方やリーダーシップの影の方を学ぶ。加えて、VUCAの時代と言われる現代をどう生きるかについて議論する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度> の修得に貢献する。						
授業計画 備考	前半はリーダーシップ論の主要理論について学ぶ。 後半は、グループワークにより現代のリーダーを取り上げ、その功績や生き方について学ぶ。						
回	概要					担当	
第1回	本講義の目的と概要						
第2回	リーダーシップ特性論						
第3回	リーダーシップ行動論						
第4回	人的資源を活かすリーダーシップ						
第5回	カスミアのリーダーシップ論						
第6回	ワーバンドリーダーシップ論						
第7回	変革的リーダーシップ論						
第8回	社会的責任とリーダーシップ論						
第9回	ケーススタディ：現代ビジネスリーダー 1						
第10回	ケーススタディ：現代ビジネスリーダー 2						
第11回	ケーススタディ：現代ビジネスリーダー 3						
第12回	ケーススタディ：現代ビジネスリーダー 4						
第13回	ケーススタディ：現代ビジネスリーダー 5						
第14回	ケーススタディ：現代ビジネスリーダー 6						
第15回	まとめとディスカッション						
授業計画 備考2	レジュメを配布する。						
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その態備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	リアクションペーパーを評価する				
	レポート・定期試験	50	最終課題のレポートを評価する				

評価の方法：自由記載	リアクションペーパーの提出を求め、評価の対象とする。 講義の中で課題（プレゼンテーション）を提示し、その課題についてのレポート・発表を評価する。 最終レポート、定期試験は基本的概念や理論の理解度を評価する。
受講の心得	日ごろから新聞や経済誌を読み、経済の変化について関心を持ち、下記の紙（誌）等を毎日読むことを推奨する。 日本経済新聞 日経ビジネス 東洋経済
授業外学習	1 予習として、講義内容にかかわる部分を事前に研究しておくこと。 2 復習として、レジュメを再度確認すること。 3 発展学習として、講義で紹介された参考文献などを読むこと。 以上の内容を、適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
リーダーシップ入門	金井 勇宏	日経BPマーケティング	978-4532110536	

使用テキスト：自由記載 レジュメを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
リーダーシップの名著を読む	日本経済新聞社	日経BPマーケティング	978-4532113346	

参考書：自由記載

その他

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無 有

担当教員の業務経験 養生堂、ユニバー、マテル、ロレアルにおける豊富なマーケティングや経営の経験がある。

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無 無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験をいかした教育内容 養生堂、ユニバー、マテル、ロレアルなどでの実際の経営経験を踏まえて、できるだけ分かりやすく生きたリーダーシップ論について解説する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	リーダーシップの考え方が理解できる	リーダーシップの考え方が理解でき、その考え方に對して共感、疑問を持ちディスカッションできる。	リーダーシップの考え方を理解し、共感し疑問を持つことができる。	リーダーシップの考え方や講義の意図が理解することができる。	リーダーシップの考え方や講義の意図が概ね理解することができる。	リーダーシップの考え方が理解できない。
思考・問題解決能力	社会動向を理解している	信頼できるリソースから、社会動向を調査し学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性に注意して、社会動向を概ね正しい内容かどうかを理解して学習課題に取り組むことができる。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性についての注意が不十分で、学習内容にいくつかの誤りが含まれている。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができない。
技能	チームビルディングが身に付いている。	チームに臨機応変に対応する即興性、集団で協働して目標を達成することができ、チームメイトとの関係を育むことができる。	議論をより活発で創造的なものにするため、チームメイトの多様性を配慮・尊重しながら行動することができる。	チームメイトとの課題解決に取り組むことができる。	チームメイトとの課題解決のあり方を認識することができる。	チームメイトとの協働作業による問題解決ができない。
技能	コミュニケーションによる問題解決能力が身に付いている。	相手とのコミュニケーションを解釈し、相手の感情に応答しながら多様な表現方法にて問題解決ができる。	伝える聞かぬに、言葉だけでなく、身体表現、方法（声やジェスチャーなど）を認識しながらコミュニケーションをとることができる。	相手の話を受容する聴き方を意識しながら、分は何を伝えたいかなど、自分の考えや思いを認識したうえで話すことができる。	相手を否定する聞き方と肯定する聞き方の違いなど、様々な段階や種類があることを認識することができる。	相手の話を聞くこと、話すことができない。
態度	リーダーシップを身につけるとする態度である。	リーダーシップ論を身につけるとする態度で聴講し、直ぐに行動している。	リーダーシップ論を身につけるとする態度で取り組んでいる。	リーダーシップ論を身につけるとする態度で取り組んでいるが、行動力には欠けている。	リーダーシップ論を身につけるとする態度に若干欠けている。	リーダーシップ論を身につけるとする態度ではない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	ライティング			授業番号	LF201	サブタイトル			
教員	アレグサ ワグミ								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業は、仕事やビジネスのための、さまざまなタイプの短く簡潔な文章を書くことに焦点を当てる。これには、情報要求、招待、宿泊予約のための電子メール、入国カード、文書の付け紙、ファックス送付状、就職応募書類、履歴書を含む。学生は、毎時間出席し、毎週の英作文課題をこなすことを期待されている。これはライティングの授業であるが、学生は積極的に授業に参加し、できるだけ多くの英語を使うことを期待されている。授業中いつでも自由に必要な時は友人や教師に英語で質問するのがよい。この授業は、「インテグレートッド・インクシュス」、「基礎ゼミ」、「専門ゼミ」などの授業と関連している。								
到達目標	この授業の目標は、学生の英語で書く基本的な能力と、短く簡潔な文章とビジネス文書を英語で書くための文法、語彙、句読法、綴り字法の知識を伸ばすことである。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	書くことについて考える								
第2回	導入を書く								
第3回	様々な様式を埋める								
第4回	感謝を述べる								
第5回	情報を要求する								
第6回	ユニット小テスト1；詳細な情報を得る								
第7回	招待し、会合の手配する								
第8回	面会時間・場所を決め、それを変更する								
第9回	指示を与える								
第10回	問題に対応する								
第11回	ユニット小テスト2；描写する								
第12回	意見を言い、推薦する								
第13回	休暇について書く								
第14回	趣味について書く								
第15回	仕事に応募する ユニット小テスト3								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	25	英語を使っての授業への積極的参加						
	レポート	10	毎週の作文課題						
	小テスト	45	ユニット小テスト						
	定期試験								
	その他	20	課題						

評価の方法：自由記載	英語を使っている授業への積極的参加 25%、毎週の作文課題 10%、ユニット小テスト 3×15%、課題 20%
受講の心得	学生は、毎時間出席し、毎週の英作文課題をこなすことを期待されている。これはライティングの授業であるが、学生は積極的に授業に参加し、できるだけ多くの英語を使うことを期待されている。授業中いつでも自由に必要な時は友人や教師に英語で質問するのがよい。
授業外学習	授業で直接指導できる時間は限られているので、学生は、自習と毎時間の授業のための準備と課題に当たり4時間以上の学習が必要である。この学習は、一度に行うよりも、毎日30-40分学習するのが効果的である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	学生は、教科書とともに和英辞典、A4サイズのノート、授業プリントと課題を入れた授業用フォルダ、自習課題を毎時間持参すること。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー「学力」)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 簡潔な文章とビジネス文書を英語で書くための文法、語彙、句読法、綴り字法の知識を伸ばすことである。	文章構造理解 理解力が深く、文章構造を素早く把握する。	文章構造を理解し、適切に解釈できる。	基本的な文章構造を理解できる。	文章構造の理解に苦労している。	文章構造の理解がほとんどない。
知識・理解	2. 簡潔な文章とビジネス文書を英語で書くための文法、語彙、句読法、綴り字法の知識を伸ばすことである。	語彙知識 多様な語彙を的確に使用する。	主要な語彙を適切に使用できる。	基本的な語彙を理解し、使用できる。	語彙の理解や使用に困難がある。	語彙の理解や使用がほとんどない。
思考・問題解決能力	1. 批判的思考	批判的思考 情報を深く考え、独自の見解を形成できる	情報を理解し、それに基づいて意見を形成できる	基本的な情報を理解し、それに基づいて意見を形成できる。	情報の理解や意見形成に苦労する	情報の理解や意見形成がほとんどない。
思考・問題解決能力	2. 創造的思考	創造的思考 新しいアイデアや視点を豊富に提供する。	新しいアイデアや視点を提供できる。	基本的なアイデアや視点を提供できる。	アイデアや視点の提供に苦労する。	アイデアや視点の提供がほとんどない。
技能	1. 高度なライティング技能を持つ。	明確で効果的な文章を書く。	明確な文章を書く。	単純な文章を書く。	文章の作成に困難がある。	文章を書くのが非常に困難
技能	2. 様々な文章の書類を理解する。	複雑なテキストを理解する。	主要なテキストを理解する。	単純なテキストを理解する。	テキストの理解が困難	テキストを理解するのが非常に困難

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	時事英語	授業番号	LF202	サブタイトル	
教員	藤代 舜丈				
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期
授業形態	講義	必修・選択	選択		
授業概要	米国の経済週刊誌 Bloomberg Businessweek の論説・記事を扱ったテキストを教材にして、時事英語特有の表現や国際社会で起きている様々な問題についての理解を深めるとともに、英語の4技能を高める。具体的には、テキストを活用してトピックについての読解力、聴解力を高めるとともに、グループワークやペアワークを通して、自らの意見を口頭や筆記により表現する力を高める。また、CNNやBBCのニュース映像やインターネット上に公開されているニュース記事等を活用して、より新鮮なニュースに触れる機会を設ける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。 時事英語、ニュース英語でよく使われる英語表現を理解することができる。 英文で扱われている題材について知識を得ることができる。 英語の4技能を駆使して情報を収集し発信できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	Unit1 A Mom-to-Be in the Corner Office 有給出産休暇に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語				
第2回	Unit2 In Defense of Affirmative Action アファーマティブアクションに関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語				
第3回	Unit3 Keeping the Internet Safe from Rogue Regimes インターネットの安全に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語				
第4回	Unit4 Fighting Hacks with National Security Standards サイバー攻撃との戦いに関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語				
第5回	Unit5 Raise the Minimum Wage 最低賃金に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語				
第6回	Unit6 America's Real Immigration Crisis アメリカの移民政策に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語				
第7回	Unit7 France's Fleeing Billionaire フランスの税金に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語				
第8回	Unit8 Don't Bring Back the Drachma ギリシャの債務不履行に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語				
第9回	Unit9 One Europe, Many Tribes (1) EUに関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語				
第10回	Unit10 One Europe, Many Tribes (2) EUに関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語				
第11回	Unit11 In Japan, Retirees Go On Working 年金負担に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語				
第12回	Unit12 Japan, China and A Pile of Rocks (Part1) 領土紛争に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語				
第13回	Unit13 Japan, China and A Pile of Rocks (Part2) 領土紛争に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語				
第14回	Unit14 China Struggles to Publish Accurate Data 中国に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語				
第15回	Unit15 Singapore's Pay-for-Performance Plan シンガポールの報酬と绩效に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語				
授業計画 備考2					

評価の方法			
種別	割合	評価基準・その他備考	
授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。	
レポート	20	課題のテーマについて調査し、整理・分析し、具体的かつ適切にまとめるかを評価する。 課題提出後の授業で、グループワークを通して発表及び相互評価を行い、内容についてコメントし、フィードバックを行う。	
小テスト	40	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期、期末に授業内容の理解度を評価する。	
定期試験			
その他	10	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。	

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を心がけ、辞書や資料等で調べなど自主的な学習に努めること。 授業中にはペアグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。
授業外学修	1 テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。 2 毎回前時の授業内容について的小テストを実施するの2時間以上復習しておくこと。 3 課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
15章版：ニュースメディアの英語 →2024年度版→ 15 Selected Units of English through the News Media →2024 Edition→	高橋優身/伊藤典子/Richard-Powell 編著	朝日出版	978-4-255-15713-9	1,430円 (本体1,300円+税)

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	有
担当教員の業務経験	県情報教育センター(3年)-県総合教育センター(4年)-県立高等学校英語科教諭(17年)
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	高校の学校現場に勤務し、英語科の指導に当たった経験から、学生のニーズを的確に把握し、わかりやすい解説や指導をすることができる。また、大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また、県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として、教職員の研修や指導業務に当たった経験から、ICTを活用して動画や音声提示しわかりやすい授業を行うことができる。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。	英語の基礎的な文法に則って、一定分量のまとまった英文を読んだり、聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで90%以上得点することができる。	英語の基礎的な文法に則って、やや長い英文を読んだり、聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで80%程度得点することができる。	短い英文を読んだり、聞いたりしておおよその内容を理解することができる。到達度テストで70%程度得点することができる。	英語の基礎的な文法は理解しているものの、短い英文を読んだり、聞いたりしても内容を理解することが困難である。到達度テストで60%程度の得点である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で、短い英文を読んだり、聞いたりしても内容を理解することができない。到達度テストで50%未満の得点である。
知識・理解	2. 時事的なニュースでよく使われる英単語や英語表現を実際に用いることができる。	既習の英単語や英語表現を活用して時事的なニュースに積極的に触れ、ニュース中の含まれる英単語や英語表現を自由に用いて、相手と話したり、文章を書いたりして、自らの意志を伝えることができる。	時事的なニュースで用いられている英単語や英語表現を応用して、相手と話したり、短い文章を書いたりして、自らの意志を伝えることができる。	時事的なニュースで用いられている英単語や英語表現を用いて、相手と対話を口頭で再現したり、短い文章を書いたりすることができる。	時事的なニュースで用いられている英単語や英語表現を用いて、相手と首話対話練習することはできるが、十分に理解し応用することはできない。	時事的なニュースで用いられている英単語や英語表現を音読することが難しく、対話練習することも困難である。
知識・理解	3. 時事的なニュースで報じられている出来事や事象について関心を持ち、自ら調べ理解することができる。	時事的なニュースで報じられている出来事や事象について関心を持ち、自ら積極的に調べ、理解することができる。	時事的なニュースで報じられている出来事や事象について関心を持ち、自ら調べることができる。	時事的なニュースで報じられている出来事や事象について関心を持ち、読んだり聞いたりすることができる。	時事的なニュースで報じられている出来事や事象について関心を持ち、読んだり聞いたりすることができる。	時事的なニュースで報じられている出来事や事象について関心を持っていない。
技能	1. 英語を読むことができる	英語の基礎的な単語や文法に則って、一定分量のまとまった英文を読んだり内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法に則って、やや長い英文を読んだり内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法を用いて、短い英文を読んで、おおよその内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法は理解しているものの、短い英文を読んでも内容を理解することが困難である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で、短い英文を読んでも内容を理解することができない。
技能	2. 英語を書くことができる	既習の英単語や英語表現を活用して、文章を書いて、自らの意志を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を応用して、短い文章を書いたりして、自らの意志を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を用いて、短い文章を書くことができる。	既習の基礎的な英単語や英語表現は理解できるが、短い英文でも書くことができない。	既習の基礎的な英単語や英語表現でも理解できず、英語として書くことができない。
技能	3. 英語を聞くことができる	英語の基礎的な単語や文法に則って、一定分量のまとまった英文を聞いて内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法に則って、やや長い英文を聞いて内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法を用いて、短い英文を聞いて、おおよその内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法は理解しているものの、短い英文を聞いても内容を理解することが困難である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で、短い英文を聞いても内容を理解することができない。
技能	4. 英語を話すことができる	既習の英単語や英語表現を活用して、相手と話したり、自らの意志を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を応用して、相手と話したり、短い文章を発話したりして、自らの意志を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を用いて、相手と短い対話をしたり、既存の対話文を相手と再現することができる。	既習の基礎的な英単語や英語表現は理解できるが、相手と短い対話をしたり、既存の対話を相手と再現することはできない。	既習の基礎的な英単語や英語表現でも理解できず、相手の対話を相手と再現することもできない。

科目名	英語ディスカッション		授業番号	LF203	サブタイトル	なし			
教員	森年 ポール								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この授業は、学生が英語で自分の意見を形成し、表現し、それを裏付ける能力と、批判的に思考する能力を、学生自身に直接関係しり重要であったりビジネス 問題を議論することを通して伸ばすことを目標とする。 This course aims to develop students' ability to form, express and support their considered opinions in English and to think critically, through discussion of business issues that should be directly relevant and important to the students.								
到達目標	学生は、例えばマーケティング、ビジネス倫理、人事決定と他ビジネス的に関連した話題を、大人として議論することを期待されている。学生は、自分の考えやその理由を、意見の共有、議論を通して英語で伝えることになる。学生は、自分の意見や感情、そしてそのもととなる信念を熟考し、批判的に考えることができるようになる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。 Students are expected to discuss marketing, business ethics, personnel decisions and other business-related topics in a mature way. English should be used to communicate your ideas and the reasons for those ideas through opinion-sharing and discussion. You will learn to reflect on your opinions, feelings and the beliefs they are based on, and to think more critically. This course will contribute to acquiring knowledge and understanding, thinking and problem-solving abilities, skills and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy.								
授業計画 備考	このコースは、積極的に参加している学生が英語を使い、ビジネス関連のトピックについて考えることに依存しています。このコンテンツは、学生が英語、ディスカッションスキル、およびビジネス文化の理解を向上させるのに役立ちます。 This course relies on students participating actively to use English and to think about business-related topics. The content will help students to improve their English, discussion skills, and their understanding of business culture.								
回	概要					担当			
第1回	Introduction to the course コースの紹介, Course administration 授業の進め方, Final exam explanation 定期試験の説明 What is 'Discussion'? 「ディスカッション」とは What are the purposes of discussion? ディスカッションの目的は何ですか?								
第2回	Discussion point - Opinion vs facts Discussion topic - What makes a good company? 何が良い会社になるのか?								
第3回	Discussion point - Types of supporting information サポート情報の種類 Discussion topic - Which is more important: qualifications or experience? どちらがより重要ですか: 資格または経歴?								
第4回	Discussion point - Deciding your own opinion 自身の自分の意見を決める Discussion topic - What does 'professionalism' mean? 「プロフェッショナル」とはどういう意味ですか?								
第5回	Short test 1 Discussion topic - Should we hire a younger or older person? 若い人を雇うべきですか、それとも年上の人を雇うべきですか?								
第6回	Discussion point - Explaining your opinion あなたの意見を説明する Discussion topic - Which management style is best? どの管理スタイルが最適ですか?								
第7回	Discussion point - Supporting your opinion 自分の意見を支持する Discussion topic - Who should be fired? 誰を解雇すべきですか?								
第8回	Discussion point - Listening to other people's opinions 他人の意見とサポート情報を聞く Discussion topic - Should we hire a man or a woman? 男性と女性どちらを雇うべきですか?								
第9回	Discussion point - Evaluating other people's opinions and supporting information 他人の意見を評価し、情報を裏付ける Discussion topic - Who should be promoted? 誰を昇進させるべきですか?								
第10回	Short test 2 Discussion topic - Which marketing strategy is most effective? どのマーケティング戦略が最も効果的ですか?								
第11回	Discussion point - Refuting another person's opinions and supporting information 他人の意見に反論し、裏付けとなる情報 Discussion topic - How to manage debt or credit 債務または信用を管理する方法								
第12回	Discussion point - Showing that supporting information is incorrect サポート情報が正しくないことを示す Presentation preparation (1) - Bid for a contract (Prepare your bid's content) 契約の入札 (入札内容の準備)								
第13回	Presentation preparation (2) Bid for a contract (Prepare your presentation) 契約の入札 (短いプレゼンテーションを準備する)								
第14回	Presentations and discussions (1) - Present your bids. Who gets the contract? 入札プレゼンテーション。誰が契約を結ぶのですか?								
第15回	Presentations and discussions (2) - Present your bids. Who gets the contract? 入札プレゼンテーション。誰が契約を結ぶのですか? Short test 3 Course evaluation コース評価								
授業計画 備考2	このコースは、学生が以前のレッスンを使用してビジネス英語とディスカッションスキルを向上できるように設計されています。したがって、できるだけ多くのレッスンに参加することが重要です。 The course is designed so that students can improve their business English and discussion skills using previous lessons. It is therefore important to attend as many lessons as possible.								
評価の方法									
種別		割合	評価基準・その他備考						
Active participation in English during the lesson.		20	Use English as much as you can in the lesson. レッスンではできるだけ英語を使いましょう。						
Report: Bid for a contract.		25	契約の入札について説明する短いレポートを作成します。 Write a short report to explain your bid for the contract.						
Presentation: Bid for a contract		25	Presentation and discussion of the presentation's contents.						
3つの小テスト 3 short tests		30	小テストでは授業内容の理解度を確認します。 The short test checks your understanding of the lessons' contents.						

評価の方法：自由記載	参加とショートテストは個別に評価されますが、最終的なディスカッションとプレゼンテーションはグループワークです。グループの各メンバーはサポートする必要があります。 The participation and short tests are evaluated individually, but the final discussion and presentation are group work. Each member of the group must support their team.
受講の心得	大学の出席方針に従って。 In accordance with the university's attendance policies.
授業外学習	授業外で、授業の復習や準備、課題レポート、自主学習を十分に行うこと。以上の内容を、適当に2時間以上学習すること。 Students should spend 2 hours a week of their own time reviewing and preparing for lessons, doing research, homework, reports, self-study or other assignments.

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	学生は、すべての授業に、必要な準備物（辞書、授業ファイル、ノート、ワークシート、課題など）をすべて持参すること。この授業は、積極的な授業参加と比較的高レベルの英語を必要とする。 Students should bring their dictionaries, course files, notebooks, worksheets, homework and other necessary materials to every class. This course requires active participation in English and a relatively high level of English.			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分レベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 会話などの他の形式の談話と区別する。ディスカッションの談話の特徴を理解する。	会話などの他の形式の談話と区別する。ディスカッションの談話の特徴の全範囲を理解する。	会話などの他の形式の談話と区別する。ディスカッションの談話の特徴のほとんどを理解している。	会話などの他の形式の談話と区別する。ディスカッションの談話の特徴のいくつかを理解する。	会話などの他の形式の談話と区別する。ディスカッションの談話の特徴のいくつかを理解する。	会話などの他の形式の談話と区別する。ディスカッションの談話の特徴をまったく理解していない。
知識・理解	2. 事実と意見の違いを理解する。	事実と意見の違いについて理論的にしっかりと理解を示し、それを実際の議論に効果的に適用できる。	事実と意見の違いを理論的によく理解しており、それを実際の議論に効果的に適用できる。	事実と意見の違いについて理論的には明確に理解しているが、それを実際の議論に適用するのは難しい。	事実と意見の違いについては漠然と理解していますが、それを実際の議論に適用する能力はほとんど、またはまったくありません。	事実と意見の違いについての理論的理解も実際の応用も示していない。
知識・理解	3. コースで取り上げた英語ディスカッションに役立つフレーズを理解する。	コースで取り上げられる英語ディスカッションのための幅広いフレーズの知識と理解を示します。	コースで取り上げられる英語ディスカッションのための幅広いフレーズの知識と理解を示します。	コースで取り上げられる英語ディスカッション用のフレーズのいくつかについての知識と理解を示します。	コースで取り上げられる英語ディスカッション用のいくつかのフレーズについての知識と理解を示します。	コースで取り上げられる英語ディスカッションのフレーズについて、まったくまたはほぼ完全に知識や理解が欠けていることを示しています。
思考・問題解決能力	1. 技術的以外の問題やトピックについて考え、それに対する自分の立場を特定できる。	一貫して効果的に、非技術的な問題やトピックについて考え、それに対する自分の立場を特定することができます。	通常、非技術的な問題やトピックについて考え、それに対する自分の立場を特定できます。	時々、非技術的な問題やトピックについて考え、それに対する自分の立場を特定できる。	技術的ではない問題やトピックについて時折しか考えず、それに対する自分の立場を特定することができません。	技術的以外の問題やトピックについて考える能力や、それに対する自分の立場を特定する能力がありません。
思考・問題解決能力	2. 論理的なサポート情報を使用してその立場を構築し、サポートできる。	論理的な裏付け情報を使用して、一貫して効果的にその立場を構築およびサポートできます。	通常、論理的なサポート情報を使用してその立場を構築し、サポートできます。	場合によっては、論理的な裏付け情報を使用してその立場を構築し、サポートできることもあります。	非技術的な問題やトピックについて時々考え、それに対する自分の立場を特定することができません。	論理的な裏付け情報を使ってその立場を構築し、サポートする能力がないことを示しています。
思考・問題解決能力	3. 他人の議論の論理的誤りを特定できる。	他人の議論の論理的誤りを一貫して効果的に特定できる。	通常、他人の議論の論理的誤りを特定できる。	他人の議論の論理的誤りを特定できることがある。	他人の議論の論理的誤りを時折しか特定できない。	他人の議論の論理的誤りを特定する能力を示さない。
技能	1. さまざまな情報をもとに、自分の意見や裏付けとなる情報を英語で伝えることができる。	あらゆる種類の情報を使用して、自分の意見や裏付けとなる情報を英語で一貫して効果的に伝えることができます。	通常、幅広い種類の情報をもとに、自分の意見や裏付けとなる情報を英語で伝えることができます。	限られた種類の情報を使って自分の意見や裏付けとなる情報を英語で伝えることができます。	非常に限られた種類の情報を使用して、自分の意見や裏付けとなる情報を英語で時々伝えることができます。	あらゆる種類の情報について、英語で自分の意見や裏付けとなる情報を伝える能力がありません。
技能	2. 他人の意見や裏付けとなる情報に耳を傾け、理解することができます。	他人の意見や裏付けとなる情報を一貫して効果的に聞き、理解することができます。	通常、他人の意見や裏付けとなる情報に耳を傾け、理解することができます。	時には他人の意見や裏付けとなる情報に耳を傾けて理解することができます。	他人の意見や裏付けとなる情報をたまにしか聞いて理解できない。	他人の意見や裏付けとなる情報に耳を傾けて理解する能力がないことを示しています。
技能	3. 他人の意見や裏付けとなる情報を論理的根拠に基づいて分析し、異議を唱えることができます。	一貫して効果的に分析し、論理的根拠に基づいて他人の意見や裏付け情報に異議を唱えることができます。	通常、論理的根拠に基づいて他人の意見や裏付けとなる情報を分析し、異議を唱えることができます。	時には他人の意見や裏付けとなる情報を論理的に分析し、異議を唱えることができます。	他人の意見や裏付けとなる情報を論理的に分析し、反論できることはたまにしかありません。	他人の意見や裏付けとなる情報を論理的根拠に基づいて分析し、異議を唱える能力がありません。
態度	1. コースの目標を達成するために、レッスン中およびレッスン後も努力します。	コースのすべての目標を達成するために、レッスン内外で一貫した努力を続けます。	コースのほとんどの期間、レッスン内外で、コースのすべての目標を達成するために努力します。	コースの一部の目標を達成するために、レッスン内および/またはレッスンを越えて、コースの一部で行った努力。	コース目標の一部を達成するために必要な最小限の努力のみを行います。	コースの目標を達成するためにほとんど、またはまったく努力しません。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	観光英語 B		授業番号	LF204	サブタイトル				
教員	佐々木 真帆美								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	この講義では海外から日本を訪れる留学生、旅行者などに対して、英語で日本紹介や簡単な通訳案内ができるようになることを目的としている。日本を訪れる人々に日本のことをより良く知ってもらうためには、英語と日本語の知識を習得する必要がある。なお、各ユニットに関連したテーマについて英語で発表を行う。								
到達目標	本講義では、日本の観光地について英語で学び、その知識を自分の言葉を使って英語で表現できるようにすることを目標とする。日本国内の観光地で通訳案内をする際に、英語で円滑なコミュニケーションができるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	Chapter 1 Japan's Top Three Castles Nagoya Castle, Osaka Castle, Kumamoto Castle 日本三大名城に関する英語表現を学ぶ								
第2回	Chapter 2 Japan's Top Three Festivals The Gion Festival, the Tenjin Festival, the Kanda Festival 日本三大祭に関する英語表現を学ぶ								
第3回	Chapter 3 Japan's Top Three Mountains Fujisan, Tateyama, Hakusan 日本三名山に関する英語表現を学ぶ								
第4回	Chapter 4 Japan's Top Three Oldest Hot Springs Dogo Onsen, Arima Onsen, Shirahama Onsen 日本三名泉に関する英語表現を学ぶ								
第5回	Chapter 5 Japan's Top Three Gardens Kenrokuen, Korakuen, Kairakuen 日本三名園に関する英語表現を学ぶ								
第6回	Chapter 6 Japan's Top Three Pottery Styles Raku Ware, Hagi Ware, Karatsu Ware 日本三大陶磁器に関する英語表現を学ぶ								
第7回	Chapter 7 Japan's Top Three Night Views Mount Hakodate, Mount Maya, Mount Inasa 日本三大夜景に関する英語表現を学ぶ								
第8回	Chapter 8 Japan's Top Three Famous Foods Tempura, Sushi, Sukiyaki 日本三大料理に関する英語表現を学ぶ								
第9回	Chapter 9 Japan's Top Three Limestone Caves Ryusendo, Ryugado, Akiyoshido 日本三大鍾乳洞に関する英語表現を学ぶ								
第10回	Chapter 10 Japan's Top Three Scenic Spots Matsushima, Amanohashidate, Miyajima 日本三景に関する英語表現を学ぶ								
第11回	Chapter 11 Japan's Top Three Waterfalls Fukuroda Falls, Kegon Falls, Nachi Falls 日本三名瀑に関する英語表現を学ぶ								
第12回	Chapter 12 Japan's Top Three Disappointing Places Sapporo Clock Tower, Harimaya Bridge, Hollander Slope 日本三大がっかり名所に関する英語表現を学ぶ								
第13回	Chapter 13 Japan's Top Three Ekiben Ikameshi, Touge no Kamameshi, Masu no sushi 日本三大駅弁に関する英語表現を学ぶ								
第14回	Chapter 14 Japan's Top Three Udon Sanuki Udon, Inaniwa Udon, Mizusawa Udon 日本三大うどんに関する英語表現を学ぶ								
第15回	Appendix Aomori, Fukushima, Chiba, Kanagawa, Tokushima, Okinawa /まとめ 各県に関する英語表現を学ぶ								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。							
レポート									
小テスト	50	毎回授業開始時に前回の授業内容に関する小テストを行う。観光英語に関する理解度を評価する。							
定期試験									
その他	30	課題のテーマについて調べ適切にまとめ、自分の考えを英語で具体的に発表できていること。発表のフィードバックは授業時に全体に対して行う。							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	再読となる日本事象全般に関する知識が必要となるので、日頃から知識獲得に努めてほしい。
授業外学習	1 予習として、テキストを読み、授業内容にかかわる部分の疑問点を明らかにする。また、練習問題には答えておくこと。 2 復習として、授業で学んだ文法事項と英語表現を理解し、知識として定着させること。また、音声データをダウンロードして音声を確認し、音読すること。 3 発展学習として、教科書で取られている観光地やテーマに関連した観光地について調べ、以上の内容を、適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
英語で学ぶ日本三選	坂部俊行・岡島徳昭・William Noel	青雲堂	978-4-523-17788-3	2,000円+税

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無

担当教員の業務経験

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験をいかした教育内容

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 観光に関する英語の語彙や表現を理解している	観光に関する英語の語彙や表現のニュアンスをしっかりと理解し、それを他の場面でも応用して使用することができる。	観光に関する英語の語彙や表現を理解し、例によって自分で使用することができる。	観光に関する英語の語彙や表現の意味を覚えている。	観光に関する英語の語彙や表現の意味を一部覚えてはいるが、理解できていない語彙や表現がある。	観光に関する英語の語彙や表現の意味を理解していない。
知識・理解	2. 観光に関する英文を読解することができる	観光に関する英文を読んで理解し、それを基に自らの意見を持ち、ディスカッションすることができる。	観光に関する英文を読んで理解し、それを基に自らの意見を持つことができる。	観光に関する英文を読んで理解することができる。	観光に関する英文を読んで一部を理解することができる。	観光に関する英文を読んだり理解することができない。
知識・理解	3. 国内の観光地に関する知識を身につけている	国内の観光地に関する知識を積極的に得ようとし、自らの言葉で説明することができる。	国内の観光地について積極的に調べ、理解している。	国内の観光地について、授業で扱った項目については知識がある。	国内の観光地について、授業で扱った項目について一部知識がある。	国内の観光地に関する知識がない。
技能	1. 国内の観光地に関する英語表現を使って他者と口頭でコミュニケーションをとることができる	既習の語彙や英語表現を活用して、国内の観光地に関する内容を英語で自由に表現し、相手の言っていることを理解することができる。	既習の語彙や英語表現を応用して、国内の観光地に関する内容を英語で表現し、相手の言っていることを理解することができる。	既習の語彙や英語表現を用いて、国内の観光地に関する簡単な内容を英語で伝え、理解することができる。	既習の基礎的な語彙や英語表現、相手の言っていることは英語で理解できるが、自分の伝えたい内容を英語で表現することができない。	既習の基礎的な語彙や英語表現でも理解できず、国内の観光地に関して既習の英文を用いても相手とコミュニケーションをとることができない。
技能	2. 国内の観光地を紹介する文章を英語で作ることができる	既習の英単語や英語表現を活用して、文章を書いて、自らの意思を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を応用して、短い文章を書いたりして、自らの意思を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を用いて、短い文章を書くことができる。	既習の基礎的な英単語や英語表現は理解できるが、短い英文でも書くことができない。	既習の基礎的な英単語や英語表現でも理解できず、英語として書くことができない。
技能	3. 国内の観光地について英語で発表することができる	既習の語彙や英語表現を活用して、観光地について英語で自由に説明をすることができる。	既習の語彙や英語表現を応用して文章を作り、観光地について英語で説明することができる。	既習の語彙や英語表現を用いて、観光地について簡単な内容を短い英文で伝えることができる。	既習の基礎的な語彙や英語表現は理解できるが、短い英文でも観光地について説明することができない。	既習の基礎的な語彙や英語表現でも理解できず、既習の英文を用いて観光地について説明することができない。

科目名	グローバル経済論			授業番号	LF205	サブタイトル	
教員	山中 匡						
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義
						必修・選択	選択
授業概要	ヒト、モノ、カネの国境を越えた移動が拡大する経済のグローバル化という現象を「貨幣」「会社」「移民」「環境問題」など様々なトピックを通して講義する。						
到達目標	経済のグローバル化が社会にもたらす影響を、複数の視点から説明できるようになる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	経済のグローバル化とは グローバル化と国際化の違いについて理解する。						
第2回	比較生産費の理論 リカードの比較生産費の理論を通して「絶対優位」「比較優位」の意味を理解する。						
第3回	自由貿易の利益と損失 輸入または輸出が消費者余剰、生産者余剰に与える影響について理解する。						
第4回	貨幣の機能と役割 貨幣が現在の不換紙幣になるまでの歴史とその役割について理解する。						
第5回	外国為替,1 外国為替の仕組みと為替レートの変動が経済に与える影響について理解する。						
第6回	外国為替,2 変動相場制における為替レートが通貨の需要と供給によって決まることを理解する。						
第7回	環境問題 環境問題の構造を「囚人のジレンマ」という枠組みを通して理解する。						
第8回	前半部分(第1～7回)のまとめ 前半部分から、いくつかの課題を取り上げ議論することで知識や理解を深める。						
第9回	EUの発展 EUの設立目的、EU域内での移民問題について理解する。						
第10回	ユーロの役割と問題点 共通通貨ユーロのメカニズムやデフレ、EU域内の金融政策について理解する。						
第11回	株式会社の仕組み 株式会社の仕組みと株主との関係について理解する。						
第12回	会社と雇用慣行 日本的雇用慣行、欧米的雇用慣行の違いと本質について理解する。						
第13回	移民問題,1 日本の移民受け入れの制度と現状について理解する。						
第14回	移民問題,2 移民の増加が労働市場に与える影響について理解する。						
第15回	後半部分(第9～14回)のまとめ 後半部分から、いくつかの課題を取り上げ議論することで知識や理解を深める。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	グループワークを行い、その貢献度(議論への参加姿勢、報告内容等)を総合的に評価する。				
	レポート	40	2回の中間レポートをそれぞれ20点満点で評価する。 与えられた問題に対して自らの主張や意見が明確に述べられていること。 レポート提出後の授業で全体的な傾向や改善点についてコメントする。				
	小テスト						
	定期試験	30	最終的な理解度を評価する。				
	その他						

評価の方法：自由記載	講義内容の理解を深めるために、5～6名程度のグループワークを時折実施し、その貢献度も成績評価の主要要素として扱います。
受講の心得	日々起こっている世界の経済ニュースを日常的に確認すること。
授業外学習	毎週授業前後に2～3時間程度の自主学習(予習,復習,新聞等での経済ニュースの確認)を行ってください。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
世界経済図説 第四版	宮崎勇, 田谷祐三	岩波書店	9784004318309	880円

参考書：自由記載

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	無
担当教員の業務経験	なし
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. グローバル経済の基本的な内容を理解している。	学修した経済事象に関する知識について、正確に理解し述べるができる。	学修した経済事象に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べるができる。	学修した経済事象に関する知識について、大體述べるができる。	学修した経済事象に関する知識について、正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	学修した経済事象に関する知識について、全く表現することができない
思考・問題解決能力	1. グローバル化によって起こる現実問題に対して考察することができる。	グローバル化によって起こる現実問題に関して、学修した知識に基づき多角的に考察することができる。	グローバル化によって起こる現実問題に関して、学修した知識に基づき多角的ではないが論理的整合性を持った考察をすることができる。	グローバル化によって起こる現実問題に関して、ほぼ論理的整合性を持った考察をすることができる。	グローバル化によって起こる現実問題に関して、自分の意見を述べるができる。	グローバル化によって起こる現実問題に関して、自分の意見を述べるができない。
態度	1. 議論に積極的に参加できる。	与えられた議題の論点を理解し、自分の主張の根拠を論理的に説明できる。	与えられた議題の論点を理解し、積極的に意見を述べるができる。	与えられた議題の論点を理解し、少なくとも1つの意見を述べるができる。	与えられた議題の論点は正確に理解できていないが、意見を述べるができる。	議論に参加していない。

科目名	英語プレゼンテーション			授業番号	LF301	サブタイトル	
教員	藤代 舜文						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義
							必修・選択
授業概要	事前に配布された新聞記事ニュースを読んだ上で、的確に理解する力の養成に努め、学んだ経験したに基づいて、その情報や自分の考え方をまとめて発表する演習を行う。また、発表された情報や提案を聞いて読み取り、自己の立場に基づいて質問したり意見を述べたりする活動を行う。						
到達目標	英語を通して、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法も工夫しながらまとめる情報や提案を分かり易く伝える能力を養う。また、英語を通して、発表された情報や提案を的確に理解し、自己の立場に基づいて質問したり意見を述べたりする能力を養う。 なお、本科目はデヴィッド・ポルターに拠る「学士力」の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要						担当
第1回	意味を知る：英語によるプレゼンテーションとは「プレゼンテーション」の意味等の基礎知識について解説 プレゼンテーション5つの目的分類、プレゼンテーションとスピーチの違いなどについて解説する。						
第2回	対話と目的を意識する：プレゼンテーションは何のために誰のために目的を明確にし、必要な事前分析を行うことのために意識する。						
第3回	大切な要素を知る：プレゼンテーション成功のための3要素「伝える方法」「伝える内容」「伝える順序」について解説する。 プレゼンテーション演習準備（グループ）：発明品						
第4回	方法を考える：伝えたいことをいかに伝えるか 伝達手段と伝える技術（言語と非言語による伝達、表現方法）、違いを生み出すデリバリー技術について解説する。 プレゼンテーション演習準備（グループ）：発明品						
第5回	内容を定める：何を伝えるかを吟味する テーマに応じてプレゼンテーションの内容を決定する グループ・ペアでの議論の仕方：ブレインストーミング・KJ法について解説する。 プレゼンテーション演習準備（グループ）：発明品						
第6回	実際に英語プレゼンテーションをしてみよう①（グループ発表） 各グループの発明品についてプレゼンテーションを行う。 相互評価及び教師によるコメントにより修正すべき点を確認する。						
第7回	構成を考える：いかに分かりやすく伝えるか 分かりやすい話の組み立て方（「導入」→「本論」→「結論」）について解説 プレゼンテーション演習準備（個別）：身近な話題・関心のある事						
第8回	原案をかける：改善のための方法 動画を用いた振り返りやフィードバックについて解説。 プレゼンテーション演習準備（個別）：身近な話題・関心のある事						
第9回	評価する：プレゼンテーション評価の規準 評価者の目から自分のプレゼンテーションを見直し、他人のプレゼンテーションを評価の観点から見る必要性について解説 プレゼンテーション演習準備（個別）：身近な話題・関心のある事						
第10回	実際に英語プレゼンテーションをしてみよう②（個人発表1：前半） 身近な話題・関心のある事について各個人別に全体発表を行う。 発表の様子を動画で振り返り、相互評価及び教師によるコメントにより修正すべき点を確認する。						
第11回	実際に英語プレゼンテーションをしてみよう③（個人発表2：後半） 身近な話題・関心のある事について各個人別に全体発表を行う。 発表の様子を動画で振り返り、相互評価及び教師によるコメントにより修正すべき点を確認する。						
第12回	プレゼンテーションのテーマについて英語でディスカッションしてみよう1 グループで地元について英語で話し合い、英語でレポートする。 英語のプレゼンテーション動画を真似てみよう TEDの中から1つ動画を選び真似て発表する練習する。 プレゼンテーション演習準備（個別）：社会的な課題について						
第13回	プレゼンテーションのテーマについて英語でディスカッションしてみよう2 グループで好きな音楽について英語で話し合い、英語でレポートする。 英語のプレゼンテーション動画を真似てみよう TEDの中から1つ動画を選び真似て発表する練習する。 プレゼンテーション演習準備（個別）：社会的な課題について						
第14回	実際に英語プレゼンテーションをしてみよう④（個人発表1：前半） 社会的な課題について各個人別に全体発表を行う。 発表の様子を動画で振り返り、相互評価及び教師によるコメントにより修正すべき点を確認する。						
第15回	実際に英語プレゼンテーションをしてみよう⑤（個人発表2：後半） 社会的な課題について各個人別に全体発表を行う。 発表の様子を動画で振り返り、相互評価及び教師によるコメントにより修正すべき点を確認する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
授業への取り組みの姿勢/態度		30	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への真摯度を評価する				
レポート		30	課題のテーマについて適切にまとめるかを評価する。 課題提出後の授業で、グループワークを通して発表及び相互評価を行い、内容についてコメントし、フィードバックを行う。				
小テスト							
定期試験							
その他		40	積極的に自分の考えをプレゼン発表できるかを評価する。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> 授業中にはペアやグループでの発表活動を実施するので積極的に参加すること。 事前準備では辞書や資料等で調べると自主的な学習に努めること。 知識から実践へと進むことができるように、積極的に授業に参加し、授業外でもしっかりと練習をして欲しい。
授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 課題については十分に調査してレポートを作成すること。 プレゼンテーションについては事前に作成や発表練習を行うこと。 ペアやグループで作成する課題についてよく話し合わせることを。 上記に関連して授業までに4時間以上の準備を要する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
英語プレゼンのトリック	藤代昇丈	日本橋出版	978-4-434-27950-8	1,600円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	県情報教育センター(3年)・県総合教育センター(4年)・県立高等学校英語科教師(17年)			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	高校の学校現場に勤務し、英語科の指導に当たった経験から、学生のニーズを的確に把握し、わかりやすい解説や指導を導くことができる。また、大学生として身につけておくべきプレゼン技術について、ペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また、県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として、教職員の研修や指導業務に当たった経験から、ICTを活用した動画や音声を取り入れた授業を行うことができる。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. 事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを、様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定しているが、事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができていない。	自らの問題意識が不明瞭で、事実や意見に対する考えを伝えることができていない。
思考・問題解決能力	2. 論理の展開を整えて伝えることができる	自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性があり、序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。	自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性があり、論理の展開が明瞭である。	論理構成は荒削りだが、自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性がある。	自らの主張点は理解できるが、論理展開が整っていないため分かりづらい。	論理展開が整っておらず、主張点が分からない。
思考・問題解決能力	3. 独創性と洞察力に富んだ表現内容である	オリジナリティに富んでおり、テーマと課題を深く、鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で、意見性のある内容である。	テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	テーマに沿って主張しているが、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。	自らの主張点がなく、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	4. 適切な表現方法を選択し、英語で伝えることができる	伝える情報や提案・意見に応じて、プレゼンテーションスライドに限らず、適切な表現方法を選択し、適切な英語表現により情報や提案・意見を伝えることができる。	プレゼンテーションスライドを用いて、適切な英語表現により情報や提案・意見を伝えることができる。	プレゼンテーションスライドを用いて、間違っていない英語表現を多く含むため伝わりやすい。	プレゼンテーションスライドを用いてはいるが、間違った英語表現を多く含むため伝わりづらい。	プレゼンテーションスライドを用いてはいるが、英語で表現できていない。
技能	1. 英語で発表内容を書くことができる	既習の英単語や英語表現を活用して、文章を書いて、自らの意思を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を応用して、短い文章を書いたりして、自らの意思を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を用いて、短い既存の文章を書くことができる。	既習の基礎的な英単語や英語表現は理解できるが、短い英文でも書くことができない。	既習の基礎的な英単語や英語表現でも理解できず、英語として書くことができない。
技能	2. 英語で発表することができる	既習の英単語や英語表現を活用して、聞き手に対して、自由に英語で自らの意思を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を応用して文章を作り、聞き手に対して、自らの意思を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を用いて、聞き手に対して、簡単な内容を伝えることができる。	既習の基礎的な英単語や英語表現は理解できるが、相手に短い英文でも意思を伝えることができない。	既習の基礎的な英単語や英語表現でも理解できず、既存の英文を用いて相手に内容を伝えることもできない。
技能	3. 表現方法を工夫して発表することができる	原稿を読み上げるのではなく、自分の言葉で、ゆっくりと大きな声で、ボディランゲージやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく、自分の言葉で、ゆっくりと大きな声で、聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げてはいるが、話す時には目を見て、ゆっくりと大きな声で、聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており、視線が常に下向きか、スクリーンの方を向いており、ゆっくりと大きな声ではあるが、聞き手に対して訴えかけているとは言えない。	原稿を読み上げており、視線が常に下向きか、スクリーンの方を向いており、声も小さく、何を発表しているのか分からない。
技能	4. 分かりやすいプレゼンテーションスライドを作成できる	表現方法の一つとして、テーマに沿った分かりやすいプレゼンテーションスライドを作成できる。特に見やすい色使いやフォントサイズ、項目を簡潔書きにするなどの工夫ができる。	表現方法の一つとして、テーマに沿ったプレゼンテーションスライドを作成できる。	色使いやフォントサイズなどにやや問題があるが、表現方法の一つとして、プレゼンテーションスライドを作成できる。	テーマに沿っているが、プレゼンテーションスライドが見づらく分かりづらい。	プレゼンテーションソフトを用いてプレゼンテーションスライドを作成することができない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	プロフェッショナル・イングリッシュ			授業番号	LF302	サブタイトル	
教員	佐々木 真帆美						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習
						必修・選択	選択
授業概要	本講義では、主人公が外資系企業に就職し国際プロジェクトに携わる展開の中で、会社組織や国際業務に必要な英語力を主人公とともに学ぶ。また、ビジネスに関連する様々なアクティビティを通して英語の4技能を向上させるとともに、ビジネス社会で必要となる実践的な英語力の習得を目指す。						
到達目標	1. ビジネス関連の英語の語彙や表現を理解できる。 2. グローバルな職場で求められる英語力と実用的な知識を身につけることができる。 3. ビジネス現場を想定したロールプレイングの中で英語でコミュニケーションを取ることができる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学上力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	ガイダンス / ビジネス場面におけるE-mailライティング E-mailのフォーマットを学ぶ						
第2回	Unit 1 就職活動 Telephone Communication 取り次いでもらう・取り次ぐ Business Topics 息まるビジネス英語の必要性						
第3回	Unit 2 面接 Telephone Communication 間違いない電話 Business Topics 就職面接のポイント						
第4回	Unit 3 会社プロフィール Telephone Communication 不在のときの応対 Business Topics 日本企業の特徴						
第5回	Unit 4 仕事の内容 Telephone Communication 取り次ぎを断る Business Topics 会社の組織						
第6回	Unit 5 会議開催の通知 Telephone Communication メッセージを残す・あずかる Business Topics グローバル企業でのコミュニケーション						
第7回	Unit 6 ビジネスパートナーを空港で出迎える Telephone Communication 本人による電話応対 Business Topics 出入国手続き						
第8回	Unit 1～6のまとめ / 中間試験 Unit 1～6の内容を振り返り、これまでの授業内容の理解度を確認する						
第9回	Unit 7 受付での対応 Telephone Communication ボイスメール Business Topics 国際ビジネスで大切なホスピタリティの精神						
第10回	Unit 8 紹介と名刺交換 Telephone Communication アポイントメントをとりつける Business Topics 異文化間コミュニケーション						
第11回	Unit 9 会議冒頭のあいさつ Telephone Communication 会議に遅れることを伝える Business Topics 訪日外国人を増やすための政府の取り組み						
第12回	Unit 10 プレゼンテーション Telephone Communication 打ち合わせの申し入れ Business Topic プレゼンテーションのスキル						
第13回	Unit 11 交渉 Telephone Communication ねざらいと別れのあいさつ Business Topics 望ましい交渉シナリオとは?						
第14回	Unit 12 接待 Telephone Communication 感謝を伝える Business Topics 海外のビジネスパートナーを接待する						
第15回	Unit 7～12のまとめ / 期末試験 Unit 7～12の内容を振り返り、これまでの授業内容の理解度を確認する						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その態備考				
	授業への取り組みの姿勢 / 態度	20	意欲的な受講態度、課題や予習の取り組み姿勢などを評価する。				
	レポート						
	小テスト	50	各回の既習事項について語彙や表現、文法項目などの理解度を評価する。				
	定期試験	30	全体的な授業内容の理解度を評価する。				
	その他						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習を前提として進めていくので、テキストの本文を訳し、未知の単語は調べたうえで授業に臨むこと。 ・英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。
授業外学修	1. 予習として、テキストの本文を読み、未知の語句があれば辞書で調べて全訳をしておくこと。また、練習問題も解いておくこと。 2. 復習として、授業で学んだビジネスに関する英語表現を理解し、知識として定着させること。また、音声データをダウンロードして音声を確認し、音読すること。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
実践ビジネス英語	辻和成・辻勢都・Margaret M. Lieb	朝日出版社	978-4-255-15659	1,800+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	一般企業にて貿易業務に従事した経験（2年）を有する。			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	貿易業務に従事した経験（2年）から、海外の企業とのメールや電話での対応、英語の敬語表現など、実践力が身につく授業を展開していく。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. ビジネスに関する英語の語彙や英語表現を理解している。	ビジネスに関する英語の語彙や表現のニュアンスをしっかりと理解し、応用して自由に使用することができる。	ビジネスに関する英語の語彙や表現を理解し、使用することができる。	ビジネスに関する英語の語彙や英語表現の意味を理解している。	ビジネスに関する英語の語彙や英語表現の意味を一部覚えているが、理解できていない語彙や表現がある。	ビジネスに関する語彙や英語表現の意味を理解していない。
知識・理解	2. 様々なビジネス文書のフォーマットを理解している。	様々なビジネス文書のフォーマットを理解し、目的や内容に合わせて自ら英語のビジネス文書を作成することができる。	様々なビジネス文書のフォーマットを理解し、テンプレートを参考にしながら内容を変えて作成することができる。	様々なビジネス文書のフォーマットの基本を理解している。	様々なビジネス文書のフォーマットの基本を大まかには理解しているが、細かい点で理解できていない箇所がある。	様々なビジネス文書のフォーマットを理解していない。
知識・理解	3. 日本とアメリカのビジネス文化の相違を理解している。	日本とアメリカのビジネス文化に関して自発的に知らべ、各国の文化的・歴史的背景や価値観等と関連付けながら理解している。	日本とアメリカのビジネス文化に関して自発的に知らべ、授業で扱った以上の内容を理解している。	授業で扱った日本とアメリカのビジネス文化の相違をよく理解している。	日本とアメリカのビジネス文化に関して違いがあることを認識しているが、具体的な事象については理解できていない。	日本とアメリカのビジネス文化に相違があることを理解していない。
技能	1. 様々なビジネスの場面で相手に伝えたいことを英語で表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用し、様々なビジネスの場面でTPOに合わせた表現を用いて相手に伝えたいことを英語で自由に表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を活用し、様々なビジネスの場面で相手に伝えたいことを英語で表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて、多少のミスがあっても相手に伝えたい内容を英語で伝えることができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を使用して英語で相手に伝えたい内容を伝えようとしているが、ミスが多く内容を伝えることができない。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解できておらず、様々なビジネスの場面で相手に伝えたいことを英語で表現することができない。
技能	2. ビジネスでよく使われる実用的な英文を読むことができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、ビジネスに関する英文を読んで理解し、自分の言葉で説明し、自らの意見を持つことができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、ビジネスに関する英文を読んで理解し、それを自分の言葉で説明することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、ビジネスに関する英文を読んで理解することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項は理解できるが、ビジネスに関する英文を理解することが難しい。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解できず、ビジネスに関する英文を理解できない。
技能	3. ビジネスに関する会話を聞き取ることができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項をしっかりと理解しており、ビジネスに関する会話を聞き取り、詳細な内容まで理解することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解しており、ビジネスに関する会話を聞き取り、大体的内容を理解することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解しており、ビジネスに関する会話を聞き取ることができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を参考にしながらビジネスに関する会話を聞き取ることができ、推測することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を理解しておらず、ビジネスに関する会話の内容を理解することができない。

科目名	観光産業論		授業番号	LF303	サブタイトル	観光の力を知り、そのすそ野の広さを知る				
教員	田村 秀昭									
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
授業概要	観光産業の歴史的背景、旅行業の観光産業内の位置づけ、ホスピタリティ産業としてのホテルの組織運営や経営管理、観光・レジャー産業について幅広く基礎的知識を学ぶ。 具体的には(1)観光産業の歴史と現状の把握、(2)旅行業の特徴及び交通・宿泊・飲食業との関係、(3)宿泊業の経営形態とマネジメント(4)観光・レジャー産業の動向と今後の展望、などについて幅広く学ぶ。 また、観光資源を活用し、地場産業を推進する観光まちづくりに取り組みたい人材の育成をめざして講義、解説する。 担当教員が40年に及ぶ観光・旅行業界での経験を生かした「現場」の実情を解説します。									
到達目標	・観光産業の概要と社会への影響を理解できる。 ・観光産業の業種と役割、仕組み、及び課題を理解できる。 ・観光業におけるホスピタリティ・マネジメントについて理解できる。 ・観光を核とした地域活性化等のまちづくりの振興方法について理解できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。									
授業計画 備考										
回	概要					担当				
第1回	観光とは何か(観光産業の概念) 観光の語源、観光の歴史、観光産業の特徴などを考察します。									
第2回	観光産業の歴史 日本の観光の歴史から発生した産業は何か。 宿泊業の発生、そして鉄道経営が観光に与えた力などを学びます。 また、第二次世界大戦後日本の復興の象徴となるイベント、その後、日本人の体験する観光・旅行の世界を観光産業を通して研究してみましよう。									
第3回	観光の効果、観光産業の構造と経営 観光の持つ力を分析し、旅がもたらす効果などを研究します。 また、観光産業が社会課題を解決する力を持つことについて地方創生の糸口ともなっています。 また、日本の観光産業の経営上の課題、育成と機会を学びます。									
第4回	旅行業の歴史と変遷 観光産業のまわりの旅行業の歴史とその役割について学びます。 その旅行業も脅威にさらされ、特にIT化への対応が今後の成長戦略の柱ともなります。 世界最古の旅行会社の歴史を学んで、その対応策を研究します。									
第5回	旅行会社の業務(アウトバンド) 旅行会社の本来の仕事は「どこ」にいる人を「どこ」にご案内すること。 この本来の仕事が、かに重要であるかと、その役割を果たす旅行業の種類や責務などについて研究します。									
第6回	旅行会社の業務(インバンドと観光開発) これまではあまり意識しなかった、「そこから」ここ」に来るお客であるインバンドについて学びます。 過去20年で日本のインバンド政策は大きく変わり、訪日外国人は3,000万人時代になりました。 その消費効果も高く、貿易収支との対比においても、その重要性が際立っています。 今後の旅行会社の新たな事業として考え方を学びます。 広義の意味であれば、観光開発などの分野におけるコンサルティング的な業務もその領域となります。									
第7回	宿泊業の歴史とホテル経営の理念 旅行・観光産業において重要なファクターとなるが宿泊業。 宿泊業の歴史とその変遷、役割などを学び、経営に必要な理念などを研究します。									
第8回	ホスピタリティ(ホテル サービスと日本のおもてなし) 東京オリンピックを招致するに際し、「おもてなし」というプレゼンで有名になった、日本のおもてなし。 ホスピタリティを学ぶ中で、その違いや日本旅館を中心としたその文化を考察してみよう。									
第9回	宿泊業の経営形態とマネジメント 宿泊業の経営資源の特性を学び、経営形態、経営方式を研究する。 その経営の形の中で日本旅館の前進について考察する。 また、ホテル・旅館業という枠を飛び越え、不動産業が観光産業へ介入し、大きな影響力を持つようになっていることを知る。									
第10回	観光に関わるその他の産業 観光に係る産業は多岐にわたり、産業全体の中でも大きな力を持つまでになった。 地方創生の最大の力の中にも、第一産業の農業や漁業あるいは第二三次産業などへの影響力も持ち、 全容をとらえたと大きな力を持つことが分かる。この力をいかに活かしてゆかかを考察する。									
第11回	地方創生と観光 地方創生と並行して10年続いた。 地方の人口減少問題が未来の地方創生の考察のヒントだが、 各自治体は観光に力を入れることで地方創生を推進しているという。 これはなぜか。なぜ観光産業を地方創生の主たるものとしてとらえるのか考えてみる。									
第12回	旅行商品の創出(発地型から着地型へ) 観光産業の変遷、旅行業の変容を理解し、旅行の在り方や商品構成について考察する。 その中で今後の旅行商品はどうか、多岐にわたる産業との連携によって新たな商品造成へとつながることを学びます。									
第13回	観光資源の活用(地域の産業と観光との連携) 前回は続き、新たな旅行商品の構成には地域の産業との連携が必要であり、 その観光資源の活用も観光産業とつながることを学ぶ。 地域に根ざる資源を如何に生かすかを、観光の新たな道筋も考察します。									
第14回	観光まちづくりのあり方 多くの観光客を迎え入れることにはリスク対策も必要です。 オーバーツーリズムと呼ばれる現象が実際に日本・世界各地で起こっています。 これらの対策のためには観光客を誘致しつつも必要です。 誰でもいかに誘致し、来ればよいというものではなく、 住まう地域の人々にとって便益を享受できる観光でなくては意味がありません。 観光をへんしたまちづくりはどうすべきかを考えます。									
第15回	観光産業の課題と展望 多岐にわたる観光産業ですが、その中でも基幹となる旅行業、宿泊業などは多くの課題を抱えています。 その課題をいかに克服し、未来を創造産業として生き残っていくかを考察します。									
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	意欲的な授業態度、授業への貢献度を評価する。 出席ごとに1ポイントとし、残り35ポイントは授業中の態度や発言を評価します。 また、毎回提出して頂く出席カードへの感想、質問などでその意欲や関心度をポイント化します。							
	レポート	10	レポート提出物 観光産業に関して研究をし、レポートを提出して頂きます。 基本的には旅行業に関して考察した上で予定します。 宿題の意味での小テストを実施します。							
	小テスト	10	2回予定し、各5点満点で計10点の評価です。							
	定期試験	20	期末試験 試験は100点満点ですが、20点に圧縮し全体への評価とします。 授業中に配布した資料や自筆のノートは持込可とします。							
	その他	10	プレゼンにより積極的に自分の考えを発表できるかを評価します。 授業中に指定したタイトルでプレゼンをしていただきます。							

2024年度授業概要(シラバス)

評価の方法：自由記載	基本的には授業中の姿勢、積極的な発言などを評価します。 レポート、小テスト、プレゼンテーションなどにより、授業への参画意識を高めていただき、その一つひとつを評価に加えます。 また、定期試験はこの講義のまとめとなりますが、100点満点を五分の一に圧縮し、全体では20%の評価といたします。
受講の心得	・予習と復習を心がけ、授業時に取り上げた用語や内容についてインターネットや書籍で調べ、情報収集を行うなど、自主的な学習に努めること。 ・授業中にペアあるいはグループでのワークショップや発表活動を実施するので積極的に参加すること。 ・観光・レジャー産業を利用した地域活性化案を考える習慣を付けること。
授業外学習	・観光に関するニュースや情報には気をつける癖をつけてください。 ・毎回の授業内容について復習しておくこと。 ・受講において事前に課題を出す場合があります。 以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
観光産業論	林湧	原直房	978-4-562-10130-6	2,800円(税別)
参考書：自由記載	観光経済新聞、トラベルジャーナル誌など観光系の業界紙などに目を通してください。 新聞を読む習慣をつけてください。			
その他	旅行会社のパンフレット見たり、ホテルのラウンジでドリンクを飲むなどの体験で観光産業を身近なものとして下さい。			
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	(株)JTBでの38年間の旅行業、イベント・コンベンション事業、観光開発コンサル業の実績、中国運輸局・中国四農政局・中国経済産業局等での委員経験など。 台湾の高校の顧問も務めていますので国際交流などについてもお話しできます。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	JTBでの多岐に渡る業務経験と実績を元に、「現場」で起きている事象を例に具体的に講義します。 行政(中国運輸局、中国四農政局、広島県など)の委員経験や業作市議会議員の経歴を活かし、観光行政の方向性も示してゆきます。 また、就活の相談なども受けられることが多く、機会があれば講義に係る内容の中でアドバイスできれば良いと思っています。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学土力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 観光産業の業種と企業	観光産業の業種ごとに代表的な企業名を5つ以上挙げることができる	観光産業の業種ごとに代表的な企業名を3つ挙げることができる	観光産業の業種ごとに代表的な企業名を挙げることができる	観光産業の企業名を挙げられる	観光産業の種類も企業も挙げることはできない
知識・理解	2. 観光産業の課題	観光産業の課題を業種ごとに説明できる	観光産業の課題を3つ以上説明することができる	観光産業の課題を業種ごとに説明することができる	観光産業の課題を何かしら説明できる	観光産業の課題を理解できない
知識・理解	3. 宿泊業のホスピタリティとマネジメントの理解	宿泊業のホスピタリティとマネジメントの課題を説明できる	宿泊業のホスピタリティとマネジメントを説明できる	宿泊業の業務内容を説明できる	宿泊業の業務内容の概観は分かる	宿泊業の業務内容が理解できない
思考・問題解決能力	1. 観光まちづくり	振興方法の課題が理解できる	振興方法の説明ができる	振興方法の理解ができる	振興方法の存在を知る	振興方法そのものがわからない
態度	1. 授業中の受講態度	姿勢を直し、メモを取り、反応をする	姿勢を直し、メモをきちんと取る	姿勢を直し、常に聴く	姿勢、傾聴が十分でない	居眠り、私語、遅刻・早退等

科目名	日・アセアン関係			授業番号	LF304	サブタイトル	
教員	高田 曉						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義
							必修・選択
授業概要	アセアン加盟10か国（2024年2月時点）は参加国の主権を重んじ、意思決定はコンセンサスに基づいて行われるが、経済を中心に次第に地域統合の度合いを高めている。それに加えて、アセアンという地域連合は国際社会の様々な場で存在感を強めてきている。また、アセアンの総人口は約6.5億人に至り、経済発展の著しい地域でもある。日本にとっても、アセアン諸国との交流は政治・経済・文化などのあらゆる分野において重要性を益々増加させている。本授業では、アセアン加盟諸国および東南アジアの過去から現在までの歴史・政治・経済・文化などの特徴を日本との関係を踏まえて概観し、議論によって理解を更に深めながら学習する。						
到達目標	アセアン諸国の歴史的な特徴（多様性）や共通性並びに経済発展が大きく進む現在のアセアン諸国及びアセアンの歴史的な形成過程・展開とその潜在力を、日本との関係を踏まえながら、理解して説明できるようにする。そうした理解の上で、アセアン諸国およびアセアンの今後の課題や展望並びに今後の日本との関係について考察・展望できる視点・知見を養い共に、他者に説明したり議論したりできる能力を養成・強化する。なお、本授業はディプロマ制に採られた学上力の内容のうち、＜知識・理解＞、＜思考・問題解決能力＞、＜態度＞の修得に貢献する。						
授業計画 備考	授業全体の進め方として、前半の回は教員によるアセアン加盟諸国（東南アジア諸国）の歴史・文化などに関する説明・解説を行う。その後は、使用テキストに基づき、受講生に担当国を割り当てて、受講生による担当国に関する発表と教員および受講生全員による議論によって授業を進める（担当国の割り当ては受講生と相談の上で決定する）。受講生は下記の参考文献なども用いてプレゼンテーションを準備して報告する。						
回	概要					担当	
第1回	東南アジアの自然と社会 地理、自然環境、言語、宗教など、東南アジアの自然と社会に関する特徴を取り上げて、東南アジア各国の共通性や固有性を説明する。						
第2回	東南アジアの食文化 食材や料理といった東南アジアの歴史的な食文化を通じて東南アジア各国の共通性や固有性を説明する。						
第3回	古代東南アジアの歴史と文化 東南アジアの歴史と文化に関して、先史時代から初期国家が誕生し展開していく時代の概要を説明する。						
第4回	中世東南アジアの歴史と文化 東南アジアの歴史と文化に関して、「国風文化」の時代または「恵風の時代」と呼ばれる、外来文化と現地文化が融合・発展した時代を説明する。						
第5回	近世東南アジアの歴史と文化① 東南アジアの歴史と文化に関して、世界的な交易の活発化のもとで社会や文化が発展していく近世前期（15～16世紀）の「交易の時代」を説明する。						
第6回	近世東南アジアの歴史と文化② 東南アジアの歴史と文化に関して、華人、ヨーロッパ人、ブリス人などの域内外の人の移動と活動の影響下で変容していく18世紀の東南アジア社会を説明する。						
第7回	近世大陸部の歴史と文化 近世大陸部に焦点を当て、王朝勢力の統合と解体が繰り返される中で徐々に国家統合が進行し、現在のミャンマー、タイ、ベトナムといった現在の国に繋がるかたちで形成されていく様相を説明する。						
第8回	近代東南アジアの歴史と文化① 植民地化が浸透していく19世紀後半以降の東南アジア社会に焦点を当て、植民地化が東南アジア社会に何をもたらしたのかを説明する。						
第9回	近代東南アジアの歴史と文化② 東南アジアにおける民族主義やナショナリズムの形成と展開並びに日本占領期に焦点を当て、当該期の東南アジア社会の変容を説明する。						
第10回	現代東南アジアの歴史と文化 東南アジア各国における独立・国民国家建設などの歴史的過程を取り上げ、現在社会に繋がる東南アジア社会の様相を説明する。						
第11回	A S E A N の特徴と日本との関係 担当する受講生が使用テキストなどを用いて内容をまとめて発表し、教員と受講生全員で議論を行う。						
第12回	①タイの政治・経済・文化の特徴と日本との関係 ②ミャンマーの政治・経済・文化の特徴と日本との関係 担当する受講生が使用テキストなどを用いて内容をまとめて発表し、教員と受講生全員で議論を行う。						
第13回	①カンボジア・ラオスの政治・経済・文化の特徴と日本との関係 ③フィリピン政治・経済・文化の特徴と日本との関係 担当する受講生が使用テキストなどを用いて内容をまとめて発表し、教員と受講生全員で議論を行う。						
第14回	①ベトナムの政治・経済・文化の特徴と日本との関係 ②インドネシアの政治・経済・文化の特徴と日本との関係 担当する受講生が使用テキストなどを用いて内容をまとめて発表し、教員と受講生全員で議論を行う。						
第15回	①マレーシアの政治・経済・文化の特徴と日本との関係 ②シンガポールの政治・経済・文化の特徴と日本との関係 担当する受講生が使用テキストなどを用いて内容をまとめて発表し、教員と受講生全員で議論を行う。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	40	毎回の授業における積極性や取り組み態度ならびに発表・議論への参加状況によって評価する。 また、毎回の授業後に授業コメントページの内容によって評価する。コメントページには質問やコメントなどの他、教員から指示された内容を記入する				
	学期末レポート	60	課題として与える学期末レポートの結果を評価する。課題内容について、出典を明記した具体的な根拠に基づき、論理的かつ簡潔に記述した上で自分の分析・コメントが十分に行われていることを評価基準とする。レポートについては教員からの講評をおこなう。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受講に当たっては高校卒業程度または一般常識程度の、歴史、地理、政治経済などの知識を確認しておくことが望ましい。 本授業では、相互学習による理解促進と対話による相互理解進展のためにも、単に講義や発表を聞いて理解するだけでなく、質疑や議論に積極的に参加することが期待される。
授業外学習	配布する資料、使用テキスト、紹介する参考文献をもとに予習復習を行うこと。ニュースやインターネットなどを通じて東南アジアおよびASEAN諸国に関する情報を日々チェックすること。以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
図解 ASEANを読み解く(第2版)	みずほ総合研究所	東洋経済新報社	978-4492093283	1800円(税別)

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	奥村米司・金子秀樹・吉野文雄(編著)『ASEANを知るための50章』明石書店、2015年。 今井昭夫(編集代表)『東南アジアを知るための50章』明石書店、2014年。 古田元夫『東南アジア史10講』(岩波新書)、岩波書店、2021年。 その他の参考文献は授業中に適宜紹介する。			
その他				
備考	身の回りに存在するASEANに関係する様々な事例に注目して、授業に対する興味関心や理解度が深まります。			
注意事項	受講生と相談の上で講義計画・内容・順序を適宜修正・変更する可能性があります。			
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. ASEANおよびASEAN諸国の歴史・文化の特徴と共通性を理解している。	ASEANおよびASEAN諸国の歴史・文化の基本的な特徴と共通性に関する知識について正確に理解し説明できる。	ASEANおよびASEAN諸国の歴史・文化の基本的な特徴と共通性に関する知識について、誤解が若干存在するが、ほぼ正確に理解し説明できる。	ASEANおよびASEAN諸国の歴史・文化の基本的な特徴と共通性に関する知識について概ね正確に理解し説明できる。	ASEANおよびASEAN諸国の歴史・文化の基本的な特徴と共通性に関する知識について、正確性を欠くが、自分の言葉で説明できる。	ASEANおよびASEAN諸国の歴史・文化の基本的な特徴と共通性に関する知識について、全く説明することができない。
知識・理解	2. ASEAN諸国の現代的な状況や課題(政治・経済など)を理解している。	ASEAN諸国の現代的な状況や課題について正確に理解し説明できる。	ASEAN諸国の現代的な状況や課題について、誤解が若干存在するが、ほぼ正確に理解し説明できる。	ASEAN諸国の現代的な状況や課題について概ね正確に理解し説明できる。	ASEAN諸国の現代的な状況や課題について、正確性を欠くが、自分の言葉で説明できる。	ASEAN諸国の現代的な状況や課題について、全く説明することができない。
知識・理解	3. ASEANおよびASEAN諸国と日本との関係を理解している。	ASEANおよびASEAN諸国と日本との関係について正確に理解し説明できる。	ASEANおよびASEAN諸国と日本との関係について、誤解が若干存在するが、ほぼ正確に理解し説明できる。	ASEANおよびASEAN諸国と日本との関係について概ね正確に理解し説明できる。	ASEANおよびASEAN諸国と日本との関係について、正確性を欠くが、自分の言葉で説明できる。	ASEANおよびASEAN諸国と日本との関係について、全く説明することができない。
思考・問題解決能力	1. ASEAN諸国の現代的な課題・展望(政治・経済など)について考えることができる。	課題について、十分な論拠ならびに論理性・多角性に基づいた考察をしている。	課題について、論拠に基づき、概して論理的に考察している。	課題について、論拠を提示しつつ自分の考えを述べている。	課題について、自分の考えを述べているが、論拠が欠如している。	課題について、自分の考えが全く如している。
思考・問題解決能力	2. ASEANおよびASEAN諸国と日本との関係と課題・展望について考えることができる。	課題について、十分な論拠ならびに論理性・多角性に基づいた考察をしている。	課題について、十分な論拠に基づき、概して論理的に考察している。	課題について、論拠を提示しつつ自分の考えを述べている。	課題について、自分の考えを述べているが、論拠が欠如している。	課題について、自分の考えが述べられていない。
態度	1. 授業に積極的に参加できる。	質問や討論に自ら積極的に参加し、授業内容を理解した上で適切なコメントを提出している。	指名時のみに質問や討論に参加し、授業内容を理解した上で適切なコメントを提出している。	授業に出席し授業の内容を理解した上でコメントを提出している。	授業に出席しコメントを提出しているが、授業内容の理解が十分ではない。	授業に出席しているが、コメントを提出していない。

科目名	国際経営論			授業番号	LF404	サブタイトル	
教員	佐々木 公之						
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	講義
						必修・選択	選択
授業概要	<p>本講義の目的は、国際経営の実態を理解することである。本講義ではまず、国際経営活動について学ぶ。具体的には、輸出、海外生産、海外研究開発、輸入、技術移入、外国企業との合併などの活動である。次に、現代の国際経営に至るまでの歴史的なプロセスについて学ぶ。そのうえで、現代の国際経営ではどのような課題が見られるか、国際経営の今後の展望はどうか、についても見ていく。</p> <p>更には、国内経営と比較した場合の国際経営の特徴も把握する。国際経営の個別的な事実だけでなく、国際経営の全体像、達成した成果、残されている課題についても理解しながら講義を進める。授業では、積極的に事例を盛り込むことで、国際経営という広い領域についても、具体的にイメージできるようにする。</p>						
到達目標	<p>本講義の到達目標は、国際経営における基礎知識を理解し、日本企業の国際経営の課題を考えながら実態を把握することである。具体的には、国際経営に関する本や雑誌、記事を読み内容をわかった上で、その内容について他人に説明ができるようになることである。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。</p>						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	国際経営環境の新しい動き：外部環境の新しい動き						
第2回	国際経営とは：多国籍企業の経営						
第3回	国際経営戦略(1)：国際経営戦略の歴史的展開						
第4回	国際経営戦略(2)：ケーススタディ (トヨタ自動車)						
第5回	国際マーケティング(1)：輸出マーケティングと国際調達						
第6回	国際マーケティング(2)：グローバルサプライチェーンマネジメント						
第7回	海外生産(1)：海外生産の発展と日本の生産のグローバル展開						
第8回	海外生産(2)：ケーススタディ (シーゲート・テクロロジーズ)						
第9回	技術移転と海外研究開発：技術の国際移転、海外研究開発とソフトウェアの海外開発						
第10回	国際経営マネジメント：国際経営を行ううえでの論点と対応策						
第11回	北米・欧州のなかの日本企業：北米と欧州						
第12回	アジアのなかの日本企業：アジアと中国、インド&ケーススタディ (アジアにおけるグローバル小売競争の展開)						
第13回	新興国市場と日本企業：新興国市場と新興国戦略						
第14回	サービス企業の海外進出：サービス企業の特徴と海外進出						
第15回	国際経営の新展開：国際経営戦略の新しい動きと国際経営マネジメントの革新						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する(発言内容のレベルは問わない)				
	レポート	30	講義内容の正しい把握ができているかを評価する(自分の言葉による論理的な説明を求める)				
	小テスト						
	定期試験	50	授業で取り扱った視点を、論理を用いて、論理的に表現ができているかを評価する(記述試験を予定)				
	その他						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前学習は不要であるが、既習の経営学の中にある「ビジネスの海外展開」に関して、理解が深い場合は、再度学習しておくこと。 毎回、事後学習として、授業で実施した内容について、復習をして欲しい。復習のポイントは、授業中に指示をする。 また、「国際経営」に関する新聞等の記事を読み、テーマ・主要論点・ポイントをまとめることを望む。
授業外学習	上記、復習、新聞記事のまとめなどに適当なり4時間以上を充てること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめての国際経営	中川功一	有斐閣	9784641150171	1980円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『ケースに学ぶ国際経営』(2013)	吉原英樹編, 白木三秀編, 新宅純二郎編, 浅川和宏編	有斐閣	4641184151	3024円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	無
担当教員の業務経験	
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 社会動向を理解している	信頼できるリソースから、社会動向を調査し学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性に注意して、社会動向を概ね正しい内容かどうかを理解して学習課題に取り組むことができる。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性についての注意が不十分で、学習内容にいくつかの誤りが含まれている。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができない。
知識・理解	2. 経営学の理論ができる	経営学の理論が理解でき、その考え方に対して共感、疑問を持ちディスカッションができる。	経営学の理論を理解し、共感し疑問を持つことができる。	経営学の理論と講義の意図が理解することができる。	経営学の理論や講義の意図が概ね理解することができる。	経営学の理論が理解できない。
知識・理解	3. 国際的な知識が理解している。	国際的な知識があり、学習課題に取り組むことができる。	国際的な知識を概ね理解して学習課題に取り組むことができる。	国際的な知識を調査を行うことで、学習課題に取り組むことができる。	国際的な知識が不十分で、学習内容にいくつかの誤りが含まれている。	国際的な知識が乏しく、学習課題に取り組むことができない。

科目名	アジア食品論		授業番号	LG201	サブタイトル				
教員	中安 亜								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	アジアは有史以来世界の人口の6割を占めている。食の面から考えると、世界の主要文明が主食穀物を小麦として発達して来たのに対して、日本を含む東アジアとその南に位置する東南アジアでは米を主食穀物米として発達してきた。この講義では、日本と食の面で共通性を強く持つ東アジア、東南アジアを中心とした農業生産、食品生産と流通、貿易の状況を理解しながら、日本との関係、方向性を考える。								
到達目標	身近な外国としての外国、東アジア、東南アジアに対して、食品及び農産物という対象物の生産、流通、消費及び貿易の事態を理解すること合わせて、グローバル化の進展と日本との関係を理解する視点を養う。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士上の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	アジアの米食文化とヨーロッパの肉食文化								
第2回	今年日本の食料消費								
第3回	世界の食料需給と日本の食料自給								
第4回	日本の食料輸入の動向								
第5回	東アジア地域の農業、食品の生産と食生活（1）中国 1								
第6回	東アジア地域の農業、食品の生産と食生活（2）中国 2								
第7回	東アジア地域の農業、食品の生産と食生活（3）韓国								
第8回	東南アジア地域の農業、食品の生産と食生活（1）ベトナム								
第9回	東南アジア地域の農業、食品の生産と食生活（2）タイ								
第10回	東南アジア地域の農業、食品の生産と食生活（3）インドネシア								
第11回	東南アジア地域の農業、食品の生産と食生活（4）フィリピン等								
第12回	他のアジア地域の農業、食品の生産と食生活								
第13回	アジア食品と「ハラル」								
第14回	日本の農産物輸出とアジア								
第15回	まとめ								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。						
	レポート	30	中間時点でレポートを課し、講義内容の正しい把握ができているかを評価する。（自分の言葉による論理的な説明を求める）						
	小テスト								
	定期試験	60	授業で取り扱った視点、論理を用いて、論理的に表現ができているかを評価する（記述式のレポート試験を予定）						
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受講生は、授業で提供する資料・データに留まらず、関連情報について文献、インターネット等を使って収集し、理解するように努めること。
授業外学修	復習とあわせて、文献、インターネット等での情報収集を行う。 以上のことを、週当たり4時間以上を充てること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

使用しない

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

講義の中で適宜紹介する

その他

--

備考

--

注意事項

--

担当教員の業務経験の有無

無

担当教員の業務経験

--

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

--

業務経験をいかした教育内容

--

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. 日本の食と農業の関係を理解している。	日本の食生活と農業、貿易が密接にかかわりながら展開していることを明確に理解でき、具体例を説明できる。	日本の食生活と農業、貿易が密接にかかわりながら展開していることは理解できている。	日本の食生活と農業、貿易が関係していることを理解できている。	日本の食生活、農業、貿易について断片的には理解できている。	日本の食生活と農業の現状を理解できていない。
思考・問題解決能力	2. アジア諸国の食生活、農業と食品流通、貿易の問題点を理解している。	アジア諸国の食生活と農業、貿易が密接にかかわりながら展開していることを明確に理解でき、具体例を説明できる。	アジア諸国の食生活と農業、貿易との関係は理解できているが、具体例を説明できない。	アジア諸国の食生活と農業、貿易との関係は理解できている。	アジア諸国の食生活と農業、貿易との関係が十分に理解できていない。	具体的な事例について自ら調べようとしていない。
思考・問題解決能力	3. 各自が特定したアジアの国について、食生活、農業、貿易について分析し、その現状と問題点を理解できる。	事例の国について、食生活、農業、貿易について分析し、その現状と問題点を理解でき、それをプレゼンテーションできる。	事例の国について、食生活、農業、貿易の現状と問題点を理解できているが、プレゼンテーションが不十分。	調べた事例に対する評価が不十分のためプレゼンテーションがうまく行かない。	調べた事例に対する評価が不十分で、プレゼンテーションに至らない。	事例を探ることができていない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	フードシステム論		授業番号	LG202	サブタイトル					
教員	中安 亜									
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
授業概要	<p>フードシステムとは、「食料となる農水産物が生産され、消費者にわたるまでの食料・食品の流れをシステムとしてとらえたもの」である。物の動きとして、農林水産業から、農水産物卸売業、食品製造業、食料品小売業、外食産業を経て消費者までの流れをトータル的に考察していくものである。本講義では、それぞれの産業に携わる人々の動きに注目して、消費者の行動から逆って考察する。</p>									
到達目標	<p>日本の農業、食料とそれを取り巻く諸産業に関心を払いつつ同時に、消費者行動の変化についての基礎的知識が必要とされる。あわせて、フードシステムを構成する諸産業・企業間の関係性を理解する視点を養う。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。</p>									
授業計画 備考										
回	概要					担当				
第1回	フードシステムとは									
第2回	日本の食と農の変遷									
第3回	消費者行動の変化と食料消費の動向									
第4回	消費者の再発物購買と消費									
第5回	外食産業と中食産業									
第6回	農産物流通の動き（1）小売市場									
第7回	農産物流通の動き（2）卸売市場									
第8回	農産物流通の動き（3）農産物直売									
第9回	食品加工業									
第10回	日本農業の動向									
第11回	農業の六次産業化									
第12回	日本の農産物・食品貿易									
第13回	日本の食料自給率									
第14回	食物流通における諸問題									
第15回	まとめ									
授業計画 備考2										
評価の方法										
種別	割合	評価基準・その他備考								
授業への取り組みの姿勢 / 態度	10	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。								
レポート	30	中間時点でレポートを課し、講義内容の正しい把握ができていいるかを評価する。（自分の言葉による論理的な説明を求める）								
小テスト										
定期試験	60	授業で取り扱った視点を、論理を用いて、論理的に表現ができていいるかを評価する（記述試験を予定）								
その他										

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受講生は、授業で提供する資料・データに留まらず、関連情報について文献、インターネット等を使って収集し、理解するように努めること。
授業外字修	復習とあわせて、文献、インターネット等での情報収集を行う。 以上のことを、週当たり4時間以上を充てること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	使用しない			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	講義の中で適宜紹介する			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. フードシステムの考え方を理解している。	食料の流通において構成している各主体が連鎖的に活動していることを明確に理解できている。	食料の流通における各主体の連鎖的に行動を理解しようとしている。	食料の流通における各主体の行動を理解できている。	食料の流通における各主体の活動を断片的に飲み理解しようとしている。	食料の流通における各主体の行動そのものを理解できていない。
思考・問題解決能力	2. 農産物、食料の流通の現状と問題点を理解している。	具体的な農産物、食料の流通について自ら調べ、その現状と問題点を明確に述べることができる。	具体的な農産物、食料の流通について自ら調べ、現状は理解できている。	具体的な農産物、食料の流通について自ら調べるが十分には理解できていない。	具体的な農産物、食料の流通について自ら調べようとしている。	具体的な農産物、食料の流通について自ら調べようとしていない。
思考・問題解決能力	3. 6次産業化、農商工連携についてその成果を評価できる。	6次産業化、農商工連携の事例を探し、その成果を評価し明確にプレゼンテーションを行える。	6次産業化、農商工連携の事例を探し、その成果を評価しているがプレゼンテーションが不十分。	調べた事例に対する評価が不十分のためプレゼンテーションがうまく行えない。	調べた事例に対する評価が不十分で、プレゼンテーションに至らない。	6次産業化、農商工連携の事例を探すことができていない。

科目名	地域資源論		授業番号	LG203	サブタイトル	
教員	中安 肇					
単位数	2単位	開講年次	が1年より異なります。	開講期	後期	授業形態
						講義
授業概要	本講義では、地域経済の衰退や人口減少ならびに高齢化問題の解決を目的として、「地域資源活用による地域活性化対策」に関する計画策定ができるようにする。地域活性化対策を目的として、利用可能な地域資源の存在量の計測、および地域資源を活用した地域活性化対策に関する問題点の把握と問題点解決のための対策を提示できる能力を備えた人材を育成する。具体的には、地域活性化のための「専門知識」、問題解決に向けた「思考力・判断力・表現力」を養うとともに、問題解決に積極的に取り組む「主体性・態度」を身につけさせる。					
到達目標	1) 地域社会が抱える問題点および課題を正確に把握し、地域活性化に対応可能な地域資源活用案を提案できる。 2) 地域における利用可能な資源の分類ができる。 3) 地域資源を活用した地域活性化プランの作成ができる。 4) 地域の人々と協力して地域資源活用に取り組みができる。 5) 地域活性化に対して、政策提案ができる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、「(知識・理解)および(思考・問題解決能力)を習得するのに貢献する。					
授業計画 備考						
回	概要					担当
第1回	我が国における戦後から高度経済成長期までの経済政策と地域社会との関係・問題点把握					
第2回	我が国における高度経済成長期からバブル経済崩壊までの経済政策と地域社会の問題点把握					
第3回	我が国におけるバブル経済崩壊以後から現代までの経済政策と地域社会の関係・問題点把握					
第4回	利用可能な地域資源リスト作成 (1) 自然資源リストの作成および資源の利用可能性把握					
第5回	利用可能な地域資源リスト作成 (2) 文化資源リストの作成および資源の利用可能性把握					
第6回	地域活性化と地域資源活用対策 (1) 農林水産業資源の活用					
第7回	地域活性化と地域資源活用対策 (2) 農村文化資源の活用					
第8回	地域活性化と地域資源活用対策 (3) 地場産業・技術の活用					
第9回	地域活性化と地域農業活性化 (1) 農業生産力アップによる地域経済効果					
第10回	地域活性化と地域農業活性化 (2) 地域活性化と農産物直売所の活用					
第11回	農山村地域の利用可能な資源と地域活性化 (1) 農村文化の活用と地域活性化					
第12回	農山村地域の利用可能な資源と地域活性化 (2) 地域特産物活用と地域活性化					
第13回	農業活性化と地域活性化					
第14回	地域内経済循環の意義 (1)					
第15回	地域内経済循環の意義 (2)					
授業計画 備考2						
評価の方法						
種別	割合	評価基準・その他備考				
授業への取り組みの姿勢/態度	10	予習・復習内容等に関して、講義中に質問し、それに対する回答内容・態度により評価する。				
レポート	10	地域資源の中で、どの様な地域資源が、どの様に活用されているかに関してインターネット等で情報収集し、具体的な事例紹介のレポートを提出させ、その内容および情報収集の努力も評価点に加えて、総合的に評価する。				
小テスト	20	講義中に、理解度を確認するため、小テストを実施する。				
定期試験	60	講義期間全体を通じての内容に関して試験を課し、解答してもらう。				
その他						

評価の方法：自由記載	関心のある社会問題について、新聞、インターネット等で調べ、疑問等を講義中に質問することを勧める。
受講の心得	農山村地域は、人口減少、産業・社会活動が停滞し、利用可能な資源はほとんど無い……と書かれているが、発想の転換次第では、利用可能な資源が沢山ある。どの様に活用すれば、地域活性化を為しているのかについて、考え続けて欲しい。そして、疑問点に関して、講義中に質問して欲しい。
授業外学習	講義内容と関連する各地域の地域資源利用に関する事例を紹介するので、(1)インターネット等で関連記事について調べ、整理しておく。また、(2)地域資源利用の具体的事例に関する情報を収集する。とくに、農林水産省や国土交通省のホームページにアクセスし、情報収集しておくこと。また、気付いた点をもっておき、講義中に意見発表や質問をすること。(3)履修として、講義ノートをまとめる。以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	教科書は使用しない。毎回、講義担当者が作成した講義資料を配付する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	特に指定しないが、必要に応じて、必要部分を資料として配付する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無				
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. 地域社会が抱える問題点及び課題を正確に把握し、地域活性化に利用可能な地域資源活用方策を提案できる。	地域社会が抱える問題点及び課題を正確に把握できおり、地域活性化に利用可能な地域資源活用方策のプレゼンテーションが魅力的である。	地域社会が抱える問題点及び課題を把握できているが、地域活性化に利用可能な地域資源活用方策のプレゼンテーションが魅力的になっていない。	地域社会が抱える問題点及び課題の把握が不十分で、地域活性化に利用可能な地域資源活用方策のプレゼンテーションが不十分である。	地域社会が抱える問題点及び課題の把握が不十分で、プレゼンテーションにたいっていない。	調査そのものを行っていない。
思考・問題解決能力	2. 地域資源を活用した地域活性化プランの作成ができる。	地域での利用可能資源の分類が正確に行われており、それに基づいた地域活性化プランの提案が魅力的である。	地域での利用可能資源の分類は行われているが、それに基づいた地域活性化プランの提案が不十分である。	地域での利用可能資源の分類が明確に行われておらず、それに基づいた地域活性化プランの提案に至っていない。	地域での利用可能資源の分類が十分に行われていない。	調査そのものを行っていない。

科目名	地域政策		授業番号	LG204	サブタイトル				
教員	中安 章								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では、(1)我が国が直面している人口減少・少子高齢化問題ならびに地域社会衰退に関わる問題点の把握、そして、(2)これら諸問題解決のために実施すべき対策を提示すると同時に、(3)対策実現のために探るべき具体的な行動計画を策定できる能力を備えた人材の育成を目指す。これらにより、地域社会問題解決のための「専門知識」、地域社会の問題解決に向けた「思考力・判断力・表現力」を養ふとともに、問題解決に積極的に関わり「主体性・態度」を身につけさせる。								
到達目標	地域社会の抱える諸問題の把握とこれら諸問題解決に向けた対策を提示できる能力を身につけさせることを到達目標とする。 1) 日本全体における人口問題や地域経済が抱える問題点および課題を正確に把握できる。 2) 地域政策のための政策立案能力を身につけることができる。 3) 地域活性化に対して、政策提案ができる。 なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、「知識・理解」および「思考・問題解決能力」を習得するに貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	地域政策の論理								
第2回	国土計画の展開 (1)								
第3回	国土計画の展開 (2)								
第4回	国土交通省による国土のグランドデザイン2050(1)								
第5回	国土交通省による国土のグランドデザイン2050(2)								
第6回	国土交通省による国土のグランドデザイン2050 (3)								
第7回	国土計画と農業・農村								
第8回	国土交通省資料「中国地域の現状と問題点(1)地方自治体における財政問題」								
第9回	国土交通省資料「中国地域の現状と問題点(2)中国地域の人口問題」								
第10回	国土交通省資料「中国地域の現状と問題点(3)中国地域の経済問題」								
第11回	人口移動と経済問題								
第12回	人口問題と社会問題								
第13回	農林業から見た地域経済活性化								
第14回	製造業、流通業から見た地域経済活性化								
第15回	EUの地域政策								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢/態度	10	予習・復習内容等に関して、講義中に質問し、それに対する回答内容・態度により評価する。							
レポート	10	人口減少・少子高齢化問題ならびに地域社会衰退に関わる問題点の理解が出来ているかどうかを評価する。また、関連情報の収集に関する努力も評価する。							
小テスト	20	講義中に、理解度を確認するため実施する							
定期試験	60	講義期間全体を通じての内容について試験を課し、解答してもらう。							
その他									

評価の方法：自由記載	関心のある地域社会問題について、新聞、インターネット等で調べ、疑問等を講義中に質問すること。
受講の心得	地域社会は、人口減少、産業・社会活動の停滞などにより、活力が低下してきている。しかしながら、中国地域には、農林業や、地域に根ざした企業のなかに、新たな発展の可能性を秘めた事例がある。さらに、有望な利用可能資源も沢山ある。どの様に活用すれば、地域活性化を為しているのかについて、考え続け、本講義から、何らかのヒントを得て欲しい。
授業外学修	インターネットを通じて、全国の中で取り組まれている、ユニークな地域活性化への取り組みを各自で調べ、纏める。その成果を、講義中に発表できる時間を確保する。以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

教科書は使用しない。必要に応じて、国・県・地方自治体等の資料を印刷・配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
地域政策第2版	山崎朗, 杉浦勝彦他	中央経済社	978-4-502-44671-9	2400円+税

参考書：自由記載

特に指示しないが、必要に応じて、必要部分を資料として配付する。

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. 特定地域を設定し、その地域での人口問題と対策を講ずる。	地域を設定し調査することによって、そこでの人口問題を明確に理解し、対応策を評価できている。	地域を設定し調査することによって、そこでの人口問題の理解はできているが、対応策の評価が不十分である。	地域を設定し調査することによって、そこでの人口問題の理解はできているが、対応策の評価を行っていない。	地域を設定し調査することによって、そこでの人口問題の理解が不十分である。	設定そのものを行っていない。
思考・問題解決能力	2. 特定地域とそこでの課題を設定し、施策についての提言を行う。	地域とそこでの課題を設定し、その特徴と問題点を明確に理解できている。施策についての提言を行っている。	地域とそこでの課題を設定し、その特徴と問題点を理解できているが、施策についての提言が不十分である。	地域とそこでの課題を設定し、その特徴と問題点を理解にとどまっている。	地域とそこでの課題を設定し、その特徴と問題点を理解が不十分である。	設定そのものを行っていない。

科目名	食料経済		授業番号	LG205	サブタイトル				
教員	大宮 めぐみ								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	本講義では、まず食料消費の経済理論と食料の流れ、それらに関わる経済主体の連続であるフードシステムの概念について学ぶ。その上で、わが国の食料消費構造の変化について経済理論を通して理解する。さらに我が国の食料安全保障の実態と今後の展開について、食料輸入と食料自給率、世界の食料需給などの今日的課題を題材に考察する。								
到達目標	(1) 食料の生産から消費に至るまでの一連の流れ（フードシステム）を理解し、全体像を説明する力を身につける。 (2) 食料の消費構造と変化について経済学を用いて説明する力を身につける。 (3) 食料需給に関連する社会問題について、経済学を基礎とした観点から考察、説明する力を身につける。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の取得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	食料経済の対象領域と課題—フードシステムとは何か？何を学ぶのか？— フードシステムは何かについて概説し、全体の流れを紹介する。								
第2回	食料経済の理論 (1) 食品の商品としての特徴、食品選択の理論について理解する。								
第3回	食料経済の理論 (2) 食料需要の価格弾力性、所得弾力性とエンゲル係数について理解する。								
第4回	食生活の成熟(1) 食料消費の変化、高級化、高付加価値化について理解する。								
第5回	食生活の成熟 (2) 食料消費の時期と特徴について理解する。								
第6回	食料消費/タウンの変化 食料消費構造の変化やその原因について理解する。								
第7回	食料の安全保障と自給率(1) 食料需給表と食料自給率について理解する。								
第8回	食料の安全保障と自給率 (2) 食料自給率の変化と食料安全保障について理解する。								
第9回	前半のまとめ これまでの学習内容の確認を行う。								
第10回	食品工業の構造と特徴 食品工業の現状と特徴を理解する。								
第11回	食品流通業の構造と特徴 (1) 卸売市場の機能を理解する。								
第12回	食品流通業の構造と特徴 (2) 食品小売業の機能と特徴を理解する。								
第13回	外食産業の構造と特徴 外食産業・中食産業の現状と特徴を理解する。								
第14回	中食産業の構造と特徴 中食産業の現状と特徴を理解する。								
第15回	世界の人口と食料/食生活と政府の役割 世界の食料問題について理解する。市場メカニズムの限界と政府の役割、外部不経済について理解する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度によって評価する。							
レポート									
小テスト	30	中間的な理解度を評価する。							
定期試験	50	到達目標に達しているかを最終的に評価する。							
その他									

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本講義では食料消費の変遷、関連産業の動向、食料に関連する今日的課題等を理解し、自らのこととして考え、その考えを説明できる力を身につけることを到達目標とする。そのためには、「食」に関わるニュースや新聞記事、さまざまな情報に日頃から関心を持ち、自ら調べるといった姿勢で講義に臨むこと。
授業外学修	(1) 予習として、テキストを読み、疑問点を明らかにしておくこと。 (2) 復習として、講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。 (3) 発展学修として、食料自給率や食品産業など「食」に関わる新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。 以上の内容を、適当に4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
フードシステムの経済学 第6版	梶山 山ひろみ, 花開津 典生, 中嶋 康博	医歯薬出版株式会社	978-4-263-70740-1	2,750

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

適宜指示する

その他

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無

無

担当教員の業務経験

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験をいかした教育内容

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 食料の生産から消費に至るまでの一連の流れ(フードシステム)を理解し、全体像を説明することができる	フードシステムについて正確な理解を持ち、理論的かつ詳細に説明ができる。	フードシステムについてほぼ理解しており、説明ができる。	フードシステムについて一定程度理解があり、大体の説明ができる。	フードシステムについて理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	フードシステムについて理解しておらず、説明する力がない。
知識・理解	2. 食料の消費構造とその変化について経済学の概念を用いた理解ができ、これらを説明することができる	食料消費とその変化について経済学上の論理やデータを用いて、詳細に説明することができる。	食料消費とその変化について、関連する経済学の知識を用いて、説明することができる。	食料消費とその変化について、関連する経済学の知識の一部を用いて、一定程度の説明ができる。	食料消費とその変化について理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	食料消費とその変化について理解できておらず、説明する力がない。
知識・理解	3. 食料需給に関連する社会問題について、経済学を基礎とした観点から考察、説明することができる	食料需給に関する社会問題を正しく理解しており、経済学的観点から論理的に説明することができる。	食料需給に関する社会問題についてほぼ理解しており、経済学的観点から説明することができる。	食料需給に関する社会問題について一定程度理解しており、説明をすることができる。	食料需給に関する社会問題について経済学的観点からの理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	食料需給に関する社会問題について理解しておらず、説明する力がない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	アグリビジネス論		授業番号	LG301	サブタイトル				
教員	中安 亜								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	アグリビジネスとは、「農業資材・サービス供給産業、食品加工産業、飲食産業そして関連する流通産業等を総称したものである」と定義される。これらは農業関連産業として位置づけられ、グローバル化の下で日本農業の方向性を考えることが重要となる。この講義では、日本農業に焦点を当て、農商工連携あるいは農業の六次産業化の実態と方向性を考える。								
到達目標	日本及び世界の農業、食料とそれを取り巻く諸産業に関心を払うと同時に、これらの持つ諸問題の理解においては、グローバル化とアグリビジネスについての基礎的知識が必要とされる。あわせて、アグリビジネスの具体的な姿を理解する視点を養う。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた「学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	アグリビジネスの概観と概念								
第2回	日本におけるアグリビジネスの動き								
第3回	アグリビジネスと農業								
第4回	農業と資材産業								
第5回	食品加工産業の動向								
第6回	外食産業の動向								
第7回	農産物・食品の流通の変化と農業								
第8回	アグリビジネスの下での農村								
第9回	農商工連携と農業、農村								
第10回	農業の六次産業化								
第11回	農業における法人化								
第12回	都市農村交流とアグリビジネス								
第13回	アジアにおけるアグリビジネス（1）								
第14回	アジアにおけるアグリビジネス（2）								
第15回	まとめ								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。						
	レポート	30	中間時点でレポートを課し、講義内容の正しい把握ができていられるかを評価する。（自分の言葉による論理的な説明を求める）						
	小テスト								
	定期試験	60	授業で取り扱った視点、論理を用いて、論理的に表現ができていられるかを評価する（記述式のレポート試験を予定）						
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受講生は、授業で提供する資料・データが十分に留まらず、関連情報について文献、インターネット等を使って収集し、理解するように努めること。
授業外字修	復習とあわせて、文献、インターネット等での情報収集を行う。以上のことを、適当に4時間以上を充てること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	使用しない			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	講義の中で適宜紹介する			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の实務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. 農業の法人化の意義、問題点を明確に理解し、自らが法人化を想定した場合の解決策を講ずる。	農業の法人化の意義、問題点を明確に理解し、自らが法人化を想定した場合の解決策を講ずることができる。	農業の法人化の意義、問題点を理解しているが、その解決策のプレゼンテーションが不十分である。	農業の法人化の意義、問題点を理解しているが、その解決策を講ずるには至っていない。	農業の法人化の意義、問題点を十分に理解できていない。	調査そのものを行っていない。
思考・問題解決能力	2. 6次産業化、農商工連携についてその成果を評価できる。	6次産業化、農商工連携の事例を探し、その成果を評価し明確にプレゼンテーションを行える。	6次産業化、農商工連携の事例を探し、その成果を評価しているがプレゼンテーションが不十分。	調べた事例に対する評価が不十分のためプレゼンテーションがうまく行えない。	調べた事例に対する評価が不十分で、プレゼンテーションに至らない。	6次産業化、農商工連携の事例を探すことができていない。

科目名	農産物直売所と地域活性化			授業番号	LG302	サブタイトル	
教員	中安 亜						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義
必修・選択							選択
授業概要	本講義では、農産物直売所の運営を通じて、地域農業振興と地域活性化との双方を同時に達成可能とする「地域活性化プラン策定」を実施できる力を養うことを目的とする。農業・農村における問題点の把握と問題点解決のための対策立案が実施できる人材育成を目指す。これらにより、農産物のマーケティング戦略策定や地域活性化プラン策定に向けた「思考力・判断力・表現力」を養えとともに、問題解決に積極的に取り組む「主体性・態度」を身につけさせる。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 農産物直売所が抱える問題点および課題の把握・分析・整理ができる。 2) 農産物直売所が抱える問題点・課題の分析に基づいて、改善案を提案できる。 3) 農産物直売所の運営戦略・マーケティング戦略立案が出来る。 4) 課題解決を通じて、地域活性化対策の提案が出来る。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉および〈思考力・問題解決能力〉を習得するのに貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	我が国における農業・農村の現状(1)						
第2回	我が国における農業・農村の現状(2)						
第3回	農産物流通の現状と問題点・課題(1)						
第4回	農産物流通の現状と問題点・課題(2)						
第5回	都市農山村交流と地産地消						
第6回	農産物直売所の意義と問題点						
第7回	代表的な農産物直売所 (1)						
第8回	代表的な農産物直売所 (2)						
第9回	全国的な J A 戦略としてのファーマーズマーケット						
第10回	農産物直売所の成功事例の発表 (1)						
第11回	農産物直売所の成功事例の発表 (2)						
第12回	農産物直売所の組織と運営						
第13回	地域活性化における農産物直売所の役割						
第14回	農産物直売所と高齢者福祉との関係性分析						
第15回	農産物直売所と地域振興						
授業計画 備考2							
評価の方法							
種別	割合	評価基準・その他備考					
授業への取り組みの姿勢 / 態度	10	予習・復習に関連して、講義中に質問し、それに対する回答内容・態度により評価する。					
レポート	30	農産物直売所と地域振興の成功事例に関する情報を収集し、成功事例の内容に関してレポートを提出させる。また、レポート内容だけでなく、情報収集の努力も評価点に加えて、総合的に評価する。					
小テスト		講義中に、理解度を確認するため実施する					
定期試験	60	講義内容全体に関する試験問題に回答してもらい、その内容を評価する。					
その他							

評価の方法：自由記載	講義内容に関連する社会問題について、新聞・インターネット等で調べ、疑問等を講義中に質問することを勧める。
受講の心得	農産物直売所の店舗数は、コンビニ店舗数の約半分である。店舗数だけから見ても、大きな影響力を持っていることが分かる。一方、コンビニ店と異なるのは、直売所の管理主体は、通常、地域の農家であり、多数の農家が直売所の経営に関わっていることである。基本的には、関係者全員の合意形成によって、直売所の運営方針が決定されている。経営組織体としては、コンビニとは、大きく異なっている。もちろん、スーパーマーケットとも大きく異なっている。
授業外学習	諸種の農産物直売所に関する情報を紹介するので、(1)インターネット等で調べて、直売所の問題点や課題について整理しておく。また、(2)農産物直売所を直接訪問し、気付いた点をメモしておき、講義中に意見発表や質問をすること。(3)復習として講義ノートをとる。以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載 教科書は使用しない。毎回、講義担当者が作成した講義資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	特に指定しないが、必要に応じて、必要部分を資料として配付する。 本講義に関係すると思われる社会問題について、新聞、インターネット等で調べ、疑問等を講義中に質問することを勧める。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・宇土力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. 農産物直売所の実態と問題点を理解している。	身近な農産物直売所を調査し、その現状について理解できている。	身近な農産物直売所を調査し、その現状と問題点を明確に理解できている。	身近な農産物直売所を調査しているが、その現状について十分に把握できていない。	身近な農産物直売所を調査したが、その報告ができていない。	調査そのものを行っていない。
思考・問題解決能力	2. 特定の農産物直売所を事例に、その地域活性化についての提言を行う。	特定の農産物直売所に対して調査を行い、その特徴と問題点を明らかにし、その地域活性化についての提言を行えている。	特定の農産物直売所に対して調査を行い、その特徴と問題点を明らかにしているが、その地域活性化についての提言が不十分である。	特定の農産物直売所に対して調査を行い、その特徴と問題点を明らかにするところまでとなり、その地域活性化についての提言はできていない。	特定の農産物直売所に対して調査を行い、その特徴と問題点を明らかにすることができていない。	調査そのものを行っていない。

科目名	農業政策と環境・資源保全			授業番号	LG303	サブタイトル	
教員	中安 亜						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義
						必修・選択	選択
授業概要	世界人口は急激な増加傾向にある。一方、食料生産に不可欠な農地や水資源は、質的劣化や量的不足が大きな問題となっている。また、大気中の二酸化炭素増加による地球温暖化現象により、食料生産は不安定化している。本講義では、食料安定供給を可能とする経済システム構築や、農業生産と環境・土壌・水資源保全等に関する問題点・課題の把握と解決立案ができるようにする。そのため、農業問題・環境問題に関わる「専門知識」や「思考力・判断力・表現力」を養い、問題解決に積極的に取り組む「主体性・態度」を身につけさせる。						
到達目標	1) 我が国経済全体の中で、農業生産部門が担っている役割について理解できる。 2) 食料生産と地域資源（土地資源・水資源・農村景観・森林資源など）との関連を理解し、政府が実施している農業政策の意味を理解できる。 3) 世界レベルでみた農地・水資源問題と食料・人口問題との関係が理解できる。 4) 我が国における農業・農村の問題を理解すると同時に、問題解決に向けた政策提案ができる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士課程の内容のうち、「知識・理解」および「思考・問題解決能力」を習得するのに貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	わが国の食料・農業・農村の動向（1）						
第2回	わが国の食料・農業・農村の動向（2）						
第3回	わが国の食料消費構造の変化						
第4回	食料自給率の推移と農業						
第5回	わが国の戦後農業政策の展開（1）						
第6回	わが国の戦後農業政策の展開（2）						
第7回	農業生産と水資源問題						
第8回	農業就業人口と農村問題						
第9回	高齢化と農業・農村問題						
第10回	環境保全型農業の展開						
第11回	世界の有機農業						
第12回	食料安全保障と環境問題						
第13回	自然災害と農林業（1）						
第14回	自然災害と農林業（2）						
第15回	食料安全保障政策の必要性について						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	予習・復習内容等に関して、講義中に質問し、それに対する回答内容・態度により評価する。				
	レポート	10	世界で発生している自然環境問題と食料生産との関係について、インターネット等で情報収集し、具体的な事例紹介のレポートを提出させ、その内容および情報収集の努力も評価点に加えて、総合的に判断する。				
	小テスト	20	講義中の重要テーマに関して理解度を確認するため小テストを実施				
	定期試験	60	講義期間全体を通じての内容に関して試験を課し、解答してもらう。				
	その他						

評価の方法：自由記載	講義内容と関連する社会問題について、新聞、インターネット等で調べ、疑問等を講義中に質問することを勧める。
受講の心得	「食料安全保障」という言葉は、あまりなじみのない言葉だと思います。しかしながら、皆さんが、毎日、安心して食べ物を食べることが出来ることは大変「有り難い」ことなのです。地球上の人口は、約78億4千万人ですが、そのうち、8億2千万人は食料不足により「死」に直面しています。そのことを心に留めて講義に参加してください。毎日、十分な食料を確保でき、それを食することが出来ることの有り難さを考えて欲しい。
授業外学習	講義中に課題をだすので、インターネット等を活用して、世界における食料問題や人口問題および食料生産に必要不可欠な農地・水資源問題に関係する記事を読んでおくこと。理解度を確認するため、講義中に質問をする。以上の内容を、適当に4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	教科書は使用しない。毎回、講義担当者が作成した資料を配付する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	特に指定しないが、必要に応じて、必要部分を資料として配付する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無				
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 日本農業の動向と農業政策の流れを理解できている。	日本農業の動向と農業政策の流れを明確に理解できている。施策の評価もできている。	日本農業の動向と農業政策の流れは理解できているが、施策の評価が不十分である。	日本農業の動向と農業政策の流れは理解できているが、施策の評価を行っていない。	日本農業の動向と農業政策の流れの理解が不十分である。	農業の動向も理解できていない。
思考・問題解決能力	1. 特定地域における農業の現状と問題点を理解し、その解決策の提言を行うことができる。	特定地域を設定し調査を行い、農業の現状と問題点を明確に理解できている。その解決策の提言を行えている。	特定地域を設定し調査を行い、農業の現状と問題点を理解できているが、その解決策の提言が不十分である。	特定地域を設定し調査を行い、農業の現状と問題点を理解できているが、その解決策の提言を行っていない。	特定地域を設定し調査を行い、農業の現状と問題点の理解が不十分である。	調査そのものを行っていない。

科目名	フードマーケティング論			授業番号	LG304	サブタイトル	
教員	大宮 めぐみ						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義
						必修・選択	選択
授業概要	本講義では、まずマーケティング理論の基礎について理解する。その上で、わが国の農産物や加工食品におけるマーケティング戦略について実際の事例から学修する。さらに食品産業の中でも外食産業（飲食店）のマーケティング戦略について学修する。						
到達目標	(1) マーケティング理論に関する基本的な知識を修得すること。 (2) 加工食品・農産物に関するマーケティング戦略がどのように行われているか理解し、考察、説明する能力を身につける。 (3) 飲食店における店舗運営やマーケティング戦略について基礎的な知識を修得し、課題解決案を提案することができる。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の取得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	オリエンテーション/マーケティング発想の経営と成り立ち 現在の食市場について概説する。マーケティングとは何か、マーケティングの成り立ちについて理解する。						
第2回	マーケティングの基礎概念 実際の事例を基にSTPと4Pについて理解する。						
第3回	フードマーケティングの事例① 製品のマネジメントについて理解する。						
第4回	フードマーケティングの事例② 価格のマネジメントについて理解する						
第5回	フードマーケティングの事例③ チャネルのマネジメントについて理解する。						
第6回	フードマーケティングの事例④ 営業のマネジメントについて理解する。						
第7回	フードマーケティングの事例⑤ ブランド構築のマネジメントについて理解する。						
第8回	フードマーケティングの事例⑥ 食品製造業が行う総合的なマーケティング戦略について理解する。						
第9回	フードマーケティングの事例⑦ 食品製造業が行う総合的なマーケティング戦略について理解する。						
第10回	フードマーケティングの事例⑧ 農業協同組合が行うマーケティング戦略について理解する。						
第11回	フードマーケティングの事例⑨ 農業生産法人が行うマーケティング戦略について理解する。						
第12回	外食産業（飲食店）における経営とマーケティング 飲食店の経営の実践/計数管理を理解する						
第13回	飲食店におけるメニュープランニング メニュープランニングについて理解する						
第14回	飲食店のマーケティング満遍 事例を基に飲食店の改訂計画・メニュープランニングを実施する						
第15回	まとめ 全体のまとめと発表						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その態備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	40	意欲的な受講態度や取り組み（発表）によって評価する。				
	レポート	60	複数回のレポート内容で評価する。 なお、次回の授業で全体的な傾向についてコメントをする。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本講義ではマーケティングの基礎を理解するとともに、食に関わるマーケティングがどのように行われているかを学ぶことで、食品産業等で行われるマーケティング戦略を理解、説明できることを到達目標とする。そのためには、身近に存在する「食」に関わるニュースや新聞記事、さまざまな情報に日頃から関心を持ち、自ら調べるといった姿勢で講義に臨むこと。
授業外学修	(1) 復習として、講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。 (2) 講義内容に関連するレポートを課すため、これらを意欲的に取り組むこと。 (3) 発展学修として、食に関連したマーケティングやフードビジネスに関する新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	資料を配布する			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
フード・マーケティング論	藤島廣二・宮部和幸・木島英・平尾正之・岩崎邦彦	筑波書房	978-4-8119-0482-5	
1からのマーケティング (第4版)	石井淳蔵・廣田啓光・清水信年	碩学舎	978-4-502-32771-1	

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	無
担当教員の業務経験	
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. マーケティング理論に関する基本的な知識を修得している	マーケティング理論を正確に理解し、述べることができる。	マーケティング理論をほぼ理解し、述べることができる。	マーケティング理論を一定程度理解し、大体述べることができる。	マーケティング理論について理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	マーケティング理論について基礎的な専門用語を理解できていない。
知識・理解	2. 加工食品・農産物に関係するマーケティング戦略がどのように行われているか理解し、考察、説明する能力を身につけている	加工食品・農産物のマーケティングについて正しい理解をしており詳細に考察し、説明することができる。	加工食品・農産物のマーケティングについてほぼ理解しており、説明することができる。	加工食品・農産物のマーケティングについて一定程度理解しており、説明することができる。	加工食品・農産物のマーケティングについて理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	加工食品・農産物のマーケティングについて理解しておらず、説明する力が乏しい。
知識・理解	3. 飲食店における店舗運営やマーケティング戦略について基礎的な知識を修得し、課題解決策を提案することができる	店舗経営やそのマーケティング戦略について深い理解をしており、課題解決策についても理論的に考察し、独自の提案ができる。	店舗経営やそのマーケティング戦略について理解をしており、課題解決策についても自らの言葉として提案ができる。	店舗経営やそのマーケティング戦略について一定程度の理解をしており、課題解決策についても提案ができる。	店舗経営やそのマーケティング戦略について理解がやや不十分であり、考察、提案する力が乏しい。	店舗経営やそのマーケティング戦略について理解しておらず、提案する力が乏しい。

科目名	農業協同組合論			授業番号	LG401	サブタイトル	
教員	大宮 めぐみ						
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	講義
							必修・選択
選択							
授業概要	本講義では、はじめに協同組合とは何かについて学修する。その上で、わが国の農業を組合員として組織化する農業協同組合について学び、その特徴と様々な事業内容について理解する。さらに農業協同組合がおかれる現状を概説し今後のあり方について考察する。						
到達目標	(1) 協同組合とは何かを理解し、その目的と役割について基本的な知識を修得する。 (2) 農業協同組合が果たす社会的役割を理解し、自らの農業で説明する力を身につける。 (3) 農業協同組合がおかれる現状について理解し、自ら考察できる力を身につける。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学上力の内容のうち、<知識・理解>の取得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	農業協同組合論の対象領域と課題-何を学ぶのか- 農業協同組合とは何かについて概説し、全体の流れを紹介する。						
第2回	協同組合の基礎知識 (1) 協同組合の仕組みや目的について理解する。						
第3回	協同組合の基礎知識 (2) 株式会社と協同組合の違いや特徴について理解する。						
第4回	国内外の多様な協同組合 協同組合の種類等について理解する。						
第5回	農業協同組合の歴史 (1) 戦前の日本の協同組合の歴史を理解する。						
第6回	農業協同組合の歴史 (2) 戦後の農協の歴史を理解する。						
第7回	農業協同組合の組織と運営 農協の組合員制度や組織活動などを理解する。						
第8回	農業協同組合の事業と活動の特徴 農協の総合事業の特徴について概要を理解する。						
第9回	農業協同組合の総合事業 (1) 農協の総合事業 (指導事業) について理解する。						
第10回	農業協同組合の総合事業 (2) 農協の総合事業 (経済事業) について理解する。						
第11回	農業協同組合の総合事業 (3) 農協の総合事業 (信用事業) について理解する。						
第12回	農業協同組合の総合事業 (4) 農協の総合事業 (共済事業) について理解する。						
第13回	農業協同組合の総合事業 (5) 農協の総合事業 (利用事業・厚生事業・その他事業) について理解する。						
第14回	協同組合の新たな方向 協同組合関連連携の拡大など、新たな協同の動向を理解する						
第15回	まとめ 全体のまとめを行う						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な受講態度によって評価する。				
	小テスト	30	中間的な理解度を評価する。				
	定期試験	40	到達目標に達しているかを最終的に評価する。				
	その他						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本講義では農業協同組合の役割や機能を理解し、今後のあり方を考察できることを到達目標とする。そのため、農業や農村、農業協同組合に関わるニュースや新聞記事、さまざまな情報に日頃から関心を持ち、自ら調べるといった姿勢で講義に臨むこと。
授業外学修	(1) 復習として、講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。 (2) 発展学修として、農業や農村、農業協同組合に関わる新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	資料を配布する			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	必要に応じて適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 協同組合とは何かを理解し、その目的と役割について基本的な知識を修得する。	協同組合について正確に理解し、述べることができる。	協同組合についてほぼ理解し、述べることができる。	協同組合について一定程度理解し、大体述べることができる。	協同組合について理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	協同組合について基礎的な専門用語を理解できていない。
知識・理解	2. 農業協同組合が果たす社会的役割を理解し、自らの言葉で説明する力を身につけている	農業協同組合が果たす社会的役割について正確に理解しており、詳細に説明することができる。	農業協同組合が果たす社会的役割についてほぼ理解しており、説明することができる。	農業協同組合が果たす社会的役割について一定程度理解しており、説明することができる。	農業協同組合が果たす社会的役割について理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	農業協同組合が果たす社会的役割について理解しておらず、説明する力がない。
知識・理解	3. 農業協同組合がおかれる現状について理解し、自ら考察できる力を身につける。	農業協同組合がおかれる現状について深い理解をしており、その展開方向についても詳細に考察ができる。	農業協同組合がおかれる現状についてほぼ理解をしており、その展開方向について考察ができる。	農業協同組合がおかれる現状について一定程度の理解をしており、その展開方向について一定程度の考察ができる。	農業協同組合がおかれる現状について理解がやや不十分であり、考察、提案する力が乏しい。	農業協同組合がおかれる現状について理解しておらず、考察する力がない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	専門ゼミ I		授業番号	LH201	サブタイトル					
教員	藤代 舜文、中安 章、宋 煥天、佐々木 公之、岡本 輝彦、森年 博、アレグサ ワグニ、佐々木 真帆英、大宮 めぐみ、梶西 将司									
単位数	2単位	開講年次	が1年未満により異なります。	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
授業概要	自ら設定した(見出し、あるいは選択した)課題について、文献を収集し、文献内容の要約を含めたデータベースを作成する方法を学ぶことで、これまでの研究によって蓄積された情報・知識を修得する。それらの成果はその都度ゼミで発表し、意見交換を通じて理解を深める。また、特定のテキストを精読するゼミ、フィールドワークを実施するゼミなどがあるが、それぞれの場合も研究に必要な基礎的方法を学び、それらの成果を報告(書評、調査結果報告)することで、プレゼンテーションの技能を高める。									
到達目標	自ら取り上げた課題に関する文献リストを作成し、主要文献について、その内容の要旨を作成して、これまでの研究成果をレビューする。フィールドワークを実施した場合には、ポスター発表を行う。本科目はデプロマポリシーに掲げた学力の内容のうち、〈知識・理解〉、〈思考・問題解決能力〉、〈技能〉、〈態度〉の修得に貢献する。									
授業計画 備考	15回									
授業計画 自由記載	<p>○第1回 ゼミ概要紹介 関心のあるテーマや課題発見の方法、レポートの作成方法について解説 各コース分野に関する講義○第2回 文献収集とリスト作成の方法 各コース分野に関する講義</p> <p>テーマ設定のための文献収集及びリスト作成方法について解説 図書館等での資料収集などを行う。また、ゼミ単位で個別ディスカッションを深めテーマ設定の準備をする。○第3回～第13回 文献データベース作成と文献精読あるいはフィールドワーク 各コース分野に関する講義 ゼミ単位で個別指導を行い、テーマ設定及び先行研究を進める。また、テーマ関連のブックレポートを課す。○第14回～第15回 ブックレポート及び調査結果報告書の作成 各コース分野に関する講義 後期の専門ゼミへの接続に向けた指示</p>									
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
	授業への取り組みの姿勢/態度	60	意欲的な受講態度、発表討論への参加によって評価する。							
	レポート	40	提出されたシジメ、レポート、ポスターで評価。 課題やレポート提出後、コメントを記入して返却する。							
	小テスト									
	定期試験									
	その他									

評価の方法：自由記載	
受講の心得	各人がそれぞれの問題関心に基いて取り上げたテーマであっても、ゼミで意見・アイデアを交換し、集団で作品を作成する楽しさを覚える。
授業外学修	1. 図書館を利用して文献収集に努める。 2. 文献内容の要約に努める。 3. フィールドワークに当たっては、様々な情報源から情報を収集する。 以上の内容を、適当に4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載 適宜配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載 講義のなかで適宜紹介。

その他

備考

注意事項

担当教員の実務経験の有無 有

担当教員の实務経験 高校教諭及び指導主事(藤代昇文)(24年)、企業経営コンサルタント(佐々木公之)(10年)、一般企業(佐々木眞帆美)(2年)

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 無

担当教員以外で指導に関わる実務経験者

実務経験をいかした教育内容 高校教諭・指導主事および企業経営者、企業コンサルタント、一般企業勤務の経験を活かした問題解決型の教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 調査・研究の仕方等の基本的なアカデミックスキルについての知識がある。	研究を行う上で大切な手順や方法について、導入ゼミで学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに活用することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について、導入ゼミで学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに調査を実施することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について、導入ゼミで学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について、導入ゼミで学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができない。	研究を行う上で大切な手順や方法について、導入ゼミで学んだアカデミックスキルの基礎知識を理解できていない。
知識・理解	2. 先行研究を通して課題について理解することができ、自らのテーマを設定することができる。	自らの関心のある事について、文献を読み解き、課題を発見して自らのテーマを設定し、文章を書いたり、自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について、文献を読み解き、課題を発見して自らのテーマを設定し、相手と話ししたり、短い文章を書いたりして、自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について、文献を参考に自らのテーマを設定し、相手と話ししたり、短い文章を書いたりすることができる。	自らの関心のある事について、相手と話ししたり、短い文章を書いたりすることはできるが、自らの課題について十分に理解し文章などを参照し自らのテーマを設定することはできない。	自らの関心のある事について、相手と話ししたり、短い文章を書いたりすることが難しく、自分の意見を言うことも困難である。
知識・理解	3. 自らのテーマについて様々な手段で調査し、論拠となる資料の情報を精査することができる。	自らのテーマについて理解し、文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。質が高く信頼ができる資料、関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し、文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。信頼ができる資料、関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し、文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。	自らのテーマについて理解することはでき、資料を参照することはできるが、自ら調べることはできない。	自らのテーマについて理解することができず、調べることもできない。
思考・問題解決能力	1. 事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを、様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定しているが、事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができない。	自らの問題意識が不明瞭で、事実や意見に対する考えを伝えることができない。
思考・問題解決能力	2. 独創性と洞察力に富んでおり、論理の展開を整えて伝えることができる	自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性があり、序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。また、オリジナリティに富んでおり、テーマや課題を深く、鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性があり、論理の展開が明瞭である。また、テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で、意見性のある内容である。	論理構成は荒削りだが、自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性がある。また、テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	自らの主張点は理解できるが、論理展開が整っていないため分かりづらい。また、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。	論理展開が整っておらず、主張点が分からない。また、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	3. テーマや課題に対してゼミメイトと協働し適切な解決方法を提案できる	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、それぞれの役割を認識しながら、意見を集約して適切な解決方法をまとめ、提案できる。	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、意見を集約して適切な解決方法をまとめ、提案できる。	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、意見を集約することができる。	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を行い、協力することはできるが、意見を集約することはできない。	テーマや課題に対して、グループワークやペアで協働することができない。
技能	1. 論理の展開が整った文章を書くことができる。	論点に一貫性があり、序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており、テーマや課題を深く、鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており、テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で、意見性のある内容である。	構成が整っており、テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	テーマに沿って主張しているが、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。	自らの主張点がなく、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。
技能	2. わかりやすく伝えるプレゼンテーション力がある。	原稿を読み上げるのではなく、自分の言葉で、ゆっくり大きな声で、ボディランゲージやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく、自分の言葉で、ゆっくり大きな声で、聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げているが、話す時には目を上げて、ゆっくり大きな声で、聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており、視線が常に下向きか、スクリーンの方を向いており、ゆっくり大きな声ではあるが、聞き手に対して訴えかけようとは言えない。	原稿を読み上げており、視線が常に下向きか、スクリーンの方を向いており、声も小さく、何を発表しているのかわからない。
技能	3. 調査結果を分析することができる。	調査によって得られたデータを集計した後、十分な統計の知識をもって統計ソフト等を活用して分析し、結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後、統計ソフト等を活用して分析し結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後、統計ソフト等を活用して分析することができる。	調査によって得られたデータを集計することはできるが、統計ソフト等を活用して分析することはできない。	調査によって得られたデータを集計することができず、結果の傾向を示すことができない。
態度	1. 他の意見に傾聴することでき、柔軟に対応することができる	他者から受ける助言を丁寧に聴くことができ、他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ、他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ、他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をもって話し合うことができる。	他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をもって話し合うことができるが、相手の意見を聞くという態度に欠ける。	他者と意見の食い違いがある場合に相手の意見を聞くという態度に欠け、自分の意見を押し通すとする。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	専門ゼミⅡ		授業番号	LH202	サブタイトル				
教員	藤代 昇文、中安 章、宋 煥天、佐々木 公之、岡本 輝彦、森年 博、アルプス 玲、佐々木 真帆、大宮 めぐみ、梶西 莉司								
単位数	2単位	開講年次	が1年次から2年次へ移行する。	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	専門ゼミに引き続き、文献収集を進め、文献リストの充実を図る。先行研究の文献レビューを行うために、文献の分類整理を行う。フィールドワークを行うゼミの場合には、調査を引き続き進め、専門ゼミで不足していた部分を再調査して補充し、調査報告書を作成する。								
到達目標	文献レビューおよび調査報告書の作成・提出を目標とする。また、作成された作品について、ゼミで討議し、内容をブラッシュアップする。本科目はデプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、「知識・理解」、「思考・問題解決能力」、「技能」、「態度」の修得に貢献する。								
授業計画 備考	15回								
授業計画 自由記載	第1回 専門ゼミの成果の確認 各コース分野に関する講義 専門ゼミを受けて、今後のテーマについて確認第2回～第13回 文献レビューおよびフィールドワークを実施 各コース分野に関する講義 ゼミ単位で個別指導を行い、テーマ設定及び先行研究・調査を進める。また、テーマ関連のブックレポートを課す。第14回～第15回 ブックレポートおよび調査報告書を作成し、発表する。 各コース分野に関する講義 次年度の専門ゼミⅢへの接続に向けた指示								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	60	意欲的な受講態度、発表討議への参加によって評価する。						
	レポート	40	発表シラ、報告書などで評価する。 課題やレポート提出後、コメントを記入して返却する。						
	小テスト								
	定期試験								
	その他								

評価の方法：自由記載	
受講の心得	ゼミで積極的に意見交換することに努める。グループで知識・技能・アイデアを共有するよう心がける。
授業外学習	1. 図書館を利用して文献収集に努める。 2. 文献内容を要約し、それをデータベースにして保管する習慣を身につける。 3. フィールドワークにおける情報収集の方法を実践する。 以上の内容を、適当に90分以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	適宜資料を配付する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜紹介。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	高校教諭及び指導主事(藤代昇文)(24年)、企業経営コンサルタント(佐々木公之)(10年)、一般企業(佐々木眞帆美)(2年)			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	高校教諭・指導主事および企業経営者、企業コンサルタント、一般企業勤務の経験を活かした問題解決型の教育を行う。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分にレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 調査・研究の仕方等の基本的なアカデミックスキルについての知識がある。	研究を行う上で大切な手順や方法について、専門ゼミ1で学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに活用することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について、専門ゼミ1で学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに調査を実施することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について、専門ゼミ1で学んだアカデミックスキルの基礎知識を意図することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について、専門ゼミ1で学んだアカデミックスキルの基礎知識を意図することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について、専門ゼミ1で学んだアカデミックスキルの基礎知識を理解できていない。
知識・理解	2. 先行研究を通して課題について理解することができる。自らのテーマを設定することができる。	自らの関心のある事について、文献を読み解き、課題を発見して自らのテーマを設定し、文章を書いたり、自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について、文献を読み解き、課題を発見して自らのテーマを設定し、相手と話したり、短い文章を書いたりして、自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について、文献を参考に、自らのテーマを設定し、相手と話したり、短い文章を書いたりすることができる。	自らの関心のある事について、相手と話したり、短い文章を書いたりすることはできるが、自らの課題について十分に理解し文献などを参照し自らのテーマを設定することはできない。	自らの関心のある事について、相手と話したり、短い文章を書いたりすることが難しく、自分の意見を言うことも困難である。
知識・理解	3. 自らのテーマについて様々な手段で調査し、論拠となる資料の情報を精査することができる。	自らのテーマについて理解し、文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。質が高く信頼ができる資料、関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し、文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。信頼ができる資料、関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し、文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。	自らのテーマについて理解することはでき、資料を参照することはできるが、自ら調べることはできない。	自らのテーマについて理解することができず、調べることもできない。
思考・問題解決能力	1. 事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを、様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定しているが、事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができていない。	自らの問題意識が不明瞭で、事実や意見に対する考えを伝えることができていない。
思考・問題解決能力	2. 独創性と洞察力に富んでおり、論理の展開を整えて伝えることができる	自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性があり、序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。また、オリジナル性に富んでおり、テーマや課題を深く、鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性があり、論理の展開が明確である。また、テーマに関してオリジナル性に富んだ内容で、意見性のある内容である。	論理構成は荒削りだが、自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性がある。また、テーマに関してオリジナル性のある内容となっている。	自らの主張点は理解できるが、論理展開が整っていないため分かりづらい。また、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナル性に欠ける。	論理展開が整っておらず、主張点が分からない。また、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナル性に欠ける。
思考・問題解決能力	3. テーマや課題に対してゼミメイトと協働し適切な解決方法を提案できる	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、それぞれの役割を意識しながら、意見を集約して適切な解決方法をまとめ、提案できる。	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、意見を集約して適切な解決方法をまとめ、提案できる。	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、意見を集約することができる。	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を行い、協力することはできるが、意見を集約することはできない。	テーマや課題に対して、グループワークやペアで協働することができない。
技能	1. 論理の展開が整った文章を書くことができる。	論点に一貫性があり、序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており、テーマに関してオリジナル性に富んだ内容で、意見性のある内容である。	序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており、テーマに関してオリジナル性に富んだ内容で、意見性のある内容である。	構成が整っており、テーマに関してオリジナル性のある内容となっている。	テーマに沿って主張しているが、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナル性に欠ける。	自らの主張点がなく、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナル性に欠ける。
技能	2. わかりやすく伝えるプレゼンテーション力がある。	原稿を読み上げるのではなく、自分の言葉で、ゆっくり大きな声で、ボディランゲージやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく、自分の言葉で、ゆっくり大きな声で、聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げてはいるが、話す時には目を上げて、ゆっくり大きな声で、聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており、視線が常に下向きで、スクリーンの方を向いており、ゆっくり大きな声ではあるが、聞き手に対して訴えかけているとは言えない。	原稿を読み上げており、視線が常に下向きで、スクリーンの方を向いており、声も小さく、何を発表しているのかわからない。
技能	3. 調査結果を分析することができる。	調査によって得られたデータを集計した後、十分な統計の知識をもって統計ソフト等を活用して分析し、結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後、統計ソフト等を活用して分析し結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後、統計ソフト等を活用して分析することができる。	調査によって得られたデータを集計することはできるが、統計ソフト等を活用して分析することはできない。	調査によって得られたデータを集計することができず、結果の傾向を示すことができない。
態度	1. 他の意見に傾聴することでき、柔軟に対応することができる	他者から受ける助言を丁寧に聴くことができ、他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとすることを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ、他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとすることを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ、他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができる。	他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができるが、相手の意見を聞くという態度に欠ける。	他者と意見の食い違いがある場合に相手の意見を聞くという態度に欠け、自分の意見を押し通すとする。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	専門ゼミⅢ		授業番号	LH301	サブタイトル					
教員	藤代 昇文、中安 章、宋 煥天、佐々木 公之、岡本 輝彦、森年 ホール、アレグサ ワグミ、佐々木 真帆英、大宮 めぐみ、梶西 莉司									
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
授業概要	専門ゼミⅢでは、専門ゼミⅡで培った知識・技能に基づいて、学術研究に適したテーマを設定し、卒業研究につながる研究方法の理解・修得を進めるとともに、論文執筆の仕方についても学術論文の講読を通して学ぶ。また、取上げたテーマについての作業過程をその都度報告し、ゼミの構成員の前でディスカッションし、作業の進め方などをチェック・調整する。ゼミでのディスカッションを通じて、ゼミ構成員は他のメンバーが取り組んでいる研究テーマについても知識を共有して、集団で研究を進めることを学ぶ。									
到達目標	卒業研究に必要な学術論文の作成に必要な分析方法、議論の仕方、書き方などを修得する。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<思考・問題解決能力>、<技能>、<態度>の修得に貢献する。									
授業計画 備考	15回									
授業計画 自由記載	第1回 卒業論文とは 第2回～第13回 文献の収集、作業過程の報告とディスカッション 第14回～第15回 成果のまとめと発表									
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	意欲的な受講態度、発表討議への参加、および積極的な意見・情報・アイデア提供などで評価する。							
	レポート	50	発表シラブおよび報告書などで評価する。							
	小テスト									
	定期試験									
	その他									

評価の方法：自由記載	
受講の心得	ゼミでのディスカッションに積極的に参加し、自分の考えを論理的に説明できるように努力する。
授業外学習	1. 自分が興味を持ったテーマに関する文献や情報を幅広く収集する。 2. ゼミで修得した知見や方法を身につけるために、関連文献などにも当たって自習する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。適宜資料を配付する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜紹介。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	高校教諭及び指導主事(藤代昇文)(24年)、企業経営コンサルタント(佐々木公之)(10年)、一般企業(佐々木眞帆美)(2年)			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	高校教諭・指導主事および企業経営者、企業コンサルタント、一般企業勤務の経験を活かした問題解決型の教育を行う。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分レベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	調査・研究の仕方等の基本的なアカデミックスキルについての知識がある。	研究を行う上で大切な手順や方法について、専門ゼミⅡ知識をもとにより高度に応用することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について、専門ゼミⅡで学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに調査を実施することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について、専門ゼミⅡで学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について、短い文章を書いたりすることはできるが、自らのテーマを設定し、相手を話したり、短い文章を書いたりすることはできない。	研究を行う上で大切な手順や方法について、専門ゼミⅡで学んだアカデミックスキルの基礎知識を理解できていない。
知識・理解	先行研究を通して課題について理解することができる。自らのテーマを設定することができる。	自らの関心のある事について、文献を読み解き、課題を発見して自らのテーマを設定し、文章を書いたり、自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について、文献を読み解き、課題を発見して自らのテーマを設定し、相手を話したり、短い文章を書いたりして、自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について、文献を参考に自らのテーマを設定し、相手を話したり、短い文章を書いたりすることができる。	自らの関心のある事について、相手を話したり、短い文章を書いたりすることはできるが、自らのテーマを設定し、相手を話したり、短い文章を書いたりすることはできない。	自らの関心のある事について、相手を話したり、短い文章を書いたりすることはできるが、自らの意見を言うことも困難である。
知識・理解	自らのテーマについて様々な手段で調査し、論拠となる資料の情報を精査することができる。	自らのテーマについて理解し、文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。質が高く信頼性のある資料、関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し、文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。信頼性のある資料、関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し、文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。	自らのテーマについて理解し、文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。	自らのテーマについて理解することができるが、調べることできない。
思考・問題解決能力	事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを、様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定しているが、事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができていない。	自らの問題意識が不明瞭で、事実や意見に対する考えを伝えることができていない。
思考・問題解決能力	独創性と洞察力に富んでおり、論理の展開を整えて伝えることができる	自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性があり、序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。また、オリジナリティに富んでおり、テーマや課題を深く、鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性があり、論理の展開が明確である。また、テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で、意見のある内容である。	論理構成は荒削りだが、自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性がある。また、テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	自らの主張点は理解できるが、論理展開が整っていないため分かりづらい。また、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。	論理展開が整っておらず、主張点が分からない。また、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	テーマや課題に対してゼミメイトと協働し適切な解決方法を提案できる	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、それぞれの役割を意識しながら、意見を集約して適切な解決方法をまとめ、提案できる。	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、意見を集約して適切な解決方法をまとめ、提案できる。	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、意見を集約することができる。	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を集約することはできない。	テーマや課題に対して、グループワークやペアで協働することができない。
技能	論理の展開が整った文章を書くことができる。	論点に一貫性があり、序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており、テーマや課題を深く、鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており、テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で、意見のある内容である。	構成が整っており、テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	テーマに沿って主張しているが、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。	自らの主張点がなく、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。
技能	わかりやすく伝えるプレゼンテーション力がある。	原稿を読み上げるのではなく、自分の言葉で、ゆっくり大きな声で、ボディランゲージやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく、自分の言葉で、ゆっくり大きな声で、聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げているが、話す時には目を上げて、スクリーンの方を向いており、ゆっくり大きな声であるが、聞き手に対して訴えかけているとは言えない。	原稿を読み上げており、視線が常に下向きか、スクリーンの方を向いており、声も小さく、何を発表しているのかわからない。	原稿を読み上げており、視線が常に下向きか、スクリーンの方を向いており、声も小さく、何を発表しているのかわからない。
技能	調査結果を分析することができる。	調査によって得られたデータを集計した後、十分な統計的知識をもって統計ソフト等を活用して分析し、結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後、統計ソフト等を活用して分析し結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後、統計ソフト等を活用して分析することができる。	調査によって得られたデータを集計することはできない。	調査によって得られたデータを集計することができず、結果の傾向を示すことができない。
態度	他の意見に傾聴することでき、柔軟に対応することができる。	他者から受ける助言を丁寧に聴くことができ、他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとすることを理解することができる。	他者から受ける助言を聴くことができ、他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとすることを理解することができる。	他者から受ける助言を聴くことができ、他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができるが、相手の意見を聞くという態度に欠ける。	他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができないが、相手の意見を聞くという態度に欠ける。	他者と意見の食い違いがある場合に相手の意見を聞くという態度に欠け、自分の意見を押し進めようとする。
態度	他の人と協調性をもって協力して協議、研究を行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際、相手の意見をよく聞き、合意の元で協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際、十分話し合い協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際、協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際、他人と協力することができず、自らのやり方に行っている。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際、他人と協力することができず、参加しない。
態度	主体性を持ちストレスをコントロールしながら計画を実行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく、粘り強く最後まで計画を遂行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく、最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにすることなく、最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにし、最後まで計画を遂行することができない。	与えられた計画を他人任せにし、計画に参加しない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	専門ゼミⅣ		授業番号	LH302	サブタイトル					
教員	藤代 昇文、中安 章、宋 煥天、佐々木 公之、岡本 輝彦、森年 博、ポール、アレクサンダー、ワグネル、佐々木 真帆、大宮 めぐみ、梶西 将司									
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
授業概要	専門ゼミⅣでは、専門ゼミⅠ～Ⅲで取り組んだ内容をさらに発展させ、学術論文の体裁を備えた成果物を作成できるように、論文構成の立て方、分析手法、文獻レビューなどについての理解を深める。その間、ゼミで繰り返し作業過程を報告し、ディスカッションを通じて自分の考えを論理的なものにする。									
到達目標	卒業研究のテーマを設定し、研究計画を作成できるようにする。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉、〈思考・問題解決能力〉、〈技能〉、〈態度〉の修得に貢献する。									
授業計画 備考										
授業計画 自由記載	第1回 専門ゼミⅠ～Ⅲの成果を再確認し、卒業研究に向けての現時点の状態を把握。 第2回～第15回 研究作業の途中経過の報告と点検									
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	意欲的な受講態度、発表討議への参加、および積極的な意見・情報・アイデア提供などで評価する。							
	レポート	50	発表シラマおよび文獻レビューなどで評価する。							
	小テスト									
	定期試験									
	その他									

評価の方法：自由記載	
受講の心得	ゼミでは、研究作業の報告とディスカッションが中心になる。そのため、研究作業の中間報告を決められたスケジュールで発表できるようにする。それと、ゼミでは積極的に発言し、アイデアを提供するとともに、自分の考えを明確する態度を養う。
授業外学修	1. ゼミには、文献を熟読し、作業結果を吟味して、自分の立場や論点を明らかにしておく。 2. ディスカッションで学んだ事項を再確認し、今後の作業に活かす努力をする。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。適宜資料を配付する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜紹介。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	高校教諭及び指導主事(藤代昇文)(24年)、企業経営コンサルタント(佐々木公之)(10年)、一般企業(佐々木眞帆美)(2年)			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	高校教諭・指導主事および企業経営者、企業コンサルタント、一般企業勤務の経験を活かした問題解決型の教育を行う。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学土力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	調査・研究の仕方等の基本的なアカデミックスキルについての知識がある。	研究を行う上で大切な手順や方法について、専門ゼミ直で学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに高度に応用することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について、専門ゼミ直で学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに調査を実施することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について、専門ゼミ直で学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について、専門ゼミ直で学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について、専門ゼミ直で学んだアカデミックスキルの基礎知識を理解できていない。
知識・理解	先行研究を通して課題について理解することができる。自らのテーマを設定することができる。	自らの関心のある事について、文献を読み解き、課題を発見して自らのテーマを設定し、文章を書いたり、自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について、文献を読み解き、課題を発見して自らのテーマを設定し、相手と話したり、短い文章を書いたりして、自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について、文献を参考に、自らのテーマを設定し、相手と話ししたり、短い文章を書いたりすることができる。	自らの関心のある事について、相手と話ししたり、短い文章を書いたりすることができるが、自らのテーマを設定することはできない。	自らの関心のある事について、相手と話ししたり、短い文章を書いたりすることが難しく、自分の意見を言うことも困難である。
知識・理解	自らのテーマについて様々な手段で調査し、論拠となる資料の情報を精査することができる。	自らのテーマについて理解し、文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。質が高く信頼できる資料、関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し、文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。信頼ができる資料、関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し、文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。	自らのテーマについて理解することはでき、資料を参照することはできるが、自ら調べることができない。	自らのテーマについて理解することができず、調べることができない。
思考・問題解決能力	事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを、様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定しているが、事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができない。	自らの問題意識が不明瞭で、事実や意見に対する考えを伝えることができない。
思考・問題解決能力	独自性と洞察力に富んでおり、論理の展開を整えて伝えることができる。	自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性があり、序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。また、オリジナリティに富んでおり、テーマや課題を深く、鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性があり、論理の展開が明確である。また、テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で、意見性のある内容である。	論理構成は荒削りだが、自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性がある。また、テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	自らの主張点は理解できるが、論理展開が整っていないため分かりづらい。また、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。	論理展開が整っておらず、主張点が分からない。また、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	テーマや課題に対してゼミメイトと協働し適切な解決方法を提案できる。	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、それぞれの役割を意識しながら、意見を集約して適切な解決方法をまとめ、提案できる。	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、意見を集約して適切な解決方法をまとめ、提案できる。	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、意見を集約することができる。	テーマや課題に対して、グループワークやペア活動を行い、協力することはできるが、意見を集約することはできない。	テーマや課題に対して、グループワークやペアで協働することができない。
技能	論理の展開が整った文章を書くことができる。	論点に一貫性があり、序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており、テーマや課題を深く、鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており、テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で、意見性のある内容である。	構成が整っており、テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	テーマに沿って主張しているが、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。	自らの主張点がなく、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。
技能	わかりやすく伝えるプレゼンテーション力がある。	原稿を読み上げるのではなく、自分の言葉で、ゆっくり大きな声で、ホワイトボードやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく、自分の言葉で、ゆっくり大きな声で、聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げているが、話す時には目を上げて、ゆっくり大きな声で、聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており、目標が常に下向きか、スクリーンの方を向いており、ゆっくり大きな声ではあるが、聞き手に訴えかけているとは言いえない。	原稿を読み上げており、目標が常に下向きか、スクリーンの方を向いており、声も小さく、何を発表しているのかわからない。
技能	調査結果を分析することができる。	調査によって得られたデータを集計した後、十分な統計的知識をもって統計ソフト等を活用して分析し、結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後、統計ソフト等を活用して分析し結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後、統計ソフト等を活用して分析することができる。	調査によって得られたデータを集計することはできるが、統計ソフト等を活用して分析することはできない。	調査によって得られたデータを集計することができず、結果の傾向を示すことができない。
態度	他の意見に傾聴することで、柔軟に対応することができる。	他者から受ける助言を丁寧に聴くことができ、他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとすることを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ、他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとすることを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ、他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができる。	他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができないが、相手の意見を聞くという態度に欠ける。	他者と意見の食い違いがある場合に相手の意見を聞くという態度に欠け、自分の意見を押し通そうとする。
態度	他の人と協調性をもって協力して協議、研究を行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際、相手の意見をよく聞き、合意の元で協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際、十分話し合い協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際、協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際、他人と協力することができず、自らのやり方しかこだわらない。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際、他人と協力することができず、参加しない。
態度	主体性をもちストレスをコントロールしながら計画を実行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく、粘り強く最後まで計画を遂行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく、最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにすることなく、最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにすることなく、最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにし、計画に参加しない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	専門ゼミV		授業番号	LH401	サブタイトル					
教員	藤代 昇文、中安 章、宋 煥天、佐々木 公之、岡本 輝彦、森年 ホール、アレクサンダー、佐々木 真帆英、大宮 めぐみ、梶西 将司									
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
授業概要	専門ゼミでは、専門ゼミ1~IVの成果として提出される研究テーマおよび研究計画を基に、卒業論文作成のための調査・文献精読を開始する。ゼミでは、研究の進捗をチェックするため、自身の見解の裏付けとなる資料を用意し、提示・説明する。同時に、今後さらに補充の必要がある部分を明確にし、そのための取り組みを始める。									
到達目標	卒業論文執筆に移るために必要な文献・資料等を整える。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<思考・問題解決能力>、<技能>、<態度>の修得に貢献する。									
授業計画 備考										
授業計画 自由記載	第1回専門ゼミ1~IVの成果に基づいて設定した研究テーマおよび研究計画の説明 第2回~第15回 研究計画に基づいた文献精読、調査・分析を進め、中間報告する。									
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
	授業への取り組みの姿勢/態度	40	意欲的な受講態度、発表討議への参加および積極的な意見・情報・アイデアの提供などで評価する。							
	レポート	60	発表シラマおよび卒業の中間報告書などで評価する。							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	卒業研究を善美に進められるよう研究計画を絶えずチェックしながら作業を進める。
授業外学修	1. 文献レビューなどは執筆作業を進める。 2. 間接的なデータを含めて資料の補充に努める。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載
テキストは使用しない。適宜資料を紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載
適宜紹介。

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	有
担当教員の業務経験	高校教諭及び指導主事(藤代昇文)(24年)、企業経営コンサルタント(佐々木公之)(10年)、一般企業(佐々木真帆美)(2年)
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	高校教諭・指導主事および企業経営者、企業コンサルタント、一般企業勤務の経験を活かした問題解決型の教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	評価レベル				
		A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	調査・研究の仕方等の基本的なアカデミックスキルについての知識がある。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について、専門ゼミIVまでに学んだアカデミックスキル基礎知識をもとに高度に応用することができる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について、専門ゼミIVまでに学んだアカデミックスキル基礎知識をもとに調査を実施することができる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について、専門ゼミIVまでに学んだアカデミックスキル基礎知識を意識することができる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について、専門ゼミIVまでに学んだアカデミックスキル基礎知識を意識することができる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について、専門ゼミIVまでに学んだアカデミックスキル基礎知識を理解できていない。
知識・理解	先行研究を通して課題について理解することができる。自らのテーマを設定することができる。	自らの研究テーマについて、文献を読み解き、課題を発見して自らのテーマを設定し、文章を書いたり、自らの意志を伝えることができる。	自らの研究テーマについて、文献を読み解き、相手を話したり、短い文章を書いたりして、自らの意志を伝えることができる。	自らの研究テーマについて、文献を参考に自らのテーマを設定し、相手を話したり、短い文章を書いたりすることができる。	自らの研究テーマについて、相手と話したり、短い文章を書いたりすることができる。	自らの研究テーマについて、相手と話したり、短い文章を書いたりすることが難しく、自分の意見を言うことも困難である。
知識・理解	自らのテーマについて様々な手段で調査し、論拠となる資料の情報を精査することができる。	自らの研究テーマについて理解し、文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。質が高く信頼ができる資料、関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らの研究テーマについて理解し、文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。信頼ができる資料、関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らの研究テーマについて理解し、文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。	自らの研究テーマについて理解することはできず、調べることができない。	自らの研究テーマについて理解することができず、調べることができない。
思考・問題解決能力	事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し、事実や意見に対する考えを、様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し、事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し、事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定しているが、事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができない。	自らの問題意識が不明瞭で、事実や意見に対する考えを伝えることができず卒業研究のテーマも設定できていない。
思考・問題解決能力	独創性と洞察力に富んでおり、論理の展開を整えて伝えることができる。	自らが設定した卒業研究テーマに沿って、論点に一貫性があり、序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており、卒業研究のテーマや課題を深く、鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	自らが設定した卒業研究テーマに沿って、論点に一貫性があり、論理の展開が明確である。また、テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で、意見性のある内容である。	論理構成は荒削りだが、自らが設定した卒業研究テーマに沿って、論点に一貫性がある。また、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。	自らの主張は理解できるが、論理展開が整っていないため分かりづらい。また、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。	論理展開が整っておらず、主張点が分らない。また、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	テーマや課題に対してゼミメイトと協働し適切な解決方法を提案できる。	卒業研究のテーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、それぞれの役割を認識しながら、意見を集約して適切な解決方法をまとめ、提案できる。	卒業研究のテーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、意見を集約して適切な解決方法をまとめ、提案できる。	卒業研究のテーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、意見を集約することができる。	卒業研究のテーマや課題に対して、グループワークやペア活動を行い、協力することはできない。	卒業研究のテーマや課題に対して、グループワークやペアで協働することができない。
技能	論理の展開が整った文章を書くことができる。	論点に一貫性があり、序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており、卒業研究のテーマや課題を深く、鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており、卒業研究のテーマに関してオリジナリティに富んだ内容で、意見性のある内容である。	構成が整っており、卒業研究のテーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	卒業研究のテーマに沿って主張しているが、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。	卒業研究について自らの主張点があるが、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。
技能	わかりやすく伝えるプレゼンテーション力がある。	原稿を読み上げるのではなく、自分の言葉で、ゆっくと大きな声で、ボディランゲージやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく、自分の言葉で、ゆっくと大きな声で、聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げているが、話す時には目を上げて、ゆっくと大きな声で、聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており、視線が常に下向きか、スクリーンの方を向いており、ゆっくと大きな声ではあるが、聞き手に対して訴えかけているとは言いえない。	原稿を読み上げたり、視線が常に下向きか、スクリーンの方を向いており、声も小さく、何を発表しているのかわからない。
技能	調査結果を分析することができる。	調査によって得られたデータを集計した後、十分な統計的知識をもって統計ソフト等を活用して分析し、結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後、統計ソフト等を活用して分析し結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後、統計ソフト等を活用して分析することができる。	調査によって得られたデータを集計することはできない。統計ソフト等を活用して分析することはできない。	調査によって得られたデータを集計することができず、結果の傾向を示すことができない。
態度	他の意見に傾聴することで、柔軟に対応することができる。	他者から受ける助言を丁寧に聴くことができ、他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとすることを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ、他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとすることを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ、他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができる。	他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができないが、相手の意見を聞くという態度に欠ける。	他者と意見の食い違いがある場合に相手の意見を聞くという態度に欠け、自分の意見を押し通そうとする。
態度	他の人と協調性をもって協力して協議、研究を行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際、相手の意見をよく聞き、合意の元で協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際、十分話し合い協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際、協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際、他人と協力することができず、自らのやり方にとこだわる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際、他人と協力することができず、参加しない。
態度	主体性をもちストレスをコントロールしながら計画を実行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく、粘り強く最後まで計画を遂行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく、最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにすることなく、最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにすることなく、最後まで計画を遂行することができない。	与えられた計画を他人任せにし、計画に参加しない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	専門ゼミ		授業番号	LH402	サブタイトル					
教員	藤代 昇文、中安 章、宋 煥天、佐々木 公之、岡本 輝彦、森年 ホール、アレクサンダー ヴァグニ、佐々木 真帆英、大宮 めぐみ、梶西 将司									
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
授業概要	卒業研究VIは、これまでに収集検討した文献・資料に基づいて論文執筆を進めるためのゼミである。教員からのコメントに加えて、学生間でお互いの論文を点検し合うことにより、内容の修正や文章の校正を行っていく。									
到達目標	卒業論文を完成させる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<思考・問題解決能力>、<技能>、<態度>の修得に貢献する。									
授業計画 備考	15回									
授業計画 自由記載	第1回 論文作成の計画の再点検 第2回～第14回 執筆できた部分を報告し、ゼミで検討する。それを参考にして文章を推敲する。 第15回ゼミでのプレゼンテーション									
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
	授業への取り組みの姿勢/態度	40	意欲的な受講態度、発表討論への参加および積極的な意見・情報・アイデアの提供などで評価する。							
	レポート	60	発表シラマおよび報告書などで評価する。							
	小テスト									
	定期試験									
	その他									

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的に授業に参加すること。調べた文献を討議することが求められるため、よく文献を読み込んでくること求められる。計画的に論文執筆に取り組み、質問等あれば教員に相談すること。
授業外学習	1. 論文執筆作業を進める。 2. ゼミでのディスカッションを踏まえて論文構成の再考と文章の推敲を重ねる。 以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載
テキストは使用しない。適宜資料・文献を紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載
適宜紹介。

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	有
担当教員の業務経験	高校教諭及び指導主事(藤代昇文)(24年)、企業経営コンサルタント(佐々木公之)(10年)、一般企業(佐々木眞帆美)(2年)
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
業務経験をいかした教育内容	高校教諭・指導主事および企業経営者、企業コンサルタント、一般企業勤務の経験を活かした問題解決型の教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	評価レベル				
		A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	調査・研究の仕方等の基本的なアカデミックスキルについての知識がある。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について、専門ゼミVまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに調査を実施することができる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について、専門ゼミVまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに調査を実施することができる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について、専門ゼミVまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について、専門ゼミVまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について、専門ゼミVまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を理解できていない。
知識・理解	先行研究を通して課題について理解することができる。自らのテーマを設定することができる。	自らの研究テーマについて、文献を読み解き、課題を発見して自らのテーマを設定し、文章を書いたり、自らの意志を伝えることができる。	自らの研究テーマについて、文献を読み解き、課題を発見して自らのテーマを設定し、相手と話したり、短い文章を書いたりして、自らの意志を伝えることができる。	自らの研究テーマについて、文献を参考に自らのテーマを設定し、相手と話したり、短い文章を書いたりすることができる。	自らの研究テーマについて、相手と話したり、短い文章を書いたりすることができる。自らの課題について十分に理解し文献などを参照し自らのテーマを設定することはできない。	自らの研究テーマについて、相手と話ししたり、短い文章を書いたりすることが難しく、自分の意見を言うことも困難である。
知識・理解	自らのテーマについて様々な手段で調査し、論拠となる資料の情報を精査することができる。	自らの研究テーマについて理解し、文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。質が高く信頼ができる資料、関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らの研究テーマについて理解し、文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。信頼ができる資料、関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らの研究テーマについて理解し、文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。	自らの研究テーマについて理解することはできず、調査を行うことはできない。	自らの研究テーマについて理解することができず、調べることができない。
思考・問題解決能力	事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し、事実や意見に対する考えを、様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し、事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し、事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定しているが、事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができない。	自らの問題意識が不明瞭で、事実や意見に対する考えを伝えることができず卒業研究のテーマも設定できていない。
思考・問題解決能力	独創性と洞察力に富んでおり、論理の展開を整えて伝えることができる。	自らが設定した卒業研究テーマに沿って、論点に一貫性があり、序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており、卒業研究のテーマや課題を深く、鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	自らが設定した卒業研究テーマに沿って、論点に一貫性があり、論理の展開が明確である。また、テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で、意見性のある内容である。	論理構成は荒削りだが、自らが設定した卒業研究テーマに沿って、論点に一貫性がある。また、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。	自らの主張は理解できるが、論理展開が整っていないため分かりづらい。また、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。	
思考・問題解決能力	テーマや課題に対してゼミと協働し適切な解決方法を提案できる。	卒業研究のテーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、それぞれの役割を意識しながら、意見を集約して適切な解決方法をまとめ、提案できる。	卒業研究のテーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、意見を集約して適切な解決方法をまとめ、提案できる。	卒業研究のテーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、意見を集約することができる。	卒業研究のテーマや課題に対して、グループワークやペア活動を行い、協力することはできない。	卒業研究のテーマや課題に対して、グループワークやペアで協働することができない。
技能	論理の展開が整った文章を書くことができる。	論点に一貫性があり、序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており、卒業研究のテーマや課題を深く、鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており、卒業研究のテーマに関してオリジナリティに富んだ内容で、意見性のある内容である。	構成が整っており、卒業研究のテーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	卒業研究のテーマに沿って主張しているが、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。	卒業研究について自らの主張がなく、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。
技能	わかりやすく伝えるプレゼンテーション力がある。	原稿を読み上げるのではなく、自分の言葉で、ゆっくり大きな声で、ホワイトボードやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく、自分の言葉で、ゆっくり大きな声で、聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げているが、話す時には目を上げて、ゆっくり大きな声で、聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており、目標が常に下向きか、スクリーンの方を向いており、ゆっくり大きな声ではあるが、聞き手に対して訴えかけているとは言いえない。	原稿を読み上げたり、目標が常に下向きか、スクリーンの方を向いており、声も小さく、何を発表しているのかわからない。
技能	調査結果を分析することができる。	調査によって得られたデータを集計した後、十分な統計的知識をもって統計ソフト等を活用して分析し、結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後、統計ソフト等を活用して分析し結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後、統計ソフト等を活用して分析することができる。	調査によって得られたデータを集計することはできない。統計ソフト等を活用して分析することはできない。	調査によって得られたデータを集計することができず、結果の傾向を示すことができない。
態度	他の意見に傾聴することで、柔軟に対応することができる。	他者から受ける助言を丁寧に聴くことができ、他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ、他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ、他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができる。	他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができないが、相手の意見を聞くという態度に欠ける。	他者と意見の食い違いがある場合に相手の意見を聞くという態度に欠け、自分の意見を押し通そうとする。
態度	他の人と協調性をもって協働して協議、研究を行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミと協働作業する際に、相手の意見をよく聞き、合意の元で協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミと協働作業する際に、十分話し合い協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミと協働作業する際に、協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミと協働作業する際に、他人と協力することができず、自らのやり方にとどまる。	グループワークやペア活動でゼミと協働作業する際に、他人と協力することができず、参加しない。
態度	主体性をもちストレスをコントロールしながら計画を実行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく、粘り強く最後まで計画を遂行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく、最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにすることなく、最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにすることなく、最後まで計画を遂行することができない。	与えられた計画を他人任せにせず、計画に参加しない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	卒業研究		授業番号	LH403	サブタイトル					
教員	藤代 昇丈、中安 章、宋 煥沃、佐々木 公之、岡本 輝彦、森年 ホール、アレクサンダー ヴァグニ、佐々木 真帆美、大宮 めぐみ、梶西 将司									
単位数	4単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修	
授業概要	本授業では、ゼミ担当教員等が5のフィードバックを基に推敲した卒業論文を完成させ提出する。研究内容については、卒業論文中間発表会・最終発表会で口頭発表および質疑応答を行う。									
到達目標	卒業論文を完成させ、指導教員等の助言を基に推敲した論文を提出する。卒業論文発表会では、口頭発表および質疑応答を行う。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞、＜思考・問題解決能力＞、＜技能＞、＜態度＞の修得に貢献する。									
授業計画 備考										
授業計画 自由記載										
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢/態度										
レポート										
小テスト										
定期試験										
その他		100	口頭発表および卒業論文で評価する。							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	卒業研究では、ゼミでの討論や発表会での議論を反映させ、自主的かつ積極的な態度で臨み、知識・理解、思考・問題解決能力、技能のすべてを注力して取り組むこと。
授業外学修	週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。適宜資料・文献を紹介する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜紹介。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	高校教諭及び指導主事(藤代昇文)(24年)、企業経営コンサルタント(佐々木公之)(10年)、一般企業(佐々木眞帆美)(2年)			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者				
業務経験をいかした教育内容	高校教諭・指導主事および企業経営者、企業コンサルタント、一般企業勤務の経験を活かした問題解決型の教育を行う。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	評価レベル				
		A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	調査・研究の仕方等の基本的なアカデミックスキルについての知識がある。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について、専門ゼミまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとにより高度に応用することができる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について、専門ゼミまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに調査を実施することができる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について、専門ゼミまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について、専門ゼミまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を理解できていない。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について、専門ゼミまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を理解できていない。
知識・理解	先行研究を通して課題について理解することができる。自らのテーマを設定することができる。	自らの研究テーマについて、文献を読み解き、課題を発見して自らのテーマを設定し、文章を書いたり、自らの意志を伝えることができる。	自らの研究テーマについて、文献を読み解き、相手と話したり、短い文章を書いたりして、自らの意志を伝えることができる。	自らの研究テーマについて、文献を参考に自らのテーマを設定し、相手と話したり、短い文章を書いたりすることができる。	自らの研究テーマについて、相手と話したり、短い文章を書いたりすることができるが、自らの課題について十分に理解し文献などを参照し自らのテーマを設定することはできない。	自らの研究テーマについて、相手と話したり、短い文章を書いたりすることができるが、自らの意見を言うことも困難である。
知識・理解	自らのテーマについて様々な手段で調査し、論拠となる資料の情報を精査することができる。	自らの研究テーマについて理解し、文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。質が高く信頼性のある資料、関連性のある資料を精査し上で使用できる。	自らの研究テーマについて理解し、文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。信頼性のある資料、関連性のある資料を精査し上で使用できる。	自らの研究テーマについて理解し、文献やインターネットのみならず、調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。	自らの研究テーマについて理解することはでき、資料を参照することはできるが、自ら調べることはできない。	自らの研究テーマについて理解することができ、調べることができない。
思考・問題解決能力	事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し、事実や意見に対する考えを、様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し、事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し、事実や意見に対する考えを整理を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定しているが、事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができない。	自らの問題意識が不明瞭で、事実や意見に対する考えを伝えることができない卒業研究のテーマも設定できない。
思考・問題解決能力	独創性と洞察力に富んでおり、論理の展開を整えて伝えることができる。	自らが設定した卒業研究テーマに沿って、論点に一貫性があり、序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており、卒業研究のテーマや課題を深く、鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	自らが設定した卒業研究テーマに沿って、論点に一貫性があり、論理の展開が明確である。また、テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で、意見性のある内容である。	論理構成は整っているが、自らが設定した卒業研究テーマに沿って、論点に一貫性がある。また、テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	自らの主張は理解できるが、論理展開が整っていないため分かりづらい。また、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。	論理展開が整っておらず、主張点が分らない。また、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	テーマや課題に対してゼミと協力し適切な解決方法を提案できる。	卒業研究のテーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、それぞれの役割を意識しながら、意見を集約して適切な解決方法をまとめ、提案できる。	卒業研究のテーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、意見を集約して適切な解決方法をまとめ、提案できる。	卒業研究のテーマや課題に対して、グループワークやペア活動を通して協働し、意見を集約することができる。	卒業研究のテーマや課題に対して、グループワークやペア活動を行い、協力することはできるが、意見を集約することはできない。	卒業研究のテーマや課題に対して、グループワークやペアで協働することができない。
技能	論理の展開が整った文章を書くことができる。	論点に一貫性があり、序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており、卒業研究のテーマや課題を深く、鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており、卒業研究のテーマに関してオリジナリティに富んだ内容で、意見性のある内容である。	構成が整っており、卒業研究のテーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	卒業研究のテーマに沿って主張しているが、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。	卒業研究について自らの主張がなく、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。
技能	わかりやすく伝えるプレゼンテーション力がある。	原稿を読み上げるのではなく、自分の言葉で、ゆっくりと大きな声で、ボディランゲージやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく、自分の言葉で、ゆっくりと大きな声で、聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げているが、話す時には目を上げて、ゆっくりと大きな声で、聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており、視線が常に下向きか、スクリーンの方を向いており、ゆっくりと大きな声ではあるが、聞き手に対して訴えかけているとは言いえない。	原稿を読み上げたり、視線が常に下向きか、スクリーンの方を向いており、声も小さく、何を発表しているのかわからない。
技能	調査結果を分析することができる。	調査によって得られたデータを集計した後、十分な統計的知識をもって統計ソフト等を活用して分析し、結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後、統計ソフト等を活用して分析し結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後、統計ソフト等を活用して分析することができる。	調査によって得られたデータを集計することはできるが、統計ソフト等を活用して分析することはできない。	調査によって得られたデータを集計することができず、結果の傾向を示すことができない。
態度	他の意見に傾聴することで、柔軟に対応することができる。	他者から受ける助言を丁寧に聴くことができ、他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ、他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ、他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんと話し合うことができる。	他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができるが、相手の意見を聞きとれない態度に欠ける。	他者と意見の食い違いがある場合に相手の意見を聞きとれない態度に欠け、自分の意見を押し通そうとする。
態度	他の人と協調性をもって協力で協議、研究を行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミと協働作業する際に、相手の意見をよく聞き、合意の元で協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミと協働作業する際に、十分話し合い協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミと協働作業する際に、協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミと協働作業する際に、他人と協力することができず、自らのやり方だけを行う。	グループワークやペア活動でゼミと協働作業する際に、他人と協力することができず、参加しない。
態度	主体性をもちストレスをコントロールしながら計画を実行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく、粘り強く最後まで計画を遂行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく、最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにすることなく、最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにすることなく、最後まで計画を遂行することができない。	与えられた計画を他人任せにし、計画に参加しない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	トッパー講義(キャリア研究)			授業番号	L1101	サブタイトル	
教員	佐々木 公之						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義
							必修・選択
必修							
授業概要	各業界で活躍されるトッパー(経営者・起業家・専門家等)を招き業界のしくみ, 求める人物像を講義・ケーススタディー・ディスカッション・アクティブラーニングを交えながら最先端の業界の動向や夢実現への必要なスキルの直接指導を受けます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 岡山地域を中心に各業界で活躍されるリーダーから直接, 社会に必要な知識, 社会的スキル, また考え方について講義を通じて直接指導を受け, 職業理解を高め, 将来の目指す方向, 大学生活で何をすべきかについて考え動機づけを行う。 将来の目標が明確に言えることができる。 学生時代にチャレンジすることが年次ごとに具体的に述べられることができる なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	トッパーとは 復習 トッパーについてまとめ					佐々木	
第2回	アクティブラーニング演習 予習 アクティブラーニング練習課題 復習 レポート作成					佐々木	
第3回	トッパー講義(1) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成					外部講師+佐々木	
第4回	トッパー講義(2) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成					外部講師+佐々木	
第5回	トッパー講義(3) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成					外部講師+佐々木	
第6回	トッパー講義(4) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成					外部講師+佐々木	
第7回	トッパー講義(5) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成					外部講師+佐々木	
第8回	トッパーの気質と特徴					佐々木	
第9回	トッパー講義(6) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成					外部講師+佐々木	
第10回	トッパー講義(7) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成					外部講師+佐々木	
第11回	トッパー講義(8) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成					外部講師+佐々木	
第12回	トッパー講義(9) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成					外部講師+佐々木	
第13回	トッパー講義(10) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成					外部講師+佐々木	
第14回	トッパーと業界分析(1)					佐々木	
第15回	トッパーと業界分析(2)					佐々木	
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度, 予・復習の状況によって評価する。				
	レポート	70	各業界の特徴や自分自身が今後どうすべきかが具体的に述べてあること。 レポート内容を確認後, コメントを付けてフィードバックを行う。				
	小テスト						
	定期試験						
	その他	10	プレゼンテーションをとおして最終的な理解度を評価する。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受講前に、業界について事前に調査を行い、受講後、復習を必ず行い理解を高めることを強く勧める。
授業外学修	1 予習として、各リーダーの業界を毎回調査し分析すること。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学修として、講師・授業で紹介された参考文献・記事などを読む。 以上の内容を、適当に4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	配布プリント			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜配布			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の实務経験	企業（銀行・都市ガス会社）、自営（企業コンサルティング経験）、会社役員など経営戦略に関わる経験			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	企業等からの講師による指導を実施			
実務経験をいかした教育内容	企業コンサルティング経験を生かして、学生の社会人基礎力向上の指導などを行う。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. トップリーダーの意思、考え方が理解できる	トップリーダーの考え方が理解でき、その考え方に對して共感、疑問を持ちディスカッションできる。	トップリーダーの考え方を理解し、共感し疑問を持つことができる。	トップリーダーの考え方や講義の意図が理解することができる。	トップリーダーの考え方や講義の意図が概ね理解することができる。	トップリーダーの言っていることが理解できない。
思考・問題解決能力	2. 社会動向を理解している	信頼できるリソースから、社会動向を調査し学習課題に取り組みることができる。	リソースの信頼性に注意して、社会動向を概ね正しい内容かどうかを理解して学習課題に取り組みることができる。	リソースを用いて、学習課題に取り組みることができる。	リソースの信頼性についての注意が不十分で、学習内容にいくつかの誤りが含まれている。	リソースを用いて、学習課題に取り組みることができない。
思考・問題解決能力	3. 他者を理解し問題解決が出来る	他者と自分の共通点や違いを認識したうえで、他者の考えや思いを多角的に想像し、共感することができる。	他者のことばや身体表現だけでなく、これまでの経験や取り巻く環境を想像しながら、他者の思いを想像することができる。	他者のことばや身体表現から、その人の考えや思いの一面を想像することができる。	他者は、それぞれに感じ方や考え方が多様であることを認識している。	他者の考え方や思いが理解できない。
思考・問題解決能力	4. チームビルディングが身に付いている	チームに臨機応変に対応する即興性、集団で協働して目標を達成することができ、チームメイトとの関係性を育むことができる。	議論をより活発で創造的なものにするため、チームメイトの多様性を配慮・尊重しながら行動することができる。	チームメイトとの課題解決に取り組みることができる。	チームメイトとの課題解決のあり方を認識することができる。	チームメイトとの協働作業による問題解決ができない。
思考・問題解決能力	5. コミュニケーションによる問題解決能力が身に付いている	相手とのコミュニケーションを解釈し、相手の感情に応答しながら多様な表現方法にて問題解決ができる。	伝える聞かために、言葉だけでなく、身体表現方法（声やジェスチャーなど）を意識しながらコミュニケーションをとることができる。	相手の話を受容する聴き方を意識しながら、分は何を伝えたいかなど、自分の考えや思いを認識したうえで話すことができる。	相手を否定する聞き方と肯定する聞き方の違いなど、様々な段階や種類があることを認識することができる。	相手の話を聞くこと、話すことができない。

科目名	キャリア・デザイン	授業番号	LI301	サブタイトル	
教員	佐々木 公之				
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期
				授業形態	講義
					必修・選択
必修					
授業概要	「将来の自分が何をしたいのか?」「どの様な学生生活で成長するのか?」など大学4年間の過ごし方、学習への動機付けを行う。将来の自分のべき姿を考え、4年間で何を学び、どの様な資格にチャレンジするか人生設計を企て大局的な視野に立って考える。挨拶、文章の書き方等の社会的基盤技能習得や人生ロードマップ作成、大学4年間のアクションプラン作成を求める。				
到達目標	将来の人生設計を考えた4年間の学生生活の過ごし方と職業理解を高める。現時点での、自分自身を理解した上で、社会現状、各業界・業種の特徴、ワークスタイルなどを考えながら将来に対して大学生活で何をすべきかについて考え動機付けを行う。授業を通じて、将来の自分を見据えたキャリアデザインを描き、そこに到達するまでの4年間の行動方針の設定を目指す。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士上内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	キャリアデザインとは：講師のキャリアを通じて重要性を理解する 就職支援課より配布される就活関連Book、授業中に配布される資料の事前・事後チェック				
第2回	ライフコースを知る ～将来のキャリアと大学教育～：教材を読みキャリアの重要性を理解する 教科書の事前・事後チェック				
第3回	働くことを考える：教材を通じて働くことの意義を理解する 教科書の事前・事後チェック				
第4回	変化の激しい社会と意識：教材を通じて現代社会の若者動向について考える 配布資料の事前・事後チェック				
第5回	社会が求める人物像：グループ討議により社会的スキルについて考える 配布資料の事前・事後チェック				
第6回	大学から労働への移行：実社会で求める人物像についてグループ討議 配布資料の事前・事後チェック				
第7回	企業のスキルシフトと労働者のキャリア：労働環境・労働形態について学ぶ 配布資料の事前・事後チェック				
第8回	日本の雇用制度とワーク・ライフ・バランス：日本的な雇用形態を理解する 配布資料の事前・事後チェック				
第9回	世界をみよキャリアのあり方：ローモデル教育として世界で活躍する人物について考える 配布資料の事前・事後チェック				
第10回	キャリアとビジネススキル(1) ～挨拶・言葉遣い～：社会的スキルとして事例にて学ぶ 配布資料の事前・事後チェック				
第11回	キャリアとビジネススキル(2) ～ビジネス文書の書き方～：ビジネスに必要な基礎知識を学ぶ 配布資料の事前・事後チェック				
第12回	キャリアとビジネススキル(3) ～チームビルディング～：キャリアについてグループ討議 討議内容について準備と振り返り				
第13回	人生ロードマップ作成：目標と夢の明確化を行う レポート作成と振り返り				
第14回	大学4年間のアクションプラン作成：4年間のアクションプランを発表する 事前に発表準備と振り返り				
第15回	大学生活とキャリアデザイン：年次ごとの目標を明確化したアクションプランを考える 事後でのレポート作成				
授業計画 備考2					

評価の方法		
種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。
レポート	40	夢・目標・アクションプランが具体的に述べてあること。 レポート内容を確認後、コメントを付けてフィードバックを行う。
小テスト		
定期試験	30	ビジネスマナーが習得できているかを評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> 事前にとピックについて予習を行い、事後学習として講義のまとめを行うことを強く勧める。 受講前に、教科書を読み理解して授業に臨むこと グループワークでは積極的に授業に参加すること 授業中に他学生に迷惑を掛けないように受講すること
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 授業毎に紹介する教科書、参考文献を次回授業までに読んでおくこと。 復習として、グループワーク、課題のレポートを書く。 発展学修として、授業で紹介された記事などを読む。 以上の内容を、適当に94時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

別途指示

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

小野田博之著「自分のキャリアを自分で考えるためのワークブック」(日本能率協会マネジメントセンター、2005)
--

その他

--

備考

--

注意事項

--

担当教員の業務経験の有無

有

担当教員の業務経験

企業（銀行・都市ガス会社）、自営（企業コンサルティング経験）、会社役員など経営戦略に関わる経験

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

--

業務経験をいかした教育内容

企業コンサルティング経験を生かして、学生の社会人基礎力向上の指導などを行う。
--

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. キャリアデザイン考え方が理解できる	キャリアデザインの考え方が理解でき、その考え方に對して共感、疑問を持ちディスカッションできる。	キャリアデザインの考え方を理解し、共感し疑問を持つことができる。	キャリアデザインの考え方や講義の意図が理解することができる。	キャリアデザインの考え方や講義の意図が概ね理解することができる。	キャリアデザインの考え方が理解できない。
思考・問題解決能力	2. 社会動向を理解している	信頼できるリソースから、社会動向を調査し学習課題に取り組みることができる。	リソースの信頼性に注意して、社会動向を概ね正しい内容かどうかを理解して学習課題に取り組みることができる。	リソースを用いて、学習課題に取り組みることができる。	リソースの信頼性についての注意が不十分で、学習内容にいくつかの誤りが含まれている。	リソースを用いて、学習課題に取り組みることができない。
思考・問題解決能力	3. 他者を理解し問題解決が出来る	他者と自分の共通点や違いを認識したうえで、他者の考えや思いを多角的に想像し、共感することができる。	他者のことばや身体表現だけでなく、これまでの経験や取り巻く環境を想像しながら、他者の思いを想像することができる。	他者のことばや身体表現から、その人の考えや思いの一面を想像することができる。	他者は、それぞれに感じ方や考え方が多様であることを認識している。	他者の考え方や思いが理解できない。
思考・問題解決能力	4. チームビルディングでが身に付いている	チームに臨機応変に対応する即興性、集団で協働して目標を達成することができる。チームメイトとの関係性を育むことができる。	議論をより活発で創造的なものにするため、チームメイトの多様性を配慮・尊重しながら行動することができる。	チームメイトとの課題解決に取り組みることができる。	チームメイトとの課題解決のあり方を認識することができる。	チームメイトとの協働作業による問題解決ができない。
思考・問題解決能力	5. コミュニケーションによる問題解決能力が身に付いている	相手とのコミュニケーションを解釈し、相手の感情に応答しながら多様な表現方法にて問題解決ができる。	伝える聞かために、言葉だけでなく、身体表現方法（声やジェスチャーなど）を意図しながらコミュニケーションをとることができる。	相手の話を受容する聴き方を意識しながら、分は何を伝えたいかなど、自分の考えや思いを認識したうえで話すことができる。	相手を否定する聞き方と肯定する聞き方の違いなど、様々な段階や種類があることを認識することができる。	相手の話を聞くこと、話すことができない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	ビジネスプランコンテスト			授業番号	L1302	サブタイトル	
教員	佐々木 公之						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義
						必修・選択	選択
授業概要	ビジネスプラン（事業計画書）の概念を学ぶことで、企業経営の経営計画・起業の本質を理解する。 ビジネスプラン作成に必要な手順、方法等について学ぶ。 ベンチャー企業の実例をもとに、成功・失敗の要因などについて考察する。						
到達目標	・ビジネスプラン（事業計画書）の概念と、社会におけるその重要性を、他者に説明できるようにする。 ・ビジネスプラン（事業計画書）を通じて、経営者・起業家の気持ちを持つようになる。 ・広義の起業家精神を持って勉学、社会生活に臨むことができるようになる。 ・身近なベンチャー企業の実例を複数挙げられる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	ビジネスプラン作成とは何か						
第2回	良いビジネスプランを作成する準備（1） -ビジネスプランの作成目的-						
第3回	良いビジネスプランを作成する準備（2） -ビジネスプランの進め方-						
第4回	ビジネスプラン作成のフレームワーク（1） -顧客分析の進め方-						
第5回	ビジネスプラン作成のフレームワーク（2） -競合分析の進め方-						
第6回	ビジネスプラン作成のフレームワーク（3） -自社分析の進め方-						
第7回	ビジネスプラン作成のポイント（1） -誰がやるのか-						
第8回	ビジネスプラン作成のポイント（2） -いかに儲かる仕組みを創るか-						
第9回	ビジネスプランの構成と書き方（1） -ビジネスプランの事業概要-						
第10回	ビジネスプランの構成と書き方（2） -基本戦略-						
第11回	ビジネスプランの構成と書き方（3） -財務計画(1)-						
第12回	ビジネスプランの構成と書き方（4） -財務計画(2)-						
第13回	ビジネスプランとアプトット（1） -プレゼンテーション技法-						
第14回	ビジネスプランとアプトット（2） -発表-						
第15回	ビジネスプランとアプトット（3） -総括-						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	受講時の発言等の積極性を評価する。				
	レポート	20	修了レポートの内容レベルを評価する。 レポート内容を確認後、コメントを付けてフィードバックを行う。				
	小テスト						
	定期試験	50	ビジネスプランの内容レベルを評価する。				
	その他						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	ビジネスプラン作成は、単なる知識の一方的伝達ではなく、双方の議論を重視する。普段から問題意識を持ち、質問その他、幅広く発言できるようにしておくこと。
授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 予習として、講義での指示やシラバス、テキストを参照し、授業内容にかかわる部分の疑問点を明らかにしておくこと。 広く新聞、雑誌・書籍、TV・ラジオ、ウェブサイト等から社会経済の新しい動向の把握に努めること。 関連機関の行う講習・講演会、見学会、起業家との触れ合いなどの機会を積極的に探して参加する努力をすること。以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ビジネス実務と経営学の基礎を学ぶ教科書ノート	佐々木公之、大田佳吉他	銀河書籍	9784966450278	1100
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ベンチャー企業	松田修一	日本経済新聞社	978-4-532-11303-2	1000
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	経営コンサルタントとして起業家に向けビジネスプラン作成の指導実績あり			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	企業コンサルティングの経験を生かして、ビジネスプラン作成や論理的思考力向上などの指導を行う。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. ビジネスプランの考え方が理解できる	キャリアデザインの考え方が理解でき、その考え方に對して共感、疑問を持ちディスカッションできる。	ビジネスプランの考え方を理解し、共感し疑問を持つことができる。	ビジネスプランの考え方や講義の意図が理解することができる。	ビジネスプランの考え方や講義の意図が概ね理解することができる。	ビジネスプランの考え方が理解できない。
思考・問題解決能力	2. 社会動向を理解している	信頼できるリソースから、社会動向を調査し学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性に注意して、社会動向を概ね正しい内容がどうかを理解して学習課題に取り組むことができる。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性についての注意が不十分で、学習内容にいくつかの誤りが含まれている。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができない。
思考・問題解決能力	3. ビジネス課題を理解し問題解決が出来る	ビジネス課題を多角的に想像し、ビジネスアイデアを形式化できる。	ビジネス課題を想像しながら、アイデアの思いを想像することができる。	ビジネス課題を想像することができる。	ビジネス課題が多様であることを認識している。	ビジネス課題が理解できない。
技能	1. チームビルディングでが身に付いている	チームに臨機応変に回答する即興性、集団で協働して目標を達成することができ、チームメイトとの関係性を育むことができる。	議論をより活発で創造的なものにするため、チームメイトの多様性を配慮・尊重しながら行動することができる。	チームメイトとの課題解決に取り組むことができる。	チームメイトとの課題解決のあり方を認識することができる。	チームメイトとの協働作業による問題解決ができない。
技能	2. コミュニケーションによる問題解決能力が身に付いている	相手とのコミュニケーションを解釈し、相手の感情に反応しながら多様な表現方法にて問題解決ができる。	伝える聞かために、言葉だけでなく、身体表現方法（声やジェスチャーなど）を認識しながらコミュニケーションをとることができる。	相手の話を受容する聴き方を意識しながら、分は何を伝えたいかなど、自分の考えや思いを認識したうえで話すことができる。	相手を否定する聞き方と肯定する聞き方の違いなど、様々な段階や種類があることを認識することができる。	相手の話を聞くこと、話すことができない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	インターンシップ (短期)			授業番号	L1303	サブタイトル			
教員	佐々木 公之								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	約2週間目って、将来のキャリアを念頭に企業・行政・NPOにて就業体験を行う制度である。職場の事情を知り体感することで職業理解、実務能力を向上させるだけでなく、自己の職業適性について考える契機となる。学内にて事前研修を行った後、実際9-10日間のインターンシップを経験する。期間中は、「インターンシップ実施日誌」、受け入れ先からの実習の態度、意欲、成果について評価された「インターンシップ実施評価報告書」、インターンシップ終了後の「体験報告書」にて総合的に精査し評価される。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> -職業、勤労をより実践的に理解する。 -仕事を遂行する上での様々な技能を実践的に習得する。 -自己の将来を見据えて人間的な成長を図る。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士上の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1回 社会とインターンシップ 第2回 ソーシャルマナー 第3回 応募先決定・応募 第4～28回 インターンシップ実習 第29回 実習体験報告 第30回 インターンシップふりかえり								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	70	実習受け入れ先からのフィードバックに基づき評価を行う。						
	レポート								
	小テスト								
	定期試験								
	その他	30	学内での取組み状況・体験報告会を通じて評価を行う。						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受講前に、インターンシップ先の業界の外部環境を調査しビジネススキルを磨いておくこと。
授業外学修	1 予習として、希望インターンシップ先の業界調査を行うこと。 2 復習として、インターンシップでの実習を通じて得られたことをレポートとして書く。 3 発展学修として、講師-インターンシップ先より紹介された参考文献・記事・ニュースなどを理解すること。 以上の内容を、適当に4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	体験報告書等			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜配布			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	企業で社員教育・インターンシップ受け入れなどの経験			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	有			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	企業等からの講師による指導を実施			
実務経験をいかした教育内容	企業でのインターンシップを受け入れた経験を生かして、学生の適応力、マナー、挨拶などの社会人基礎力向上に力ず。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー-学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. インターンシップ先の考え方が理解できる	インターンシップ先の考え方が理解でき、その考え方に対して共感、疑問を持ちディスカッションできる。	インターンシップ先の考え方を理解し、共感を疑問を持つことができる。	インターンシップ先の考え方と講義の意図が理解することができる。	インターンシップ先の考え方や講義の意図が概ね理解することができる。	インターンシップ先の考え方が理解できない。
思考・問題解決能力	2. 社会人としてのマナーを身に付けている。	社会人に必要なビジネスマナーが身に付いて、インターンシップに取り組むことができる。	社会人に必要なビジネスマナーが概ね身に付いて、インターンシップに取り組むことができる。	ビジネスマナーの心構えを持って、インターンシップに取り組むことができる。	社会人に必要なビジネスマナーの心構えが不十分で、インターンシップ先にミスがある。	社会人に必要なビジネスマナーの身に付いておらず、インターンシップ先に向き合いが不十分。
思考・問題解決能力	3. 他者を理解し問題解決が出来る	他者と自分の共通点や違いを認識したうえで、他者の考えや思いを多角的に想像し、共感することができる。	他者のことばや身体表現だけでなく、これまでの経験や取り巻く環境を想像しながら、他者の思いを想像することができる。	他者のことばや身体表現から、その人の考えや思いの一面を想像することができる。	他者は、それぞれに感じ方や考え方が多様であることを認識している。	他者の考え方や思いが理解できない。
思考・問題解決能力	4. チームビルディングでが身に付いている	チームに臨機応変に対応する即興性、集団で協働して目標を達成することができ、チームメイトとの関係性を育むことができる。	議論をより活発で創造的なものにするため、チームメイトの多様性を配慮・尊重しながら行動することができる。	チームメイトとの課題解決に取り組むことができる。	チームメイトとの課題解決のあり方を認識することができる。	チームメイトとの協働作業による問題解決ができない。
思考・問題解決能力	5. コミュニケーションによる問題解決能力が身に付いている	相手とのコミュニケーションを解釈し、相手の感情に応答しながら多様な表現方法にて問題解決ができる。	伝える聞かために、言葉だけでなく、身体表現方法（声やジェスチャーなど）を意図しながらコミュニケーションをとることができる。	相手の話を受容する聴き方を意識しながら、分は何を伝えたいかなど、自分の考えや思いを認識したうえで話すことができる。	相手を否定する聞き方と肯定する聞き方の違いなど、様々な段階や種類があることを認識することができる。	相手の話を聞くこと、話すことができない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	インターンシップ (中長期)			授業番号	L1304	サブタイトル			
教員	佐々木 公之								
単位数	4単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	実習	必修・選択	選択
授業概要	1ヵ月～2ヵ月にかけて、将来のキャリアを考えた国内外にて就業体験を企業・行政・NPOにて行う制度である。国内企業にて長期間の就業体験を積むことで職業理解、実務能力向上を目指す。海外インターンシップでは海外での就業体験にて、異文化理解だけでなく、語学力の向上にて国際的視野に立った人材育成が図られる。学内にて事前研修を行った後、実際20～50日間のインターンシップを経験する。期間中は、「インターンシップ実施日誌」、受け入れ先からの実習の態度、意欲、成果について評価された「インターンシップ実施評価報告書」、インターンシップ終了後の「体験報告書」にて総合的に精査し評価される。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> -職業、勤労をより実践的に理解する。 -仕事を遂行する上での様々な技能を中長期間掛けて実践的に習得する。 -自己の将来を見据えて人間的な成長を図る。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学上土力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1回 社会とインターンシップ 第2回 ソーシャルマナー 第3回 応募先決定・応募 第4～98回 インターンシップ実習 第99回 実習体験報告 第100回 インターンシップふりかえり								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	70	実習受け入れ先からのフィードバックに基づき評価を行う。						
	レポート								
	小テスト								
	定期試験								
	その他	30	学内での取組み状況・体験報告会を通じて評価を行う。						

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受講前に、インターンシップ先の業界の外部環境を調査しビジネススキルを磨いておくこと。
授業外学修	1 予習として、希望インターンシップ先の業界調査を行うこと。 2 復習として、インターンシップでの実習を通じて得られたことをレポートとして書く。 3 発展学修として、講師・インターンシップ先より紹介された参考文献・記事・ニュースなどを理解すること。 以上の内容を、適当に4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	体験報告書等			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜配布			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無	有			
担当教員の業務経験	企業で社員教育・インターンシップ受け入れなどの経験			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	有			
担当教員以外で指導に関わる業務経験者	企業等からの講師による指導を実施			
業務経験をいかした教育内容	企業でのインターンシップを受け入れた経験を生かして、学生の適応力、マナー、挨拶などの社会人基礎力向上に力ず。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. インターンシップ先の考え方が理解できる	インターンシップ先の考え方が理解でき、その考え方に對して共感、疑問を持ちディスカッションできる。	インターンシップ先の考え方を理解し、共感を覚えることができる。	インターンシップ先の考え方や講義の意図が理解することができる。	インターンシップ先の考え方や講義の意図が概ね理解することができる。	インターンシップ先の考え方が理解できない。
思考・問題解決能力	2. 社会人としてのマナーを身に付けている。	社会人に必要なビジネスマナーが身に付いて、インターンシップに取り組むことができる。	社会人に必要なビジネスマナーが概ね身に付いて、インターンシップに取り組むことができる。	ビジネスマナーの心構えを持って、インターンシップに取り組むことができる。	社会人に必要なビジネスマナーの心構えが不十分で、インターンシップ先にミスがある。	社会人に必要なビジネスマナーの身に付いておらず、インターンシップ先に向く取り組みなし。
思考・問題解決能力	3. 他者を理解し問題解決が出来る	他者と自分の共通点や違いを認識したうえで、他者の考えや思いを多角的に想像し、共感することができる。	他者のことばや身体表現だけでなく、これまでの経験や取り巻く環境を想像しながら、他者の思いを想像することができる。	他者のことばや身体表現から、その人の考えや思いの一面を想像することができる。	他者は、それぞれに感じ方や考え方が多様であることを認識している。	他者の考え方や思いが理解できない。
思考・問題解決能力	4. チームビルディングでが身に付いている	チームに臨機応変に対応する即興性、集団で協働して目標を達成することができ、チームメイトとの関係性を育むことができる。	議論をより活発で創造的なものにするため、チームメイトの多様性を配慮・尊重しながら行動することができる。	チームメイトとの課題解決に取り組むことができる。	チームメイトとの課題解決のあり方を認識することができる。	チームメイトとの協働作業による問題解決ができない。
思考・問題解決能力	5. コミュニケーションによる問題解決能力が身に付いている	相手とのコミュニケーションを解釈し、相手の感情に応答しながら多様な表現方法にて問題解決ができる。	伝える聞かために、言葉だけでなく、身体表現方法（声やジェスチャーなど）を意図しながらコミュニケーションをとることができる。	相手の話を受容する聴き方を意識しながら、分は何を伝えたいかなど、自分の考えや思いを認識したうえで話すことができる。	相手を否定する聞き方と肯定する聞き方の違いなど、様々な段階や種類があることを認識することができる。	相手の話を聞くこと、話すことができない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	夏季語学研修			授業番号	LJ101	サブタイトル			
教員	佐々木 真帆英								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	英語圏での語学研修や現地での滞在を通して英語力とコミュニケーションスキルに加え異文化で生きる力を集中して高めたい学生を対象にした留学プログラムである。夏休み（8月下旬～9月上旬）期間中にカナダのバンクーバー・アイランドのEF校で週26レッスンの英語学習を課す。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 留学で日常生活に必要な英語の語彙、表現を理解できる。 2. 語学学校や日常生活の様々なアクティビティを通して、英語の4技能をバランスよく向上させることができる。 3. 簡単な日常会話であれば外国人とコミュニケーションを取ることができる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学上力の内容のうち、〈知識・理解〉、〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	<ul style="list-style-type: none"> ・事前指導では、留学前に英語学習や留学先について調べレポートを提出すること。 ・事後指導では、留学後に留学で得られたものについてレポートを提出すること。 								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢/態度									
レポート		100	事前事後学習の課題を総合的に評価する。なお、フィードバックは返却時に個別に行う。						
小テスト									
定期試験									
その他									

評価の方法：自由記載	
受講の心得	中国学園を代表して研修に参加するものとし、留学中は本学の学生として恥ずかしくない振る舞いを心がけること。
授業外学修	留学期間中は、語学学校で出された課題について1日2時間程度を予習・復習の授業外学修に費やすこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	EF校で指定されたテキストを使用する（留学費用の中にテキスト代は含まれている）。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	なし			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 留学で日常生活に必要な英語の語彙、表現を理解できる。	日常生活に必要な英語の語彙や表現のニュアンスをしっかりと理解し、応用して使用することができる。	日常生活に必要な英語の語彙や表現を理解し、使用することができる。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を理解している。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を一部覚えてはいるが、理解できていない語彙や表現がある。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を理解していない。
知識・理解	2. 日常生活に関する事柄について、英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、既習の英単語・英語表現・文法事項を活用して、英語で自由にコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて、英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて、簡単な英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、語彙選びや文法的ミスがあるものの、簡単な英語であれば概ねコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、語彙選びや文法的ミスが多く、簡単な英語であってもコミュニケーションを取ることができない。
知識・理解	3. 言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解している。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを明確に理解したうえで、他者との違いを調整しコミュニケーションをとることができる。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解したうえで、他者との違いを調整しようとする。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解し、その違いを説明することができる。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いがあることは認識しているが、その違いを明確に説明することができない。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを認識できていない。
技能	1. 英語を聞いたり読んだりして、その内容を理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を的確に理解し、それを自分の言葉で正確に説明することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を理解し、その概要を自分の言葉で説明することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を概ね理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容の一部を理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を理解することができない。
技能	2. 自分が伝えたい内容を英語で表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を活用して、自分が伝えたい内容を英語で的確に表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、自分が伝えたい内容を短い英文を用いて表現することができる。	既存の英文を参考にして、自分が伝えたい内容を英語で表現することができる。	既存の英文を参考にして、自分が伝えたい内容を英語で表現しようとするが、一部間違いがあり内容が伝わりにくい。	既存の英文を参考にしても、自分が伝えたい内容を英語で表現することができない。
技能	3. 他の言語や文化に興味をもち、異なる文化をもつ人とコミュニケーションをとることができる。	他の言語や文化について自発的に調べ、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場積極的に入って行くことができる。	他の言語や文化について興味をもち、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場に入っていくことができる。	他の言語や文化について興味をもち、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場が設定されればコミュニケーションをとることができる。	他の言語や文化について興味はあるが、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションをとろうとしない。	他の言語や文化について興味をもち、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションをとろうとしない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	春季語学研修			授業番号	LJ102	サブタイトル			
教員	佐々木 真帆美								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	英語圏での語学研修や現地での滞在を通して英語力とコミュニケーションスキルに加え異文化で生きる力を集中して高めたい学生を対象にした留学プログラムである。春休み(2月下旬から3月上旬)期間中にオーストラリア・シドニーのEF校で週26レッスンの英語学習を課す。								
到達目標	<p>1. 留学で日常生活に必要な英語の語彙、表現を理解できる。</p> <p>2. 留学学校や日常生活の様々なアクティビティを通して、英語の4技能もバランスよく向上させることができる。</p> <p>3. 簡単な日常会話であれば外国人とコミュニケーションを取ることができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学上力の内容のうち、<知識・理解>、<技能>の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	<p>事前指導では、留学前に英語学習や留学先について調べレポートを提出すること。</p> <p>事後指導では、留学後に留学で得られたものについてレポートを提出すること。</p>								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢/態度									
レポート		100	事前事後学習の課題を総合的に評価する。なお、フィードバックは返却時に個別に行う。						
小テスト									
定期試験									
その他									

評価の方法：自由記載	
受講の心得	中国学園を代表して研修に参加するものとし、留学中は本学の学生として恥ずかしくない振る舞いを心がけること。
授業外学修	留学期間中は、語学学校で出された課題について1日2時間程度を予習・復習の授業外学修に費やすこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載 EF校で指定されたテキストを使用 する(留学費用の中にテキスト代は含まれている)。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	なし
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の業務経験の有無	
担当教員の業務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 留学で日常生活に必要な英語の語彙、表現を理解できる。	日常生活に必要な英語の語彙や表現のニュアンスをしっかりと理解し、応用して使用することができる。	日常生活に必要な英語の語彙や表現を理解し、使用することができる。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を理解している。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を一部覚えてはいるが、理解できていない語彙や表現がある。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を理解していない。
知識・理解	2. 日常生活に関する事柄について、英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、既習の英単語・英語表現・文法事項を活用して、英語で自由にコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて、英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて、簡単な英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、語彙選びや文法的ミスがあるものの、簡単な英語であれば概ねコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、語彙選びや文法的ミスが多く、簡単な英語であってもコミュニケーションを取ることができない。
知識・理解	3. 言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解している。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを明確に理解したうえで、他者との違いを調整しコミュニケーションをとることができる。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解したうえで、他者との違いを調整しようとする。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解し、説明することができる。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いがあることは認識しているが、その違いを明確に説明することができない。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを認識できていない。
技能	1. 英語を聞いたり読んだりして、その内容を理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を的確に理解し、それを自分の言葉で正確に説明することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を理解し、その概要を自分の言葉で説明することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を概ね理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容の一部を理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を理解することができない。
技能	2. 自分が伝えたい内容を英語で表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を活用して、自分が伝えたい内容を英語で的確に表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、自分が伝えたい内容を短い英文を用いて表現することができる。	既存の英文を参考にして、自分が伝えたい内容を英語で表現することができる。	既存の英文を参考にして、自分が伝えたい内容を英語で表現しようとするが、一部間違いがあり内容が伝わりにくい。	既存の英文を参考にしても、自分が伝えたい内容を英語で表現することができない。
技能	3. 他の言語や文化に興味をもち、異なる文化をもつ人とコミュニケーションをとることができる。	他の言語や文化について自発的に調べ、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場積極的に入って行くことができる。	他の言語や文化について興味をもち、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場に入っていくことができる。	他の言語や文化について興味をもち、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場が設定されればコミュニケーションをとることができる。	他の言語や文化について興味はあるが、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションをとろうとしない。	他の言語や文化について興味をもち、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションをとろうとしない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	セメスター留学		授業番号	LJ201	サブタイトル					
教員	佐々木 真帆英									
単位数	12単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択	
授業概要	英語圏での語学研修や現地での滞在を通して英語力とコミュニケーションスキルに加え異文化で生きる力を集中して高めた学生を対象にしたプログラムである。2年後期（9月末～1月中旬）期間中に北米、ヨーロッパ、オセアニア、アジアのさまざまな会場等のESL（English as a Second Language）プログラムにて週30時間以上の英語学習を課した留学プログラムである。									
到達目標	各留学先で提供されるプログラムを合格点で修了させること。分野別に授業が実施されることになるが、全ての授業で合格点を獲得しなければ、所定12単位は取得できないので注意すること。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<技能>の修得に貢献する。									
授業計画 備考										
授業計画 自由記載	留学先ごとに若干の差があるが、Listening, Speaking, Reading, Writing, Vocabulary, Grammar, Spelling, Pronunciationの分野から現地でのESLの授業が行われる。いずれの留学先においても、ESLの授業クラスはレベル分けされており、プレースメント・テスト等により所属クラスが決定される。									
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢/態度										
レポート										
小テスト										
定期試験										
その他		100	留学先から送付される各授業の成績や担当教員の所感等を総合的に判断して評価する。							

評価の方法：自由記載	
受講の心得	中国学園を代表して研修に参加するものとし、留学中は本学の学生として恥ずかしくない振る舞いを心がけること。
授業外学修	留学期間中は、1日3時間程度を予習・復習の授業外学修に費やし、残りの時間は帰国後（12月末）から学期が終了する1月下旬まで、帰国プレゼンテーションのための資料づくりや報告書の作成等に費やすことで、必要な時間数を確保することに努める。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	留学先にて指定されたものを購入する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	なし			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の業務経験の有無				
担当教員の業務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	1. 留学で日常生活に必要な英語の語彙、表現を理解できる。	日常生活に必要な英語の語彙や表現のニュアンスをしっかりと理解し、応用して使用することができる。	日常生活に必要な英語の語彙や表現を理解し、使用することができる。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を理解している。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を一部覚えていないが、理解できていない語彙や表現がある。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を理解していない。
知識・理解	2. 日常生活に関する事柄について、英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、既習の英単語・英語表現・文法事項を活用して、英語で自由にコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて、英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて、簡単な英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、語彙選びや文法的ミスがあるものの、簡単な英語であれば概ねコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について、語彙選びや文法的ミスが多く、簡単な英語であってもコミュニケーションを取ることができない。
知識・理解	3. 言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解している。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを明確に理解したうえで、他者との違いを調整しコミュニケーションをとることができる。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解したうえで、他者との違いを調整しようとする。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解し、説明することができる。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いがあることは認識しているが、その違いを明確に説明することができない。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを認識できていない。
技能	1. 日常生活において英語を聞いたり読んだりして、その内容を理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を的確に理解し、それを自分の言葉で正確に説明することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を理解し、その概要を自分の言葉で説明することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を概ね理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容の一部を理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして、その内容を理解することができない。
技能	2. 日常生活において自分が伝えたい内容を英語で表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を活用して、自分が伝えたい内容を英語で的確に表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、自分が伝えたい内容を短い英文を用いて表現することができる。	既存の英文を参考にして、自分が伝えたい内容を英語で表現することができる。	既存の英文を参考にして、自分が伝えたい内容を英語で表現しようとするが、一部間違いがあり内容が伝わりにくい。	既存の英文を参考にしても、自分が伝えたい内容を英語で表現することができない。
技能	3. 他の言語や文化に興味をもち、異なる文化をもつ人とコミュニケーションをとることができる。	他の言語や文化について自発的に調べ、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場積極的に入って行くことができる。	他の言語や文化について興味をもち、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場に入っていくことができる。	他の言語や文化について興味をもち、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場が設定されればコミュニケーションをとることができる。	他の言語や文化について興味はあるが、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションをとろうとしない。	他の言語や文化について興味をもち、異なる文化をもつ人とのコミュニケーションをとろうとしない。

科目名	日本事情 (外国人留学生のみ受講可)			授業番号	LK101	サブタイトル	
教員	岡本 輝彦						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義
						必修・選択	選択
授業概要	日本の文化や社会、習慣について幅広く学習し日本人のものの方、考え方を知ることによって日本での生活に適応できる能力を身につける。また、知識を習得するだけでなくプレゼンテーションなどを通して日本語で発信できる能力を養うことを目的とする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 日本の文化や社会について自国の事情と比較しつつ知識を深めることができる。 日本や日本人を正しく理解することができる。 最終的には日本人コミュニティに参加できるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	オリエンテーション・自己紹介						
第2回	日本を知る 日本の国土、人口、産業、気候などの情報を知る。						
第3回	自国・故郷の説明 自国・故郷について説明するための発表の準備						
第4回	自国についての発表 資料を示しながら口頭発表する。						
第5回	日本の都市について 日本の都市とその産業を紹介するとともに、都市が抱えている問題を考察する。						
第6回	日本の交通について 日本の公共交通機関を紹介するとともに、移動方法を学ぶ。						
第7回	日本と自国との比較 日本と自国の国を比較しながら、相似点や相違点を探り、口頭で発表する。						
第8回	日本の年中行事 日本の年中行事には伝統的に続いてきた日本の独自に文化に由来するものや海外から伝わってきた習慣や近年になって生まれたイベントがあるが、どのようなことが行われているかを考察する。						
第9回	日本の教育 日本の教育制度や教育の問題点などを学ぶ。						
第10回	日本のポップカルチャー 日本には伝統文化のほかに、アニメや漫画といったポップカルチャーがあるが、海外ではポップカルチャーに関心を持つ日本語学習者が多い。そこで、ポップカルチャーを考察する。						
第11回	日本の問題(1) 日本は食料自給率が低い。そこには食料ロスなどの問題が潜んでいる。ここでは食の問題を考える。						
第12回	日本の問題(2) 日本は少子化により子供の数が減少し続けている。このまま続けば経済活動を支える若い世代が減少することで経済に悪影響を及ぼすこの少子化の問題を考える。						
第13回	日本の問題(3) 日本は高齢化が進んでいるが、過疎の現状を知るとともに、その問題を考える。						
第14回	自国の問題(1) 自国の問題を取り上げ、口頭で発表する。						
第15回	自国の問題(2) どのような対策が必要なのかをディスカッションする。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	積極的な受講態度、発話回数で評価する。				
	口頭発表	20	テーマに沿った内容になっており、口頭発表の組み立てが適切にできているかどうかで評価する。 口頭発表終了後に、コメントを加え、再確認する。				
	小テスト	60	学習内容が理解し、自分の意見が明確に述べられているかどうかで評価する。 小テストはコメントを加え、返却した後に、再確認する。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1.資料を読んだり、ディスカッションをしたりするので、自分からどんでん発言すること。 2.講義テーマに関する事柄を事前に調べておくこと。 3.口頭発表の準備しておくこと。
授業外学習	1.テキストの中でわからない語彙を調べておくこと。 2.テキストの内容を資料などを使って調べておくこと。 3.学習した内容を復習しておくこと。 4.資料を探し、口頭発表の練習すること。 以上の内容を週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

毎回プリントを配布する予定。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他	
備考	

注意事項	
------	--

担当教員の業務経験の有無	有
--------------	---

担当教員の業務経験	日本語教員(8年)
-----------	-----------

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無	無
-----------------------	---

担当教員以外で指導に関わる業務経験者	
--------------------	--

業務経験をいかした教育内容	日本語教員(8年)での経験から外国人に対して日本事情を日本の生活に役立てるように指導する。
---------------	---

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学土力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	日本や日本人を正しく理解することができる。	日本や日本人について自身の意見を述べながら他者との協働により正しく理解することができる。	日本や日本人について自身の意見を述べ、他者の意見を聞きながら正しく理解することができる。	日本や日本人についてある程度自分の意見を述べ他者の意見を聞きながら正しく理解することができる。	日本や日本人について何かを掘り所にしなげれば理解することができる。	日本や日本人について何を掘り所にしても理解することができる。
思考・問題解決能力	日本の文化や社会について自国の事情と比較しつつ知識を深めることができる。	自らの問題意識に基づいて日本の文化や社会、習慣について十分に理解し、自国の事情と比較しながら他者と議論できる。	自らの問題意識に基づいて日本の文化や社会、習慣について理解し、自国の事情と比較しながら他者に伝えることができる。	自らの問題意識に基づいているもの、日本の文化や社会、習慣について何かを掘り所すれば、自国の事情を他者に伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてはいるもの、日本の文化や社会、習慣について十分に理解できず、自国の事情と比較することができない。	自らの問題意識を設定することができず日本の文化や社会、習慣について理解できていないため自国の事情も比較することができない。
技能	日本人のコミュニティに参加できる。	自分から話題を提供し日本人のコミュニティに参加することができる。	他者から話題を提供されれば日本人のコミュニティに参加できる。	他者の誘いがあれば日本人コミュニティに参加できる。	他者から話題を提供され、話題を提供されれば日本人のコミュニティに何とか参加できる。	日本人のコミュニティに参加できない。

科目名	日本語 I (外国人留学生のみ受講可)			授業番号	LK102	サブタイトル	
教員	岡本 輝彦						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習
必修・選択	必修・選択						選択
授業概要	総合的な日本語力を養うとともに日本や日本人に対する考え方を深めること、受容だけでなく産出の面にも焦点をあてて授業を進めていくことにより、日本語での発信力を向上させることを目的としている。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論理的な思考を身につけることができる。 2. 自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できる。 3. 中上級の表現力が習得できる。 <p>なお、本科目はデグロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	オリエンテーション・日本語能力チェック 日本語がどの程度かを確かめるために日本語能力のチェックテストの実施。						
第2回	アカデミックリーディング(1) 日本語能力試験N2レベルの読み物を読む						
第3回	アカデミックライティング(1) レポートに使われる文法の習得						
第4回	語彙・表記(1) 日本語能力試験N2レベルの語彙、カタカナの使い方の習得						
第5回	文法(1) 日本語能力試験N2レベルの表現や機能語の習得						
第6回	アカデミックリーディング(2) 日本語能力試験N2レベルの読み物を読む						
第7回	アカデミックライティング(2) 首尾一貫した文章の作成法の習得						
第8回	語彙・表記(2) 日本語能力試験N2レベルの語彙、ひらがなと漢字の使い方の習得						
第9回	文法(2) 日本語能力試験N2レベルの表現や機能語の習得						
第10回	アカデミックリーディング(3) 日本語能力試験N2レベルの読み物を読む						
第11回	アカデミックライティング(3) 句読点の効果的な使用方法、副詞・接続詞・主語・疑問詞との呼応の習得						
第12回	語彙・表記(3) 日本語能力試験N2レベルの語彙、ひらがなと漢字の使い方の習得						
第13回	文法(3) 日本語能力試験N2レベルの表現や機能語の習得						
第14回	アカデミックリーディング(4) 日本語能力試験N2レベルの読み物を読む						
第15回	アカデミックライティング(4) レポートを書く						
授業計画 備考2							
評価の方法							
種別	割合	評価基準・その態備考					
授業への取り組みの姿勢/態度	20	積極的な受講態度、発話回数、予習復習の成果で評価する。					
小テスト	60	学修した語彙・文法・表現の正確な理解、やや長い文章を読む際のスキルが利用できていること等で評価する。小テストは修正コメントを加え、返却する。					
レポート	20	テーマに沿っており、文章構成が整っていること、語彙・文法を適切に使用していること等で評価する。レポートは修正するとともに、コメントを加えて返却する。					

評価の方法：自由記載	
受講の心得	講義の前にプリントを読んでおき、事前にわからない言葉の意味・用法を調べておくこと。講義を聞き取らなくても、自分から意見を述べること。
授業外学修	1. 毎回配布するテキストに出てくる語彙・表現を調べておくこと。 2. テキストの内容に対して自分の意見をまとめておくこと。 3. 調べながら、適切にレポート、課題に取り組むこと。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

毎回プリントを配布する予定。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他

備考

注意事項

担当教員の実務経験の有無

有

担当教員の実務経験

日本語教員(8年)

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる実務経験者

実務経験をいかした教育内容

日本語教員(8年)の経験から学生が大学生活で自分の考えを表明できる技術を修得させる。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A. 非常に優れている	B. 優れている	C. 十分なレベルである	D. やや劣っている	E. 非常に劣っている
知識・理解	論理的な思考を身につけ、適切な表現を使うことができる。	論理的に考えることができ、非常に適切な表現ができる。	論理的に考えることはできるが、適切な表現ができる。	論理的に考えることはできるが、ある程度適切な表現ができる。	論理的に考えることができるが、適切な表現ができないことも多い。	論理的に考えることもできず、適切な表現ができない。
思考・問題解決能力	自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できる。	自分が言いたいことを例や理由を述べながら非常にわかりやすく説明することができる。	自分が言いたいことを例や理由を述べながら、わかるように説明することができる。	自分が言いたいことを例や理由を述べながら、何とかわかるように説明することができる。	自分が言いたいことを例や理由を述べることができるが、あまりわかるように説明はできない。	自分が言いたいことを例や理由を述べることができず、わかるように説明することができない。
技能	中級の機能語を用いて自分の考えていることを自由に表現できる。	中上級の機能語を用いて自分が考えていることを自由に表現することができる。	中上級の機能語を用いて自分が考えていることをやや自由に表現することができる。	中上級の機能語を用いて自分が考えていることを簡単に表現することができる。	中上級の機能語の一部を用いて自分が考えていることを何とか表現することができる。	中上級の機能語を用いることができず、自分の考えていることを簡単にしか表現することができない。

2024年度授業概要(シラバス)

科目名	日本語Ⅱ (外国人留学生のみ受講可)			授業番号	LK103	サブタイトル	
教員	岡本 輝彦						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習
						必修・選択	選択
授業概要	総合的な日本語力をもとより、特に「話す」「書く」といった産出の面における日本語能力の向上も目指し、自分の考えを論理的に日本語で表現できる能力を身につけることを目的としている。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論理的な思考を身につけることができる。 2. 自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できる。 3. 中上級の表現力を獲得することができる。 なお、本科目はデプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	アカデミックリーディング(1) 日本語能力試験N1レベルの読み物を読む						
第2回	アカデミックライティング(1) 文章構成法の習得						
第3回	語彙・表記(1) 日本語能力試験N1レベルの語彙、日本語能力試験N2・N1レベルの漢字表記の習得						
第4回	文法(1) 日本語能力試験N1レベルの表現や機能語の習得						
第5回	アカデミックリーディング(2) 日本語能力試験N1レベルの読み物を読む						
第6回	アカデミックライティング(2) 歴史的経緯の書き方の習得						
第7回	語彙・表記(2) 日本語能力試験N1レベルの語彙の習得						
第8回	文法(2) 日本語能力試験N1レベルの表現や機能語の習得						
第9回	アカデミックリーディング(3) 日本語能力試験N1レベルの読み物を読む						
第10回	アカデミックライティング(3) 比較・対象の表現法の習得						
第11回	語彙・表記(3) 日本語能力試験N1レベルの語彙の習得						
第12回	文法(3) 日本語能力試験N1レベルの表現や機能語の習得						
第13回	アカデミックリーディング(4) 日本語能力試験N1レベルの読み物を読む						
第14回	アカデミックライティング(3) 要約の方法の習得						
第15回	日本語能力レベル・チェック 日本語がどの程度かを確かめるために日本語能力のチェックテストの実施						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その態備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	積極性・発表・予習・復習で総合的に評価する。				
	小テスト	60	学修した語彙・文法・表現の正確な理解、難解で長い文章の読み取り等で評価する。小テストは修正しコメントを加え、返却する。				
	レポート	20	テーマに沿っており、語彙・文法の正確さだけでなく段落を利用していること、段落と段落との結束性も考えられていること等で評価する。レポートは修正しコメントを加えた上で返却する。				

評価の方法：自由記載	
受講の心得	講義の前にプリントを読んでおき,事前にはわからない語彙の意味・用法を調べておくと,講義を聞けなくても自分からも意見を述べること。
授業外学修	1.毎回配布するプリントに関する語彙・文法を調べておくこと。 2.テキストの内容に対して自分の意見をまとめておくこと。 3.調べながら適切にレポート,課題に取り組むこと。 以上の内容を適当に4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

毎回プリントを配布する予定。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他

備考

注意事項

担当教員の業務経験の有無

有

担当教員の業務経験

日本語教員(8年)

担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる業務経験者

業務経験をいかした教育内容

日本語教員(8年)の経験から,大学生活で自分の意見が表明できるように日本語の理解とスキルを向上させられるように指導する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学土力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	論理的な思考を身につけ,適切な表現を使うことができる。	論理的に考えることができ,非常に適切な表現ができる。	論理的に考えることはできるが,適切な表現ができる。	論理的に考えることはできるが,ある程度適切な表現ができる。	論理的に考えることができるが,適切な表現ができないことも多い。	論理的に考えることもできず,適切な表現もできない。
思考・問題解決能力	自分が言いたいことが客観的かつ具体的なデータや理由などを示しながらわかりやすく説明できる。	自分の言いたいことを客観的かつ具体的なデータや理由を述べながら非常にわかりやすく説明することができる。	自分の言いたいことを客観的に述べながら,わかるように説明することができる。	自分の言いたいことを具体的に自身の考えを述べながら,わかるように説明することができる。	自分の言いたいことを述べることはできるが,何とかわかるように説明はできる。	自分の言いたいことをあまりわかるように説明することができない。
技能	中上級の表現で詳しい描写をすることができる。	中上級の表現を用いて非常に詳しい描写をすることができる。	中上級の表現を用いてやや詳しい描写をすることができる。	中上級の表現を用いてある程度詳しい描写をすることができる。	中上級の表現を用いて簡単な描写をすることができる。	中上級の表現を十分に用いることができず,簡単な描写しかすることができない。